

CAMPUS LIFE



第5回

大学院生生活 実態調査報告書

CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

ま え が き

大学院生生活実態調査も第5回となりました。この調査は、本学大学院生の生活実態や要望を調査することで、福利厚生等並びに修学指導における課題を把握し、本学における大学院教育全般の改善を図る目的で2年ごとに行われています。平成26年10月に7教育部の修士・博士前期及び博士・博士後期の学生全員(1,491人)にアンケート調査を実施しました(回収率53%)。その結果が纏まりましたので報告致します。

本報告書は、調査の概要、続いて調査項目①家族・住居・通学、②収入・支出、③健康状態、④学生生活上の問題点、⑤修学状況、⑥進路選択・就職について、総計80問の質問により調査(日本語と英語)し、各質問項目について分析結果とデータを示しています。更にこの調査から得られた各教育部の現状と課題並びに総括と提言を記載しております。

大学院教育に関して文部科学省は平成17年度よりその充実と改革を行ってきており、「グローバル社会の大学院教育」、「新時代の大学院教育」を謳い、改革を進めてきています。教育システム上の改善は図られ、本学においても医学部における大学院GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」等成果を上げてきています。

一方で教育システムの充実と同様に学生を取り巻く環境を整備することが研究活動を支える必要条件と考えられます。グローバル化に伴い世界各国からの留学生も増加しており、大学には多様なサービスが求められる時代となっています。多くの言語文化を背景にする学生が集うことから各々への対応が必要です。また、社会人学生への支援の充実も欠かすことができません。大学院での学びには、奨学金などの経済的支援、就労支援等、生活基盤の安定が必要条件となり学業に専念することが可能となります。

研究活動上の関わりでは教員に伝えられていないデータも含まれており、さらなる支援のための手がかりとして、活用していただければと存じます。

最後になりますが、本学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方および学務部職員の方々には、アンケート項目の設定、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中精力的に遂行して頂き、早期に報告書を作成して頂きました。本年度の本調査に関われた教職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただきました沢山の大学院生の皆様にもこの場を借りて深く感謝いたします。

平成27年3月

徳島大学理事(教育担当)

高石喜久

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の％表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 教育部（研究科）の略語表示	5
附表 「平成 26 年度学生生活実態調査票」（日本人学生用）	8
附表 「2014 STUDENT LIFE SURVEY」（外国人留学生用）	20
第 1 章 本調査の対象者について	36
1-1 出身地	36
1-2 最終学歴	37
1-3 社会人大学院生と留学生	38
第 2 章 家族・住居・通学について	40
2-1 家庭の年間所得	40
2-2 住居区分	41
2-3 住居費	42
2-4 配偶者や子供の有無	43
2-5 通学方法	44
2-6 通学時間	45
第 3 章 収入・支出について	46
3-1 1ヶ月の平均収入額	46
3-2 親等からの援助額	47
3-3 1か月の平均支出額（授業料支出は除く）	48
3-4 奨学金	49
3-5 アルバイト	50
3-6 アルバイト従事時間数	51
3-7 アルバイトの目的	52
3-8 アルバイト収入金額	53
3-9 アルバイトにおけるトラブル	54
第 4 章 健康状態について	56
4-1 睡眠時間	56
4-2 気になる症状	57
4-3 症状の内容	57

4-4	主な悩みと不安	58
4-5	相談相手	59
4-6	現在の精神状態	60
4-7	喫煙	61
4-8	飲酒	62
4-9	保健管理・総合相談センターの認識	62
第5章	学生生活上の問題点について	64
5-1	迷惑行為	64
5-2	学生相談室の利用	67
5-3	犯罪被害・交通事故・違法薬物使用	68
5-4	大学事務室の対応	71
第6章	修学状況について	73
6-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	73
6-2	本学を選んだ理由と目的	76
6-3	研究活動と研究指導	81
6-4	研究環境と所属大学院に対する満足度	87
6-5	図書館の利用状況	90
6-6	海外渡航の経験と英会話	92
6-7	日本語会話	96
6-8	学習への取り組みと本学の教育への期待	99
第7章	進路選択・就職について	103
7-1	後期課程への進学意思	103
7-2	進学希望先	104
7-3	就職希望職種	105
7-4	進路選択の要件	107
7-5	進路選択の情報入手手段	109
7-6	キャリア支援室の利用状況	110
7-7	就職に関する大学への要望	112
第8章	教育部の現状と課題	116
8-1	総合科学教育部	116
8-2	医科学教育部（医学研究科）	118
8-3	口腔科学教育部	124
8-4	薬科学教育部	127
8-5	栄養生命科学教育部	130
8-6	保健科学教育部	133
8-7	先端技術科学教育部	138
特記	留学生の現状と課題	141
第9章	総括と提言	143
	あとがき	145

序章 大学院生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学大学院生の生活の実態や要望を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学学生支援センター学生生活支援室会議の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	原 幸 一	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
委 員	坂 下 直 実	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	松 山 美 和	”	教 授
委 員	南 川 典 昭	”	教 授
委 員	永 瀬 雅 夫	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授
委 員	井 崎 ゆみ子	保健管理・総合相談センター	准教授
協 力 者	山 本 真由美	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
協 力 者	成 行 義 文	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する学生全員1,491人（平成26年10月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各教育部（研究科）の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークカード）を回収した。

4. 調査の時期

この調査は、平成26年10月6日から10月14日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を10月15日までとした。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 回答票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,491 人のうち回答数は 791 人で、回収率は 53%であった。教育部（研究科）・専攻別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合がある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と 4 年生博士課程（医・歯・薬）を合わせて後期課程と表現した。

9. 教育部（研究科）の略語表示

本報告書中、教育部（研究科）名等を以下のとおり略語で記載する。

総合科学教育部	→	総合科学
医科学教育部（医学研究科）	→	医科学
口腔科学教育部	→	口腔科学
薬科学教育部	→	薬科学
栄養生命科学教育部	→	栄養生命科学
保健科学教育部	→	保健科学
先端技術科学教育部	→	先端技術科学
第 1 回大学院生生活実態調査（平成 17 年度実施）	→	第 1 回調査
第 2 回大学院生生活実態調査（平成 20 年度実施）	→	第 2 回調査
第 3 回大学院生生活実態調査（平成 22 年度実施）	→	第 3 回調査
第 4 回大学院生生活実態調査（平成 24 年度実施）	→	第 4 回調査

平成26年度 大学院生生活実態調査 集計表 〈教育部(研究科)・専攻・学年別〉

教育部(研究科)名	修士・博士前期課程										修士・博士後期課程																										
	1年		2年		小計		回収率		1年		2年		3年		4年		小計		回収率																		
	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)	全体 (A)	うち留学生 (A)																	
総合科学教育学部	地域科学専攻	34	10	7	2	34	6	11	2	68	16	18	4	23.5	22.2	4	0	0	0	3	0	1	0	5	2	1	1	12	2	2	1	16.7	50.0				
	臨床心理学専攻	12	4	0	0	11	1	0	0	23	5	0	0	21.7																							
医科学教育学部 (医学研究科)	小計	46	14	7	2	45	7	11	2	91	21	18	4	23.1	22.2	4	0	0	3	0	1	0	5	2	1	1	12	2	2	1	16.7	50.0					
	医科学専攻	11	3	1	0	10	3	0	0	21	6	1	0	28.6																							
口腔科学教育学部	小計	11	3	1	0	10	3	0	0	21	6	1	0	28.6																							
	口腔保健学専攻	5	4	0	0	7	5	0	0	12	9	0	0	75.0																							
薬科学教育学部	小計	28	26	0	0	32	26	1	0	60	52	1	0	86.7																							
	薬学専攻	28	26	0	0	32	26	1	0	60	52	1	0	86.7																							
栄養生命科学教育学部	小計	28	26	0	0	32	26	1	0	60	52	1	0	86.7																							
	人間栄養科学専攻	19	18	0	0	27	21	2	2	46	39	2	2	84.8	100.0	12	4	0	4	1	15	13	2	1	11	1	1	0	27	9	2	1	33.3	50.0			
保健科学教育学部	小計	23	16	0	0	28	13	0	0	51	29	0	0	56.9																							
	知的力学システム工学専攻	97	55	5	1	115	62	10	3	212	117	15	4	55.2	26.7	16	5	5	1	16	4	8	0	21	7	6	3	53	16	19	4	30.2	21.1				
先端技術科学教育学部	小計	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	100.0																								
	物質生命システム工学専攻	84	64	4	4	68	51	1	0	152	115	5	4	75.7	80.0	9	5	1	1	16	4	4	2	6	2	1	0	31	11	6	3	35.5	50.0				
総合科学教育学部	小計	157	114	8	4	155	98	5	3	312	212	13	7	67.9	53.8	9	5	4	2	8	2	5	2	31	10	17	2	48	17	26	6	35.4	23.1				
	創生工学専攻	338	233	17	9	339	212	16	6	677	445	33	15	65.7	45.5	34	15	10	4	40	10	17	4	65	23	24	5	139	48	51	13	34.5	25.5				
合計	合計	470	314	25	11	488	287	30	10	958	601	55	21	62.7	38.2	132	49	19	10	130	48	83	13	179	70	39	14	92	23	15	8	533	190	106	45	35.6	42.5

注) 在学者数欄は10月1日現在で、休学者を除いた数である。

〈学年別〉

課 程	学 年	全 体		回 收 率 全 体 (%)
		対象者数 (人)	回 収 数 (人)	
修士・博士前期課程	1 年	470	314	66.8
	2 年	488	287	58.8
	小 計	958	601	62.7
博士・博士後期課程	1 年	132	49	37.1
	2 年	130	48	36.9
	3 年	179	70	39.1
	4 年	92	23	25.0
	小 計	533	190	35.6
	合 計	1,491	791	53.1

〈男女別〉

課 程	教 育 部 (研 究 科) 名	回 収 率 (%)		
		男	女	計
修士・博士前期課程	総 合 科 学 教 育 部	20.5	25.5	23.1
	医 科 学 教 育 部	25.0	33.3	28.6
	口 腔 科 学 教 育 部	50.0	80.0	75.0
	薬 科 学 教 育 部	89.7	81.0	86.7
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	90.9	82.9	84.8
	保 健 科 学 教 育 部	44.4	59.5	56.9
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	64.9	73.1	65.7
	小 計	63.0	61.9	62.7
博士・博士後期課程	総 合 科 学 教 育 部	20.0	14.3	16.7
	医 科 学 教 育 部 (医 学 研 究 科)	22.1	32.9	25.6
	口 腔 科 学 教 育 部	40.6	70.0	54.8
	薬 科 学 教 育 部	61.5	77.8	64.6
	栄 養 生 命 科 学 教 育 部	71.4	20.0	33.3
	保 健 科 学 教 育 部	44.4	35.3	38.5
	先 端 技 術 科 学 教 育 部	35.5	31.0	34.5
	小 計	33.9	39.0	35.6
	合 計	53.5	51.8	53.1

平成26年度 学生生活実態調査

平成26年10月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成26年10月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

〔調査実施期間 10月6日(月)～10月14日(火)〕

回答用紙（マークカード）の提出期限は、10月15日(水)です。

所属教育部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成26年10月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号をHBの黒鉛筆で塗りつぶして回答してください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けています。質問中、回答用紙（マークカード）の裏面に記入する必要がある場合は、質問番号とその内容を記入してください。
また、大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【全員】所属教育部（研究科）はどこですか。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 総合科学教育部 | 2. 医科学教育部（医学研究科） |
| 3. 口腔科学教育部 | 4. 薬科学教育部 |
| 5. 栄養生命科学教育部 | 6. 保健科学教育部 |
| 7. 先端技術科学教育部 | |

2 【全員】専攻はどこですか。

総合科学教育部

- [1. 地域科学専攻 2. 臨床心理学専攻]

医科学教育部（医学研究科）

- [1. 医科学専攻 2. 医学専攻 3. プロテオミクス医科学専攻]

口腔科学教育部

- [1. 口腔科学専攻 2. 口腔保健学専攻]

薬科学教育部

- [1. 創薬科学専攻 2. 医療生命薬学専攻 3. 薬学専攻]

栄養生命科学教育部

- [1. 人間栄養科学専攻]

保健科学教育部

- [1. 保健学専攻]

先端技術科学教育部

- [1. 知的力学システム工学専攻 2. 環境創生工学専攻 3. 物質生命システム工学専攻
4. システム創生工学専攻]

3 【全員】何年生ですか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 修士・博士前期課程1年生 | 2. 修士・博士前期課程2年生 |
| 3. 博士後期課程1年生 | 4. 博士後期課程2年生 |
| 5. 博士後期課程3年生 | 6. 博士課程1年生 |
| 7. 博士課程2年生 | 8. 博士課程3年生 |
| 9. 博士課程4年生 | |

4 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女

5 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道

6 【全員】現在所属している教育部（研究科）に進学する前の最終学歴はどこですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 徳島大学 | 2. 徳島大学以外の国内の大学 |
| 3. 高等専門学校専攻科 | 4. 外国の大学 |
| 5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程 | 6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院 |
| 7. 外国の大学院 | |

7 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

8 【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 250万円未満 | 2. 250～500万円未満 |
| 3. 500～750万円未満 | 4. 750～1,000万円未満 |
| 5. 1,000～1,500万円未満 | 6. 1,500万円以上 |

9 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 自宅（家族と同居） | 2. アパート・マンション（家族と別居） |
| 3. 国際交流会館 | 4. 間借り |
| 5. 親戚・知人宅 | 6. その他 |

10 【国際交流会館及び日亜会館留学生宿舎入居者を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～4万円未満 |
| 3. 4万円～5万円未満 | 4. 5万円～6万円未満 |
| 5. 6万円～7万円未満 | 6. 7万円～8万円未満 |
| 7. 8万円～9万円未満 | 8. 9万円～10万円未満 |
| 9. 10万円以上 | |

11 【全員】あなたには現在、生計を共にしている配偶者・子供がいますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 配偶者なし，子供なし | 2. 配偶者なし，子供あり |
| 3. 配偶者あり，子供なし | 4. 配偶者あり，子供あり |

12 【問11で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき、子供の世話は誰がみていますか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親や親戚 |
| 3. 保育施設にあずける | 4. 小学校等の学校に通っている |
| 5. その他 | |

（注：要望事項があれば、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号12とともに書いてください）

13 【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。

- | | | |
|--------|----------|--------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バイク（原付自転車・自動二輪） |
| 4. 自動車 | 5. バス・JR | |

14 【全員】通学時間はどれですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 15分未満 | 2. 15分～30分未満 |
| 3. 30分～1時間未満 | 4. 1時間～2時間未満 |
| 5. 2時間以上 | |

C. 収入・支出について

15 【全員】あなたの1か月の平均収入額（親等からの援助を除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

16 【全員】親等からの援助はいくらありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 全くない | 2. 3万円未満 |
| 3. 3～5万円未満 | 4. 5～7万円未満 |
| 5. 7～10万円未満 | 6. 10～15万円未満 |
| 7. 15～20万円未満 | 8. 20万円以上 |

17 【全員】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15～20万円未満 |
| 7. 20～25万円未満 | 8. 25～30万円未満 |
| 9. 30万円以上 | |

18 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。

1. 現在受給中であるが、更に希望する
2. 現在受給していないが、希望する
3. 現在受給していないし、希望もしない

19 【全員】現在、アルバイトをしていますか。

1. はい
2. いいえ

20 【問19で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。
(移動に要する時間も含む)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 5時間未満 | 2. 5～10時間未満 |
| 3. 10～15時間未満 | 4. 15～20時間未満 |
| 5. 20～25時間未満 | 6. 25時間以上 |

21 【問19で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 生活費や学費のため | 2. 学会参加のため |
| 3. レジャー・旅行費のため | 4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため |
| 5. 高額商品(パソコン、バイク、自動車等)購入のため | |
| 6. 社会体験のため | 7. その他 |

22 【問 19 で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入（1 か月平均）はいくらですか。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3～5万円未満 |
| 3. 5～7万円未満 | 4. 7～10万円未満 |
| 5. 10～15万円未満 | 6. 15万円以上 |

23 【問 19 で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。（複数回答可）

- | | | |
|---------------------------------------------|-----------|----------------|
| 1. ない | 2. 給料の不払い | 3. 給料が契約より低かった |
| 4. 客とのトラブル | 5. 解雇 | 6. 雇用者との意見の不一致 |
| 7. 事故・ケガ | | |
| 8. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 23 とその内容を書いてください） | | |

D. 健康状態について

24 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。（休日を除く）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 4時間未満 | 2. 4～6時間未満 |
| 3. 6～8時間未満 | 4. 8～10時間未満 |
| 5. 10時間以上 | |

25 【全員】現在気になる身体症状はありますか。

1. ない
2. 時々ある
3. 常にある

26 【問 25 で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。（複数回答可）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 頭痛 | 2. 腹痛・嘔気 |
| 3. 下痢・便秘 | 4. 動悸・不整脈 |
| 5. めまい・立ちくらみ | 6. 咳・痰 |
| 7. 生理痛・生理不順 | 8. その他 |

27 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。（複数回答可）

- | | |
|------------|------------|
| 1. ない | 2. 経済状態 |
| 3. 勉強 | 4. 交友・異性関係 |
| 5. 身体的不調 | 6. 家族関係 |
| 7. 自分の性格 | 8. 就職や進路 |
| 9. 生き甲斐や目標 | 10. その他 |

28 【全員】悩み事は誰に相談しますか。（複数回答可）

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 友人 | 2. 家族 |
| 3. 教員 | 4. 学生相談室 |
| 5. 保健管理センター | 6. 学務（教務）係 |
| 7. 1～6以外の人 | 8. 誰にもしない |

29 【全員】現在の精神状態はどうですか。

- | | |
|------------|------------|
| 1. 充実している | 2. 気分は普通 |
| 3. いらいらする | 4. なんとなく不安 |
| 5. 落ち込みやすい | 6. やる気がでない |
| 7. その他 | |

30 【全員】喫煙しますか。

1. 喫煙しない
2. ときどき喫煙する
3. 毎日喫煙する
4. 過去に喫煙していたが、現在はしない
5. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 30 とその内容を書いてください）

31 【全員】飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する
3. 1週間に1～2日飲酒する
4. 1週間に3～4日飲酒する
5. 1週間に5日以上飲酒する

32 【全員】保健管理・総合相談センターを利用したことがありますか。（複数回答可）

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外（診療、相談、健康機器の利用、証明書作成など）で利用したことがある
3. 保健管理・総合相談センターがあることを知らなかった
4. 保健管理・総合相談センターは知っているが、行ったことがない

E. 学生生活上の問題点

33 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、迷惑行為を受けたことがありますか。（複数回答可）

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた
7. 飲酒を強要された
8. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
9. カルトのような集団への勧誘を受けた
10. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 33 とその内容を書いてください）

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは
相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること

アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは
大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

34 【問 33 で「5」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

35 【問 33 で「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. 学生相談室
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

36 【全員】学生相談室を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことがない
3. 学生相談室を知らない

37 【問36で「1」を選んだ方】学生相談室を利用して対応はどうでしたか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号37とその理由を書いてください)

38 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。(複数回答可)

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難（盗み）に遭ったことがある
3. 強盗に遭ったことがある
4. 傷害に遭ったことがある
5. 痴漢に遭ったことがある
6. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号38とその内容を書いてください）

39 【全員】あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなかったことがない

40 【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

41 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号41とその理由を書いてください)

F. 修学状況

42 【全員】所属する教育部（研究科）の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

43 【問42で「1」「2」を選んだ方】上記の教育部（研究科）の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

44 【全員】あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号44とその理由を書いてください)

45 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

46 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

47 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 研究環境が整っているため
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 47 とその内容を書いてください)

48 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。

1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
5. その他 (回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 48 とその内容を書いてください)

49 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 49 とその理由を書いてください)

50 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

1. 30分未満
2. 30分～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10～20時間未満
6. 20～40時間未満
7. 40～60時間未満
8. 60時間以上

51 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. その他

52 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。

1. 30分未満
2. 30～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10時間以上

53 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 53 とその理由を書いてください)

54 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 54 とその理由を書いてください)

55 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。

1. 充分とれている
2. ある程度とれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

56 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。

1. 充分に行われている
2. ある程度行われている
3. あまり行われていない
4. 全く行われていない

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 56 とその理由を書いてください)

57 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

58 【問 57 で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。（複数回答可）

1. 施設・設備
2. 研究費用
3. 研究時間
4. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 58 とその内容を書いてください）

59 【全員】あなたは所属している教育部（研究科）・専攻に全体として満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注：「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号 59 とその理由を書いてください)

60 【全員】図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

61 【全員】電子ジャーナルやデータベース等をどのくらいの頻度で利用しますか。

1. ほぼ毎日利用している
2. 1週間に2～3回くらい利用する
3. 1週間に1回程度利用する
4. 2週間に1回程度利用する
5. 1か月に1回程度利用する
6. 半年に1回程度利用する
7. 1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である

62 【全員】図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらかといえば不満足である | 4. 不満足である |

(注：「3」「4」を選んだ方は，回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号62とその理由を書いてください)

63 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。

- | | |
|-------------|------------|
| 1. よく学習している | 2. かなりしている |
| 3. あまりしていない | 4. 全然していない |

64 【全員】入学後，海外渡航をしたことがありますか。

- | | |
|---------|-------|
| 1. ない | 2. 1回 |
| 3. 2回 | 4. 3回 |
| 5. 4回以上 | |

65 【問64で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。(複数回答可)

- | | |
|---------|---------|
| 1. 留学 | 2. 語学研修 |
| 3. 学会参加 | 4. 学術調査 |
| 5. 社会活動 | 6. 観光 |
| 7. 一時帰国 | 8. その他 |

66 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。

1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある
2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある
4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
5. 国際学会で研究発表をしたことはない

67 【日本人の方】英会話はどの程度できますか。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 専門用語を使った会話ができる | 2. 日常会話ができる |
| 3. なんとか日常会話ができる | 4. あまりできない |
| 5. できない | |

68 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。(複数回答可)

1. 英会話等の学校に通っている
2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
3. TOEIC, TOEFL 等を受験する
4. 外国語の新聞，雑誌を購読している
5. 外国のラジオ，テレビを視聴している
6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
7. 何もしていない

69 【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 専門用語を使った会話ができる | 2. 日常会話ができる |
| 3. なんとか日常会話ができる | 4. あまりできない |
| 5. できない | |

70 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。

1. 受講している
2. 以前受講したことがある
3. 今後受講する予定である
4. 受講の予定はない

71 【問70で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号71とその理由を書いてください)

72 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)

1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究
6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号72とその内容を書いてください)
8. 特になし

73 【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。

1. 非常に積極的であると思う
2. どちらかといえば積極的であると思う
3. どちらかといえば積極的とは思わない
4. 積極的とは思わない

(注:「3」「4」を選んだ方は、回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号73とその理由を書いてください)

G. 進路選択・就職について

74 【修士・博士前期課程の方】博士(後期)課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい(進学予定者を含む)
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 就職したい
4. 未定

75 【問74で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか、他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

76 【問74で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。

(複数回答可)

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 事務職
5. 企業等の研究職
6. 教育職
7. マスコミ関係
8. 専門職(医師等)
9. 既に就職している
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号76とその内容を書いてください)

77 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。(3個以内で回答)

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 経営方針
8. 企業規模
9. 転勤・異動の有無
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号77とその内容を書いてください)

78 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。(複数回答可)

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. 就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. Web・インターネット
10. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号78とその内容を書いてください)

79 【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

80 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。(複数回答可)

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職ガイダンスの充実
6. 求人企業の開拓
7. その他(回答用紙の裏面の自由記入欄に質問番号80とその内容を書いてください)

〔その他ご意見・ご要望等があれば回答用紙の裏面の自由記入欄に「意見・要望等」と記し具体的に
記載してください〕

ご協力ありがとうございました

2014 STUDENT LIFE SURVEY

October 2014

The University of Tokushima

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in UT. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at The University of Tokushima as of October 1, 2014. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: October 6 - 14]

Answer sheets (computer-scored answer sheets) must be submitted no later than October 15 (Wed.) at the School Affairs Section (Educational Affairs Section) of the graduate school you belong to.

NOTES

1. Please answer questions as of October 1, 2014.
2. Optical answer sheet (computer-scored answer sheet) is used for this survey. Please choose one answer for each question and fill out the numbered blanks using HB pencils.
Note that some questions allow multiple answers.
3. Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
4. For the questions that require written answers, use the back of the answer sheet with the number of the question and the specifics.
You may also write comments or requests regarding school life on the back of the answer sheet (if any).

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A. BASIC INFORMATION

1. 【Subject: ALL】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Integrated Arts and Sciences
2. Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)
3. Graduate School of Oral Sciences
4. Graduate School of Pharmaceutical Sciences
5. Graduate School of Nutrition and Bioscience
6. Graduate School of Health Sciences
7. Graduate School of Advanced Technology and Science

2. 【Subject: ALL】

What do you major in?

Graduate School of Integrated Arts and Sciences

1. Regional Sciences
2. Clinical Psychology

Graduate School of Medical Sciences (Graduate School of Medicine)

1. Medical Science
2. Medicine
3. Proteomics Medical Sciences

Graduate School of Oral Sciences

1. Oral Science
2. Oral Health Science

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

1. Pharmaceutical Chemistry (Pharmaceutical Sciences)
2. Pharmaceutical Life Sciences
3. Pharmacy

Graduate School of Nutrition and Bioscience

1. Human Nutrition

Graduate School of Health Sciences

1. Health Sciences

Graduate School of Advanced Technology and Science

1. Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering
2. Earth and Life Environmental Engineering
3. Life and Materials Systems Engineering
4. Systems Innovation Engineering

3. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

4. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female

5. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country on the back of your answer sheet)

6. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. The University of Tokushima
2. University in Japan other than The University of Tokushima
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of The University of Tokushima
6. Graduate School in Japan other than The University of Tokushima
7. Graduate School abroad

7. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B. FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

8. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. Less than ¥2,500,000 | 2. ¥2,500,000 – 4,999,999 |
| 3. ¥5,000,000 – 7,499,999 | 4. ¥7,500,000 – 9,999,999 |
| 5. ¥10,000,000 – 14,999,999 | 6. More than ¥15,000,000 |

9. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. International House of The University of Tokushima
4. Boarding house
5. Home of a relative/acquaintance
6. Others

10. 【Subject: All excluding International House/Nichia Kaikan International House residents】

How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities)?

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| 1. Less than ¥30,000 | 2. ¥30,000 – 39,999 | 3. ¥40,000 – 49,999 |
| 4. ¥50,000 – 59,999 | 5. ¥60,000 – 69,999 | 6. ¥70,000 – 79,999 |
| 7. ¥80,000 – 89,999 | 8. ¥90,000 – 99,999 | 9. More than ¥100,000 |

11. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child(ren) living with you?

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. No spouse or child | 2. No spouse, but have child(ren) |
| 3. Have a spouse, but no child | 4. Have a spouse and child(ren) |

12. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q11】

Who takes care of your child(ren) while you are attending a class or doing research?

(Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------|-------------------------------------------|
| 1. Spouse | 2. Your or spouse's parent(s)/relative(s) |
| 3. Daycare facility | 4. School (elementary school, etc.) |
| 5. Others | |

(Note: If you have any requests for the University, use the back of the answer sheet to write the number of this question (12) and the specifics.)

13. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

- | | | |
|---------------|---------------|-------------------------------------------------------------|
| 1. By walking | 2. By bicycle | 3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle) |
| 4. By car | 5. By bus/JR | |

14. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes 2. 15 – less than 30 minutes 3. 30 minutes – less than 1 hour
4. 1 – less than 2 hours 5. More than 2 hours

C. INCOME / EXPENDITURE

15. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

16. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None 2. Less than ¥30,000 3. ¥30,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 69,999 5. ¥70,000 – 99,999 6. ¥100,000 – 149,999
7. ¥150,000 – 199,999 8. More than ¥200,000

17. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition)?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000 – 49,999 3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999 5. ¥100,000 – 149,999 6. ¥150,000 – 199,999
7. ¥200,000 – 249,999 8. ¥250,000 – 299,999 9. More than ¥300,000

18. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

19. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes 2. No

20. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time)?

1. Less than 5 hours 2. 5 – less than 10 hours 3. 10 – less than 15 hours
4. 15 – less than 20 hours 5. 20 – less than 25 hours 6. More than 25 hours

21. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions
2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel
4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences
7. Others

22. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 49,999
3. ¥50,000 – 69,999
4. ¥70,000 – 99,999
5. ¥100,000 – 149,999
6. More than ¥150,000

23. 【Subject: Those who chose (1) for Q19】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No
2. Unpaid salary
3. Paid less than agreed in contract
4. Trouble with customer(s)
5. Termination of employment
6. Disagreement with employer
7. Accident/injury
8. Others (use the back of the answer sheet to write the number of this question (23) and the specifics)

D. HEALTH CONDITIONS

24. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays)?

1. Less than 4 hours
2. 4 – less than 6 hours
3. 6 – less than 8 hours
4. 8 – less than 10 hours
5. More than 10 hours

25. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes
2. Sometimes
3. Constantly

26. 【Subject: Those who chose (3) for Q25】

What is/are the symptom(s)? (Multiple answers allowed)

1. Headache
2. Stomachache/ nausea
3. Dizziness/ light headedness
4. Palpitation/irregular heartbeat
5. Diarrhea/ constipation
6. Coughs/sputum
7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities
8. Others

27. **【Subject: ALL】**

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern(s)?

(Multiple answers allowed)

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 1. No | 2. Financial concerns | 3. Research and Study |
| 4. Friends/relationships | 5. Poor physical condition | 6. Family relation |
| 7. Own personality | 8. Future career | 9. Motivation or purpose in life |
| 10. Others | | |

28. **【Subject: ALL】**

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1. Friend(s) | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. School counselor |
| 5. Health Service Center | 6. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty |
| 7. Those other than 1 – 6 | 8. Nobody |

29. **【Subject: ALL】**

What is your current emotional state?

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------|---------------|
| 1. Fulfilled | 2. Normal | 3. Irritated |
| 4. Anxious for no apparent reason | 5. Easily depressed | 6. Low energy |
| 7. Others | | |

30. **【Subject: ALL】**

Do you smoke?

- | | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-------------|---------------------------------------|
| 1. Never | 2. Sometimes | 3. Everyday | 4. Smoked in the past but not anymore |
| 5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (30) and the specifics.) | | | |

31. **【Subject: ALL】**

Do you drink alcoholic beverages?

- | | | |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|
| 1. No | 2. Sometimes | 3. 1 – 2 times a week |
| 4. 3 – 4 times a week | 5. More than 5 times a week | |

32. **【Subject: ALL】**

Have you ever visited the Health Service and Counseling Center? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E. ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

33. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of any nuisance since the enrollment in the current graduate school?
(Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes, I have been a victim of an illegal business practice.
3. Yes, I have received an obscene phone call.
4. Yes, I have been a stalking victim.
5. Yes, I have experiences sexual harassment on campus.
6. Yes, I have experienced academic harassment on campus.
7. Yes, I have been forced to drink alcohol.
8. Yes, I have been defamed on the internet.
9. Cult-like group recruitment
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (33) and the specifics.)

SEXUAL HARASSMENT:

It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.

ACADEMIC HARASSMENT:

It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.

34. 【Subject: Those who chose (5) for Q33】

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|-------------------------------------------------|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

35. 【Subject: Those who chose (6) for Q33】

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|---------------------------|-------------------------------------------------|----------------------|
| 1. Friend | 2. Family | 3. Teacher/professor |
| 4. School counselor | 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | |
| 6. Those other than 1 – 5 | 7. Nobody | |

36. 【Subject: ALL】

Have you ever visited School Counseling Room?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

37. **【Subject: Those who chose (1) for Q36】**

How was the service at the School Counseling Room?

1. Excellent 2. Satisfactory 3. Slightly unsatisfying 4. Unsatisfying

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (37) and the specific reasons.)

38. **【Subject: ALL】**

Have you ever been a victim of a crime, such as theft, burglary, assault, or sexual molestation since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Yes. I have been a victim of theft.
3. Yes. I have been a victim of burglary.
4. Yes. I have been a victim of assault.
5. Yes. I have been a victim of sexual molestation.
6. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (38) and the specifics.)

39. **【Subject: All】**

Have you ever been a victim or a cause of a road accident?

1. I have been both a victim and a cause. 2. I have been a victim.
3. I have been a cause. 4. I have never been either a victim or a cause.

40. **【Subject: ALL】**

Have you ever used any illegal drug(s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes 2. No

41. **【Subject: ALL】**

How would you rate the service of the administration office of The University of Tokushima?

1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (41) and the specific reasons.)

F. EDUCATION ENVIRONMENT

42. **【Subject: ALL】**

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar 2. Moderately familiar
3. Slightly unfamiliar 4. Unfamiliar

43. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q42】**

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes 2. No

44. 【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactor
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (44) and the specific reasons.)

45. 【Subject: Graduates of The University of Tokushima】

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

46. 【Subject: Graduates of universities other than The University of Tokushima】

Was your current graduate school of The University of Tokushima the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice.
2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice.
4. Others

47. 【Subject: ALL】

What is (are) the reason(s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed)

Because:

1. I am a graduate of The University of Tokushima.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (47) and the specifics.)

48. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (48) and the specifics.)

49. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (49) and the specific reasons.)

50. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

1. Less than 30 minutes
2. 30 – less than 90 minutes
3. 90 minutes – less than 5 hours
4. 5 – less than 10 hours
5. 10 – less than 20 hours
6. 20 – less than 40 hours
7. 40 – less than 60 hours
8. More than 60 hours

51. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

1. Professor
2. Associate Professor
3. Lecturer
4. Assistant Professor
5. Others

52. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 51?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30 – less than 90 minutes per week
3. 90 minutes – less than 5 hours per week
4. 5 – less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

53. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (53) and the specific reasons.)

54. **【Subject: ALL】**

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (54) and the specific reasons.)

55. **【Subject: ALL】**

How is the communication between you and your instructor?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

56. **【Subject: ALL】**

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. Highly appropriate | 2. Moderately appropriate |
| 3. Minimally appropriate | 4. Not appropriate |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (56) and the specific reasons.)

57. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

58. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q57】**

What is (are) the reason(s)? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|------------------|
| 1. Facility/equipment | 2. Research funding | 3. Research time |
| 4. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (58) and the specific reasons.) | | |

59. **【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (59) and the specific reasons.)

60. **【Subject: ALL】**

How often do you visit the library?

- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. Almost everyday | 2. 2 – 3 times a week | 3. Once a week |
| 4. Once in two weeks | 5. Once a month | 6. Once in six month |
| 7. Once a year or less | | |

61. **【Subject: ALL】**

How often do you use electronic journal and data base?

- | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. Almost everyday | 2. 2 – 3 times a week | 3. Once a week |
| 4. Once in two weeks | 5. Once a month | 6. Once in six month |
| 7. Once a year or less | | |

62. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the library services (facilities, books, magazines, and electronic journal)?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (62) and the specific reasons.)

63. **【Subject: ALL】**

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. Very high | 2. High |
| 3. Low | 4. No effort |

64. **【Subject: ALL】**

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

- | | | |
|----------------|-------------------------|----------|
| 1. No | 2. Once | 3. Twice |
| 4. Three times | 5. More than four times | |

65. **【Those who chose (2), (3), (4), or (5) for Q64】**

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

- | | | |
|-------------------------------|--------------------------|----------------------------------|
| 1. To study | 2. To learn language | 3. To attend academic conference |
| 4. For academic research | 5. For social activities | 6. Sightseeing |
| 7. Returning home temporarily | 8. Others | |

66. **【Subject: JAPANESE students】**

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

67. **【Subject: JAPANESE students】**

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

68. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.
3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

69. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

70. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by The University of Tokushima?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

71. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q70】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of The University of Tokushima?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (71) and the specific reasons.)

72. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of The University of Tokushima?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.
2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (72) and the specifics.)
8. No particular expectations

73. 【Subject: ALL】

How would you rate the efforts of The University of Tokushima in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

(Note: If you chose (3) or (4), please use the back of the answer sheet to write the number of this question (73) and the specific reasons.)

G. FUTURE CAREER

74. 【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course】

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program)?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

75. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q74】

Where are you planning to receive the education?

1. The University of Tokushima
2. Other university
3. Not decided yet.

76. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q74 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course】

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than answer (1)
3. Technical career
4. Administrative career
5. Corporate researcher
6. Educator
7. Media
8. Professional career (medical practitioner, etc.)
9. Currently employed
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (76) and the specifics.)

77. 【Subject: ALL】

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

1. Income
2. Potential and stability of the employer
3. Social recognition/evaluation
4. That I can demonstrate my full potential and skills
5. Geographic condition
6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
7. Managerial policies
8. Business size
9. Possibility of transfer or relocation
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (77) and the specifics.)

78. 【Subject: ALL】

What is (are) the method(s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

1. Teacher/instructor
2. Occupational assistant teacher/instructor
3. Occupational counselor
4. Older students/friends
5. Direct inquiry to the companies/schools
6. Job information magazine/newspapers/media
7. Family
8. Information available at the university
9. Web/Internet
10. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (78) and the specifics.)

79. 【Subject: ALL】

Have you ever used Career Support Room of The Tokushima University?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

80. 【Subject: ALL】

Do you have any requests for The University of Tokushima regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of practical support for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation, i.e., workshops for civil service employee exam, teacher certification exam, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Others (Please use the back of the answer sheet to write the number of this question (80) and the specifics.)

〔 If you have any other comment or request, use the back of the answer sheet to write “COMMENTS/REQUESTS” and the specifics 〕

Thank you for your cooperation.

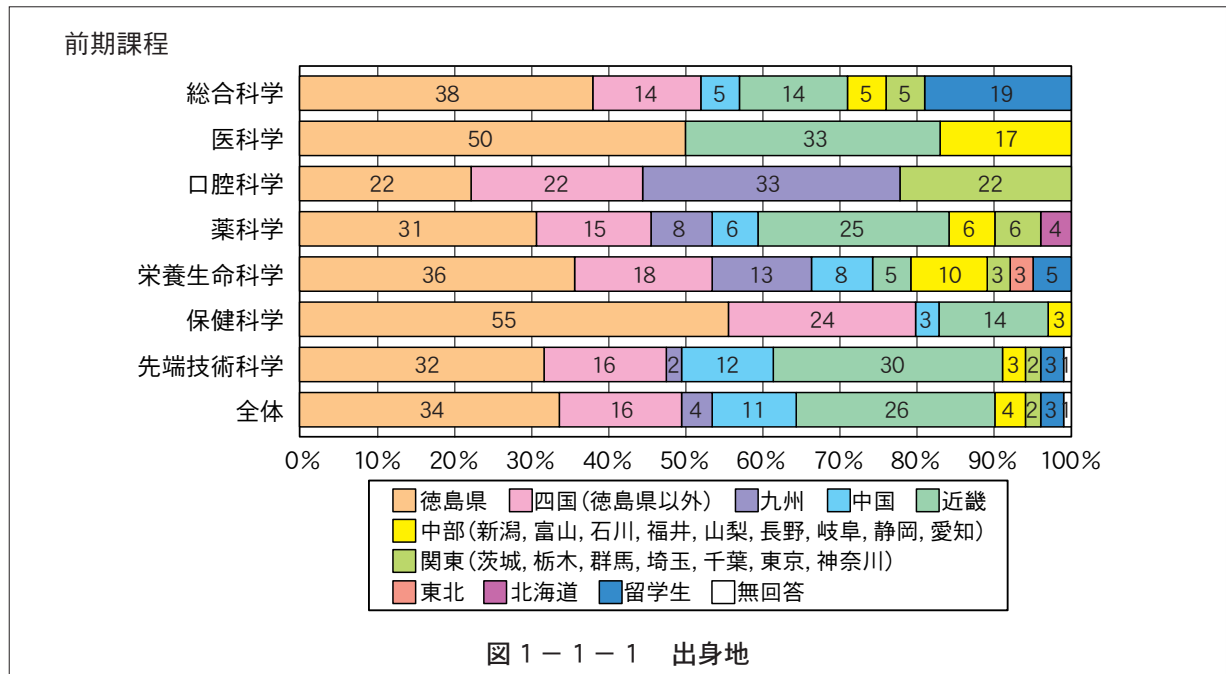
第1章 本調査の対象者について

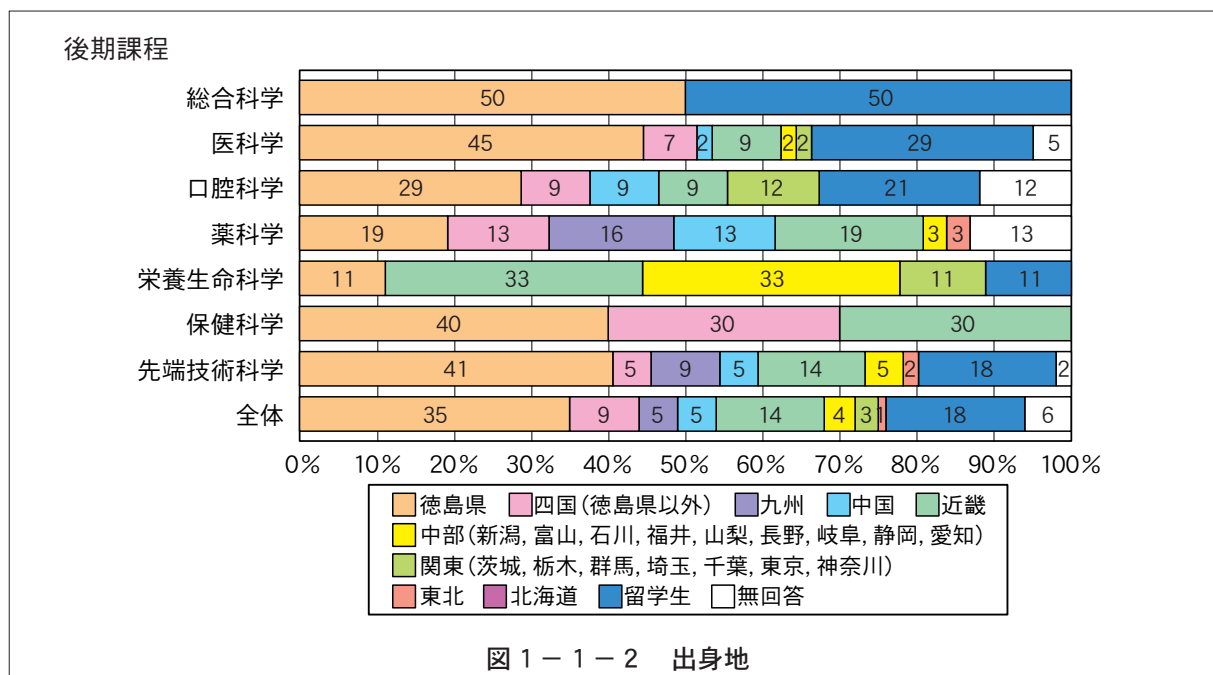
本調査は、本学大学院の総合科学，医科学，口腔科学，薬科学，栄養生命科学，保健科学，先端技術科学の7教育部の前期課程に在籍する958名，および後期課程に在籍する533名の計1,491名を対象とした。

回答数は，前期課程で601，後期課程で190，計791であった。回収率は前期課程が63%，後期課程が36%，全体では53%であった。教育部ごとの回収率は，前期課程で23%から87%，後期課程で16%から65%と差が大きく，回収率の低い教育部については調査結果の解釈に注意が必要だと思われる。学年ごとの回収率では前期課程においては2学年の回収率が8%低く，後期課程では4学年での回収率が他の学年と比較して13%ほど低い結果となった。全体での男子女子ごとの回収率に大きな差はなかった。

1-1 出身地 (図1-1-1, 図1-1-2)

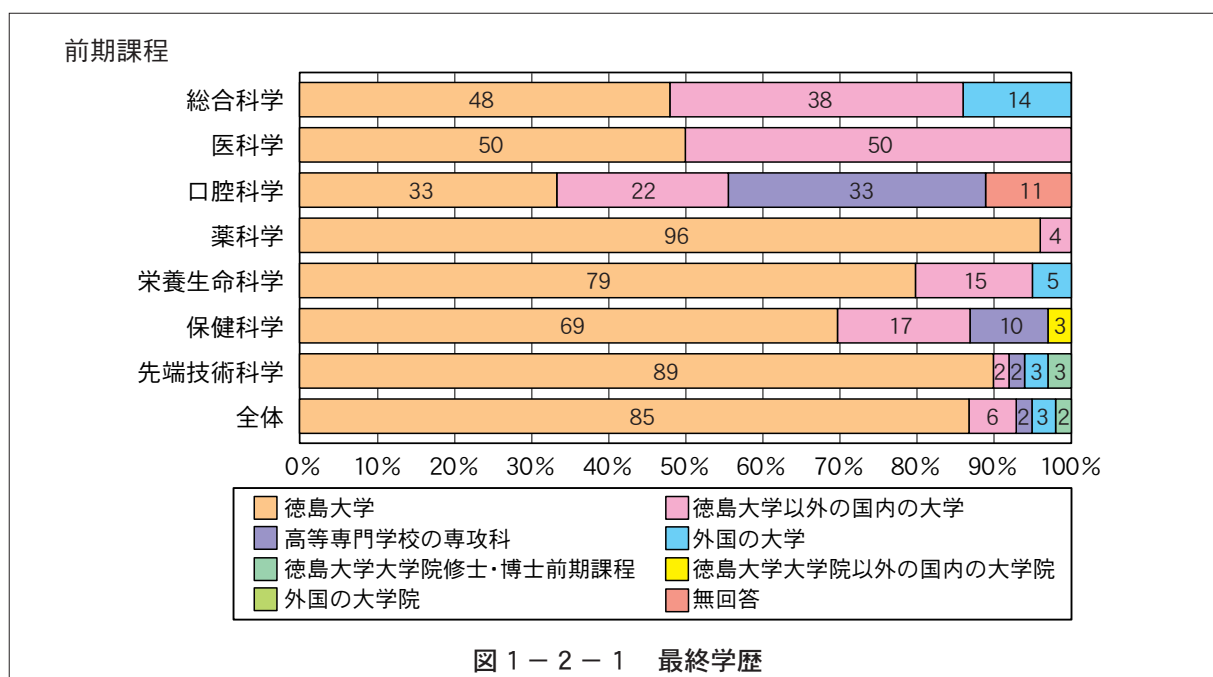
回答者の出身地を見る。前期課程では徳島県(34%)，近畿(26%)，徳島県以外の四国(16%)と地元および近県出身者の割合が高い。本年度は留学生(全体で3%)が回答している。全体で見れば第4回調査の割合とほぼ同様であるが，教育部別で見ると徳島県出身者の割合は総合科学と保健科学で第3回調査水準となり，医科学では8ポイント減少している。第4回調査から加わった口腔科学が75%から22%へ徳島県出身者が減少している。後期課程においても前期課程と同様に近県出身者の割合は高い。しかし，日本以外の出身者の回答率が高い。

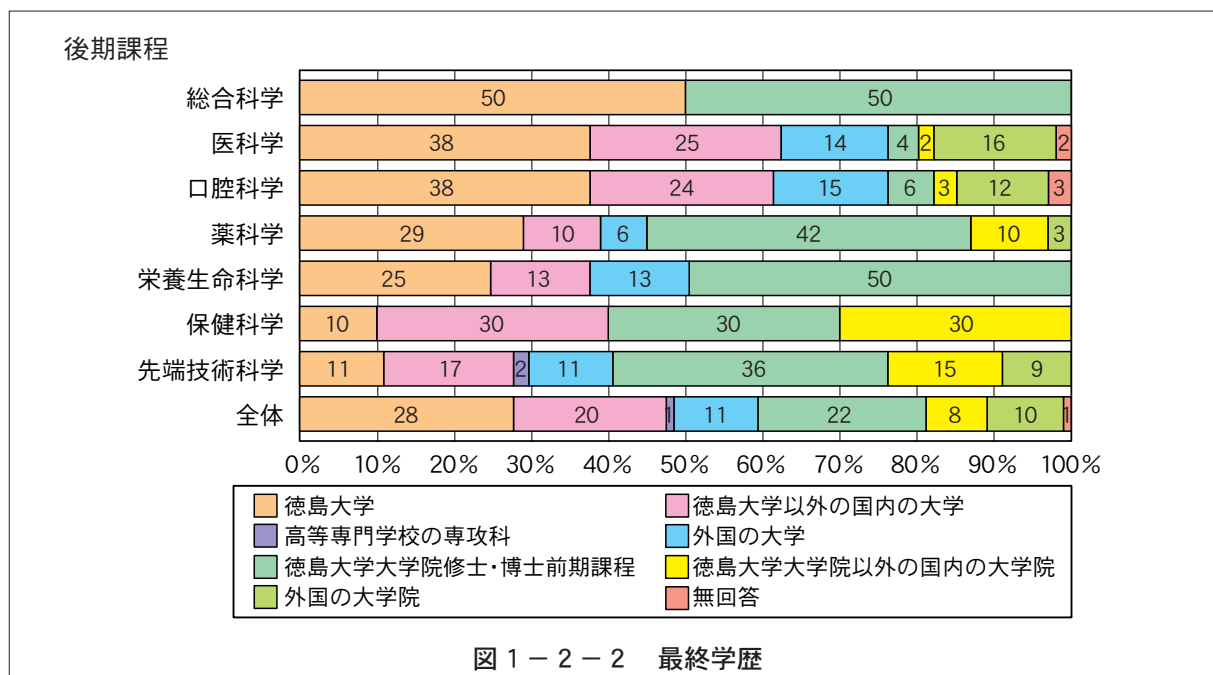




1-2 最終学歴 (図 1-2-1, 図 1-2-2)

回答者の出身地大学（大学院）については、前期課程では第4回調査とほぼ同様の全体の85%が本学出身者で、特に薬科学と先端技術科学では本学出身者の割合が高い。総合科学、医科学、口腔科学では本学出身者は半数以下であり、教育部により違いがみられる。後期課程では、第4回調査の徳島大学および徳島大学大学院修士・博士前期課程は63%であったが、今回は50%と13ポイント減少している。日本以外の大学（大学院）出身者の割合は21%と第4回調査とほぼ変わらないが、前期課程の留学生が本学出身であると回答しているため全体として多くの留学生が回答していることとなる。後期課程においては徳島大学以外の国内の大学の出身者が増加している。





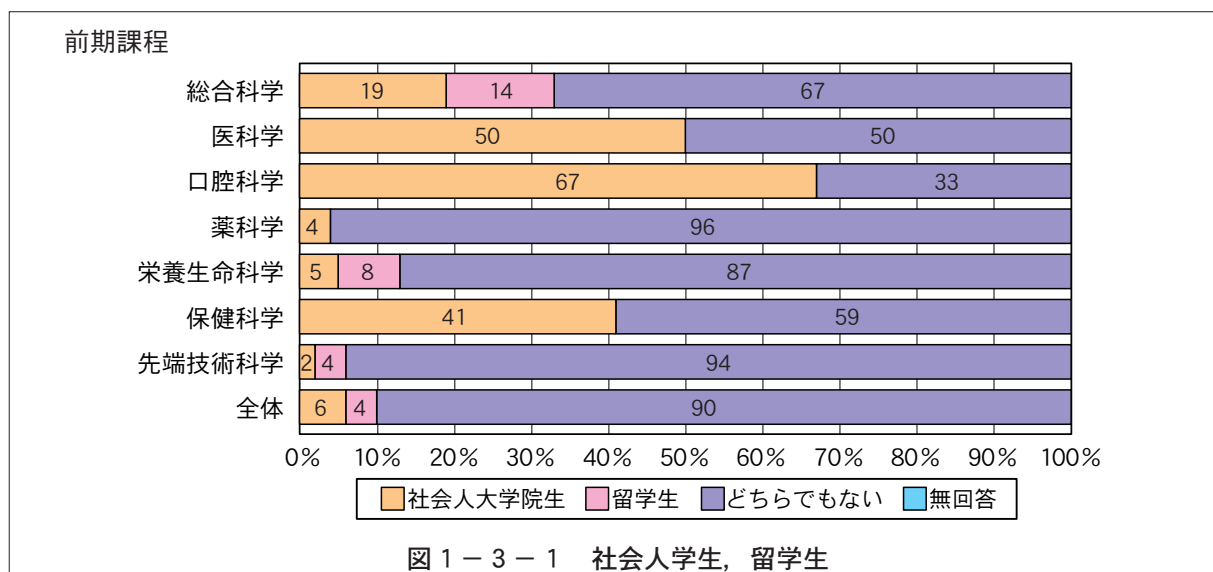
1-3 社会人大学院生と留学生 (図 1-3-1, 図 1-3-2)

この問では社会人学生であるかどうか、留学生であるかどうかをたずねている。

前期課程においては、全体としての構成はほぼ変化はないが、口腔科学（第4回調査 38%から 67%）、保健科学（第4回調査 17%から 41%）および総合科学（第4回調査 4%から 19%）での社会人の割合が高くなり、医科学（第4回調査 58%から 50%）において減少している。

本学大学院在籍の留学生の割合は前期課程で約6%、後期課程で約20%である。後期課程に関しては5分の1程度が海外からの学位志望者が回答しているといえる。アンケートの回収率においては前期課程において4%、後期課程では26%が留学生である。後期課程の回収率は低いが留学生のアンケートには後期課程が全体の中で約同率で回答している。

博士後期課程においては保健学科においては100%が総合科学においては50%が社会人であるが実数で考えると、社会人が比較的義務的に回答することによりこのような偏りが生まれたとも考えられる。各教育部での回収率の影響は大きい。



後期課程

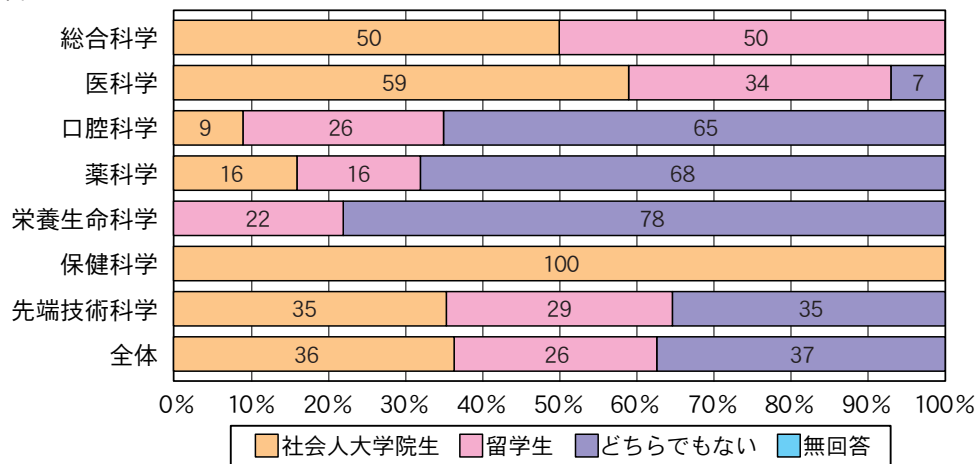


図 1-3-2 社会人学生, 留学生

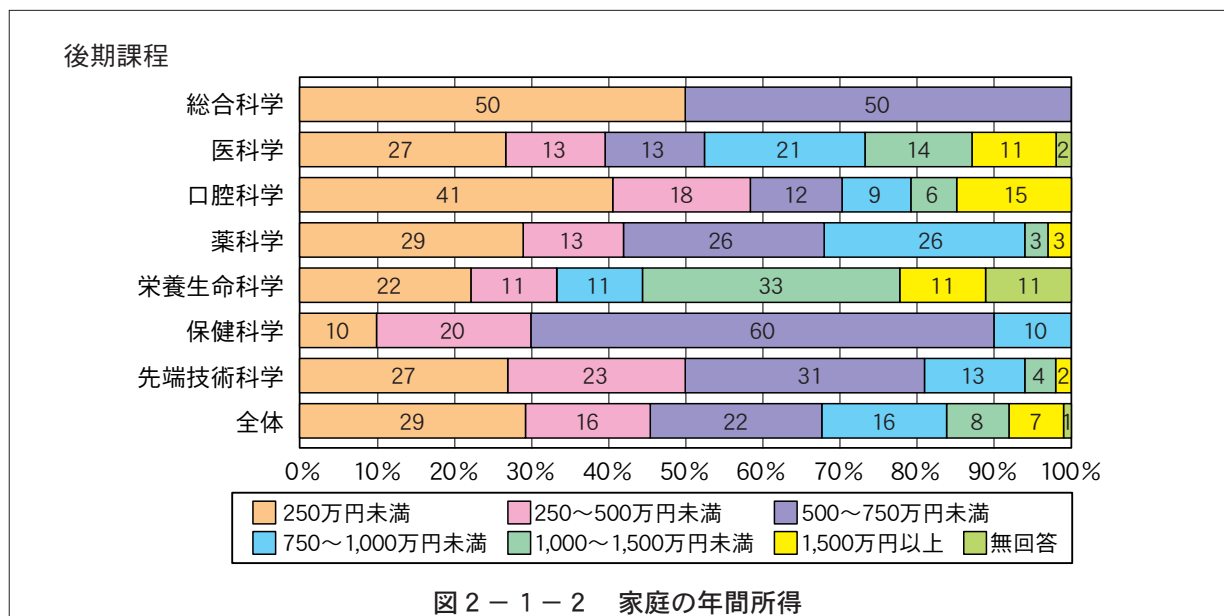
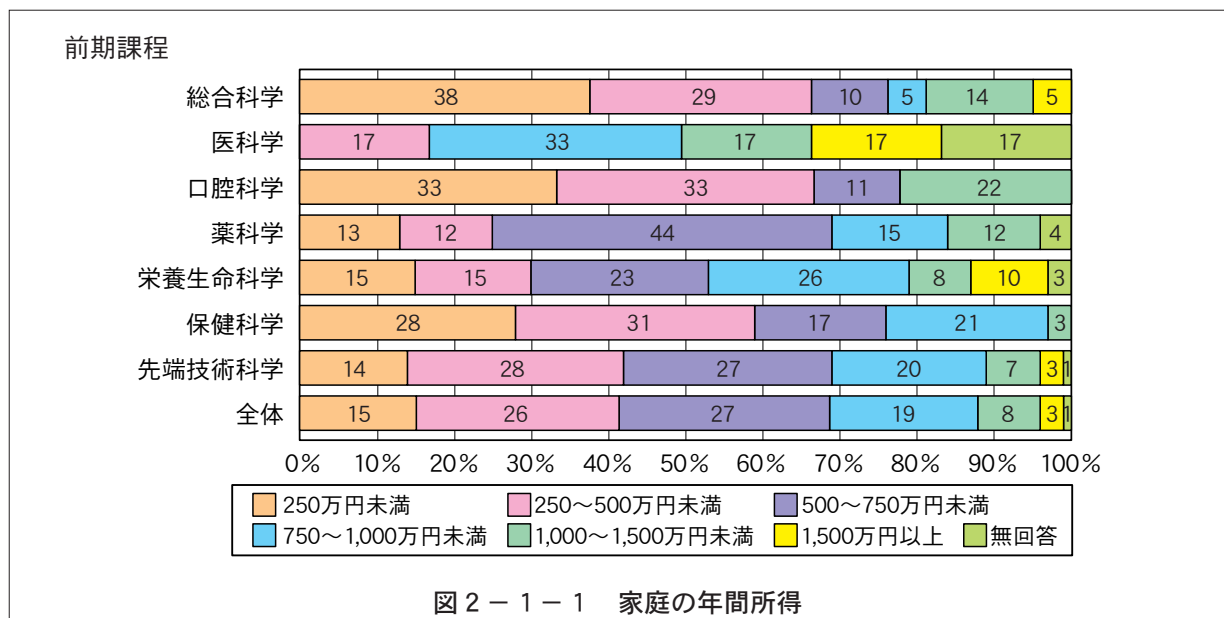
第2章 家族・住居・通学について

2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1, 図2-1-2)

大学院生の年収については第4回調査が行われた平成24年度に比べて大きな変動はない。

前期課程については年収500万円～750万円未満が27%と最も多く、次いで250万円～500万円未満の26%、さらに750万円～1,000万円未満の19%となっている。250万円～1,000万円未満の年収帯の合計は72%を占めており、これは前期課程大学院生の74%を占める先端技術科の年間所得比率とほぼ同様の分布を示している。

これに対して後期課程では年収250万円未満の大学院生が減少した一方で500万円以上の大学院生が増加している。最も多い年収帯は250万円未満の29%で、以下500万円～750万円の22%、250万円～500万円/750万円～1,000万円が各々16%となっている。第4回調査とは異なり多くの大学院教育部において年収500万円以上の大学院生が50%以上を占めているが口腔科学では40%に留まっている。

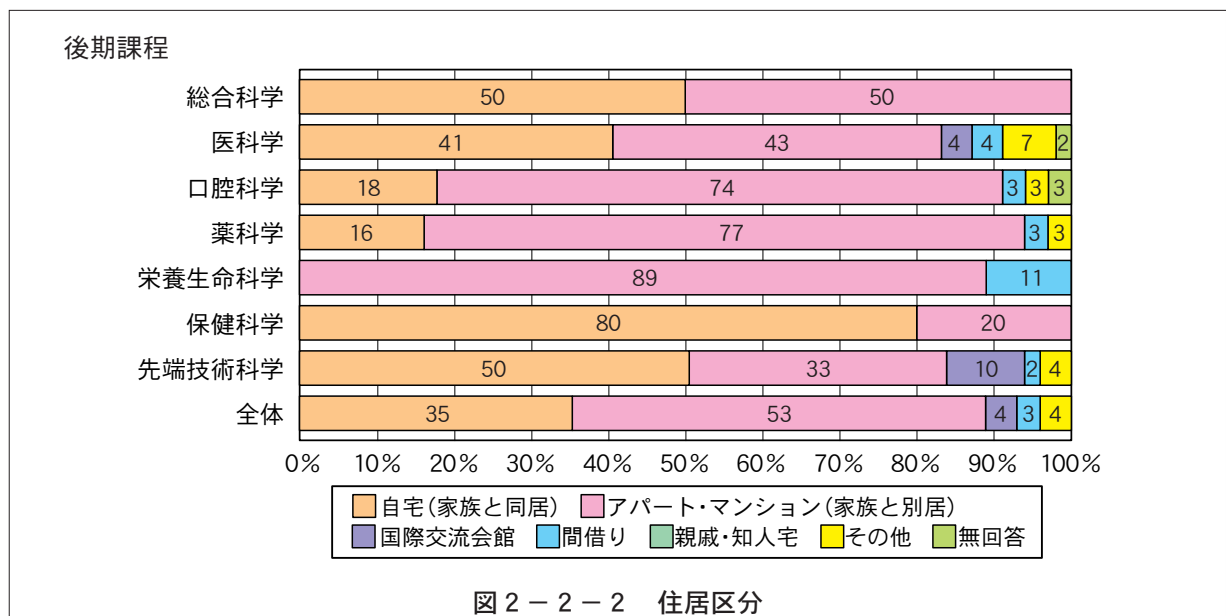
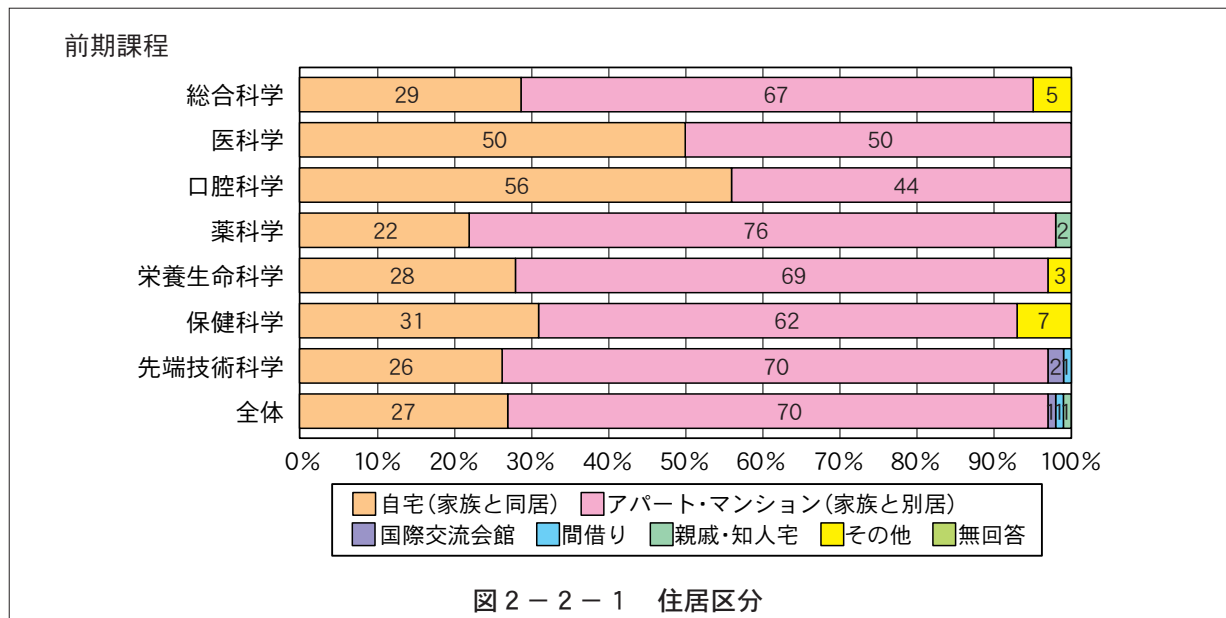


留学生に関しては前期課程の54%、後期課程の84%が年収250万円以下となっている。前期課程に所属する留学生は全体の4.3%に過ぎないが、後期課程の留学生は26.3%を占めている。このため第4回調査と同様に後期課程大学院生については留学生の低所得傾向が全体に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

2-2 住居区分 (図2-2-1, 図2-2-2)

大学院生の住居区分については平成24年度の第4回調査とほぼ同様の傾向が認められる。すなわち前期課程/後期課程のいずれも約30%前後が自宅から通学しているが、前期課程は27%、後期課程は35%と後期課程学生の方が自宅通学生の割合が高い。各大学院教育部における自宅通学生の割合についても全体の傾向は変わっていない。

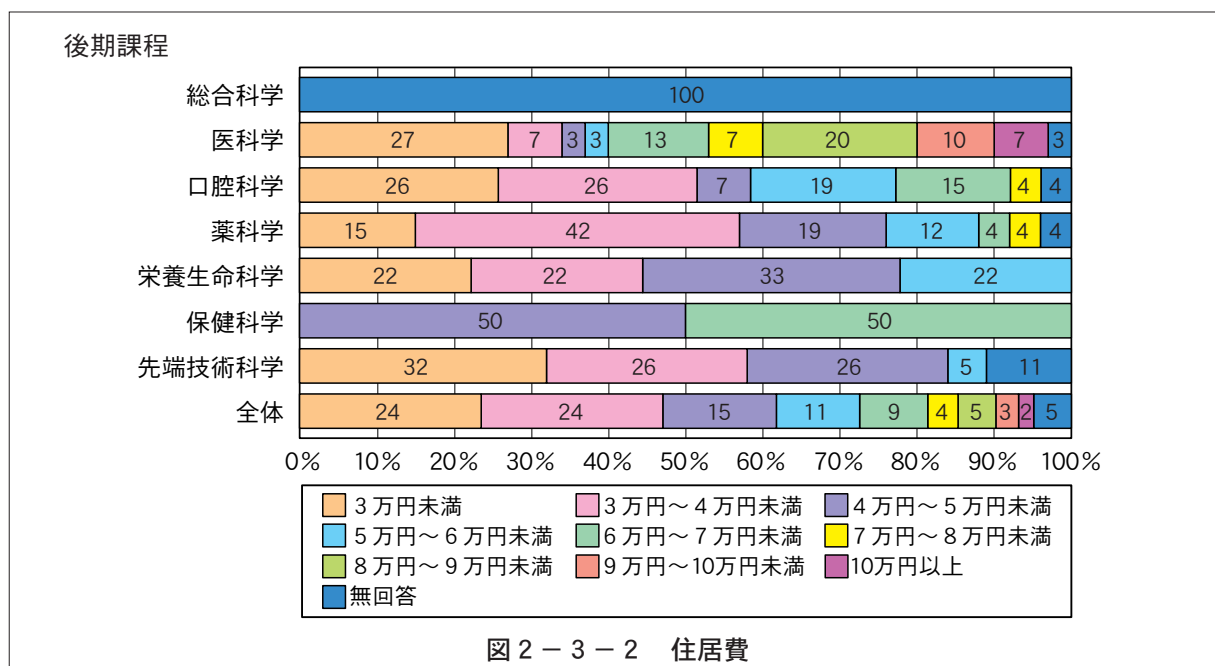
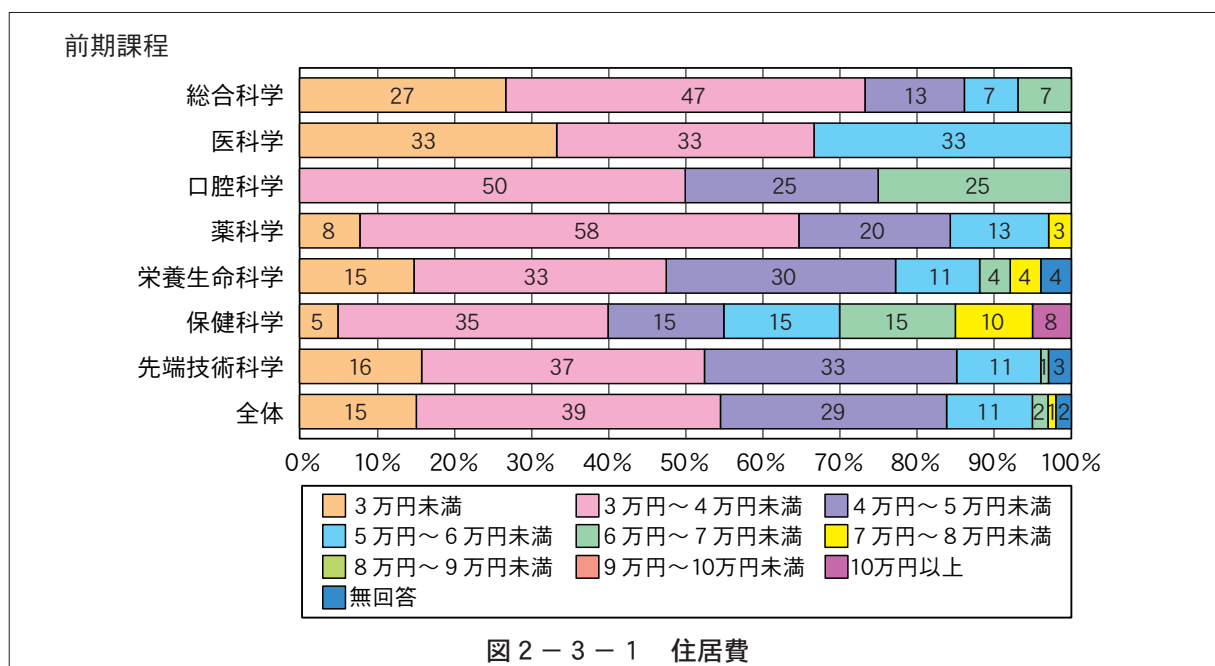
留学生については前期課程の4%が家族との同居、69%がアパート/マンション、23%が国際交流会館に居住しているが、後期課程では家族との同居が26%、44%がアパート/マンション、14%が国際交流会館に居住している。特に医科学/先端技術科学の後期課程大学院生の30%が家族と同居している点



が特徴的である。

2-3 住居費 (図2-3-1, 図2-3-2)

大学院生の住居費については平成24年度の第4回調査に比べてやや減少傾向を示している。前期課程大学院生全体については第4回調査とほぼ同様（3万円～4万円が39%、4万円～5万円が29%、3万円未満が15%）となっている。しかしこれは前期課程大学院生の大部分を占める先端技術科学の動向がそのまま反映されているためであり、これ以外の前期課程大学院生については4万円未満の住居費を支払っている大学院生の割合が増加傾向にある。一方、後期課程大学院生については全体としても各教育部個別についても4万円未満の住居費を支払っている学生の数が増加している。後期課程大学院生の数が多い医科学/口腔科学/薬科学大学院生についてもこの傾向は明らかであり、今回調査の特徴と言える。留学生については後期課程大学院生の実に90%が4万円以下の住居費で生活しており、後期課程で

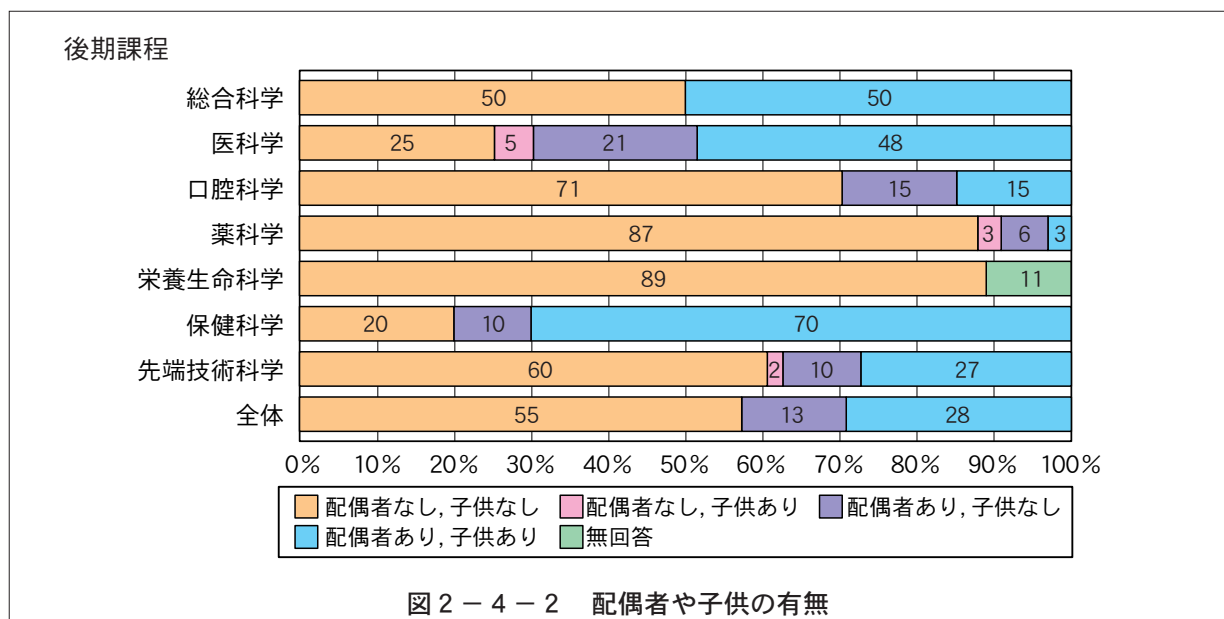
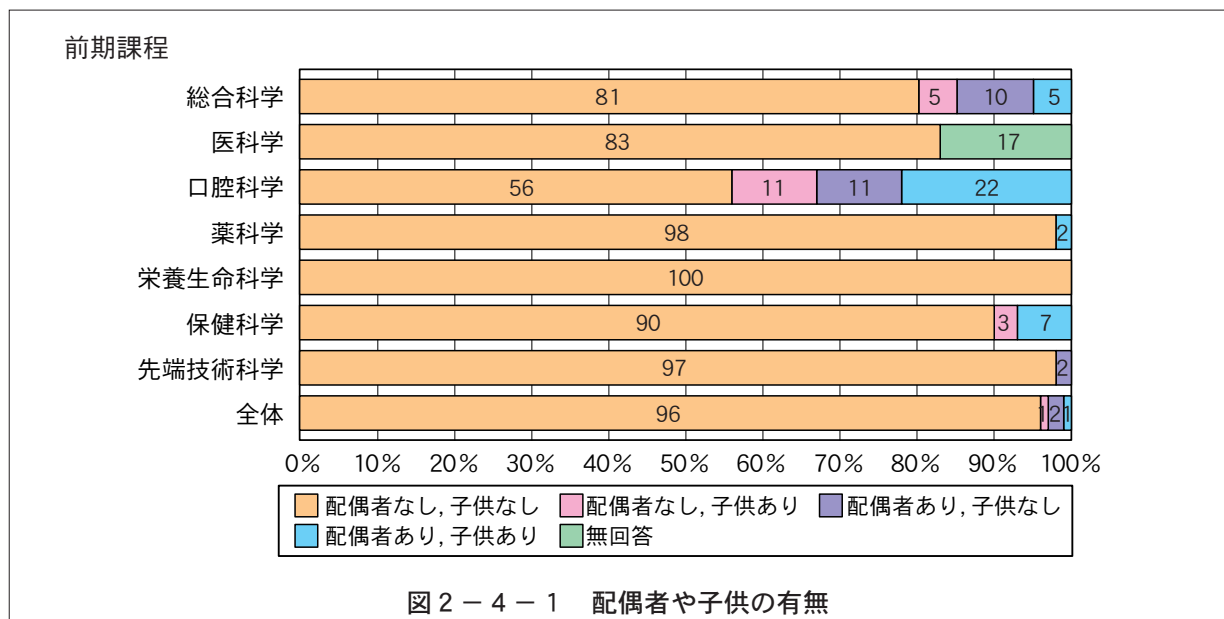


は留学生の割合の高いことが住居費の減少に大きな役割を果たしていると考えられる。

2-4 配偶者や子供の有無 (図2-4-1, 図2-4-2)

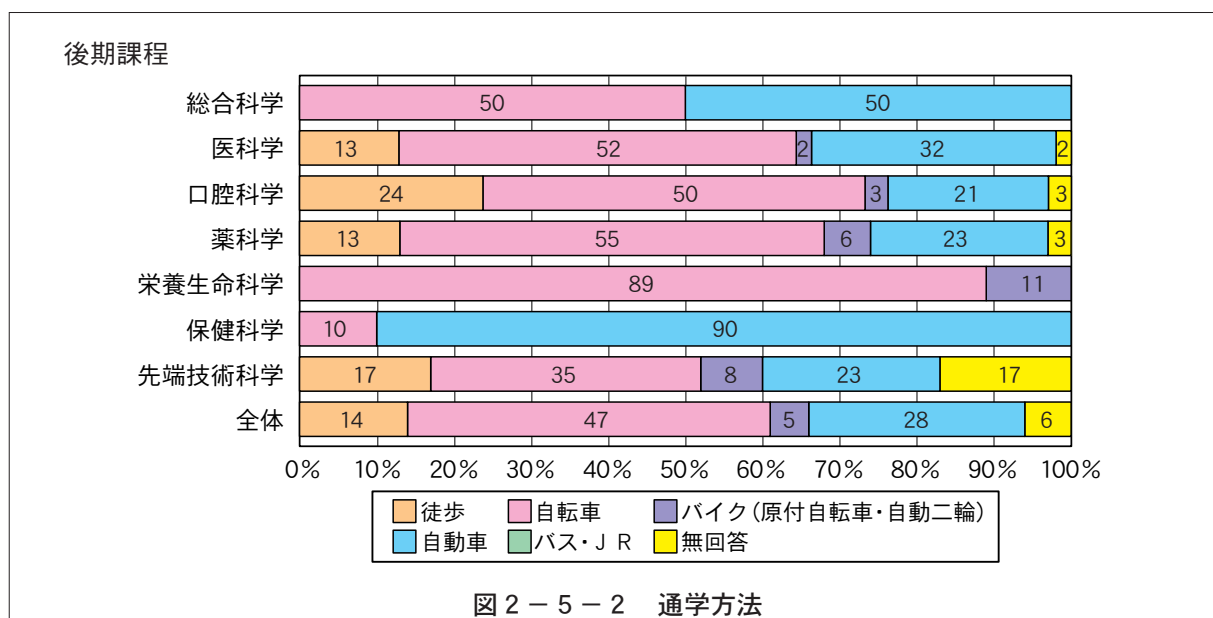
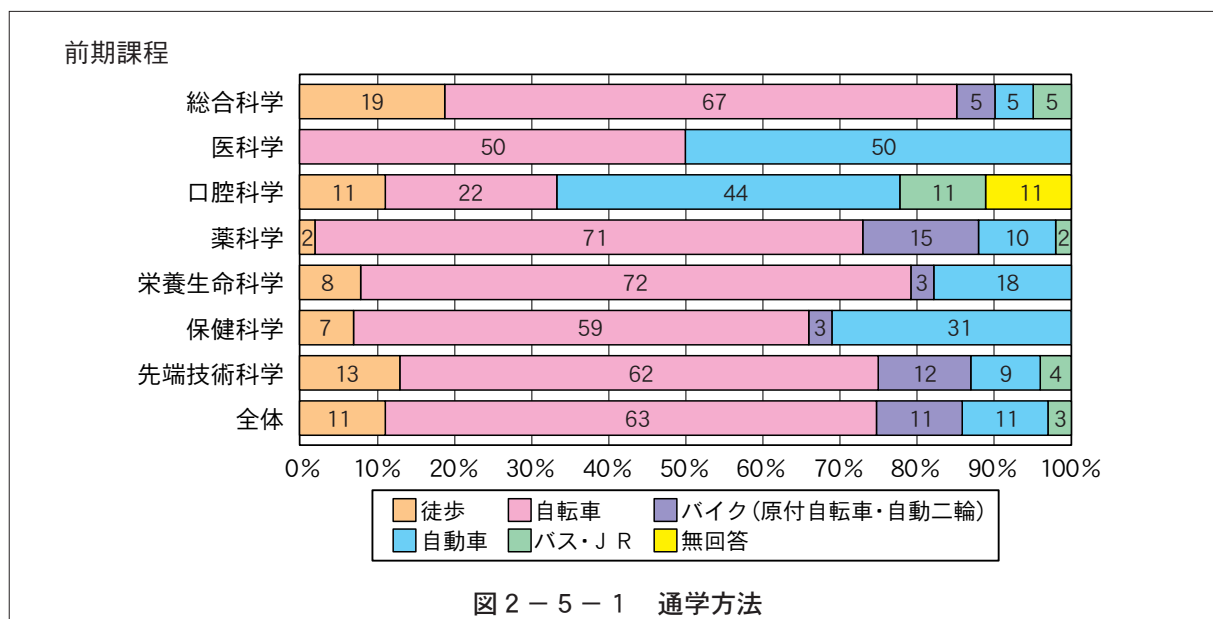
前期課程大学院生の96%に配偶者/子供はいないが、後期課程大学院生ではこの割合は55%にまで減少する。各教育部ごとの独身者の割合は多少の変動はあるものの医科学と保健科学に配偶者/子供のいる大学院生の割合が高く、これは第4回調査と同様の結果である。

子供のいる大学院生について研究中的の子供の世話は配偶者や親/親戚に預かってもらう場合が60%弱に及んでおり、保育施設や学校などの公共施設の利用は30%強に留まっている。この傾向も例年通りであるが、留学生に限ると公共施設の利用が50%近くまで増えている。子供の保育/教育についてのサポートは学生支援の立場から充実を図るべきである。



2-5 通学方法 (図2-5-1, 図2-5-2)

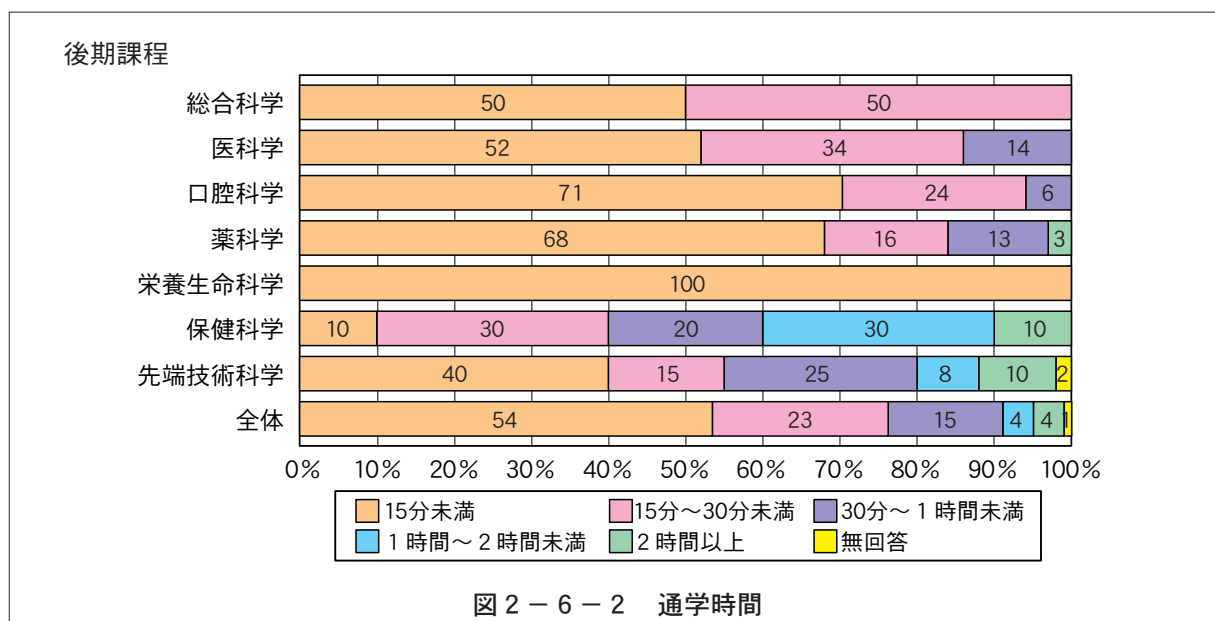
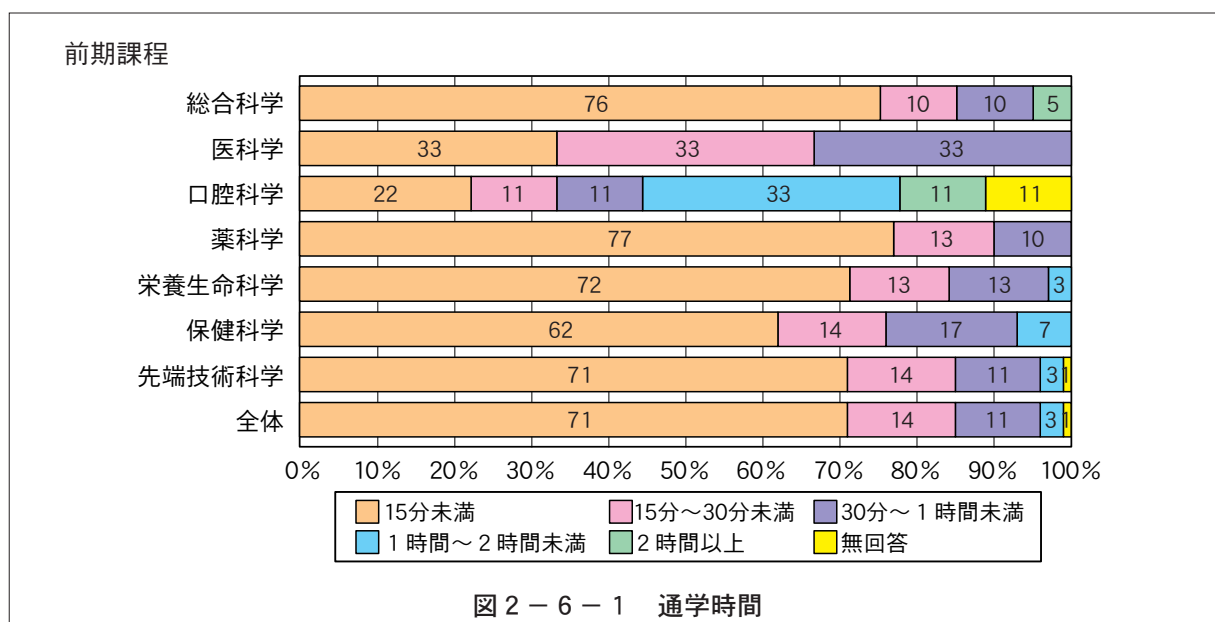
通学方法については第4回調査とほぼ同様の結果であり、前期課程大学院生については徒歩もしくは自転車通学が75%程度を占めており、後期課程大学院生では60%程度に減少している。医科学/口腔科学前期課程大学院生(合計15名、前期課程大学院生の2.5%)は徒歩/自転車通学の割合が50%以下と特別に低い。後期課程となると他学部と同様に過半数の学生が徒歩/自転車通学となっている(合計90名、後期課程大学院生の47%)。興味深いことに保健科学後期課程では自動車通学者の割合が90%に及んでおり、これは第4回調査と同様の傾向である(第4回調査は71%、後期課程大学院生総数の5%で合計10名)。



2-6 通学時間 (図2-6-1, 図2-6-2)

通学時間についても第4回調査とほぼ同様の結果であり、前期課程大学院生については71%が15分未満の通学時間であり後期課程大学院生では通学時間15分未満が54%である。なお、少数ではあるものの2時間以上の通学時間を要する大学院生が前期課程で5名(全体の0.8%)、後期課程で7名(全体の3.7%)存在する。

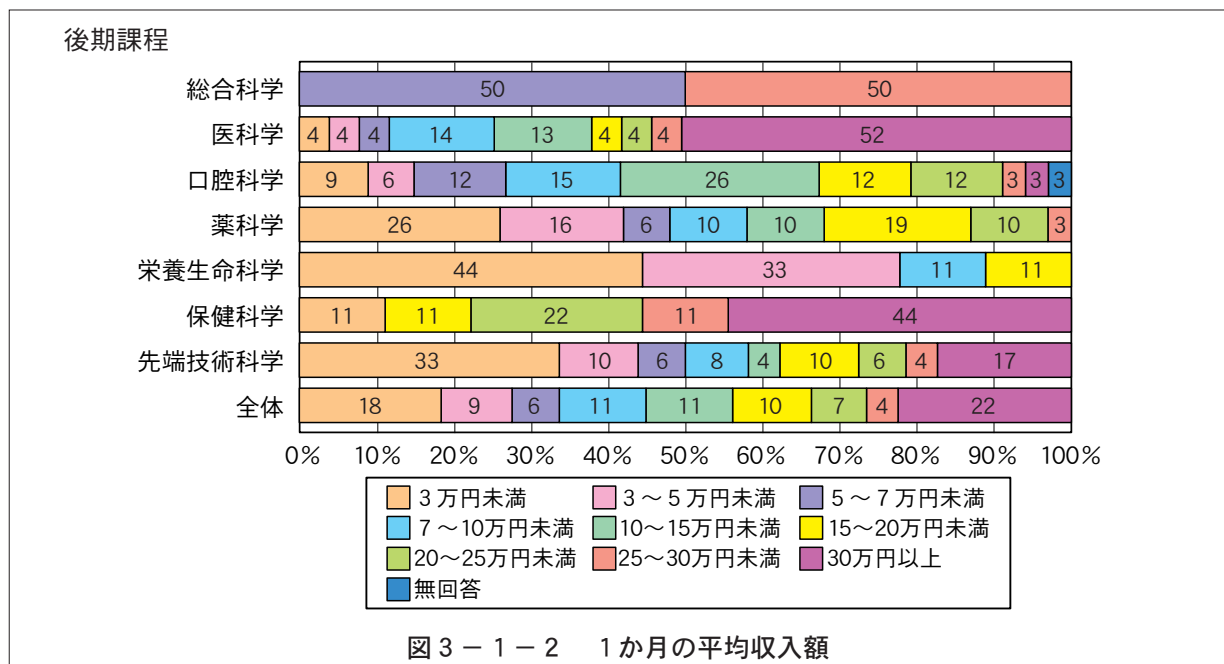
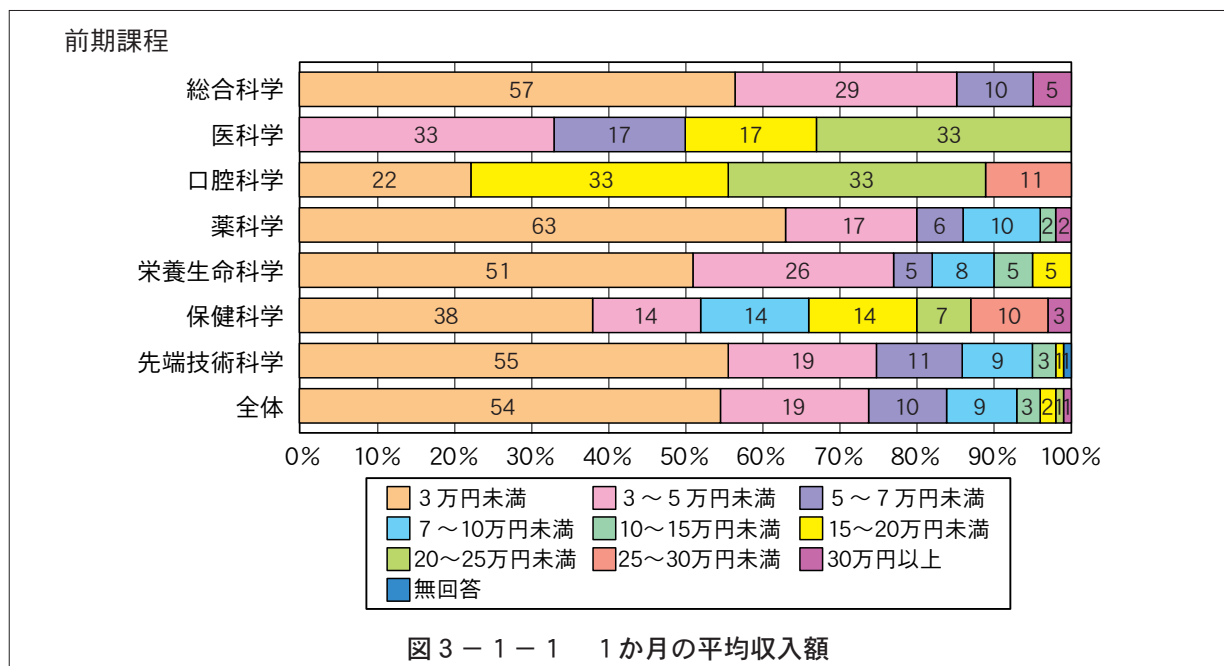
留学生については前期課程/後期課程のいずれも15分未満の通学時間が65%前後で30分未満の通学時間が80%前後となっている。



第3章 収入・支出について

3-1 1ヶ月の平均収入額 (図3-1-1, 図3-1-2)

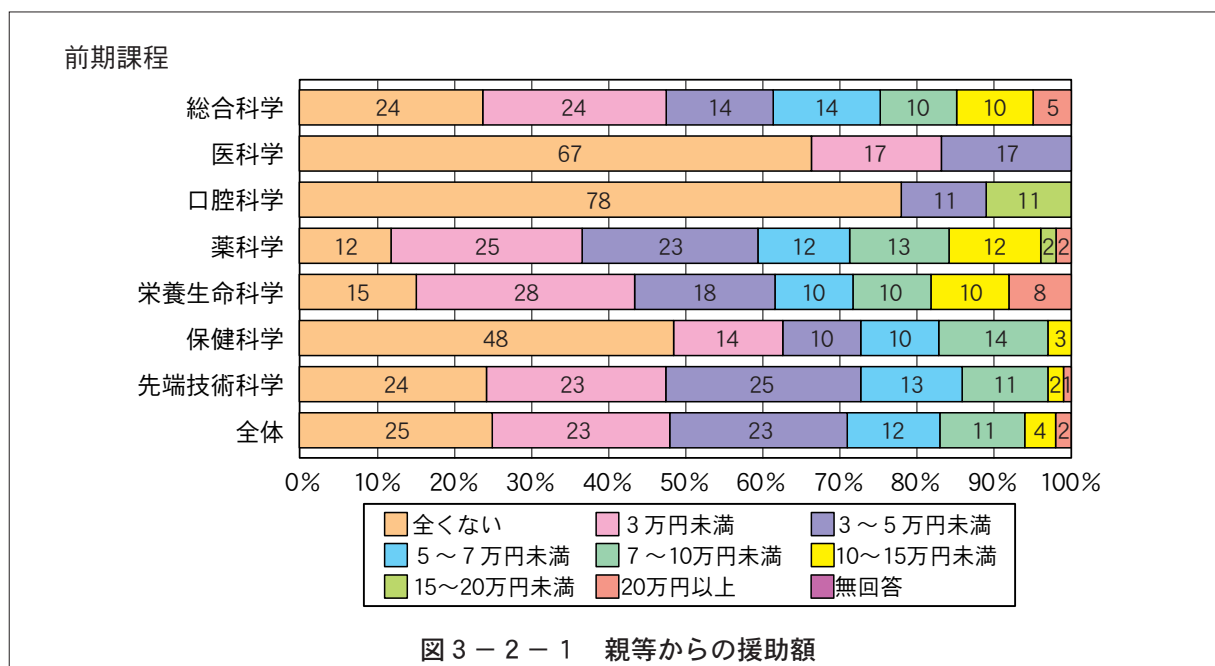
前期課程では、全体の54%は月平均収入額（親等からの援助を除く）が3万円未満で、92%は10万円未満であり、第4回の調査結果とほぼ同様である。教育部を比較すると、口腔科学や医科学では社会人大学院生が多いため、それぞれ78%、50%の学生が10万円以上の収入を得ている。一方、総合科学や薬科学、栄養生命科学、先端技術科学ではそれぞれ95%、96%、90%、94%の大学院生が10万円未満の収入となっている。保健科学では66%の学生が10万円未満だが、34%は10万円以上の収入を得ている。留学生の1か月の平均収入は76%が7万円未満、さらに46%が3万円未満であり、多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。



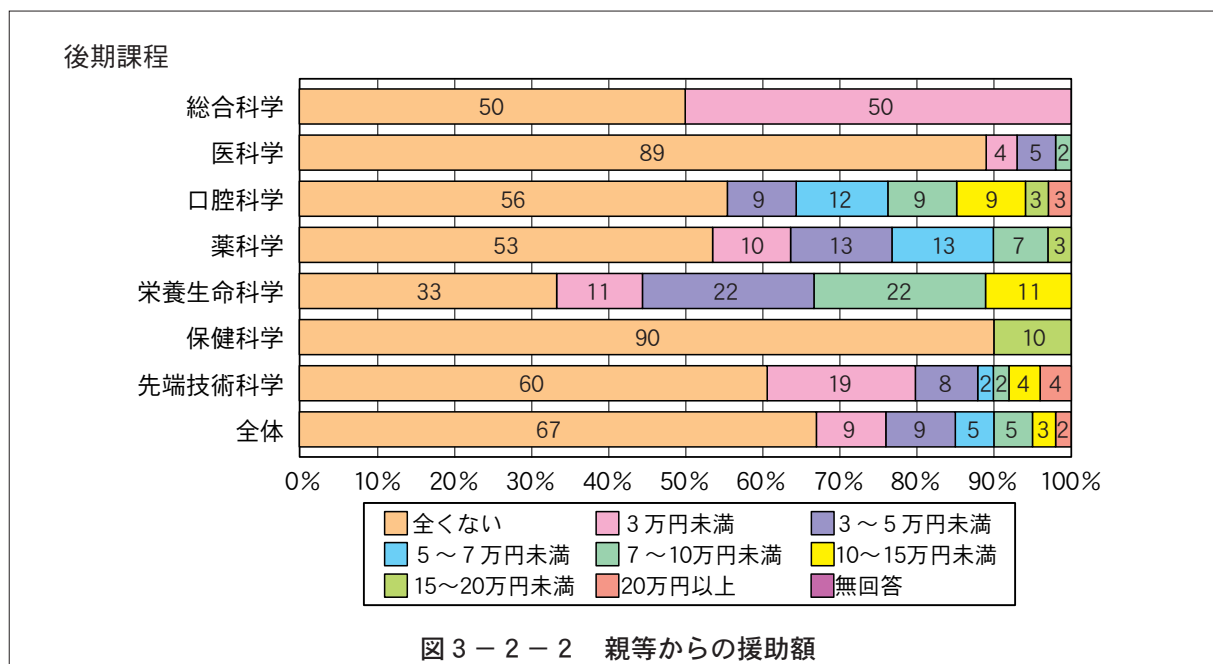
後期課程では、全体の18%が平均収入3万円未満であるが、一方、22%は30万円以上の収入を得ていて、第4回の調査結果とほぼ同様である。教育部を比較する（少数のため総合科学を除く）と、先端技術科学では6割弱の57%が平均収入10万円未満である。栄養生命科学では89%は収入10万円未満である。保健科学は78%の学生に20万円以上の収入があり、内44%は30万円以上の収入を得ている。医科学では収入額に個人差があり、52%が30万円以上の収入を得ているのに対し、26%は10万円未満である。口腔科学と薬科学では、42%、58%が10万円未満の収入である。留学生については全体の62%が10万円未満、26%が10～15万円未満の収入を得ている。

3-2 親等からの援助額 (図3-2-1, 図3-2-2)

前期課程では、親等からの援助が全くない大学院生は全体の25%であり、第4回の調査結果よりも3%高い。教育部によりばらつきがあり、親等からの援助が全くない大学院生の割合は口腔科学(78%)、医科学(67%)と保健科学(48%)の順で高く、いずれの値も第4回調査よりも9から40%高い。一方、薬科学(12%)と栄養生命科学(15%)では親等からの援助が全くない学生の割合は低い。全体の94%が受けている援助額は10万円未満である。留学生については、全体の38%は親等からの援助が全くない。

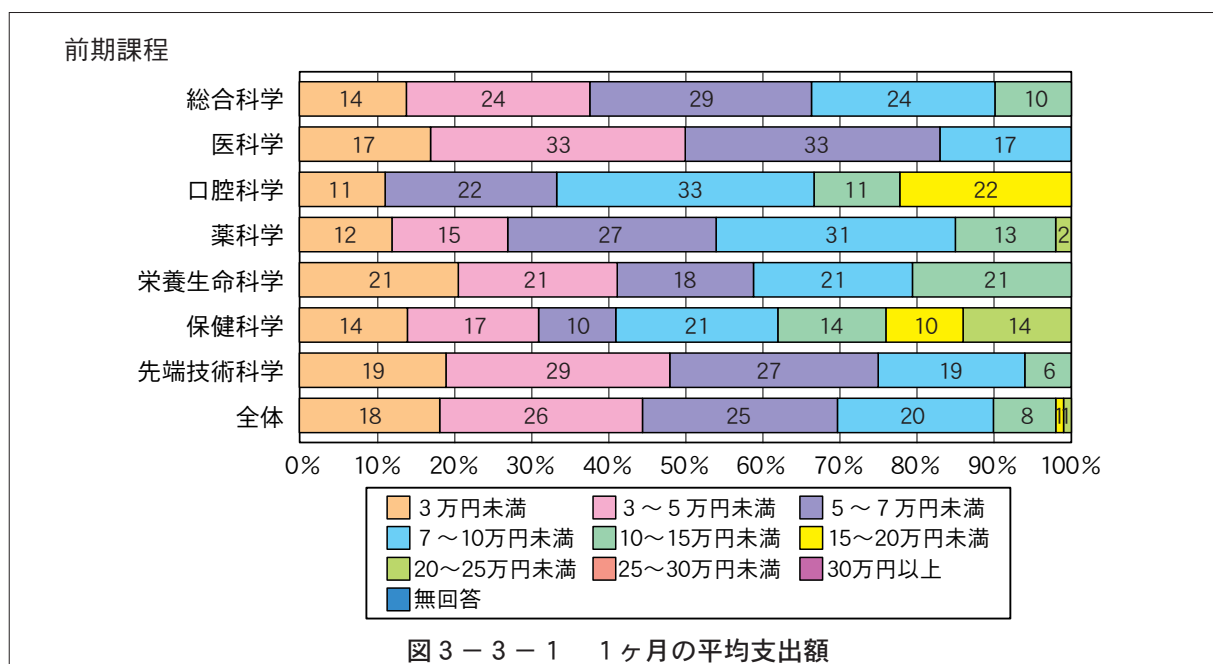


後期課程では、前期課程(25%)と比較して親等からの援助を全く受けていない割合が全体の67%と高く、援助額5万円未満のものは18%であり、収入面での独立傾向がうかがえる。これは第4回の調査結果と同じ傾向である。一方、援助額10万円以上の大学院生の割合は前期課程(6%)よりも少なく、3%であった。教育部を比較する(少数のため総合科学を除く)と、保健科学では後期課程の大学院生の90%が援助を受けていない。援助を受けていない大学院生の割合は、医科学89%、先端技術科学60%、口腔科学56%、薬科学53%と4教育部では半数以上を占めている。留学生については全体の72%が親等からの援助はなく、20%が5万円未満の援助である。



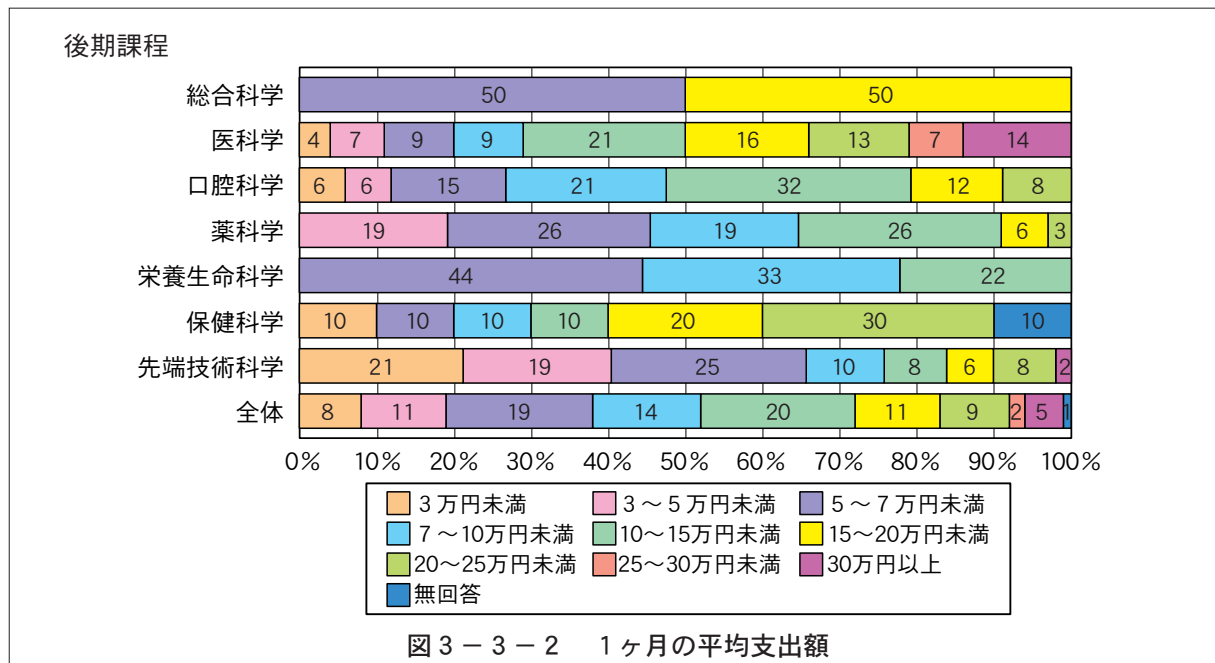
3 - 3 1か月の平均支出額（授業料支出は除く）（図 3 - 3 - 1, 図 3 - 3 - 2）

前期課程では、全体の44%が1か月平均5万円未満の支出で、90%が月平均10万円未満の支出で生活をしている。これは第4回の調査結果とほぼ同様である。教育部を比較すると、月平均10万円未満の支出で生活している大学院生の割合は医科学（100%）、先端技術科学（94%）、総合科学（90%）の順に高く、口腔科学（66%）と保健科学（62%）ではその割合は低い。留学生の84%は月平均支出額10万円未満で生活していて、とくに先端技術科学の留学生の31%は支出を5万円未満に抑えている。



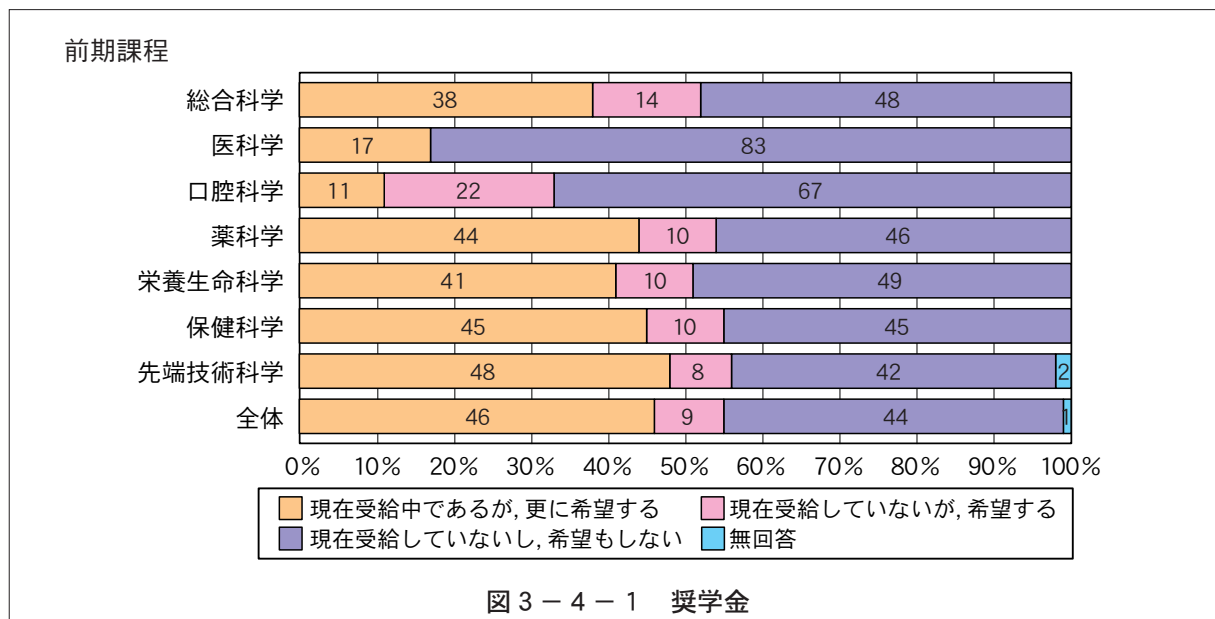
後期課程では、大学院生の52%は月平均10万円未満で生活し、さらに月平均支出額5万円未満である割合は全体の19%であり、第4回の調査結果とほぼ同様である。教育部を比較する（少数のため総合科学を除く）と、支出額10万円以上の大学院生の割合は医科学（71%）、保健科学（60%）、口腔科学（53%）の順に高い。また、5万円未満の割合は先端技術科学（40%）が高い。栄養生命科学では5～

10万円未満の割合が最も高く77%である。留学生については、全体の58%は平均支出額が10万円未満である。また、口腔科学、薬科学と医科学の留学生は10～15万円未満の割合が高く、それぞれ44%、40%、37%である。

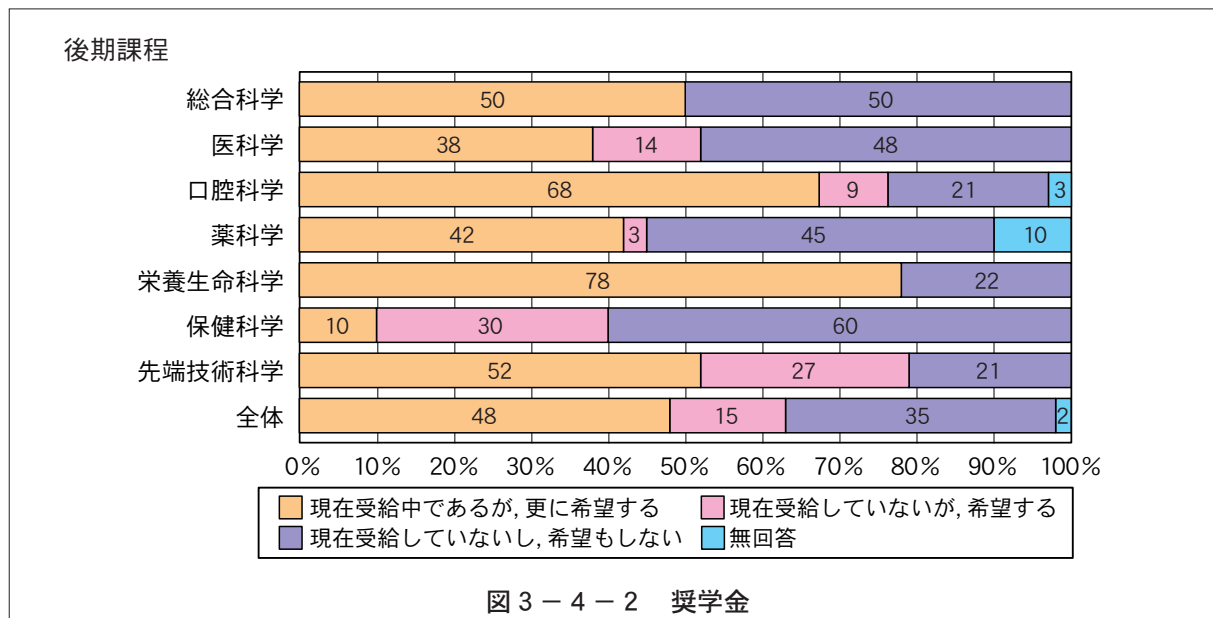


3-4 奨学金を受けることを希望しますか (図3-4-1, 図3-4-2)

前期課程では、全体の55%が奨学金を希望しており、一方、44%は将来的にも奨学金の受給を希望していない。これは第4回の調査結果とほぼ同様である。現在奨学金を受給している割合は、医科学と口腔科学以外の5教育部で4割前後(38～48%)である。将来的な受給希望も含めると、この5教育部では半数以上が奨学金を希望する。医科学の83%と口腔科学の67%は奨学金を希望していない。留学生では、全体の84%が奨学金を受けたいと考えている。

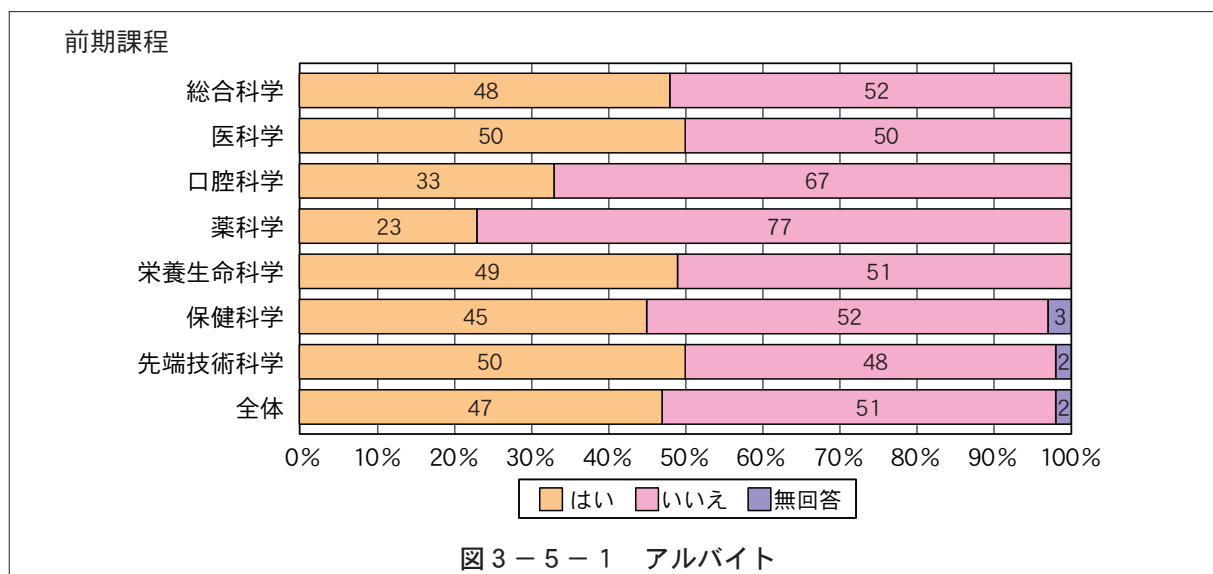


後期課程では、全体として奨学金を希望する割合は前期課程（55%）よりも高く、63%を占める。この値は第4回の調査結果よりも9%低い。教育部を比較する（少数のため総合科学を除く）と、奨学金受給の割合は栄養生命科学（78%）、口腔科学（68%）、先端技術科学（52%）の順に、また奨学金希望の割合も先端技術科学（79%）、栄養生命科学（78%）、口腔科学（77%）の順に高い。留学生では無回答を除くと、すべてが奨学金を受けたいと考えている。



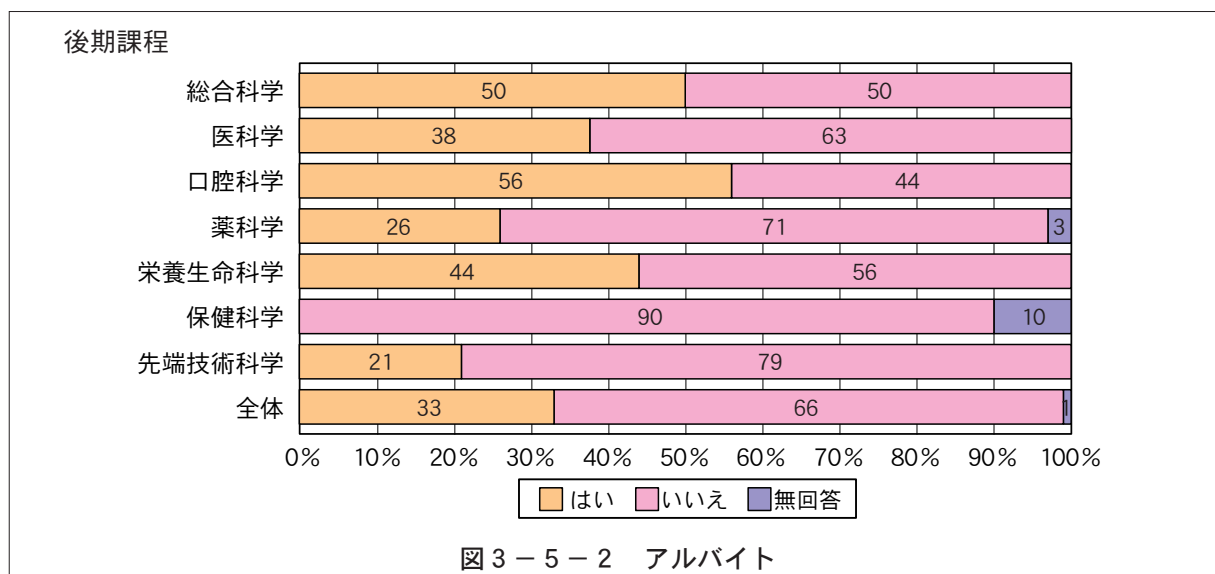
3-5 現在、アルバイトをしているか (図 3-5-1, 図 3-5-2)

前期課程では、全体の48%の大学院生がアルバイトをしており、残り51%は行っていない。この割合は第4回の調査と同様である。教育部で比較すると、アルバイト学生の割合は医科学と先端技術科学がともに50%と最も高く、薬科学（23%）と口腔科学（33%）が低い。留学生では38%がアルバイトをしているが、これは第4回の調査よりも33%も低い値である。



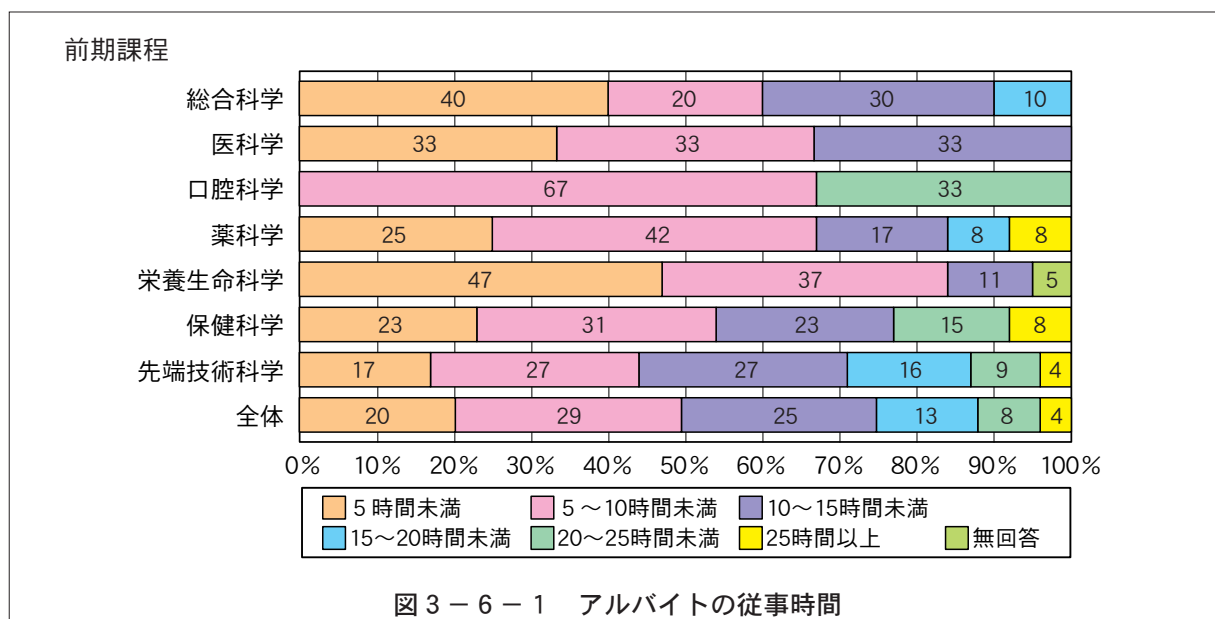
後期課程では、全体として33%の大学院生がアルバイトを行っており、前期課程（48%）と比較すると少ない。教育部別では、医科学、栄養生命科学、保健科学と先端技術科学では前期課程よりも後期課程でアルバイトを行っている割合は減少している。理由として、後期課程では研究に従事する時間が増

え、アルバイトをする時間的余裕が減ることが考えられる。教育部を比較すると、アルバイト学生の割合は口腔科学が56%と最も高く、ついで総合科学(50%)、栄養生命科学(44%)であり、前期課程とは異なった傾向を示す。後期課程の留学生は、全体の22%がアルバイトを行い、この割合は第4回調査よりも6%増加している。



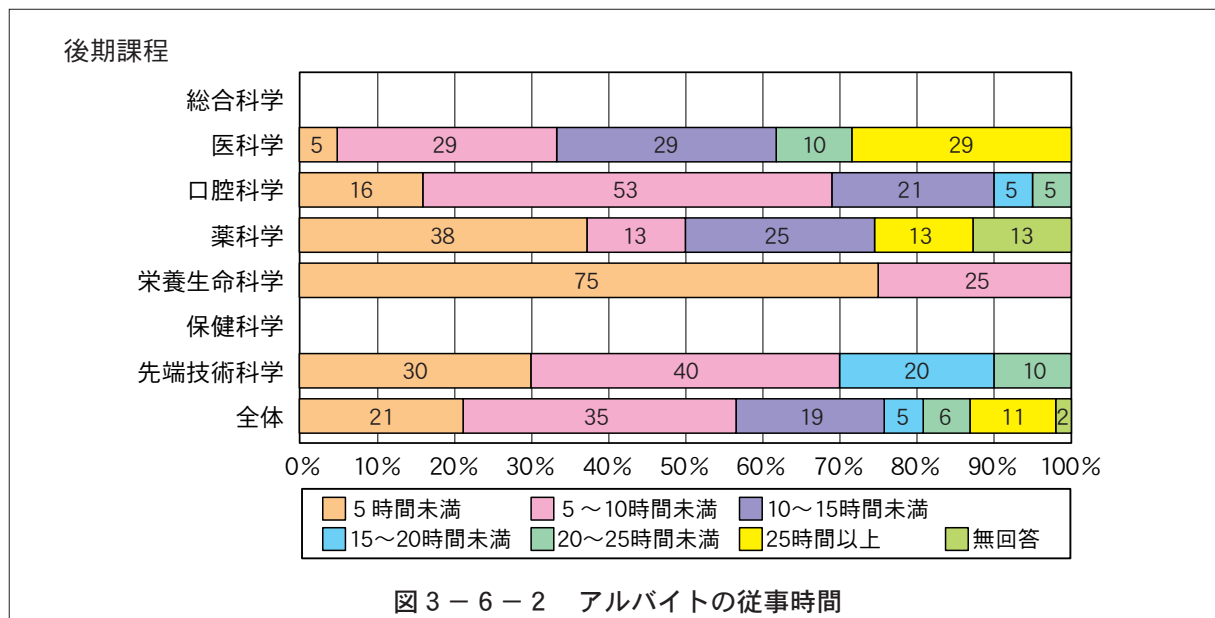
3-6 アルバイト従事時間数 (図3-6-1, 図3-6-2)

前期課程では、全体の49%はアルバイト従事時間10時間未満であり、50%は10時間以上で、そのうち4%の大学院生は25時間以上のアルバイトに従事している。これは第4回の調査とほぼ同様の傾向である。教育部を比較する(少数のため医科学と口腔科学を除く)と、総合科学ではすべて20時間未満のアルバイト従事であり、そのうち60%は10時間未満であった。20時間以上のアルバイト従事者は、保健科学の15%、先端技術科学の9%で、そのうち25時間以上の従事者の割合は薬科学と保健科学の8%、先端技術科学の4%であった。これらの割合は第4回の調査よりも減少している。留学生については、全体の70%が10~15時間未満のアルバイトを行い、すべて20時間未満である。



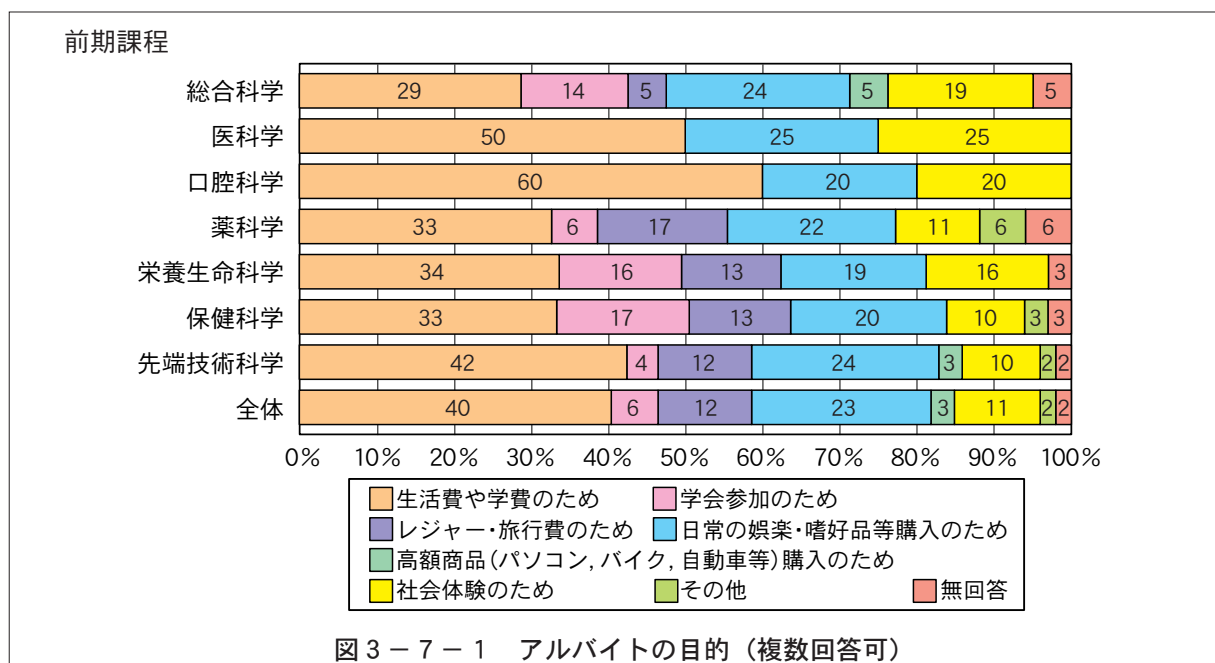
後期課程では、全体としてアルバイト時間10時間未満の大学院生の割合は56%で前期課程(49%)

よりも少し高く、25時間以上従事している者の割合も11%と前期課程（4%）よりも高い。教育部を比較する（少数のため栄養生命科学を除く）と、医科学では63%が15時間未満の、39%は20時間以上のアルバイトを行っている。口腔科学では95%が20時間未満のアルバイトに従事している。薬科学、先端技術科学の10時間未満のアルバイトに従事する院生の割合はそれぞれ51%、70%である。留学生については、全体（10名）のうち、7名（70%）は10時間未満、2名（20%）は15～20時間未満、1名（10%）は20時間以上のアルバイトに従事している。



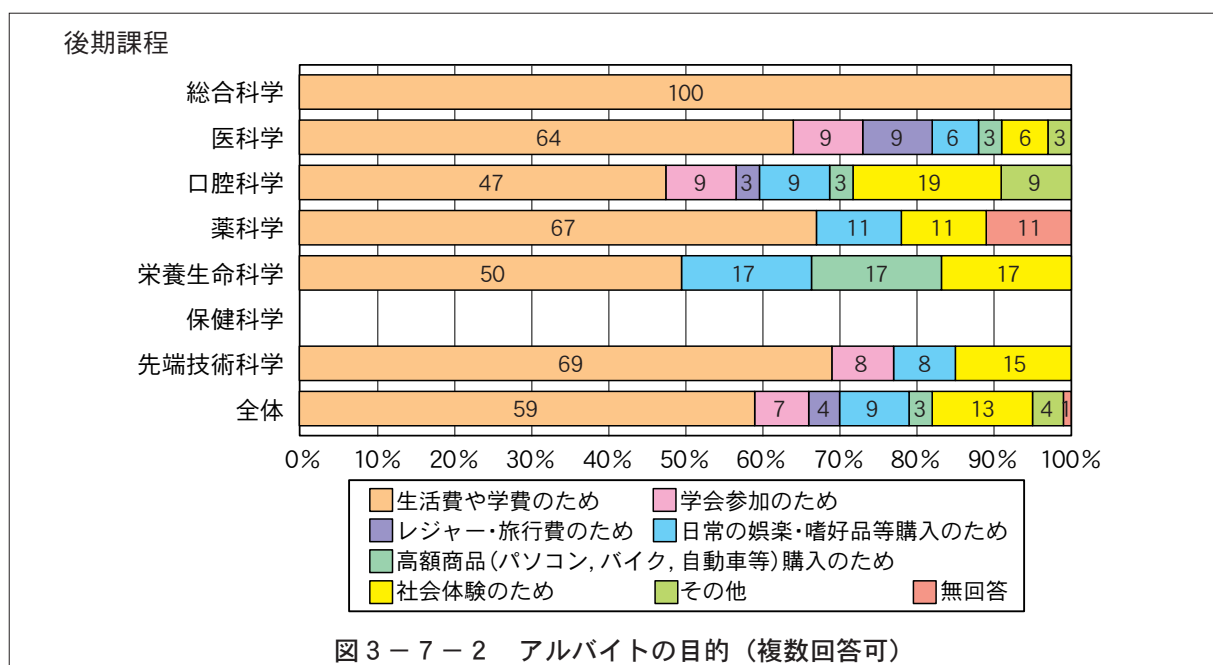
3-7 アルバイトの目的 (図 3-7-1, 図 3-7-2)

前期課程では、全体の40%はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」であり、「学会参加のため」の6%を含めて、46%が大学院生としての生活費捻出のためにアルバイトを行っている。一方、「レジャー・旅行」、「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトは35%である。これらは第4回の調査とほぼ同様である。教育部を比較すると、学会参加費を含めた大学院生としての生活費捻出をアルバイトの



目的としている割合は口腔科学（60％）と、医科学，栄養生命科学，保健科学（いずれも50％）で高い。「レジャー・旅行」，「日常の娯楽など」を目的としたアルバイトの割合は薬科学（39％），先端技術科学（36％），保健科学（33％），栄養生命科学（32％）において高い。「高額商品（パソコン，バイク，自動車等）購入のため」のアルバイトはすべての教育部で0～5％と低い。一方，「社会体験のため」のアルバイトと回答した割合は医科学（25％）と口腔科学（20％）で高い。留学生については，全体の80％が「生活費や学費のため」のアルバイトである。

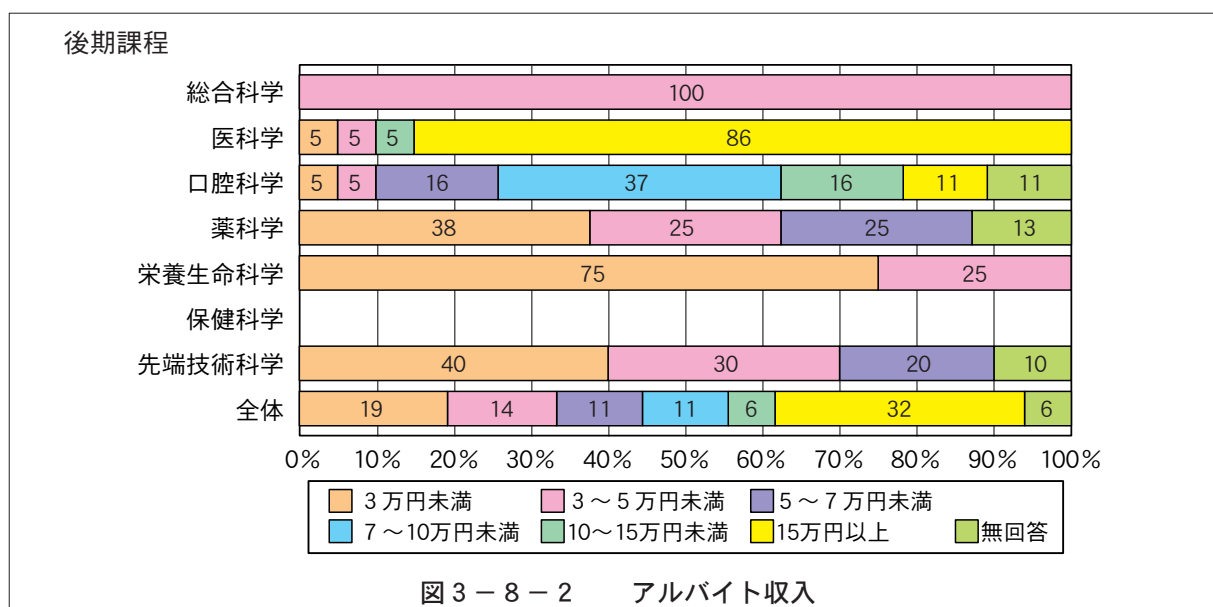
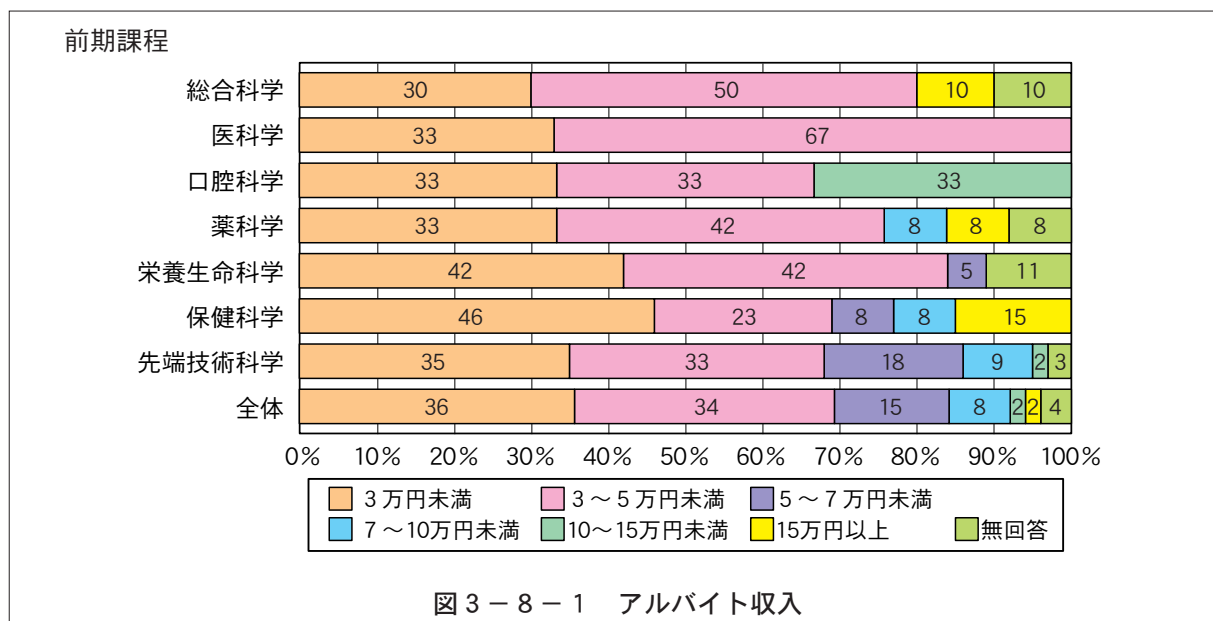
後期課程では，全体の66％はアルバイトの目的が「生活費や学費のため」と「学会参加のため」であり，前期課程（46％）と比較して割合が高くなっている。一方，「レジャー・旅行」，「日常の娯楽など」の交遊費捻出を目的とする割合は13％で，前期課程（35％）と比較してきわめて低い。教育部を比較する（少数のため総合科学を除く）と，「生活費や学費のため」と「学会参加のため」など大学院生としての生活費捻出を目的としている割合は，先端技術科学（77％），医科学（73％），薬科学（67％）は高い。「レジャー・旅行」と「日常の娯楽など」にあてる割合は，栄養生命科学（17％）と医科学（15％）で高い。「社会体験のため」と回答したものは全体の13％で，前期課程（11％）とほぼ同等であった。留学生については，すべて「生活費や学費のため」のアルバイトである。



3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1, 図3-8-2)

前期課程では，全体の36％が3万円未満の，34％が3～5万円未満の，27％が5万円以上のアルバイト収入があり（無回答を除く），これらの割合は第4回の調査とほぼ同様である。教育部の比較（少数のため医科学と口腔科学を除く）では，5万円未満のアルバイト収入を得ている割合は，栄養生命科学（84％），総合科学（80％），薬科学（75％）で高い。一方，15万円以上のアルバイト収入を得ている者も，保健科学の15％，総合科学の10％，薬科学の8％にいる。留学生はすべて7万円未満の収入である（無回答を除く）。

後期課程では，全体の55％はアルバイト収入が10万円未満である。38％は10万円以上の収入を得ていて，前期課程（4％）と比較してアルバイト収入額は増加している。教育部を比較する（少数のため総合科学と栄養生命科学を除く）と，医科学の91％，口腔科学の27％が10万円以上の，とくに医科学の86％は15万円以上のアルバイト収入を得ている。薬科学の63％が5万円未満の，25％が5～7万円

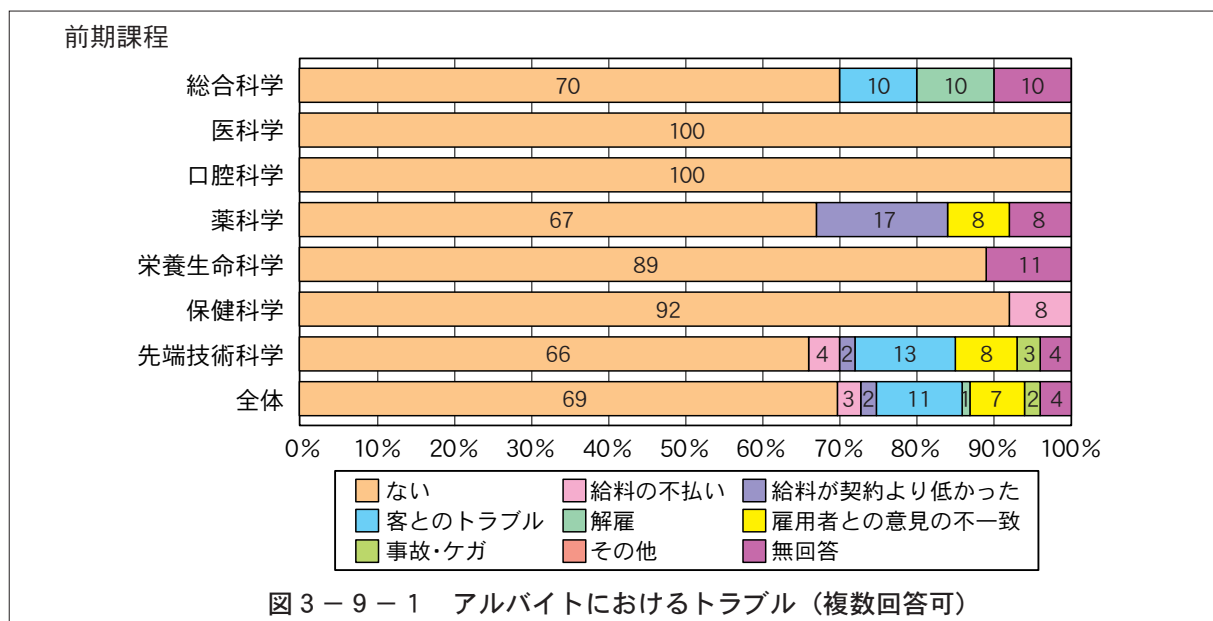


未満のアルバイト収入を得ている。先端技術科学はすべて7万円未満の収入である（無回答を除く）。留学生についてもすべて7万円未満のアルバイト収入である（無回答を除く）。

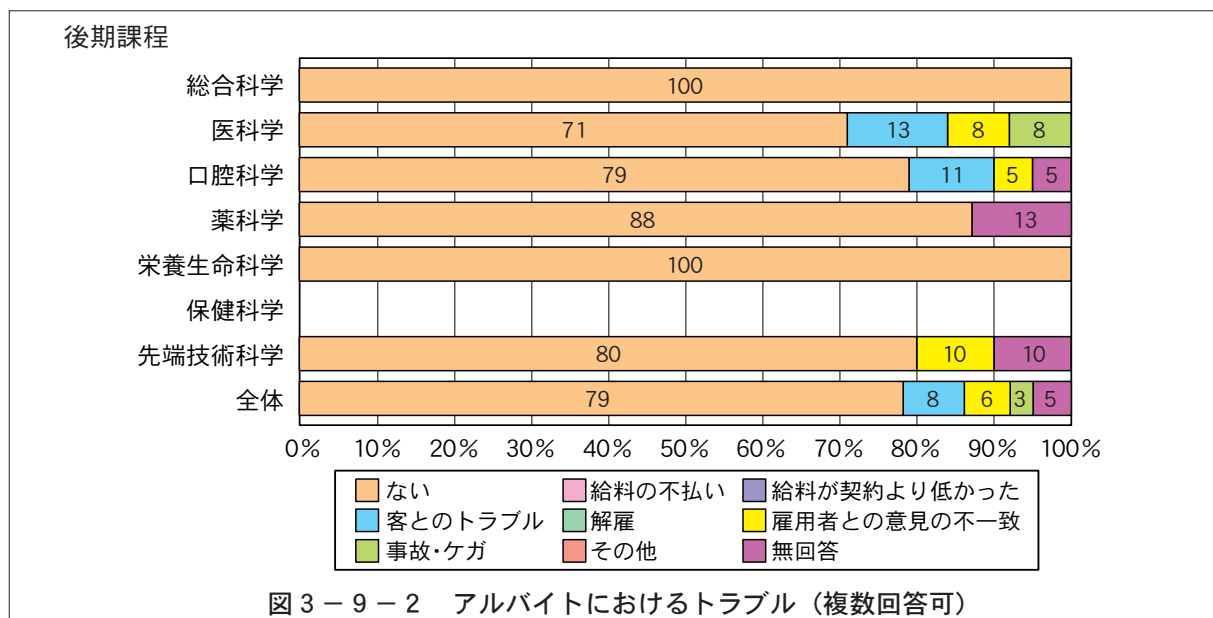
3-9 アルバイトにおけるトラブル (図 3-9-1, 図 3-9-2)

前期課程では、全体の69%にはアルバイトにおけるトラブルはみられず、第4回の調査とほぼ同様の結果である。最も多いトラブルは「客とのトラブル」で11%、ついで「雇用者との意見の不一致」(7%)、「給料の不払い」(3%)である。教育部別では、医科学と口腔科学はすべてが、保健科学と栄養生命科学は約9割がアルバイトでトラブルを経験したことがない。先端技術科学の13%と総合科学の10%が「客とのトラブル」を、薬科学と先端技術科学の8%は「雇用者との意見の不一致」を、保健科学の8%と先端技術科学の4%は「給料の不払い」を経験している。また、先端技術科学の3%は「事故・ケガ」を経験している。留学生については、1名(10%)が「事故・ケガ」を経験し、それ以外はトラブルの経験はない（無回答を除く）。

後期課程では、全体の79%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない。トラブルの内容としては



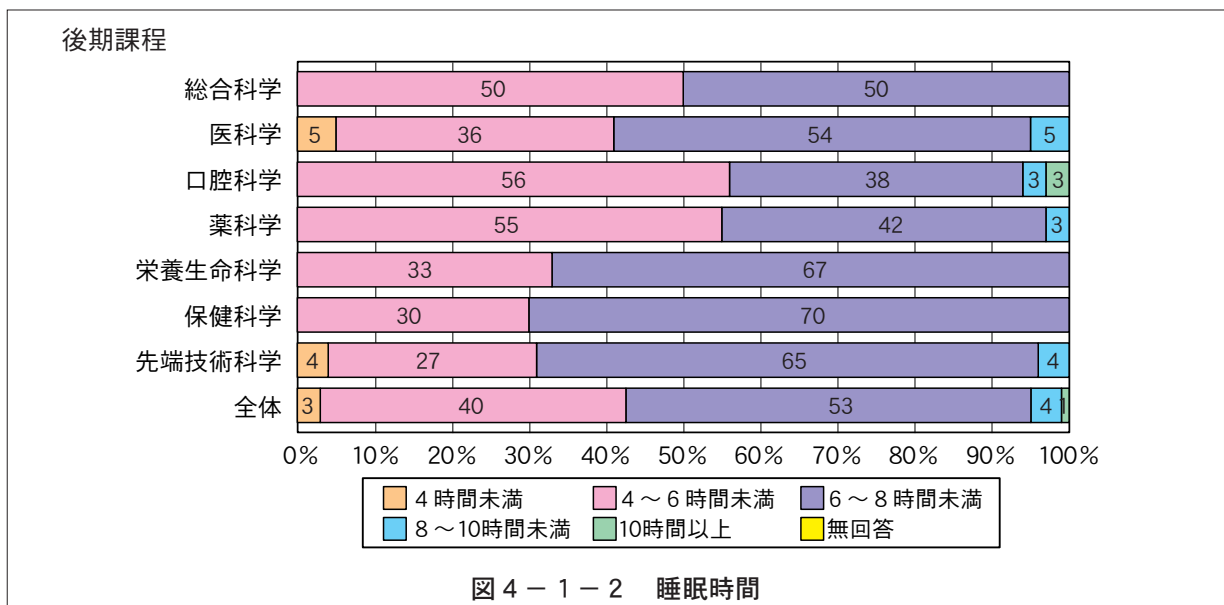
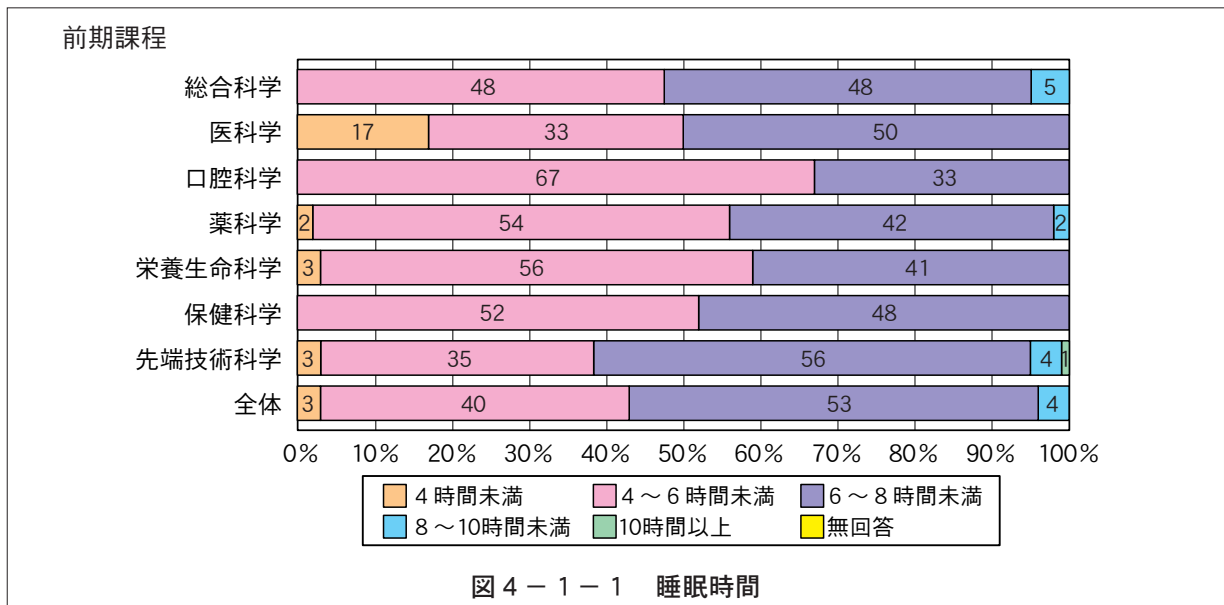
「客とのトラブル」が8%と最も多く、ついで「雇用者との意見の不一致」(6%)、「事故・ケガ」(3%)である(無回答を除く)。教育部を比較する(少数のため総合科学と栄養生命科学を除く)と、医科学の29%、口腔科学の16%、先端技術科学の10%がトラブルを経験している。医科学の13%と口腔科学の11%が「客とのトラブル」を経験している。また、「雇用者との意見の不一致」は先端技術科学の10%、医科学の8%と口腔科学の5%が、「事故・ケガ」は医科学の8%が経験している。留学生は医科学の各1名(8%)が「雇用者との意見の不一致」と「事故・ケガ」を経験し、それ以外(83%)はトラブルの経験はない。



第4章 健康状態について

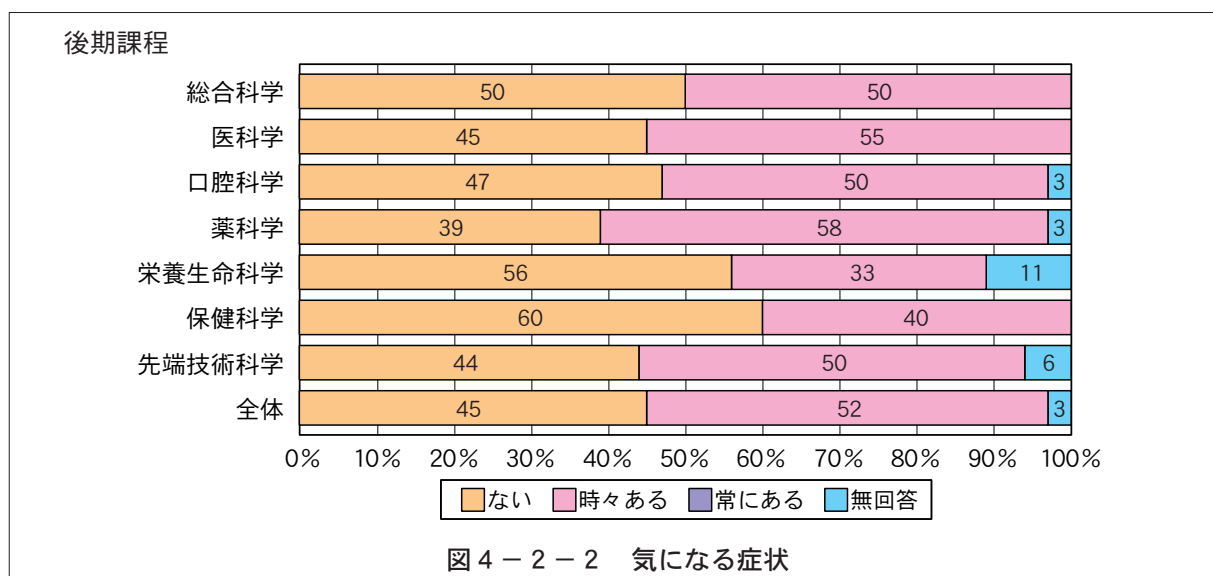
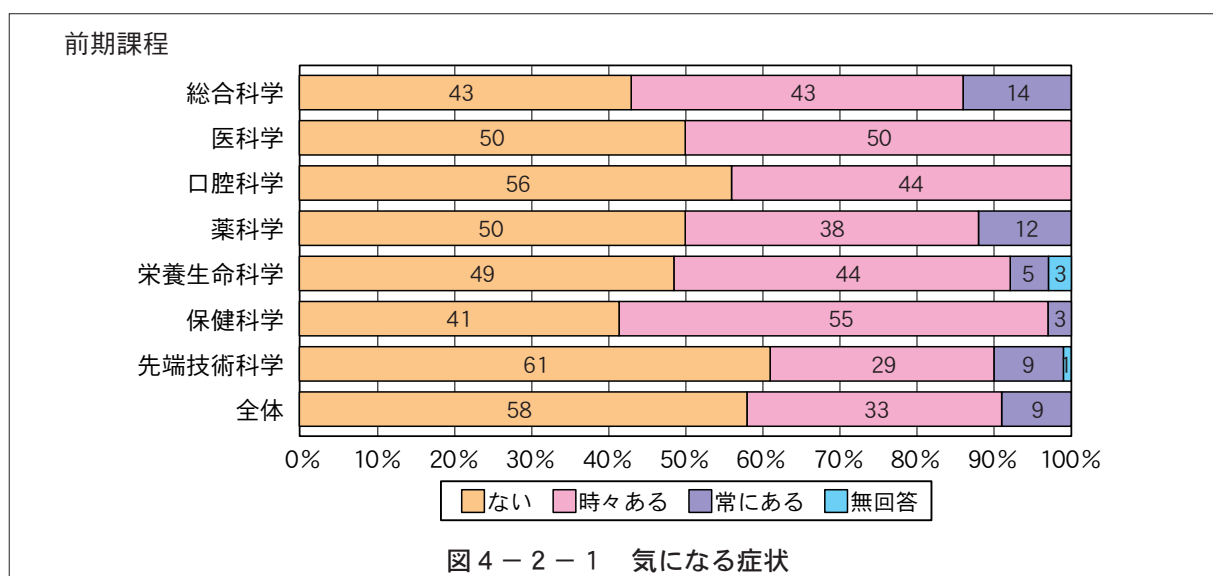
4-1 睡眠時間 (図4-1-1, 図4-1-2)

睡眠時間は全体として前期課程、後期課程で差はほとんどなく、「6～8時間未満」がともに53%、「4～6時間未満」が40%であった。最も健康的な睡眠時間は一般に7～8時間といわれているため、約半数の学生の睡眠は良好に保たれていると思われる。しかし6時間未満が40%強となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。教育部別では、医科学前期課程で4時間未満が17%、口腔科学前期課程では6時間未満が67%となっており、やや多く睡眠不足の学生が見られる。なお留学生については70%以上が6～8時間の睡眠を確保している。睡眠不足は心身の疲労を招き、活動性の低下や心身の変調、注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため、健康・安全管理のために、睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。



4-2 気になる症状 (図4-2-1, 図4-2-2)

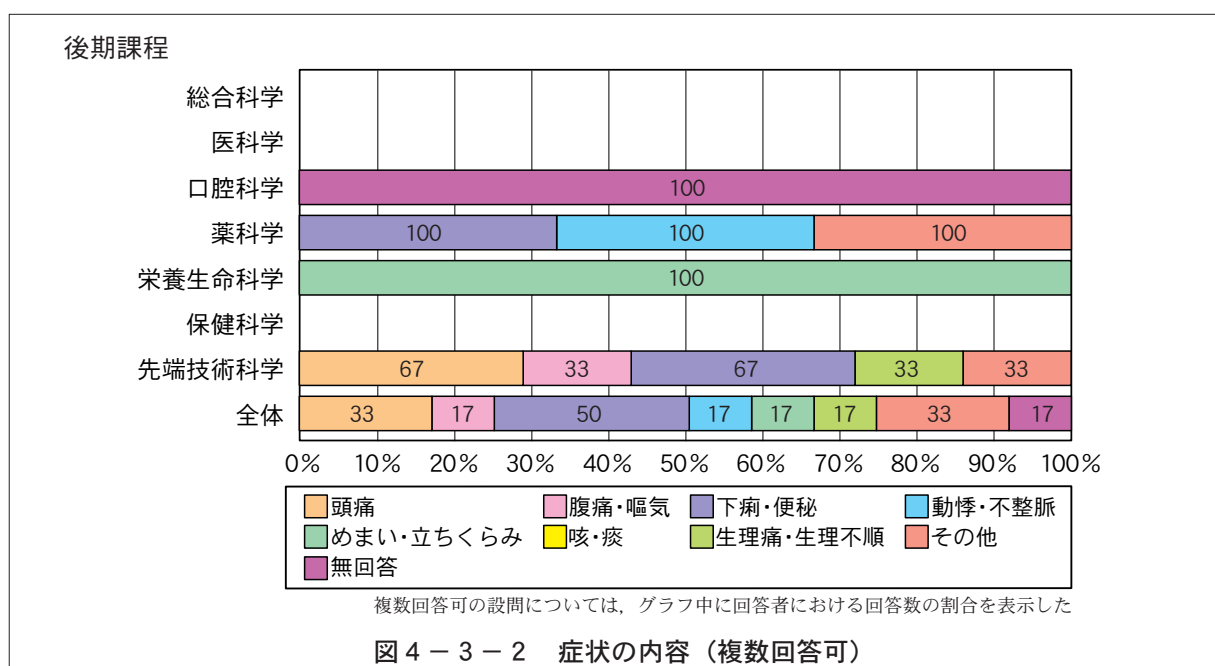
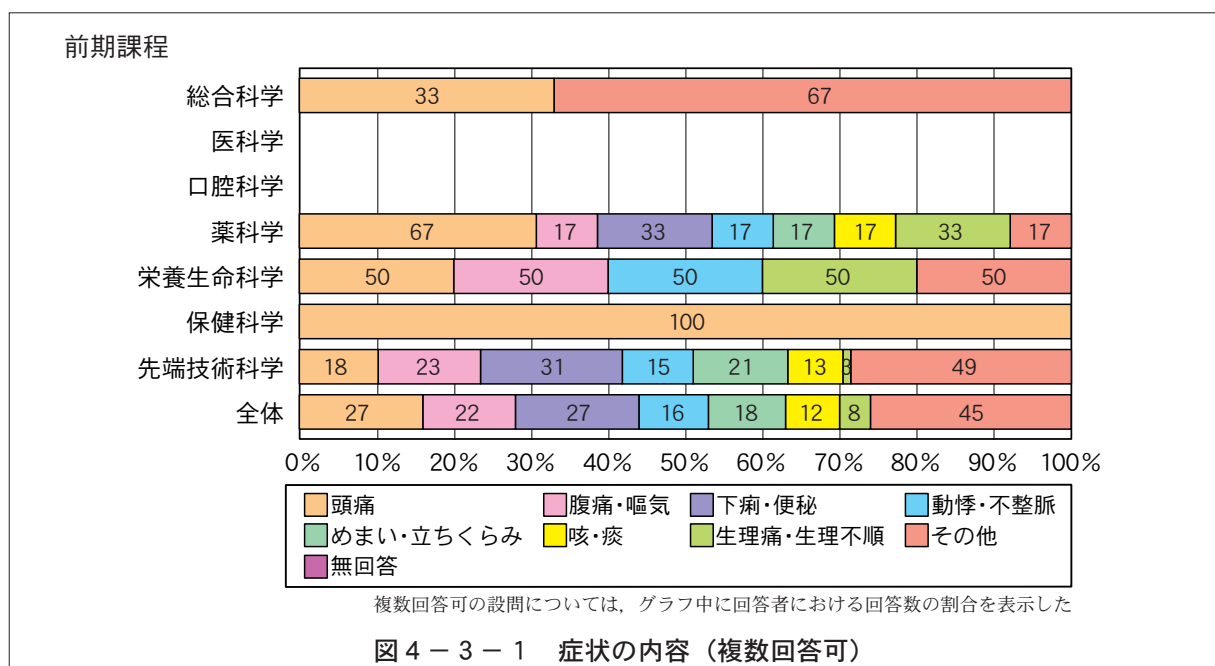
気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程の42%、後期課程では55%であり、後期課程の方が多くみられる。男女別では、男子40%、女子57%と女子に多いのはこれまでの調査と変化がなかった。しかし「常にある」とした学生は後期課程で3%と第4回調査での11%と比較して減少している。教育部別に見ると、前期課程の総合科学、薬科学、後期課程の栄養生命科学で、気になる症状が「常にある」とした学生が10%を超えている。第4回調査と比べると前期課程の総合科学、保健科学で減少傾向にあるものの、今後も引き続き保健管理部門などを活用した健康相談、生活習慣の見直しなどが望まれる。留学生では、前期・後期課程ともに気になる症状が「ある」とした学生はそれぞれ66%、86%に上っており、健康面の問題に対する支援のニーズがあると思われる。



4-3 症状の内容 (図4-3-1, 図4-3-2)

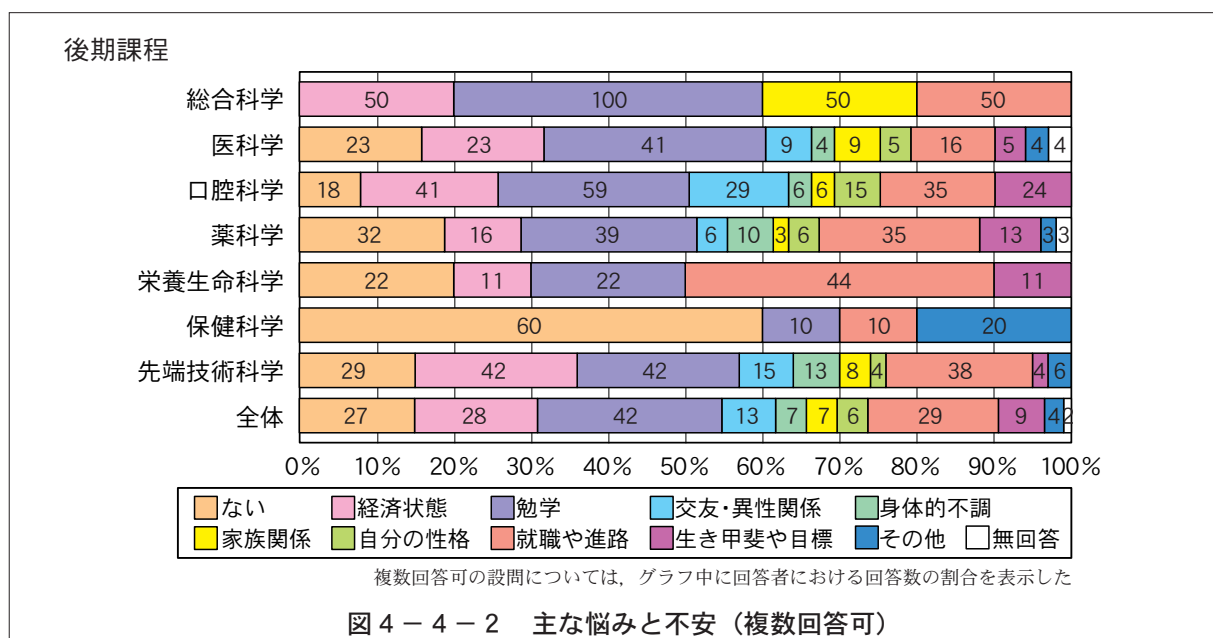
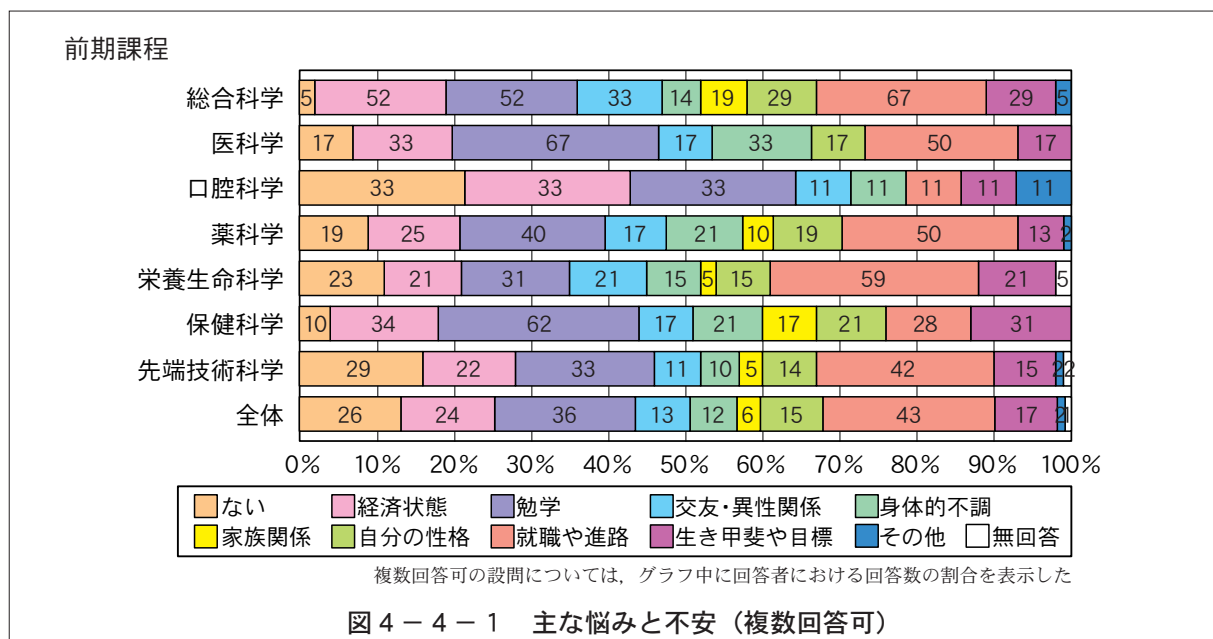
常にある不調としては、前期・後期課程とも、下痢・便秘、頭痛および「その他」が多くみられ、平均1.8個の身体不調を持っていた。男女別に見ると、男子は「その他」、腹部症状、頭痛の順に多く見られ、女子では頭痛、腹部症状、生理痛・生理不順、めまい・立ちくらみがまんべんなく見られた。男女

ともに共通して、頭痛と腹部症状が多く見られており、食生活・睡眠などの基本的な生活リズムの乱れ、ストレス、運動不足などのチェックが求められる。



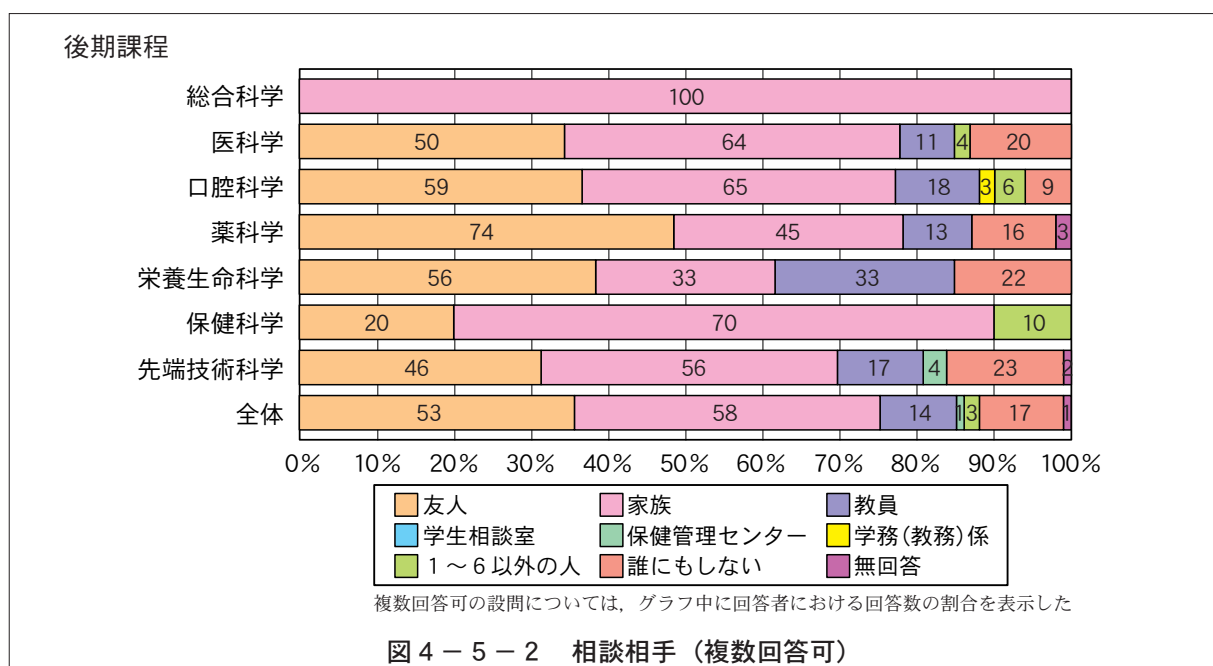
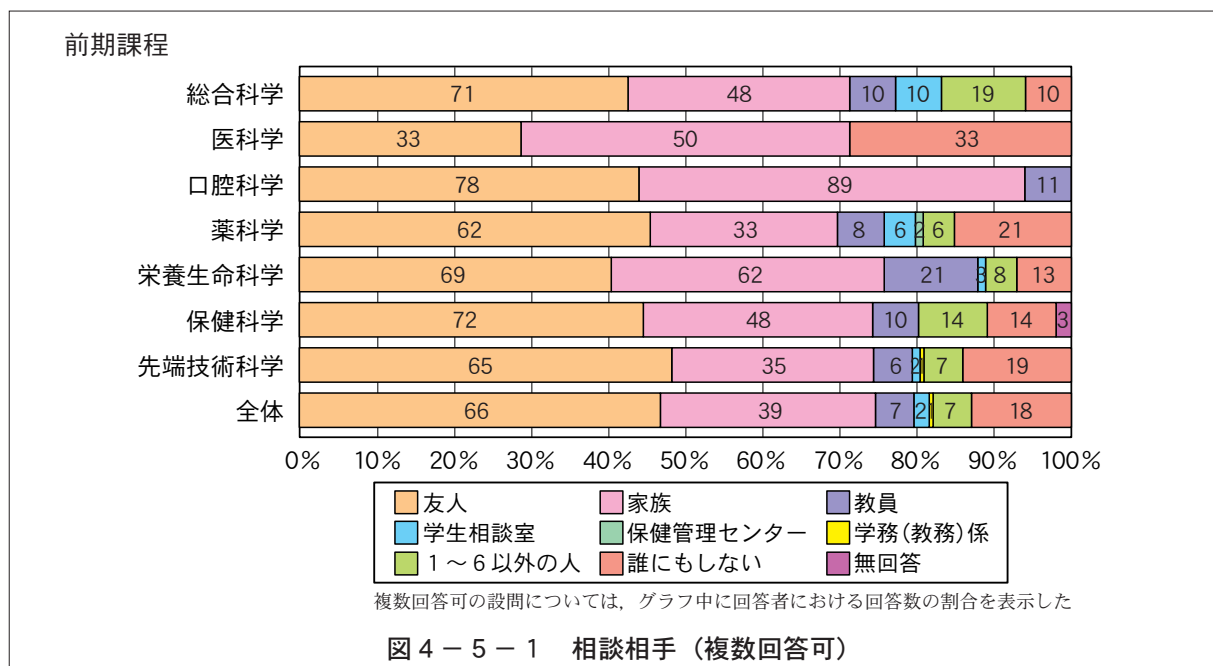
4-4 主な悩みと不安 (図 4-4-1, 図 4-4-2)

主な悩みや不安は、前期課程では「就職や進路」が最も多く、次いで「勉学」、「経済状態」であり、後期課程では「勉学」、「就職や進路」、「経済状態」の順に多かった。第4回調査までと変わらず、現実的な学生特有の問題を主な悩みとしていた。悩みや不安は「ない」とした学生も両課程で4分の1以上いた。一方、「身体的不調」を悩みとしている学生は前期課程で12%見られた。後期課程の留学生では、主な悩みが「勉学」とした学生が最も多く、64%だった。



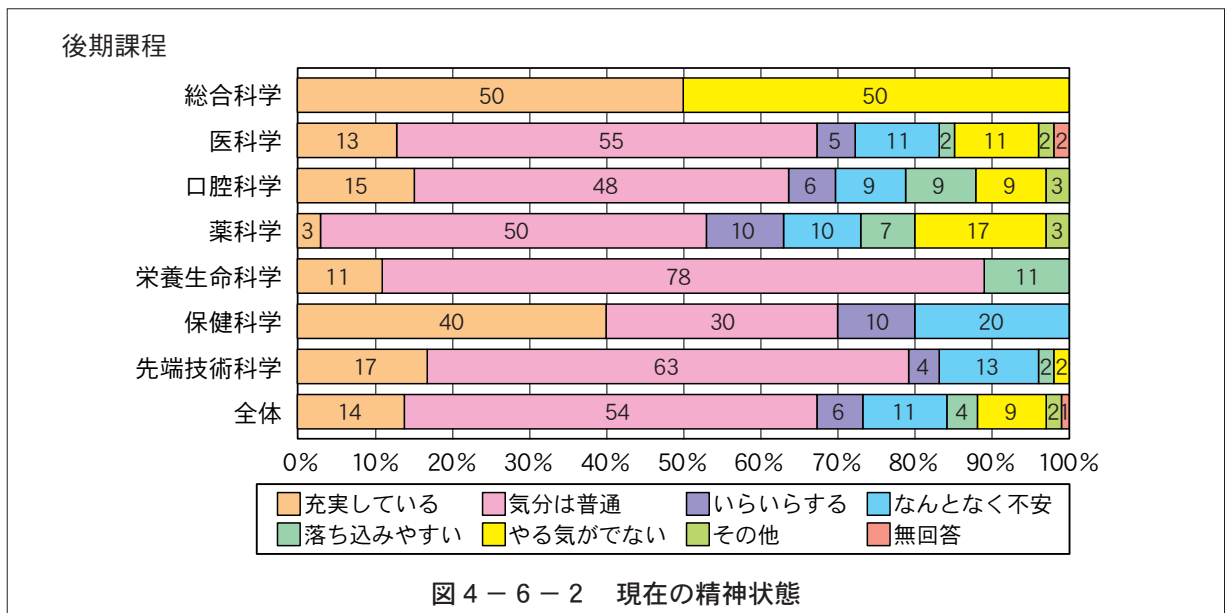
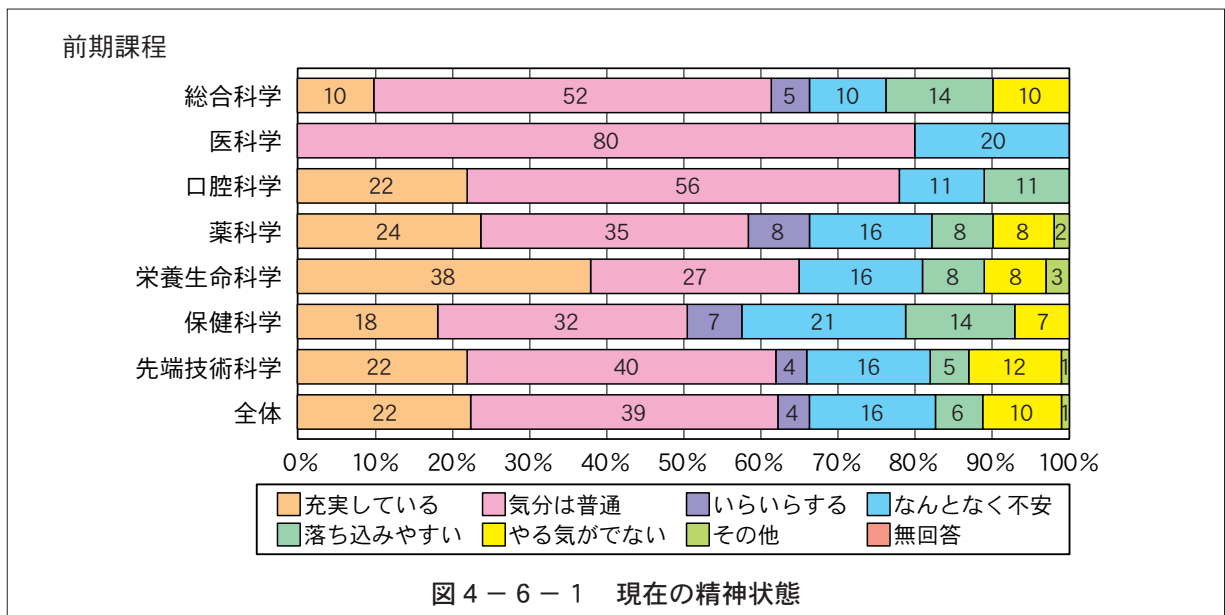
4-5 相談相手 (図 4-5-1, 図 4-5-2)

悩み事は、友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く、多くの学生が悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減し、助言を得、問題解決をはかるなどの対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが勉学や就職・進路であるものの、教員に相談するとした学生が、前期課程で7%、後期課程で14%と少なかった。また悩みを誰にも相談しないという学生が前期課程で18%、後期課程で17%みられた。自分で問題を解決しようとする傾向か、あるいは相談するという行動自体に違和感をもっている、信頼して相談できる人間関係を欠いている、などの理由が考えられるが、一人で抱えこんだ場合、ストレス耐性が低くなることが危惧される。学生相談室や保健管理センターの利用は第4回調査と同様に、合わせて1~2%にとどまっており、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望まれる。



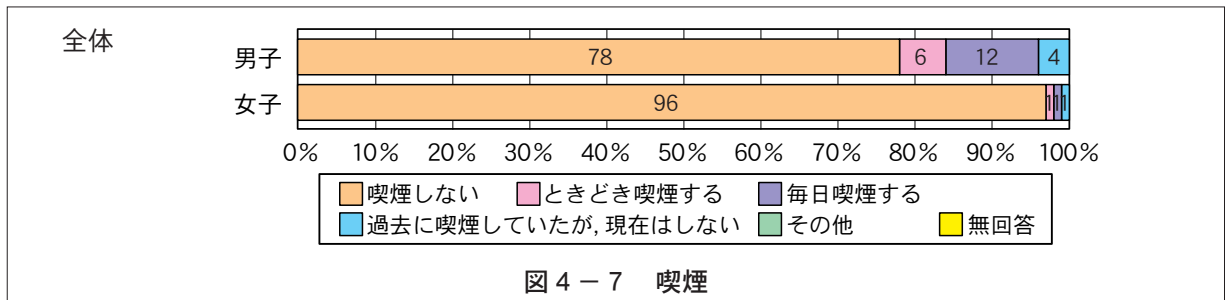
4-6 現在の精神状態 (図 4-6-1, 図 4-6-2)

前期・後期課程ともに60%以上の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられる。4割弱の学生が何らかの精神的症状を持っており教育部によりそれぞれ違いがあるものの、全体の症状別では「何となく不安」が多く、「やる気がでない」も約1割みられ、「落ち込みやすい」「いらいらする」も数%ずつ見られ、第4回調査とほぼ同様の傾向であった。落ち込みや意欲を持ってない状態が続くと、研究を中心とした院生生活の大きなストレスとなると思われるため、本人は早めに誰かに相談すること、周囲はいつもと違う様子に気付いて本人の話を聴くこと、などが大切である。留学生では何らかの症状を持っているのは2割弱で、精神的健康は良好な学生が多いと思われる。



4-7 喫煙 (図 4-7)

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが、現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子82%、女子97%で、喫煙率は男子18%、女子2%となった。留学生の男子では喫煙率が25%とやや高めであった。日本の20歳代の喫煙率が男子29%、女子10%（平成26年）であることと比較すると、喫煙率は低く、良い傾向であるといえる。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため、学生時代に喫煙



を習慣づけないことが望ましい。

4-8 飲酒 (図4-8)

「飲酒はしない」および「たまに飲酒する」と答えた学生は男子で16%、56%、女子18%、67%であり、男子の72%、女子の85%において飲酒習慣はないとの結果で、第4回調査と変化はなかった。飲酒習慣のある学生のうち、週3～4日以上飲んでいる学生が5～12%であるが、1回の飲酒量が問題となる。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒だと1合）と言われている。アルコールの過量摂取が長期間継続すると、アルコール関連健康障害などの酒害につながるため、適量飲酒に留意することが必要である。

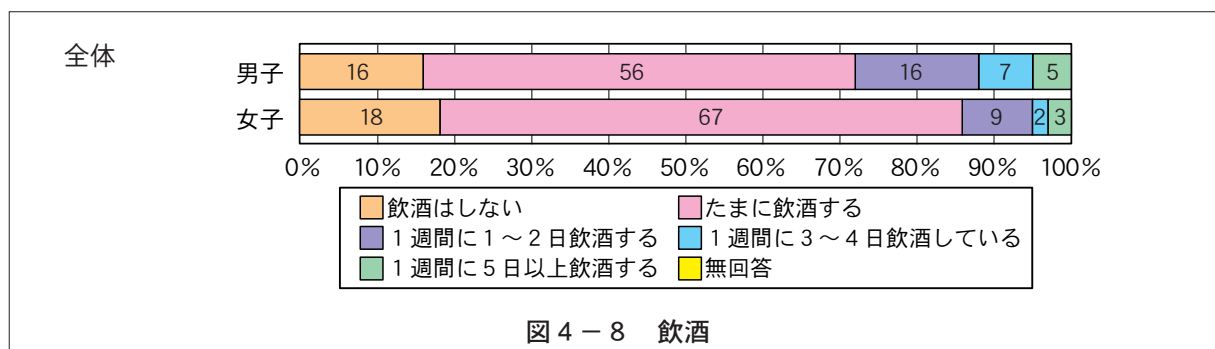


図4-8 飲酒

4-9 保健管理・総合相談センターの認識 (図4-9-1, 図4-9-2)

保健管理・総合相談センターに「健康診断のために行ったことがある」学生は、前期課程で71%、後期課程で39%と、前期課程で第4回調査より2%増加しているが、後期課程では4%減少している。「保健管理・総合相談センターがあることを知らなかった」と回答した学生は前期課程5%、後期課程16%であり、留学生でも20%と、後期課程および留学生で認識率が低くなっている。常三島地区の前期課程の学生における認識率は高いが、その他の学生への周知が課題である。また、健康診断での利用率

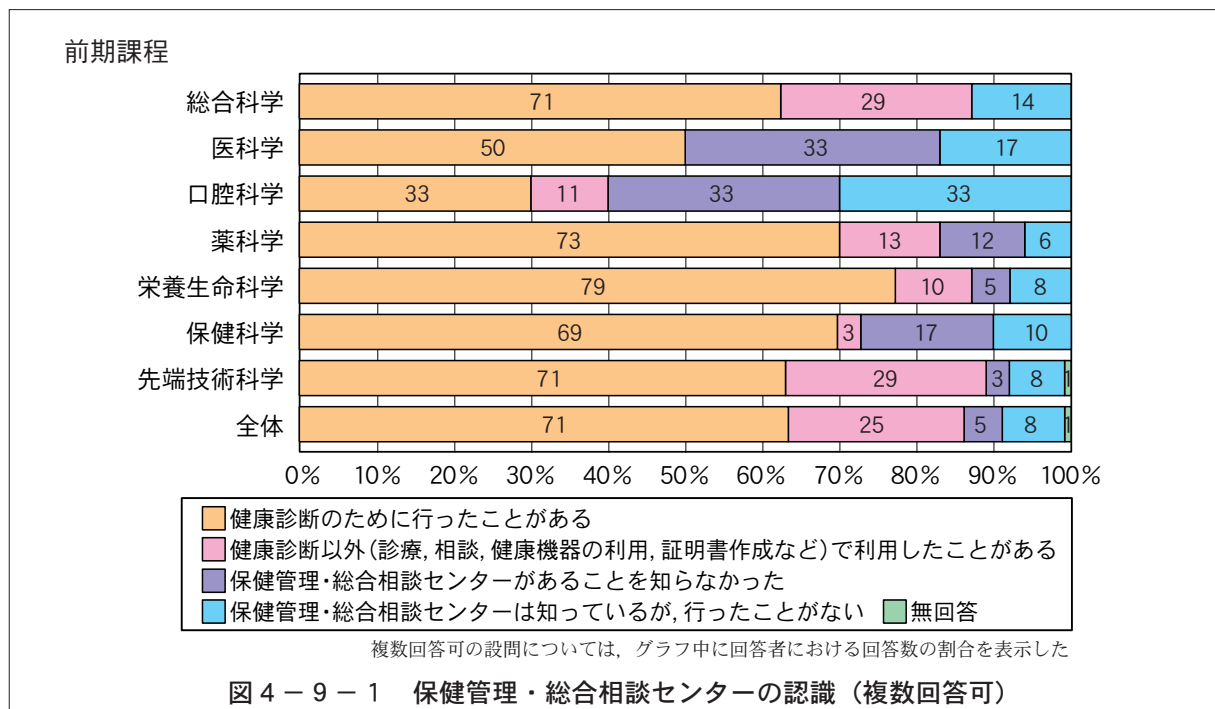
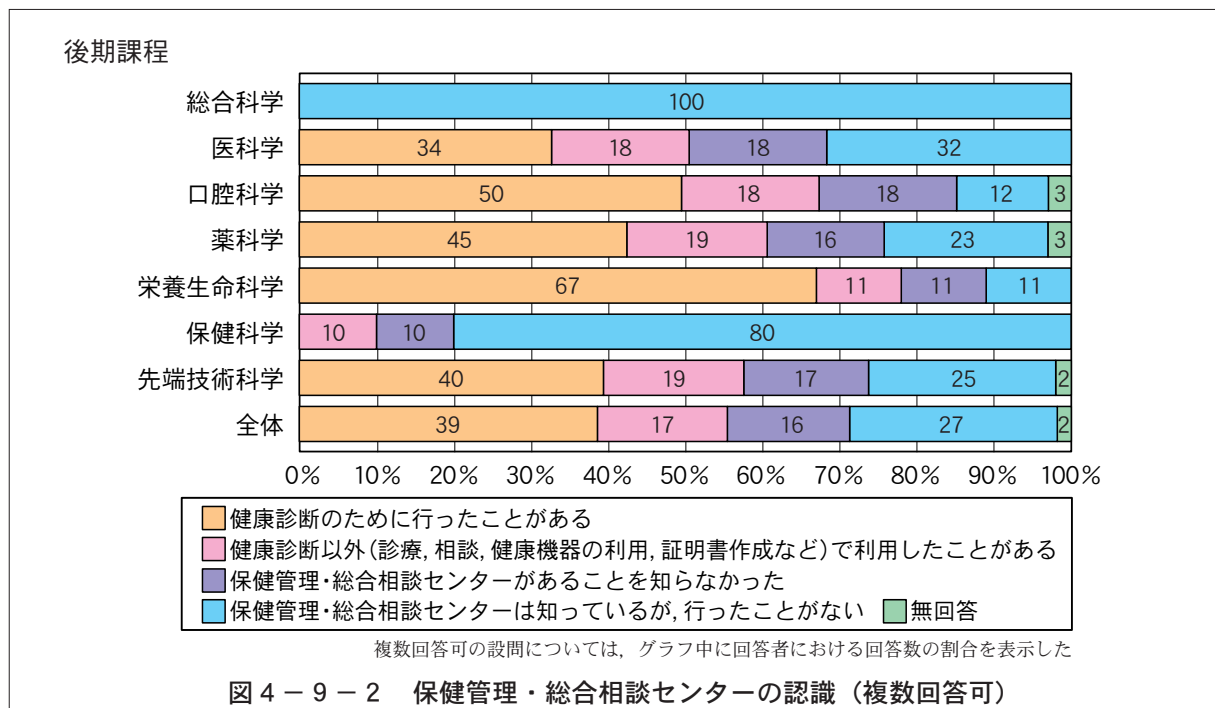


図4-9-1 保健管理・総合相談センターの認識 (複数回答可)

をさらに上げていく必要がある。



第5章 学生生活上の問題点について

5-1 迷惑行為 (図5-1-1~図5-1-6)

図5-1-1は、前期課程学生の迷惑行為を受けた内容を、図5-1-2は、後期課程学生の迷惑行為を受けた内容を、それぞれ示したものである。迷惑行為を受けたことがない一般学生の比率は前期課程89%、後期課程90%であった。留学生では、前期課程で92%、後期課程96%が迷惑行為を受けていないと回答した。ほとんどが迷惑行為を受けていない。迷惑行為を受けた比率は0~30%である。課程別、男女別、日本人・留学生別、迷惑行為別に第4回調査との人数を表5-1-1に示した。アカハラ、飲酒の強要、カルトのような集団への勧誘などの迷惑行為は、第4回調査から引き続いている。引き続き、適切な予防や対応策が望まれる。

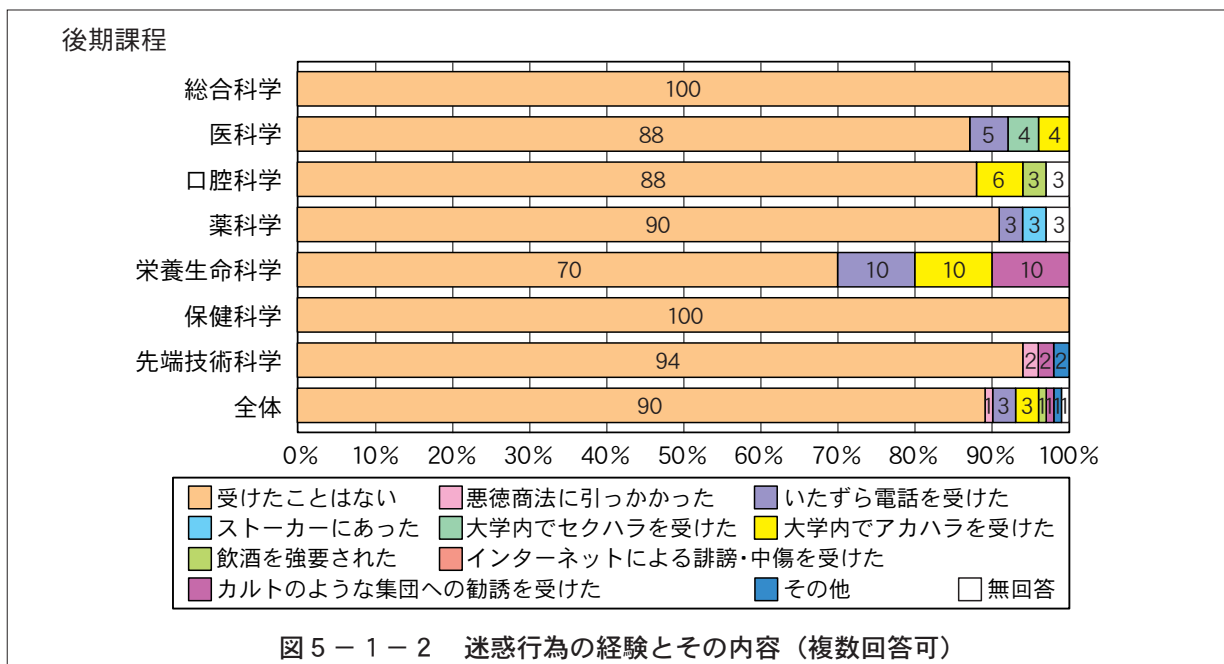
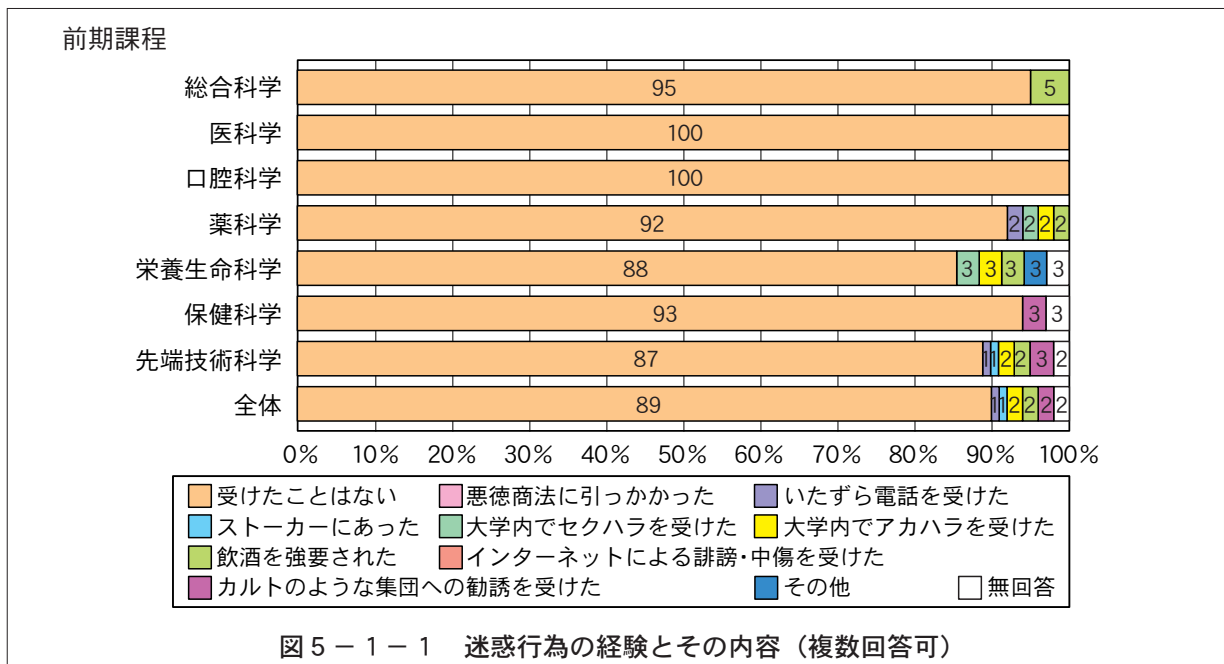


表 5 - 1 - 1 課程別男女別日本人・留学生別迷惑行為別人数内訳

項 目			悪徳商法	いたずら電	ストーカー	セクハラ	アカハラ	飲酒強要	インター ネット被害	カルト勧誘	その他	
前期課程	日本人	第4回	男性	4	5	0	1	17	9	4	19	2
		女性	2	3	0	1	1	1	1	4	0	
	第5回	男性	1	2	4	3	10	13	1	13	1	
		女性	0	1	0	3	2	1	0	1	0	
	留学生	第4回	男性	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第5回	男性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
後期課程	日本人	第4回	男性	2	2	1	0	5	3	1	3	0
		女性	0	1	0	1	4	1	0	0	0	
	第5回	男性	1	3	0	0	2	1	0	0	0	1
		女性	0	2	1	1	2	0	0	0	2	0
	留学生	第4回	男性	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女性	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
第5回	男性	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

図5-1-3と図5-1-4は、迷惑行為のうち、セクハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。第4回調査では前期課程で家族と友人を合わせて60%、教員と相談室への相談が各20%になっており、後期課程の1名は誰にも相談しないと回答していた。今年度は、前期課程では一般学生で友人40%（4名）、教員20%（2名）、学生相談室10%（1名）、誰にも相談しない20%（2名）、留学生はなかった。後期課程では一般学生で教員25%（1名）、留学生で友人25%（1名）、家族25%（1名）、これら以外の人25%（1名）であった。相談しない比率は0であった。日本人は家族に相談していない。事例の内容や深刻度に応じて、相談室、部局教員や友人を含む多様な対応や支援体制を整えておくことが引き続き肝要と思われる。

図5-1-5と図5-1-6は、迷惑行為のうち、アカハラを受けた場合にどのような人に相談するのかを課程別に示したものである。第4回調査では、前期課程全体で友人と家族への相談が25%と13%、教員と学生相談室への相談が各8%を占めた。後期課程で友人と家族が各31%、教員と相談室へ

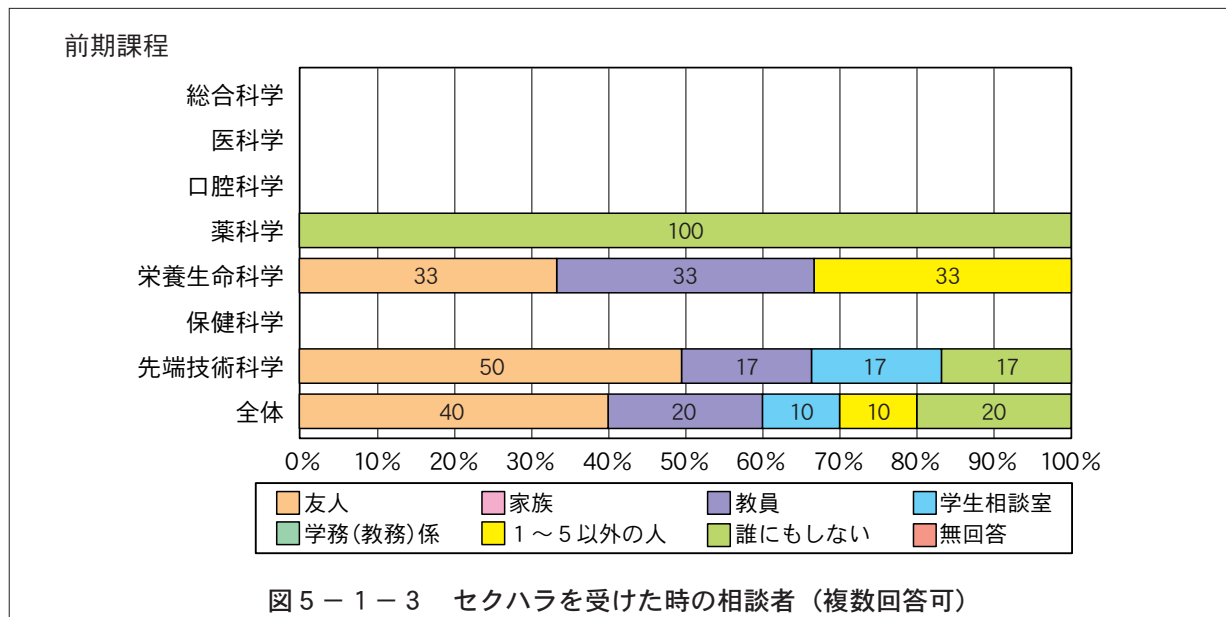


図 5 - 1 - 3 セクハラを受けた時の相談者 (複数回答可)

後期課程

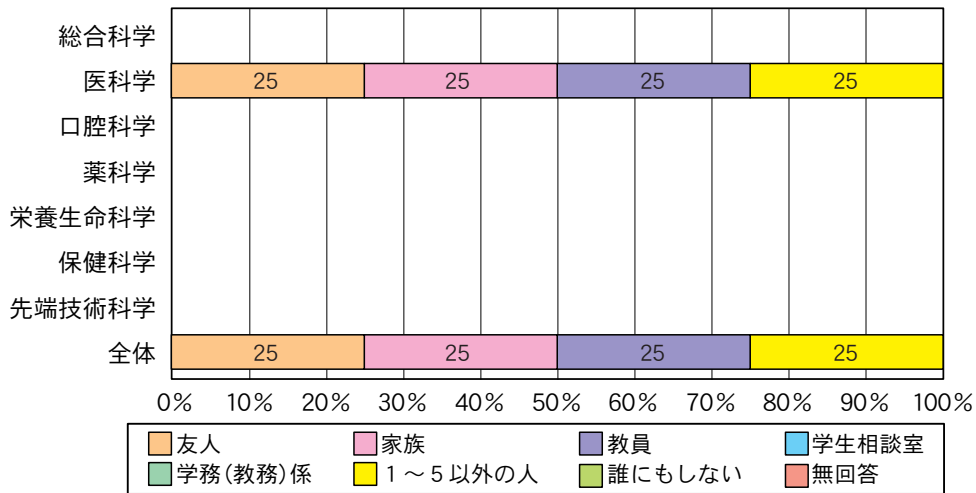


図 5-1-4 セクハラを受けた時の相談者 (複数回答可)

前期課程

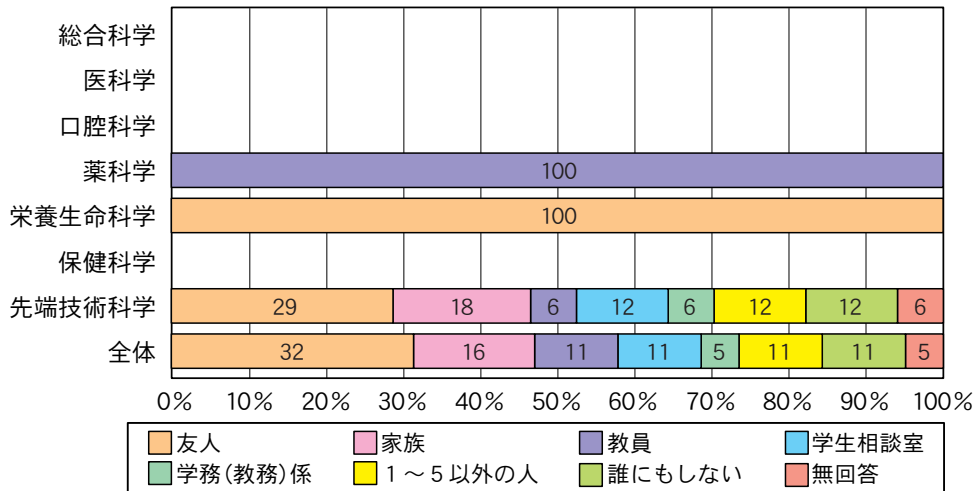


図 5-1-5 アカハラを受けた時の相談者 (複数回答可)

後期課程

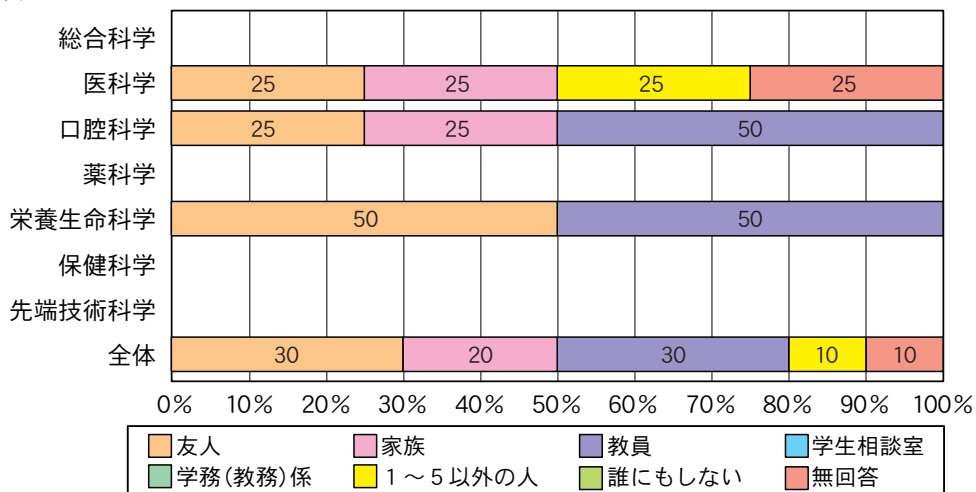


図 5-1-6 アカハラを受けた時の相談者 (複数回答可)

の相談は各8%であった。今年度では、前期課程で一般学生は友人が32%（6名）、家族16%（3名）、教員と相談室がそれぞれ11%（2名）、学務（教務）係5%（1名）、これら以外の人11%（2名）であったが、誰にも相談しないが11%（2名）あった。留学生は0であった。後期課程で一般学生と留学生を合わせて、友人30%（3名）、家族20%（2名）、教員30%（3名）、これら以外の人が10%（1名）であった。セクハラ同様、多様な事例に対応できる支援体制を引き続き充実させておく必要がある。

5-2 学生相談室の利用（図5-2-1～図5-2-4）

図5-2-1と図5-2-2は、課程別に学生相談室の利用の有無と認知度を示したものである。第4回調査では、利用したことがある学生の比率は前期課程で7%、後期課程で9%であった。今年度は、前期課程は第4回調査と同様であったが、後期課程は3%と減少している。また、利用していないが学生相談室を知っていると答えた学生と合わせると、認知度は前期課程で75%、後期課程で59%であった。認知度は、一般学生と留学生、及び第2回から第4回調査の値とほぼ同じであった。

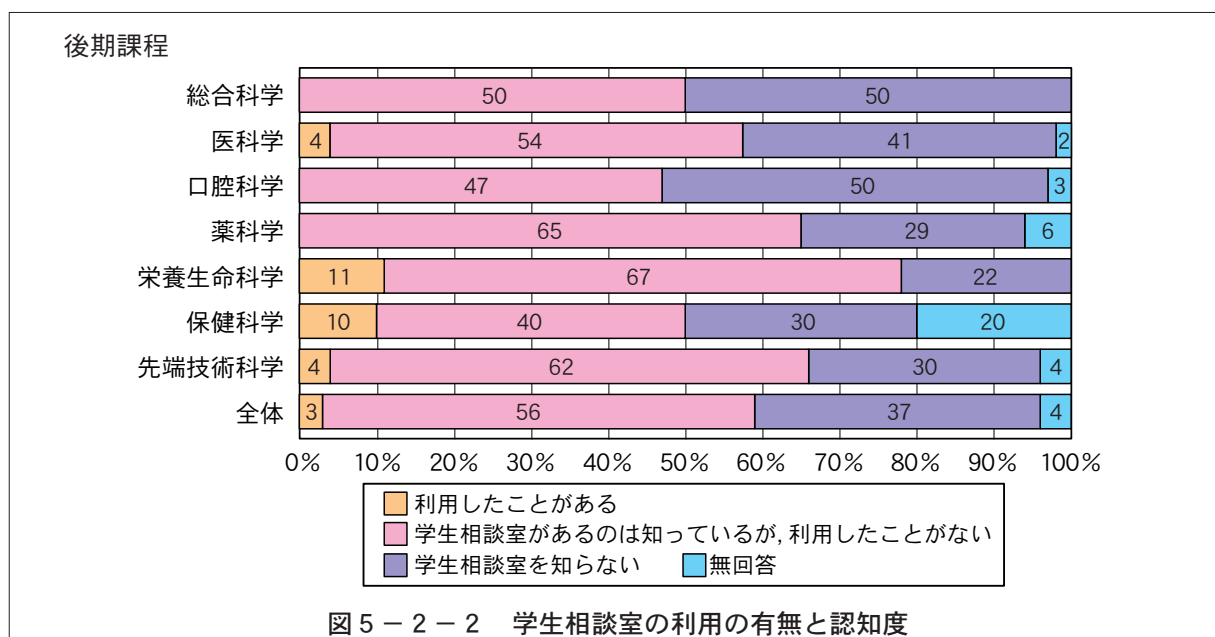
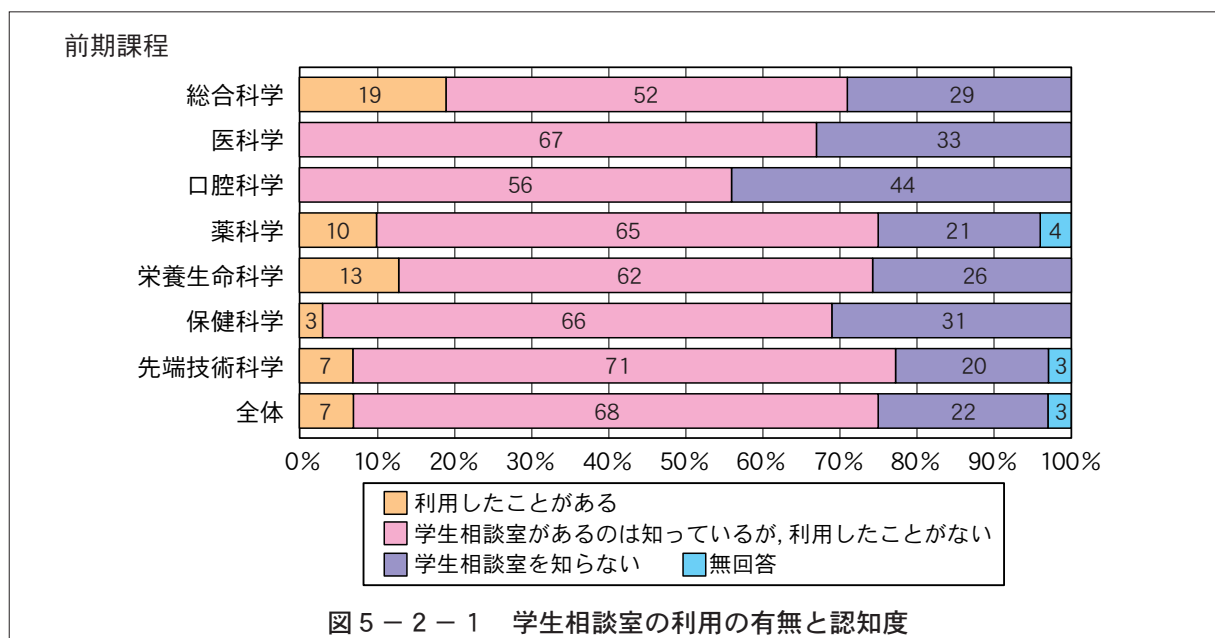
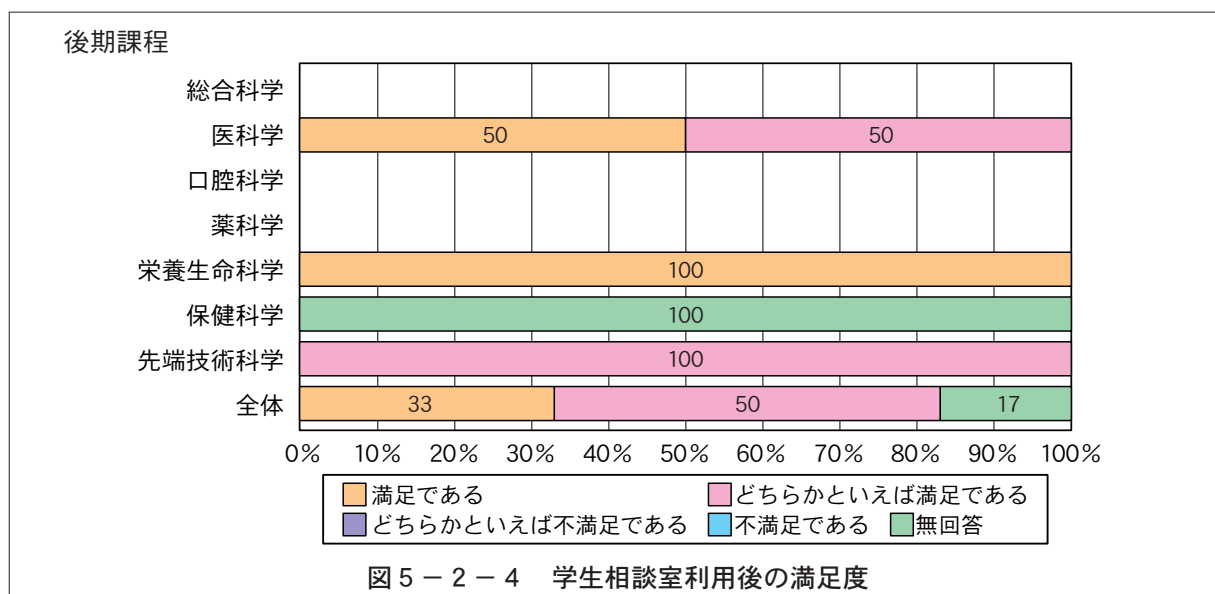
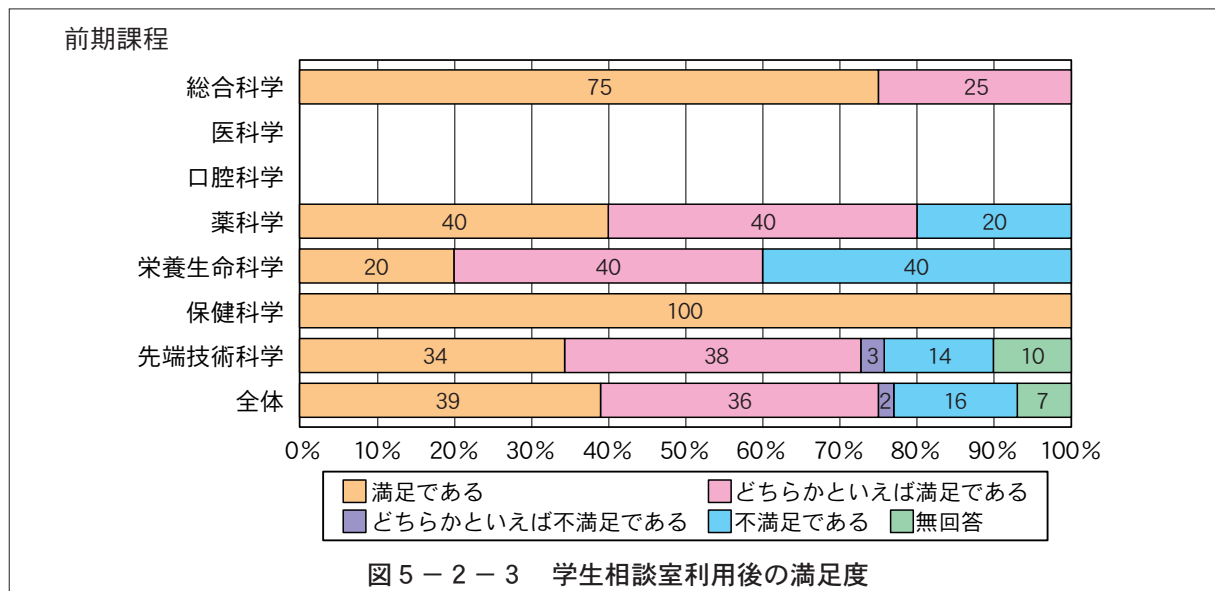


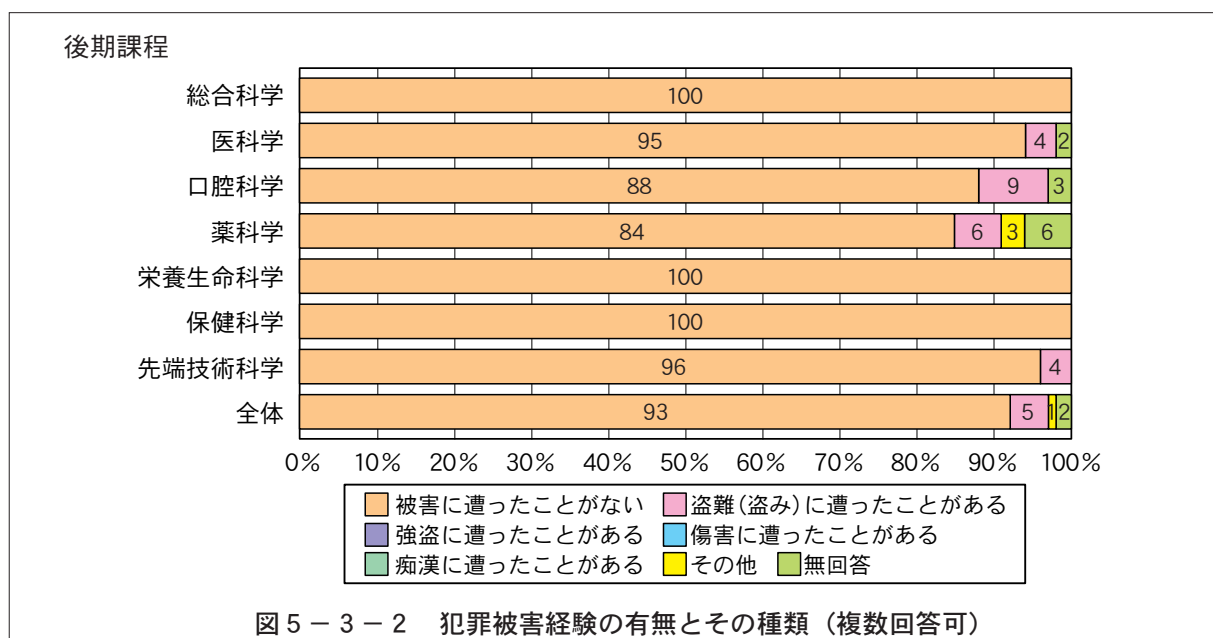
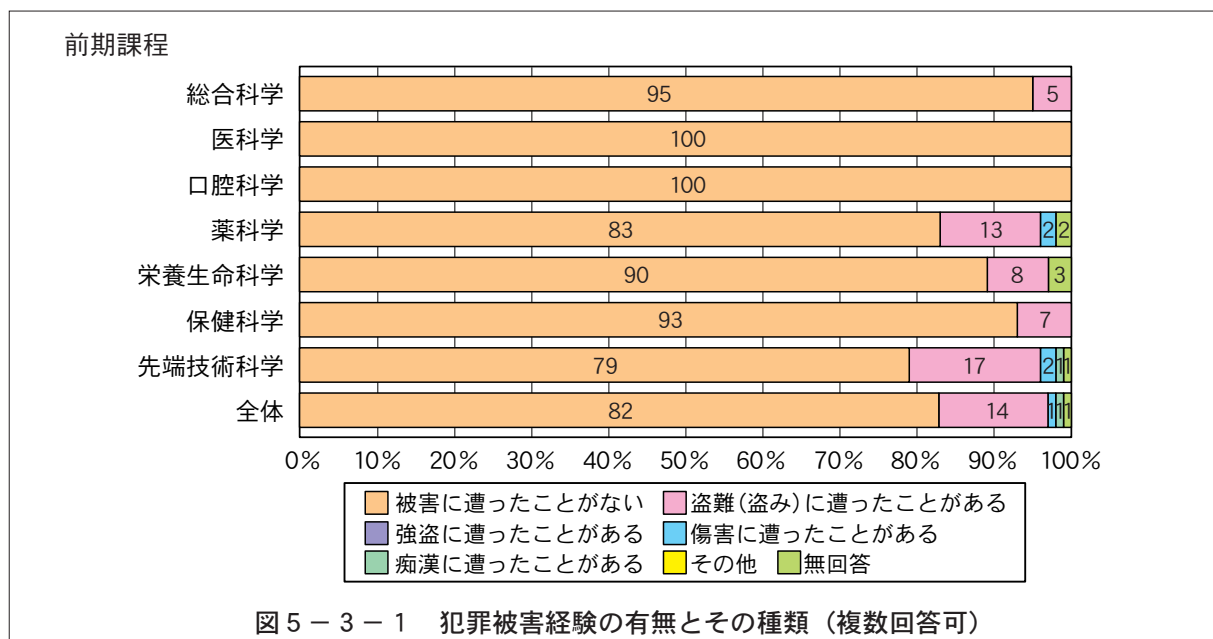
図5-2-3と図5-2-4は、学生相談室の利用後の満足度を課程別に示したものである。第4回調査では、満足であるとどちらかといえば満足であるとの回答を合わせると前期課程で72%、後期課程では63%であった。今年度は、前期課程で75%、後期課程で83%であった。今年度は、第4回の調査に比べて後期課程の満足度が高くなっていた。留学生は、満足であるとどちらかといえば満足であるとの回答を合わせて、前期課程でも後期課程でも100%であった。



5-3 犯罪被害・交通事故・違法薬物使用 (図5-3-1~図5-3-6)

図5-3-1と図5-3-2は、犯罪被害の有無、「有」の場合、どのような経験であったかを課程別に示したものである。第4回調査では、被害にあった比率は、前期課程で20%、後期課程で10%であった。盗難が前期課程で17%、後期課程で8%であり最も多かった。今回は、犯罪被害に遭った比率が、前期課程で17%、後期課程で6%であり、ほぼ第4回調査と同様の結果であった。また、被害の中では、盗難が前期課程で14%、後期課程で5%であった。前期課程で傷害1% (男子7名)、痴漢1% (男子1名、女子3名) の被害があった。留学生の結果も含めて第4回調査とほぼ同様の結果であった。

図5-3-3と図5-3-4は、交通事故の有無と加害・被害の別を課程別に示したものである。第



4回の調査では、交通事故を経験している比率が前期課程で35%、後期課程で36%であった。今回の調査では、交通事故を経験している比率が前期課程で29%、後期課程で33%であった。第4回調査と比較すると前期課程、後期課程共に若干低下している。留学生の場合は、第4回調査では、前期課程で29%、後期課程で19%であった。今回の調査では前期課程で16%、後期課程で20%であった。留学生も一般学生と同様の結果であった。内訳では、被害者になった比率は前期課程26%と後期課程29%、加害者になった比率は前期課程8%と後期課程で17%となっており、前年度の被害者になった比率は前期課程32%と後期課程30%、加害者になった比率は前期課程11%と後期課程18%となっており、前期課程の被害者となった比率は若干低下しているが、他は第4回調査とほぼ同様の傾向である。自転車同士や自転車と歩行者での事故では被害者のみならず加害者にもなる。引き続き交通道德の啓蒙や交通規則の周知徹底と共に大学内や周辺部の交通環境の充実が望まれる。

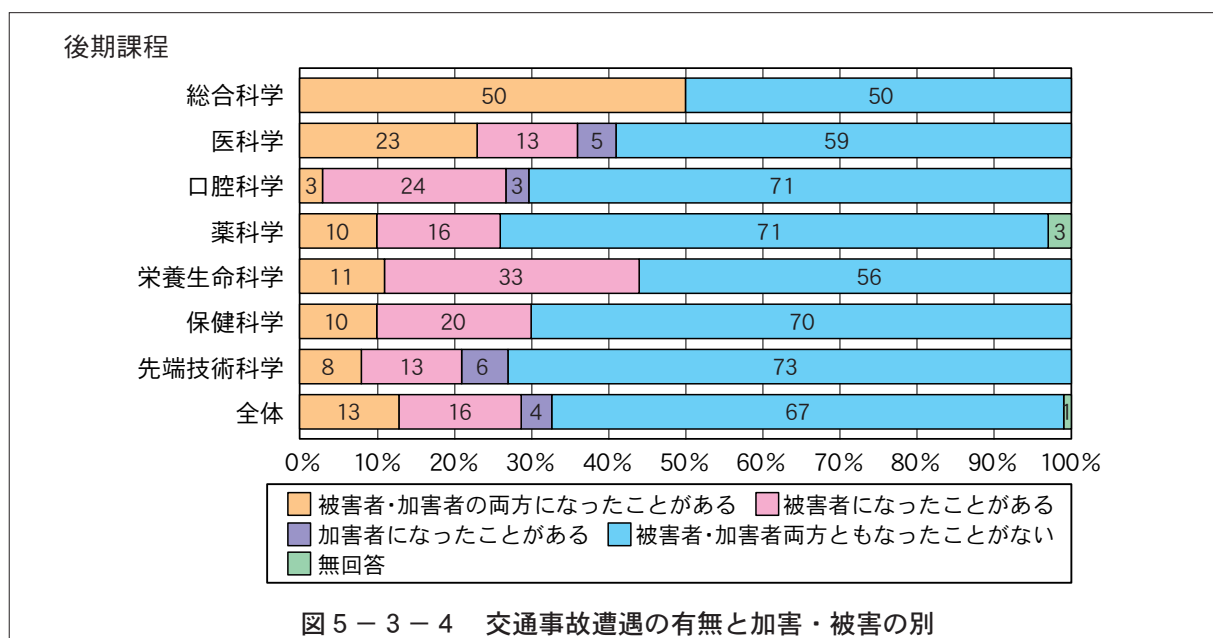
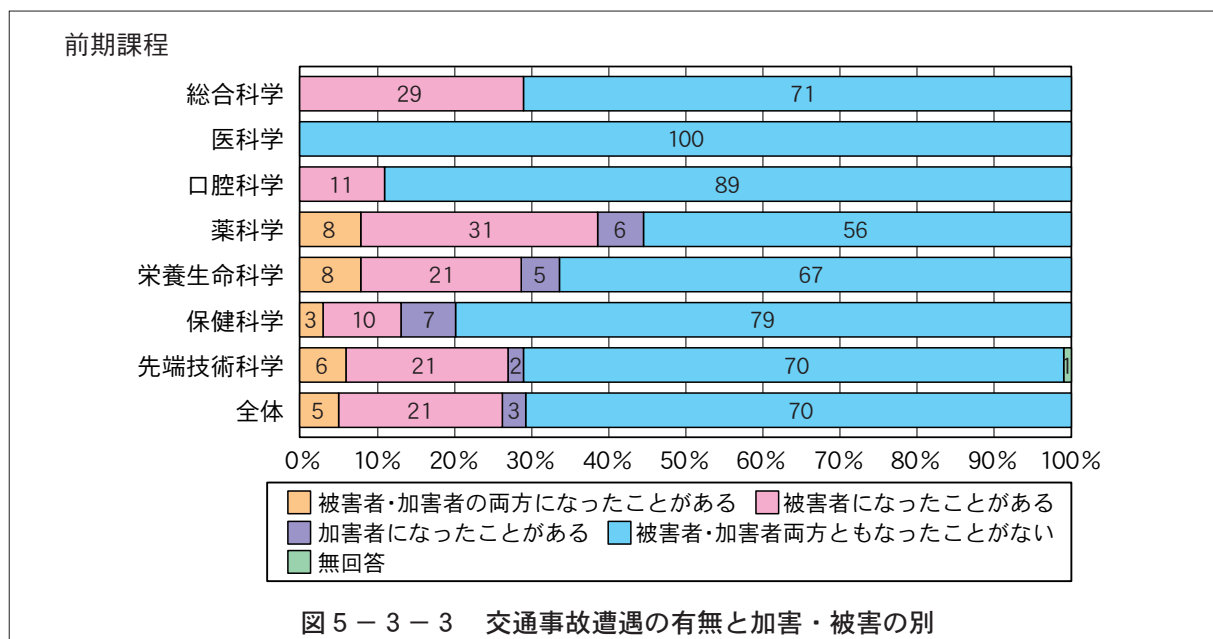
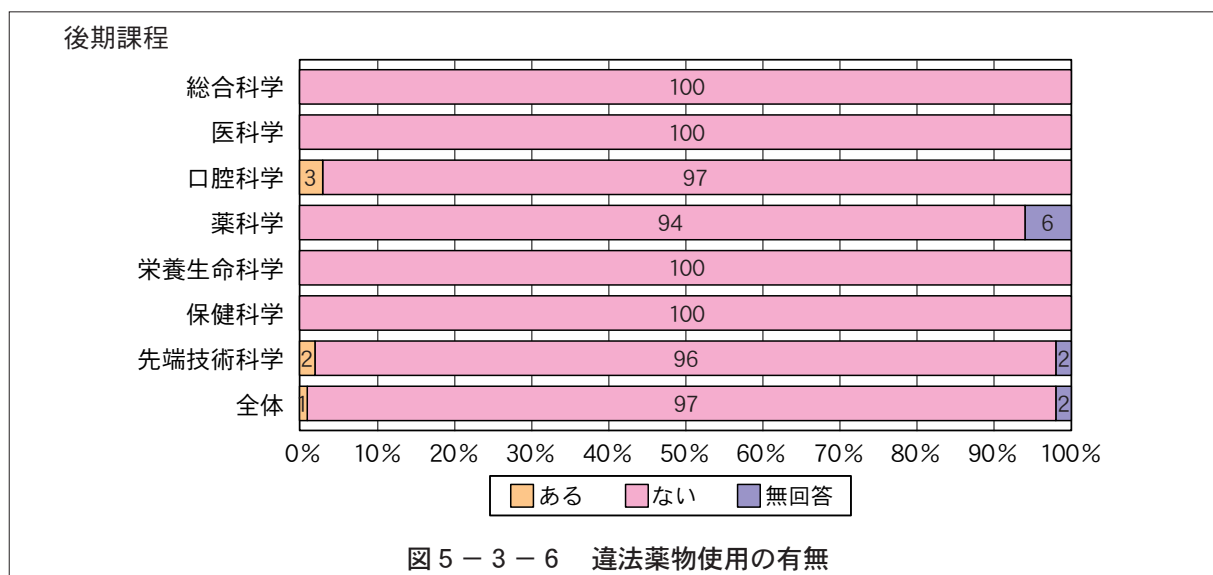
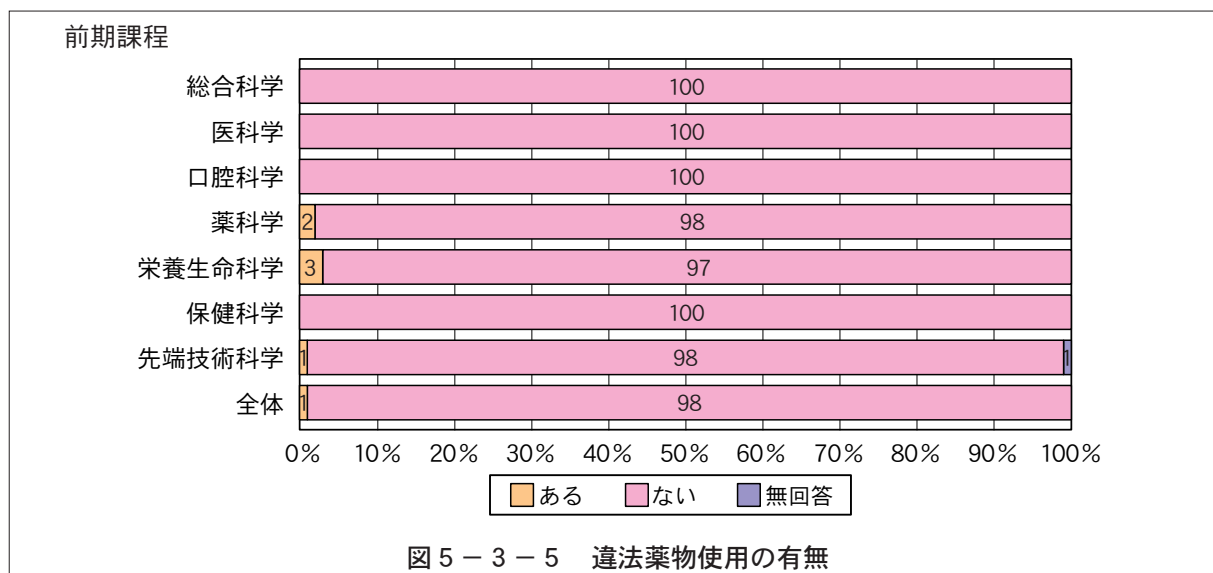


図 5 - 3 - 5 と図 5 - 3 - 6 は、違法薬物使用の有無について課程別に示したものである。第 4 回調査では、前期課程と後期課程の学生の 99% は大麻・覚せい剤を使用した経験がないとの回答であり、留学生では前期課程で 93%、後期課程で 97% の学生が経験なしと答えていた。今回の調査でも第 4 回調査とほぼ同様、前期課程と後期課程の一般学生の 99%、留学生の 96% は大麻・覚せい剤を使用した経験がなかった。前期課程では、一般学生の薬科学 2% (1 名)、栄養生命科学 3% (1 名) 先端技術科学 1% (6 名) が経験ありと回答していた。後期課程では、一般学生の口腔科学 3% (1 名)、先端技術科学 2% (1 名) が、留学生の先端技術科学 7% (1 名) が経験ありと回答している。薬物に関する専門知識があるからなのか、ストレスが高いからなのか理由は不明であるが、今後も引き続き、学生による違法薬物使用の撤廃に向け、啓蒙活動を強化する必要がある。



5 - 4 大学事務室の対応 (図 5 - 4 - 1, 図 5 - 4 - 2)

図 5 - 4 - 1 と図 5 - 4 - 2 は、大学事務室による対応の満足度を課程別に示したものである。第 4 回の調査では、満足しているとどちらかと言えば満足していると回答している比率が、一般学生では前期課程で 83%、後期課程で 89%、留学生では前期課程 92%、後期課程 96% と高い満足度であった。今回の調査では、満足しているとどちらかと言えば満足していると回答している比率が、一般学生では前期課程で 85%、後期課程で 88%、留学生では前期課程 93%、後期課程 94% と高い満足度であった。一般学生も留学生も第 4 回調査同様、高い満足度であった。また、教育部別にみると、前期課程では、医科学と口腔科学の満足度は 100% であった。後期課程では、総合科学と口腔科学で満足度が 100% であった。自由記述欄では、医科学、先端技術科学の学生が記述している。医科学では、社会人の休講連絡についての記述、先端技術科学では、単位取得、奨学金、授業料免除等の書類申請についての記述がある。

前期課程

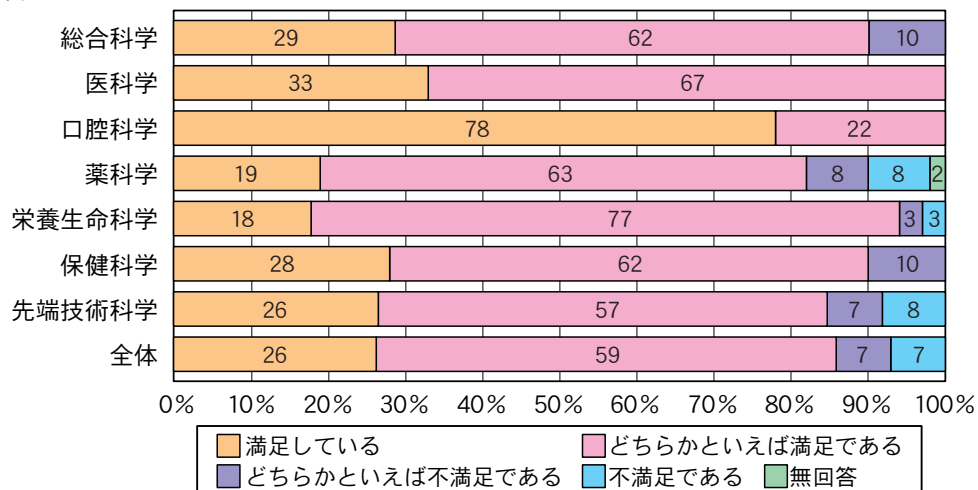


図 5 - 4 - 1 大学事務室の対応への満足度

後期課程

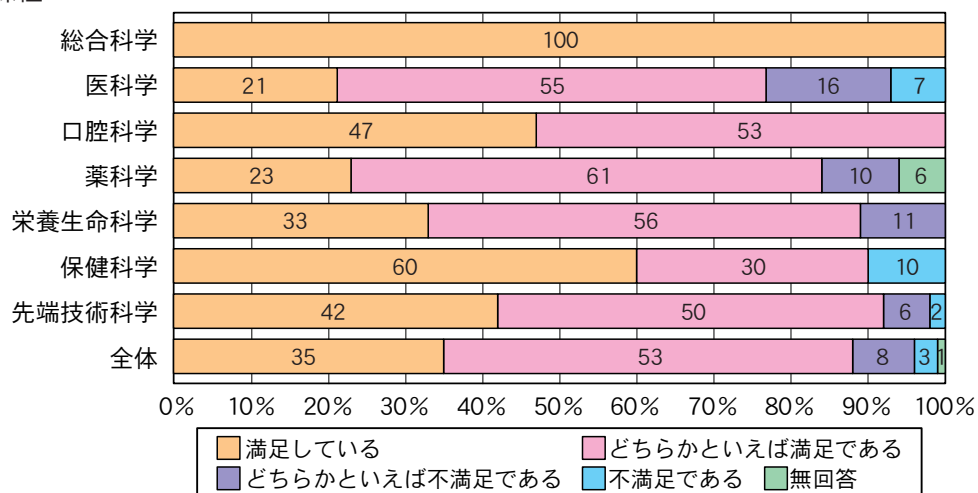
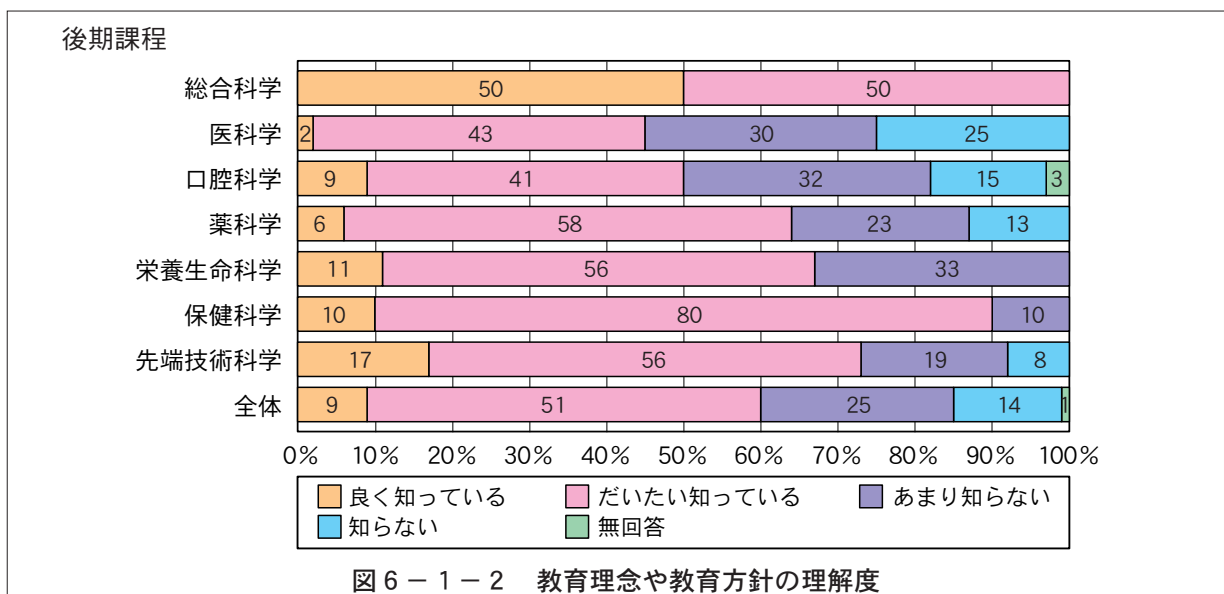
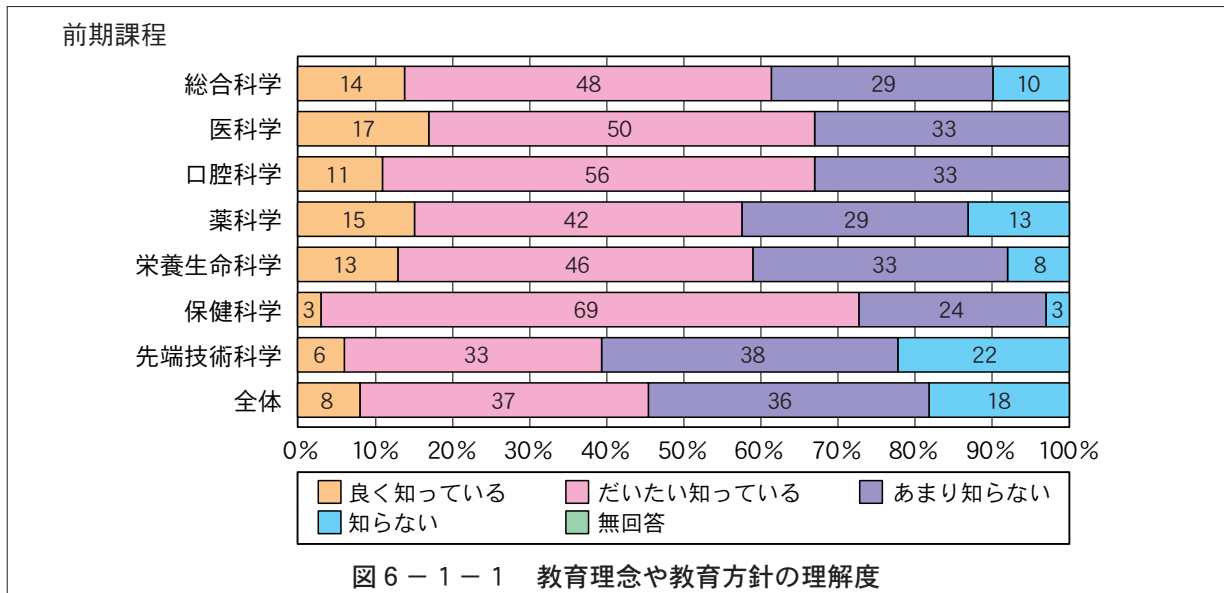


図 5 - 4 - 2 大学事務室の対応への満足度

第6章 修学状況について

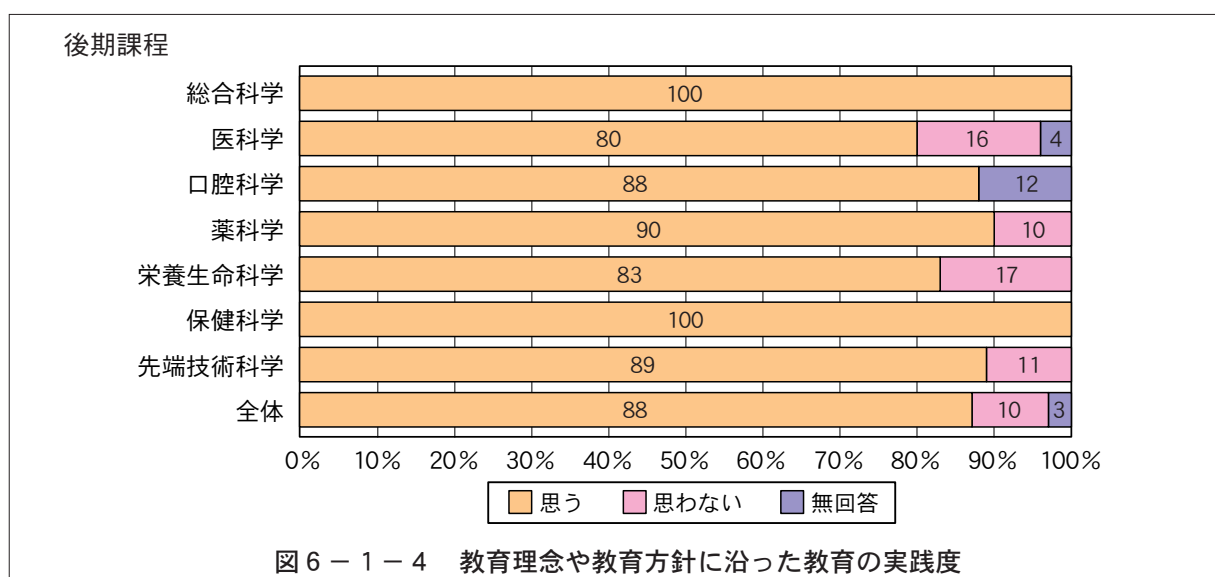
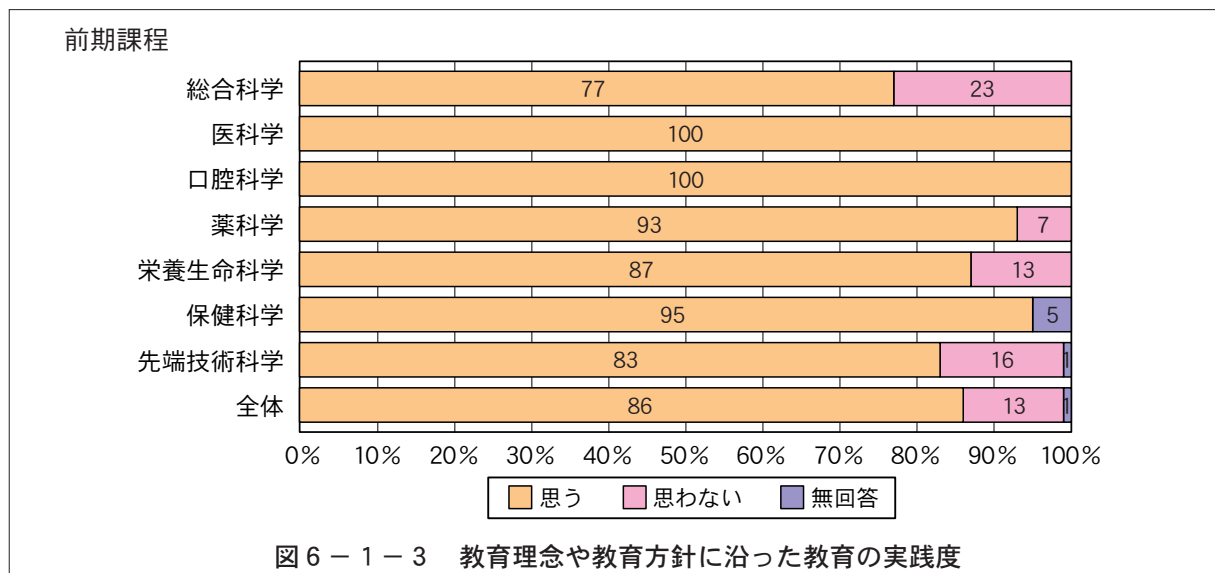
6-1 教育理念・方針と教育に対する満足度 (図6-1-1~図6-1-8)

前期課程において、所属する教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は4割強（良く知っている：8%，だいたい知っている：37%）であり、他の回答（あまり知らない：36%，知らない：18%）も含め第4回調査とほぼ同様の結果であった（図6-1-1）。教育部別に見ると、保健科学（良く知っている：3%，だいたい知っている：69%）を筆頭に、総合科学，医科学，口腔科学，薬科学および栄養生命科で概ね6割程度の学生が認知していると判断できる。一方，先端技術科では，第4回調査同様，その認知度は4割程度（知っている：6%，だいたい知っている：33%）に留まっている。また，後期課程では，全体として6割の学生（良く知っている：9%，だいたい知っている：51%）が認知しており，第4回調査より10ポイント上昇している（図6-1-2）。留学生については，「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が，前期課程で58%，後期課程72%であった。通常，教育理念などの認知度は，学年が進むにつれ高くなると予想されるが，医科学と口腔科学では前期課程



より後期課程の方が、認知度が低くなっている。この理由として、前期課程の学生と後期課程の学生が同一でない、などが挙げられるが、再度周知を徹底するなどの改善が望まれる。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では86%、後期課程では88%が「思う」と答えている。逆に、「思わない」と答えたのは前期課程では13%、後期課程では10%であった〔図6-1-3（前期課程）と図6-1-4（後期課程）〕。留学生については、「思う」と回答した割合が、前期課程で93%、後期課程81%であった。



教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は30%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生(61%)と合わせて91%であった(図6-1-5)。一方、「どちらかといえば不満足である」は5%、「不満足である」は3%となっている。教育部別に見ると、すべての教育部で「満足している」、「どちらかといえば満足している」のポイントが第4回調査結果より向上しており、特に口腔科学では学生全員が満足(満足している:56%、どちらかといえば満足している:44%)しており、特筆に値する結果となった。後期課程では全体で89%がほぼ満足しており(満足している:27%、どちらかといえば満足している:62%)、「どちらかといえば不満足である」が7%、「不満足である」が3%であった(図6-1-6)。教育部別に見ると、栄養生命科学と先端技術科学で「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が100%となっている。一方、総合科学では、第

4回調査で「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が100%であったが、今回調査では「どちらかといえば不満足である」が50%となった。ただ回答数が2件と極めて少なく、データとしての信憑性は低いと考える。留学生については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で96%、後期課程94%であった。

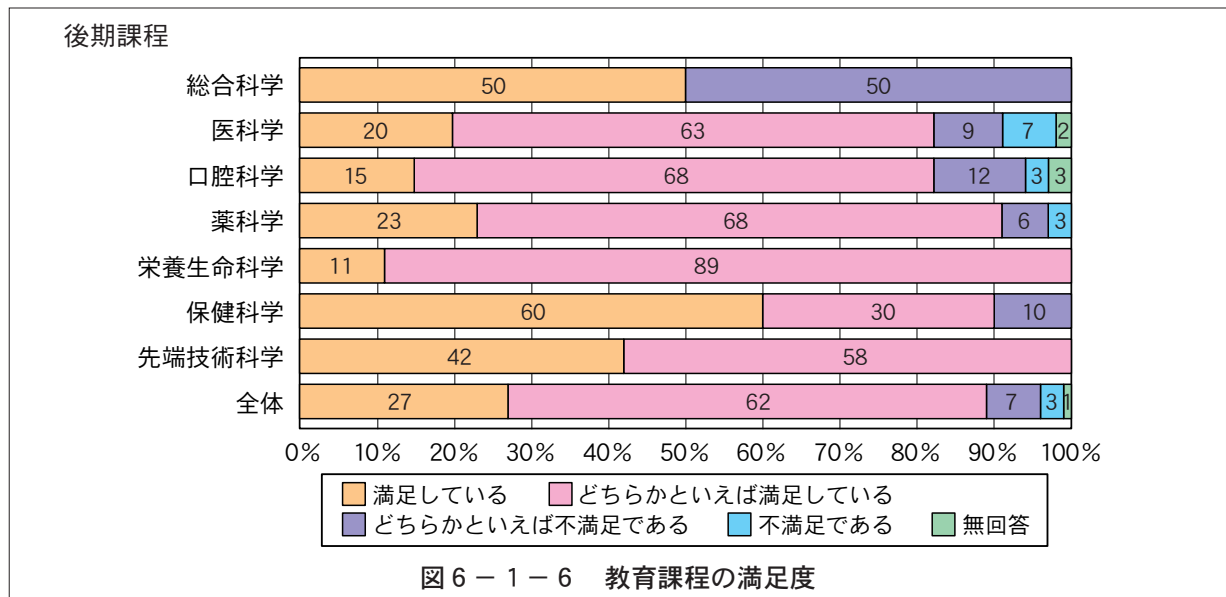
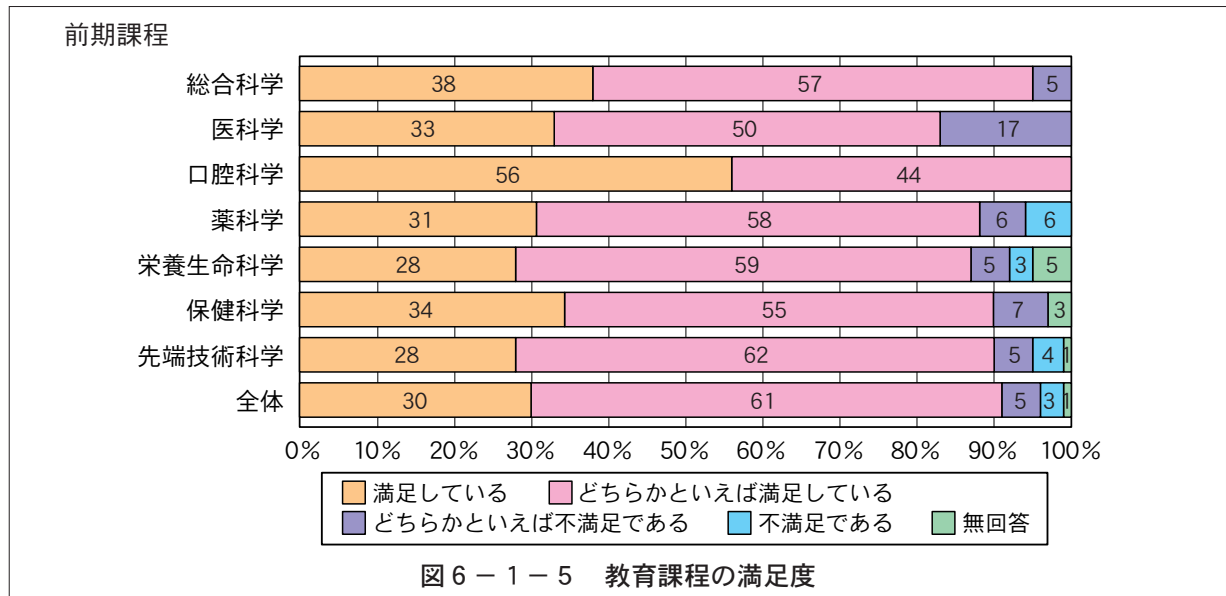
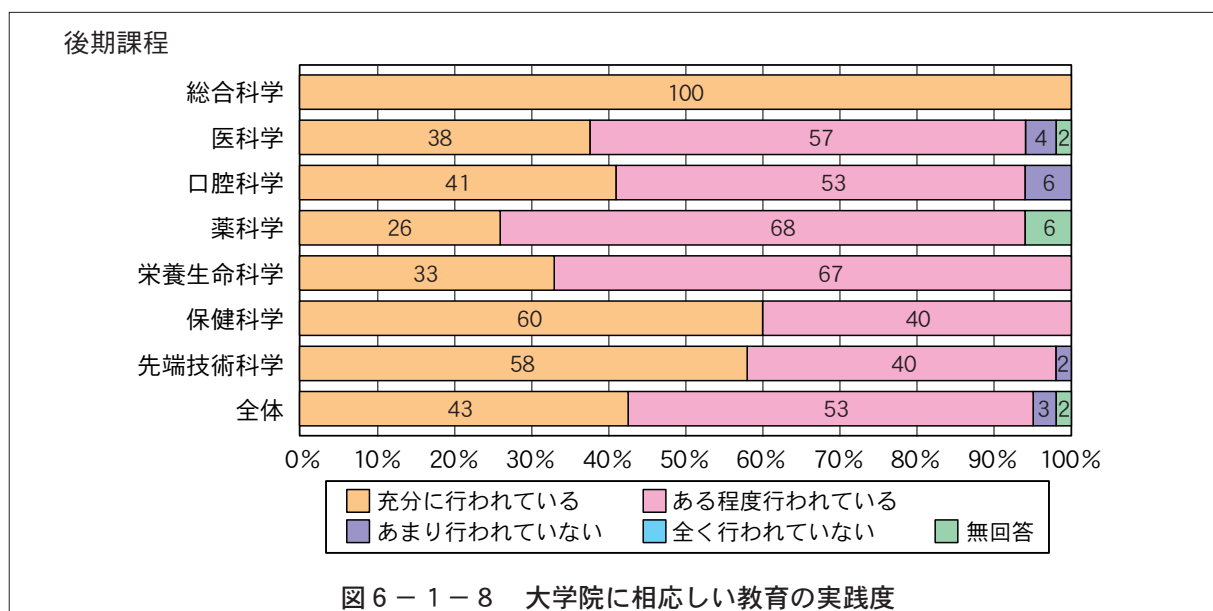
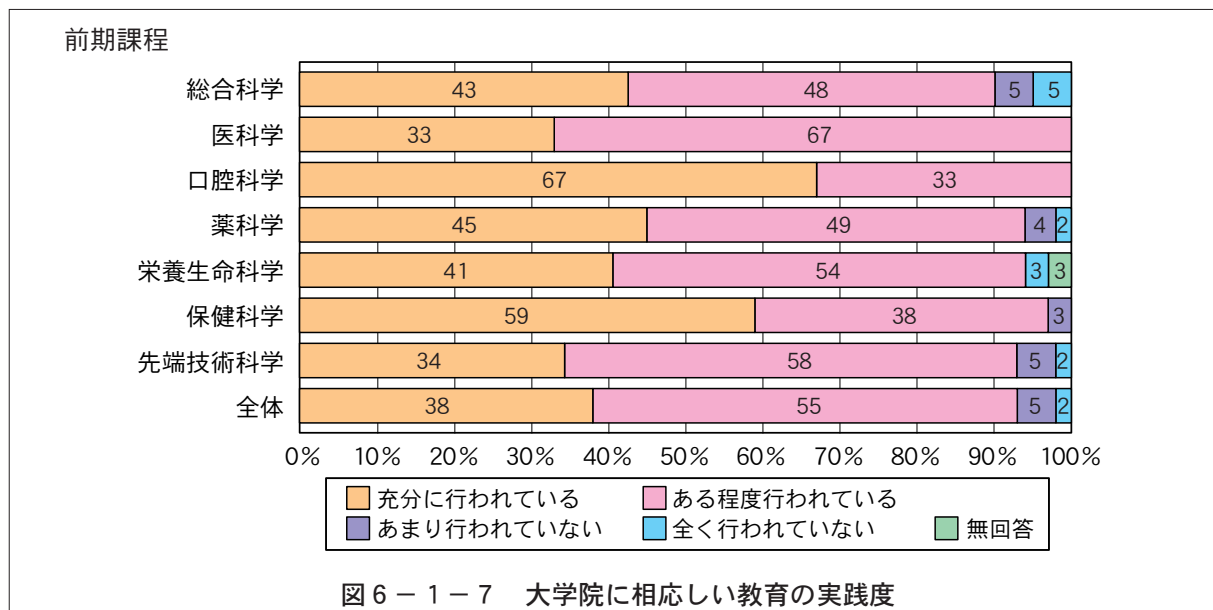


図6-1-7、図6-1-8より、大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合は前期課程（充分に行われている：38%、ある程度行われている：55%）、後期課程（充分に行われている：43%、ある程度行われている：53%）ともに90%以上と高くなっている。「あまり行われていない」は、前期課程5%、後期課程3%であり、「全く行われていない」は、前期課程2%、後期課程0%であった。教育部別に見ると、前期課程では口腔科学と保健科学の評価が高く、「充分に行われている」が67%（口腔科学）と59%（保健科学）となっている。また医科学と口腔科学で「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が100%であった。後期課程では、総合科学で「充分に行われている」と回答した学生の割合が100%であった。但し、この数値は度々述べているように回答数2件の数値である。また栄養生命科学と保健科学で「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が100%であった。留学生については、「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生

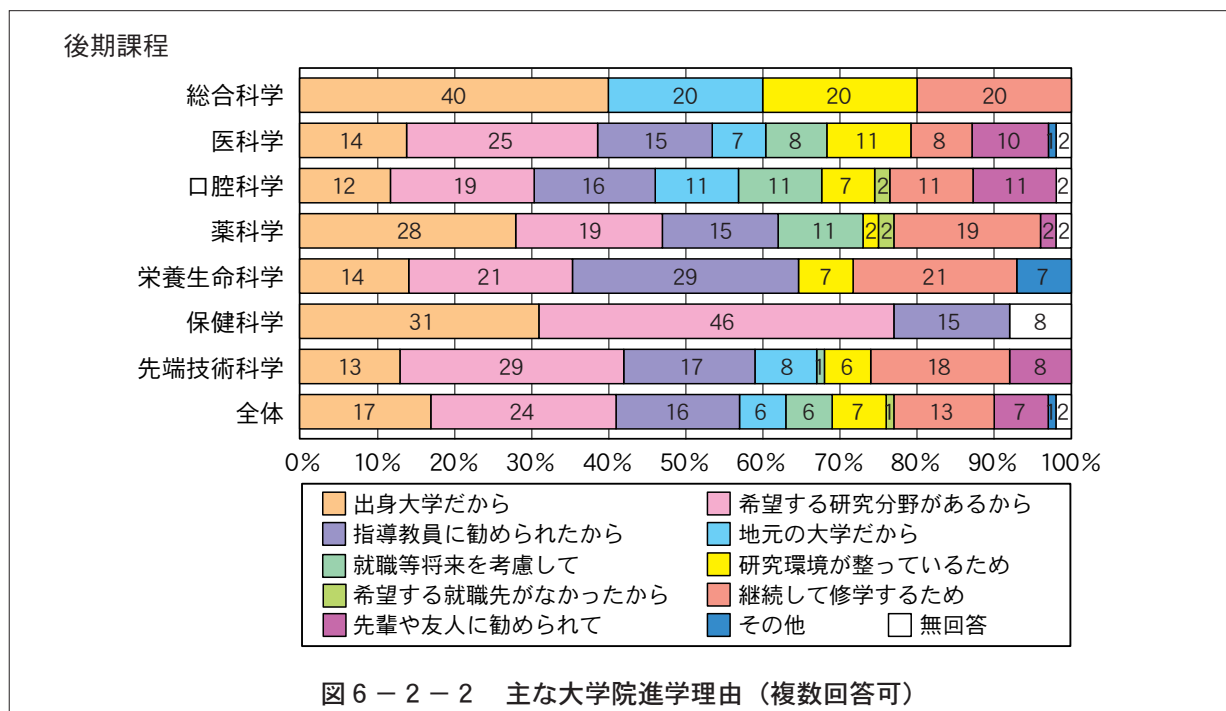
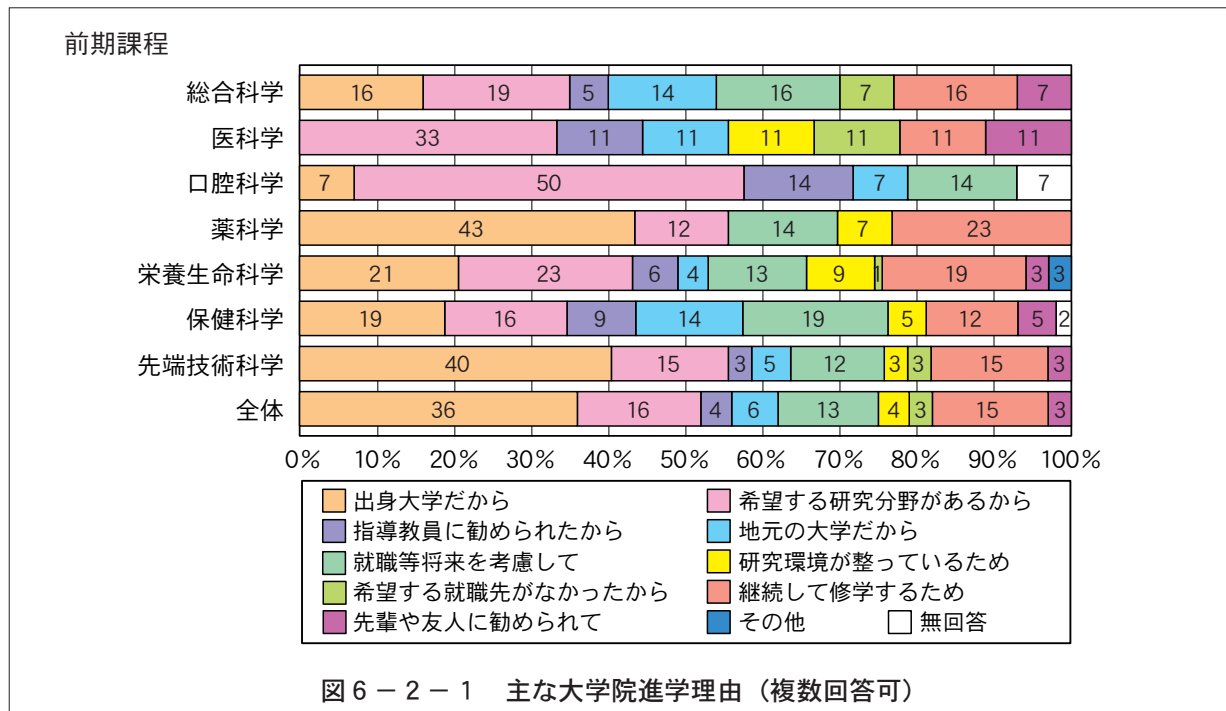
の割合が、前期課程で96%、後期課程94%であった。



6-2 本学を選んだ理由と目的 (図6-2-1~図6-2-10)

前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が36%、「希望する研究分野があるから」が16%、「継続して修学するため」が15%、「就職等将来を考慮して」が13%となっており、第4回調査とほぼ同様の結果であった(図6-2-1)。教育部別に見ると、薬科学と先端技術科学では、「出身大学だから」という理由が40%程度で最も多い。また、総合科学や医科学、口腔科学、栄養生命科学では、「希望する研究分野があるから」という理由が最も多く、特に口腔科学では50%を占めている。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く(24%)、次いで、「出身大学だから」が17%となっている(図6-2-2)。また、「指導教員に勧められたから」という回答(16%)は前期課程の学生の回答割合(4%)を大きく上回っている。留学生については、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合(前期課程:26%、後期課程:21%)が最も多かった。前期課程で次に多かった回答は「継続して修学するため」と「先輩や友人に勧められて」であり、いずれも18%、15%と

なっている。後期課程でも「継続して修学するため」と「先輩や友人に勧められて」が入学理由の次点となっており、ほぼ同様の傾向となっている。



大学院進学に関する調査では、徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行なった。まず徳島大学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は、全体で88%となっており、「第二志望だった」は7%、「第三志望だった」は1%であった(図6-2-3)。教育部別に見ると、医科学で「第一志望だった」と回答した学生の割合は33%であり、他教育部と比較して低くなっている。一方、徳島大学を卒業して後期課程に在籍する学生では88%が「第一志望だった」と回答しており、「第二志望だった」は2%であった(図6-2-4)。教育部別に見ると、総合科学と医科学で「第一志望だった」とした回答の割合が100%であった。

他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の58%が「第一志望だった」と回答して

前期課程

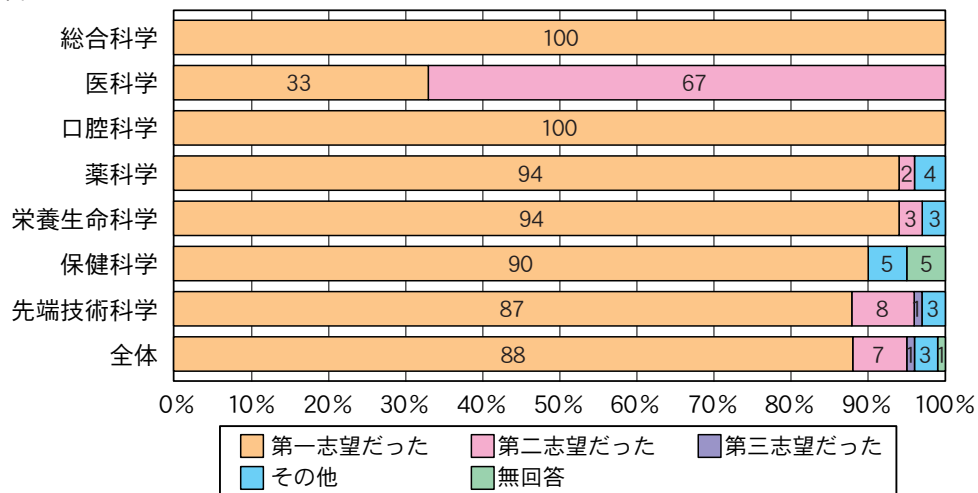


図 6 - 2 - 3 徳島大学卒業者の志望順位

後期課程

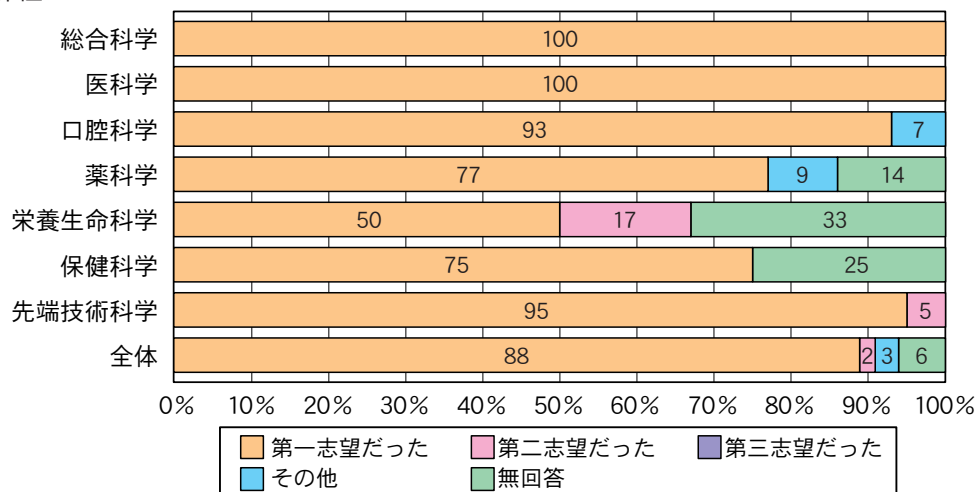


図 6 - 2 - 4 徳島大学卒業者の志望順位

前期課程

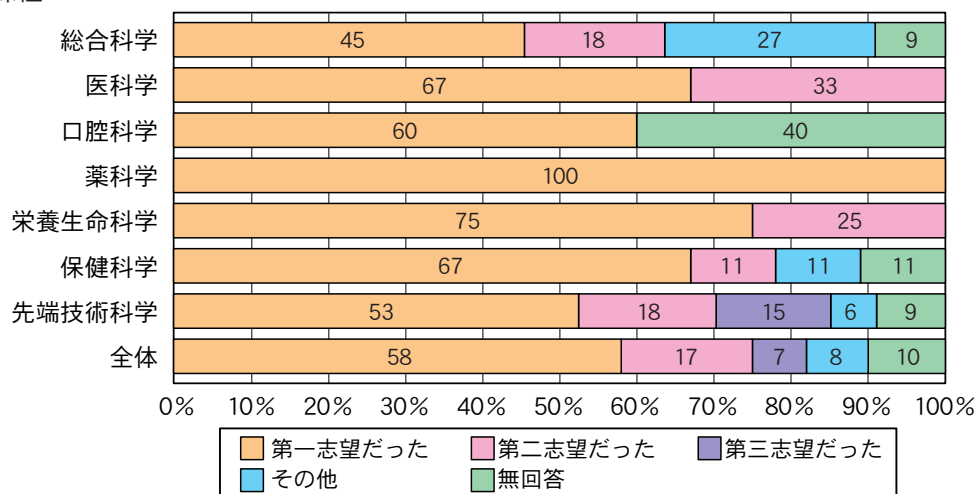
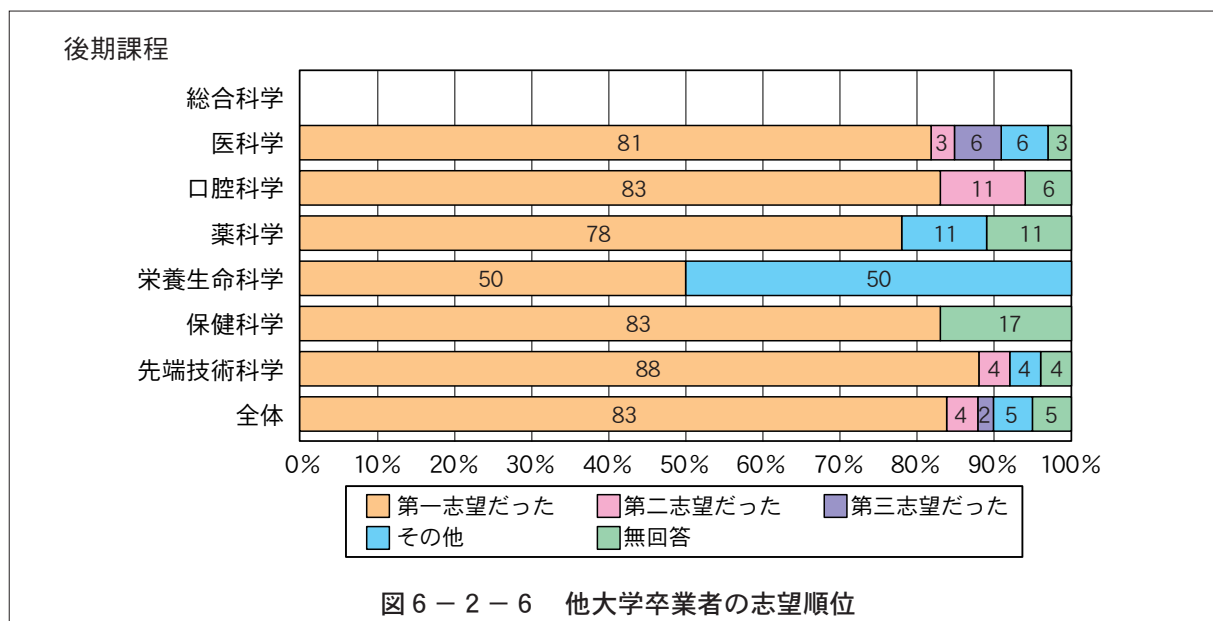
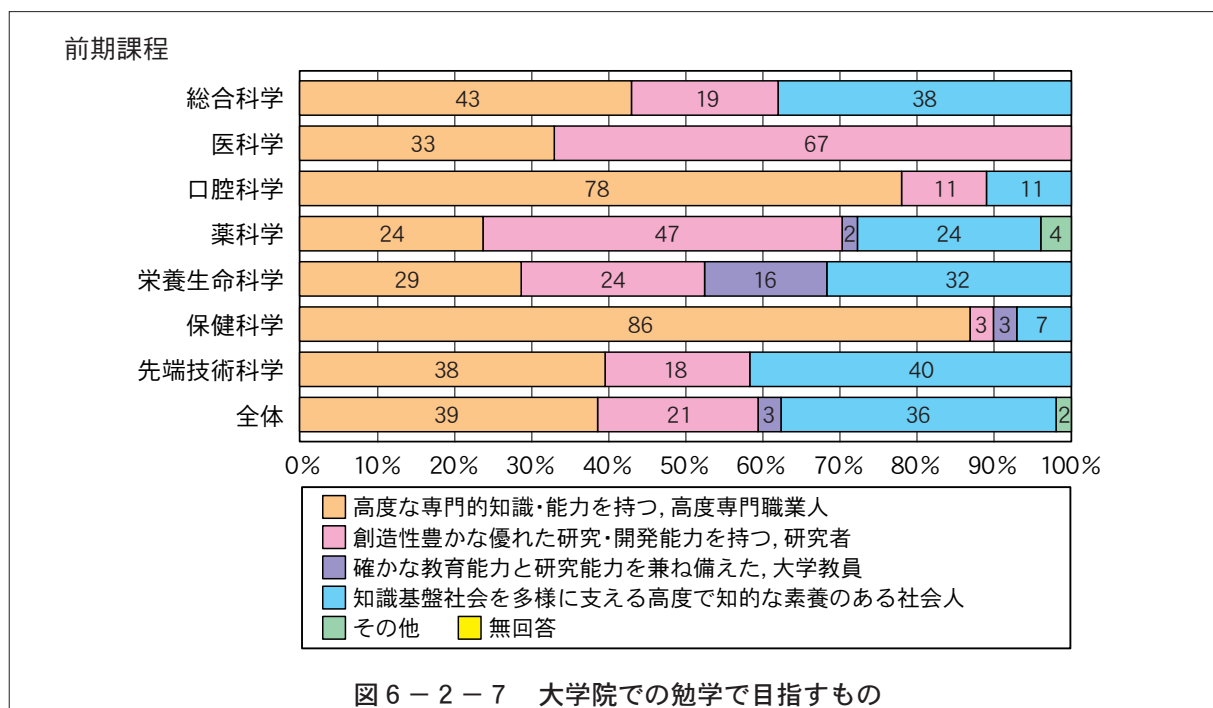


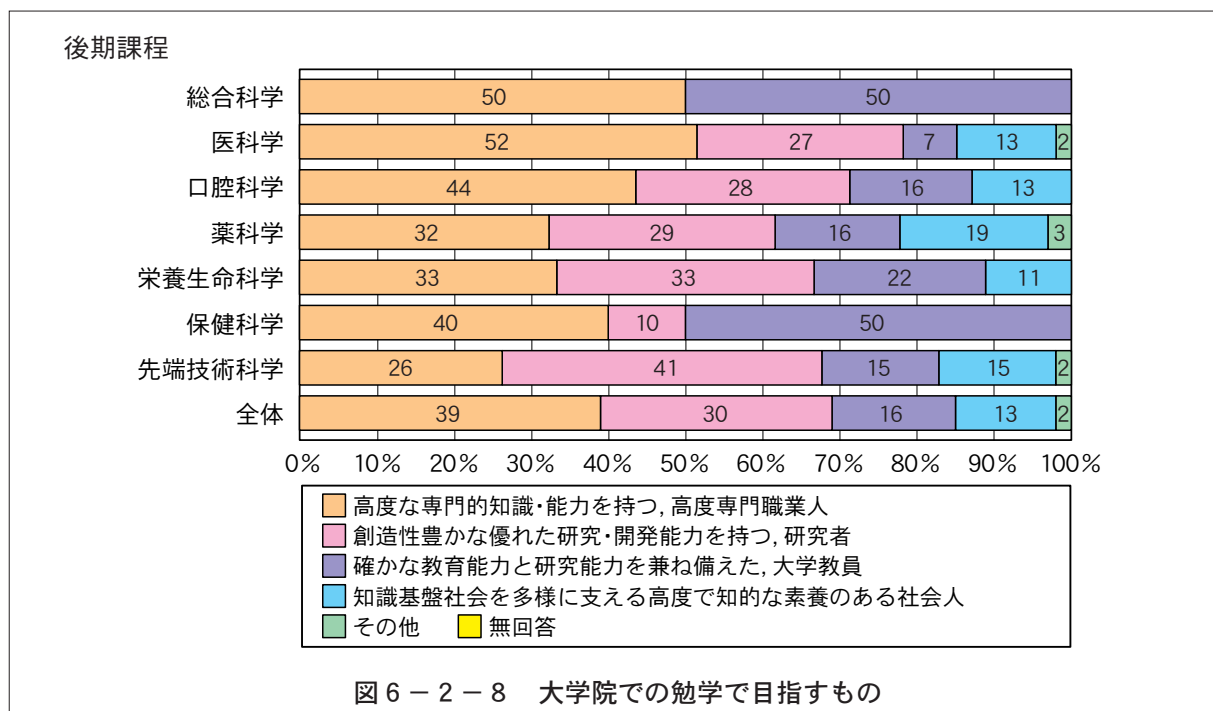
図 6 - 2 - 5 他大学卒業者の志望順位



おり、「第二志望だった」は17%、「第三志望だった」は7%となっている(図6-2-5)。教育部別に見ると、薬科学の「第一志望だった」とした回答の割合は100%であった。他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が83%、「第二志望だった」が4%、「第三志望だった」が2%となっている(図6-2-6)。

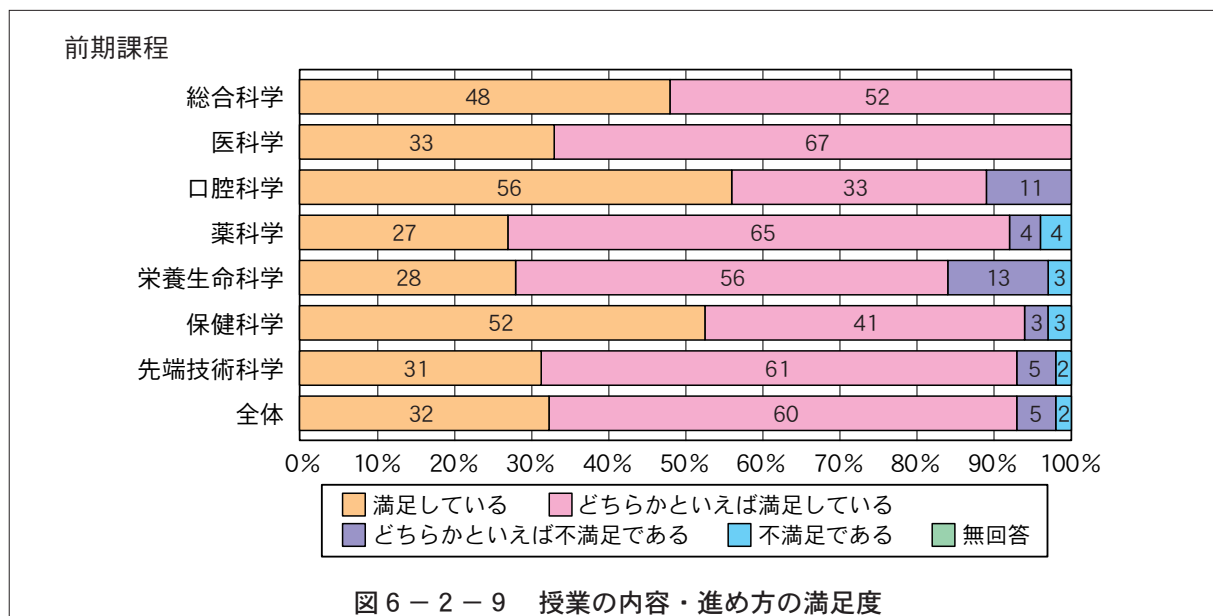
大学院での勉学で目指すものとして、前期課程では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生(39%)が最も多く、次いで、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が36%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が21%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が3%となっている(図6-2-7)。教育部別に見ると、口腔科学(78%)と保健科学(86%)では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生が最も多いのに対し、医科学(67%)と薬科学(47%)では、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」を目指す学生が最も多く、学生の意識の違いが明確に現れる結果となった。後期課程の学生全体では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生(39%)が最も多く、次いで「創造性

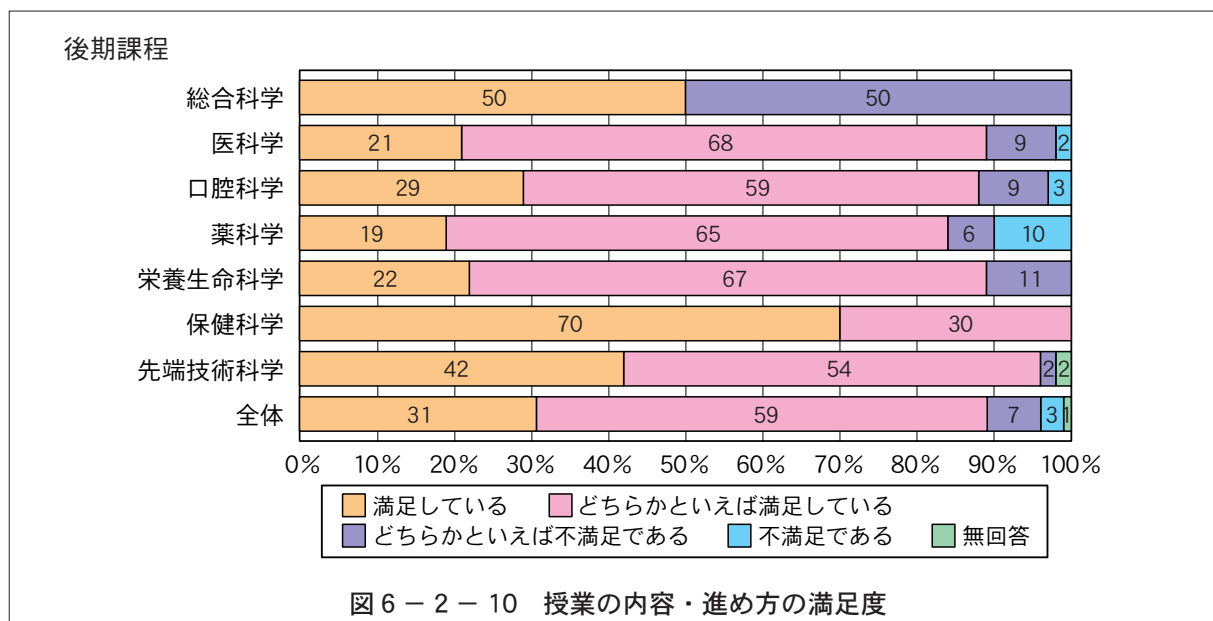




豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が30%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が16%となっている(図6-2-8)。「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」を目指す学生の割合は前期課程の3%を大きく上回っており、教育部別に見ると、総合科学と保健科学では50%となり、他教育部と比較して特に高くなっている。留学生については、前期課程では「高度な専門知識・能力を持つ、高度専門職業人」と「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」と回答した学生の割合がともに40%と最も高く、後期課程では「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」と回答した学生の割合(41%)が最も高かった。

また図6-2-9および図6-2-10に示した授業の内容や進め方に関する満足度については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程で92%(満足している:32%, どちらかといえば満足している:60%), 後期課程で90%(満足している:31%, どちらかといえば満足している:59%)であった。「どちらかといえば不満足である」は、前期課程5%, 後期課程7%、「不満足である」は、前期課程2%, 後期課程3%であり、教育部別に見ると、前期課程

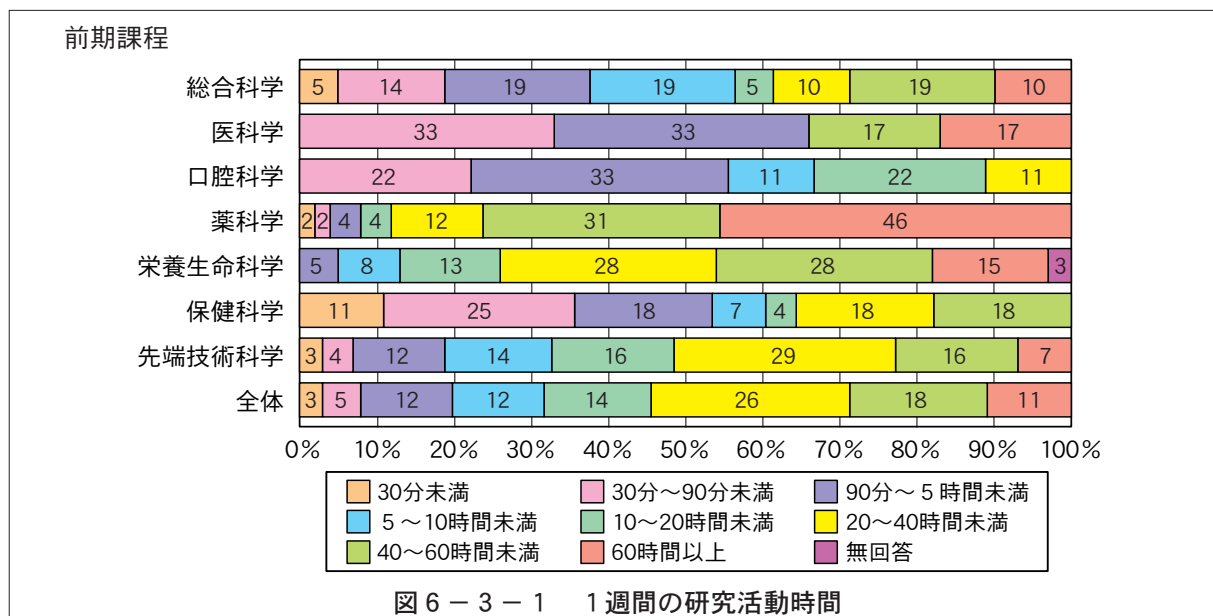


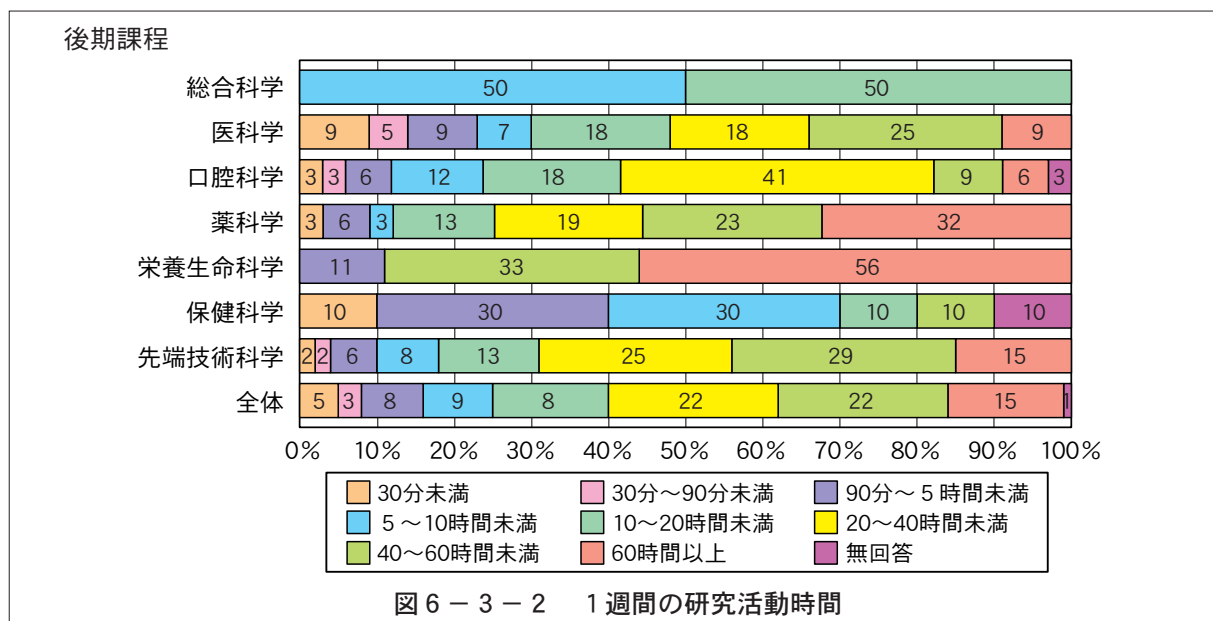


の口腔科学と栄養生命科学での満足度が他教育部と比較して若干低くなっている。後期課程の総合科学で「どちらかといえば不満足である」が50%となっているが、設問44の場合と同様、回答数が2件であり、データとしての信憑性は低いと考える。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で84%、後期課程94%であった。

6-3 研究活動と研究指導 (図6-3-1~図6-3-12)

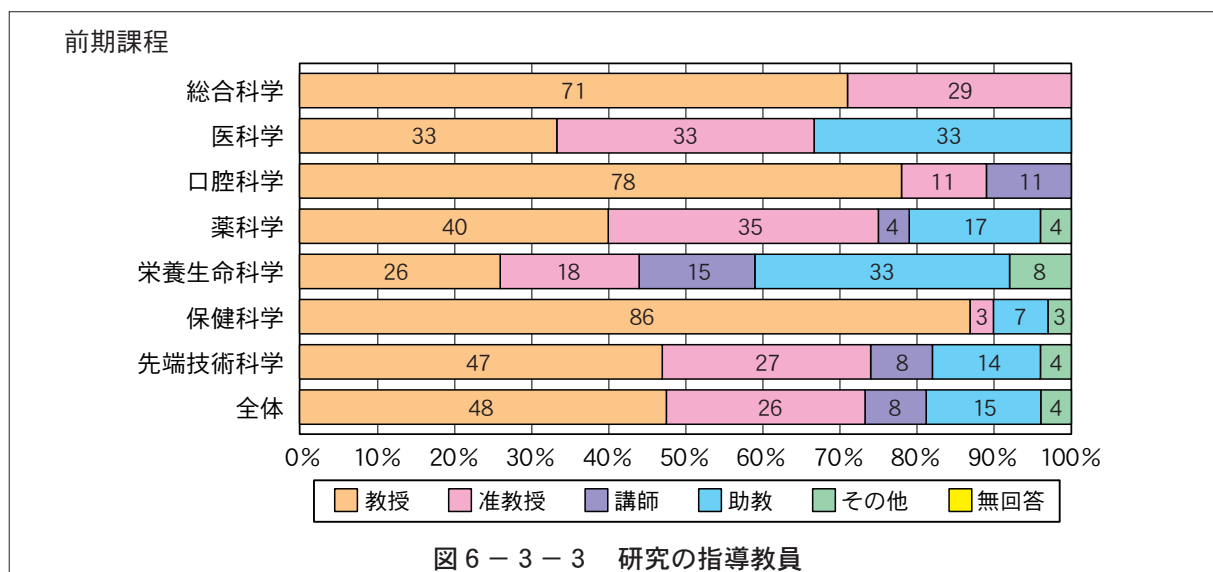
前期課程の学生全体での授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「20~40時間未満」との回答(26%)が最も多く、次いで「40~60時間未満」が18%、「10~20時間未満」が14%、「90分~5時間未満」が10%、「30分~90分未満」が9%、「5~10時間未満」が8%、「60時間以上」が7%、「30分未満」が5%、「無回答」が3%となっている(図6-3-1)。すなわち、半数以上の学生が週20時間以上の研究活動を行っていると回答した。教育部別に見ると、週20時間以上研究活動を行っている割合は、薬科学(88%)と栄養生命科学(71%)で高く、口腔科学(11%)で低くなっている。一方、後期課程の学生が授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、「20~40時間未満」と「40~60時間

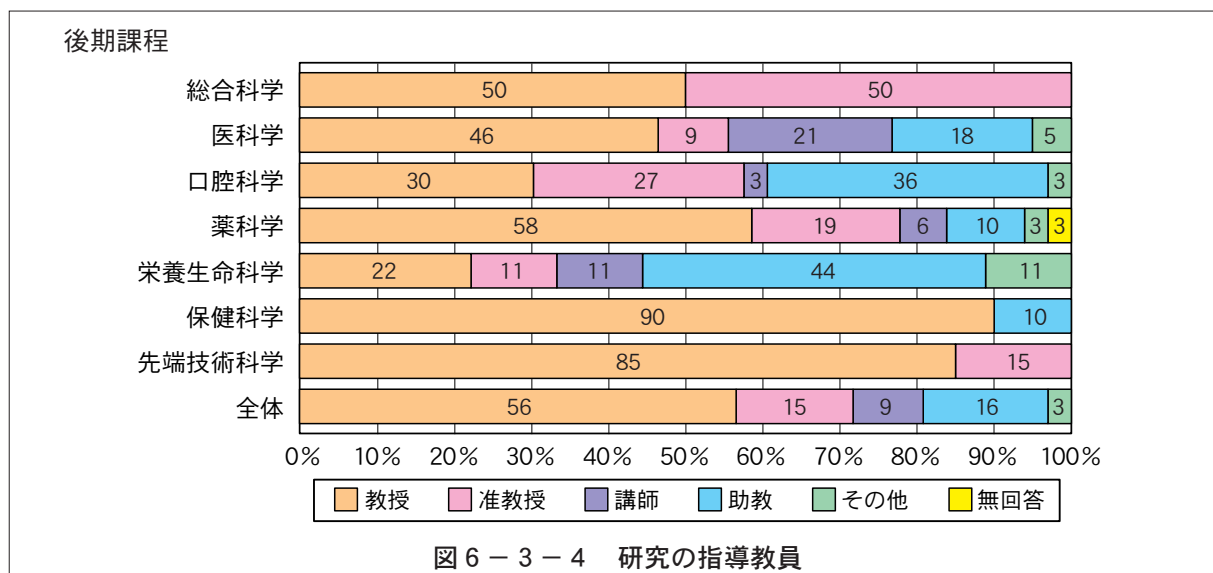




未満」との回答（22%）が最も多く、次いで「10～20時間未満」と「60時間以上」が15%、「5～10時間未満」が9%、「90分～5時間未満」が8%、「30分未満」が5%、「30～90分未満」が3%と続いている（図6-3-2）。すなわち、59%の学生が週20時間以上研究活動を行っており、特に、週20時間以上研究活動を行っている割合が、栄養生命科学（89%）と薬科学（74%）、先端技術科学（69%）で高くなっている。一方、週20時間以上研究活動を行っている割合が低いのが、総合科学（0%）と保健科学（20%）であった。留学生については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では47%、後期課程では78%となった。

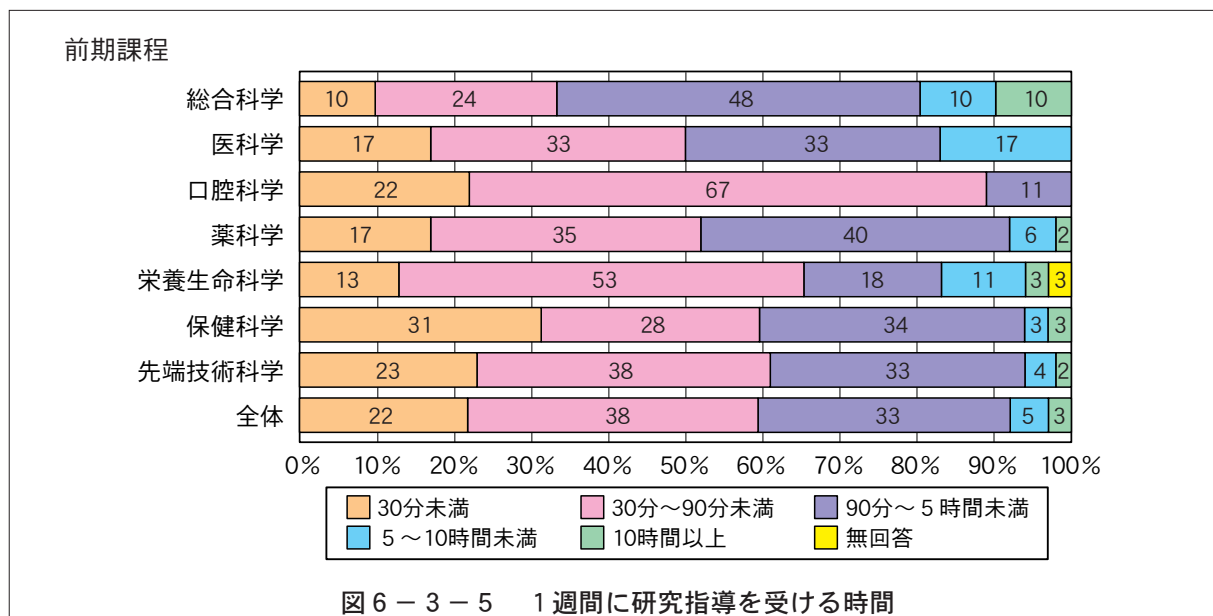
前期課程の学生の研究を直接指導している教員は、「教授」が48%、「准教授」が26%、「講師」が8%、「助教」が15%、「その他」が4%であった（図6-3-3）。教育部別では、保健学科と口腔科学、総合科学で「教授」と回答した割合（保健科学：86%、口腔科学：78%、総合科学：71%）が高かった。逆に、医科学と栄養生命科学、薬学科では「准教授」や「講師」、「助教」と回答した割合（医科学：66%、栄養生命科学：66%、薬学科：56%）が高くなっている。後期課程の学生の研究を直接指導しているのは、「教授」が56%、「准教授」が15%、「講師」が9%、「助教」が16%、「その他」が3%であった（図6-3-4）。教育部別に見ると、保健科学では「教授」が90%であったのに対し、栄養生命科学と口腔科学では、「教授」と回答した割合（栄養生命科学：22%、口腔科学：30%）が他

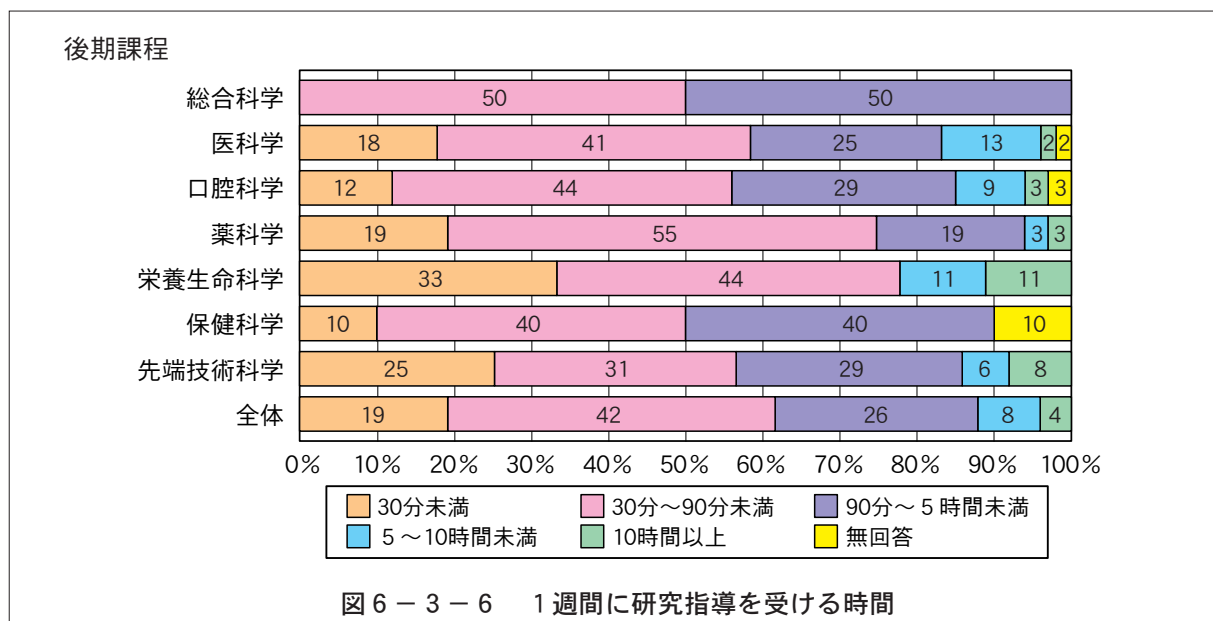




教育部と比較して低かった。口腔科学では、前期課程の学生を「教授」が指導する割合が高く、後期課程の学生を「准教授」や「講師」、「助教」が指導する割合が高いように見受けられる。栄養生命科学では、前期課程と後期課程ともに「准教授」や「講師」、「助教」による指導の割合が高かった。留学生についても教育部によってばらつきがあるが、全体では「教授」と回答した学生の割合が最も高かった（前期課程：48%，後期課程：50%）。

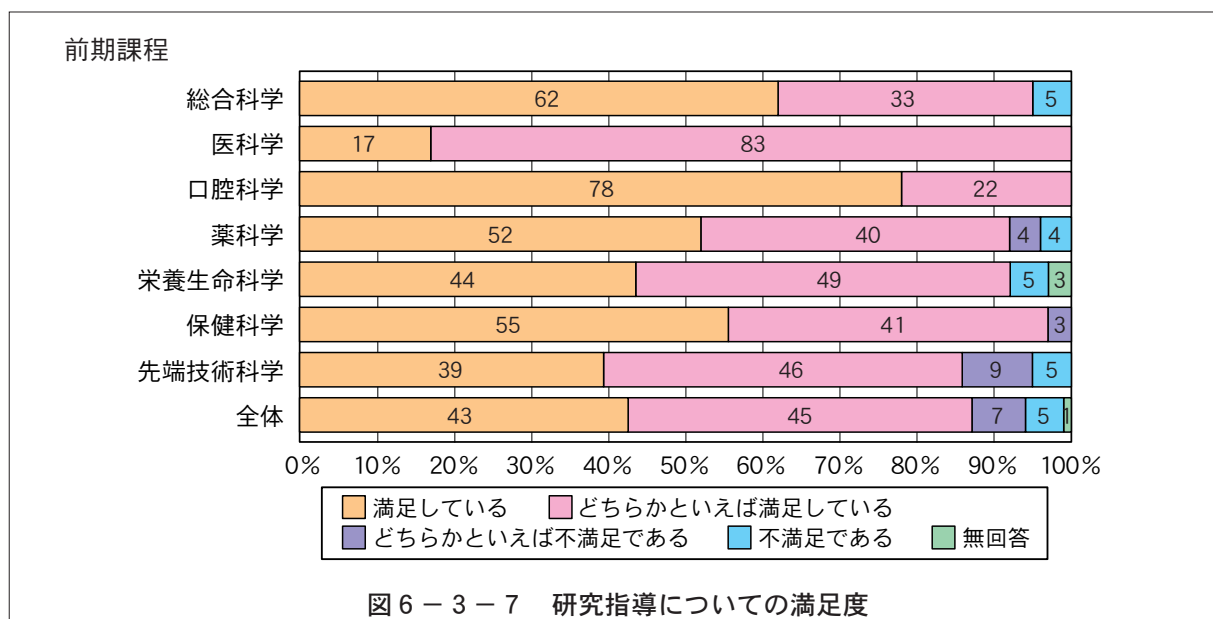
前期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が38%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が33%、「30分未満」が22%、「5～10時間未満」が5%、「10時間以上」が3%であった（図6-3-5）。研究指導時間が90分未満の割合は全体で60%であるが、口腔科学（89%）では他教育部に比べて多く、総合科学（34%）では他教育部に比べて少なくなっている。後期課程の学生が指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は、「30～90分未満」が42%と最も多く、以下、「90分～5時間未満」が26%、「30分未満」が19%、「5～10時間未満」が8%、「10時間以上」が4%であった（図6-3-6）。研究指導時間が90分未満の割合は、全体で61%であるが、栄養生命科学（77%）と薬科学（74%）では多くなっている。留学生についても、前期課程、後期課程ともに「30～90分未満」と回答した学生の割合（前期課程：54%，後期課程：34%）が最も多かった。

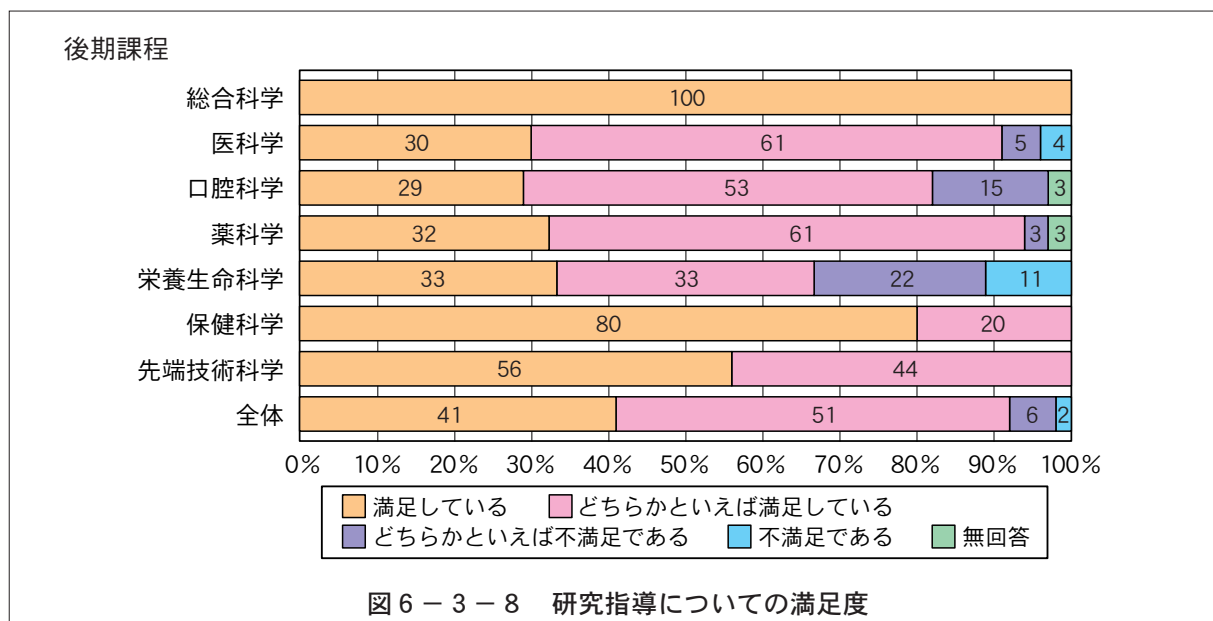




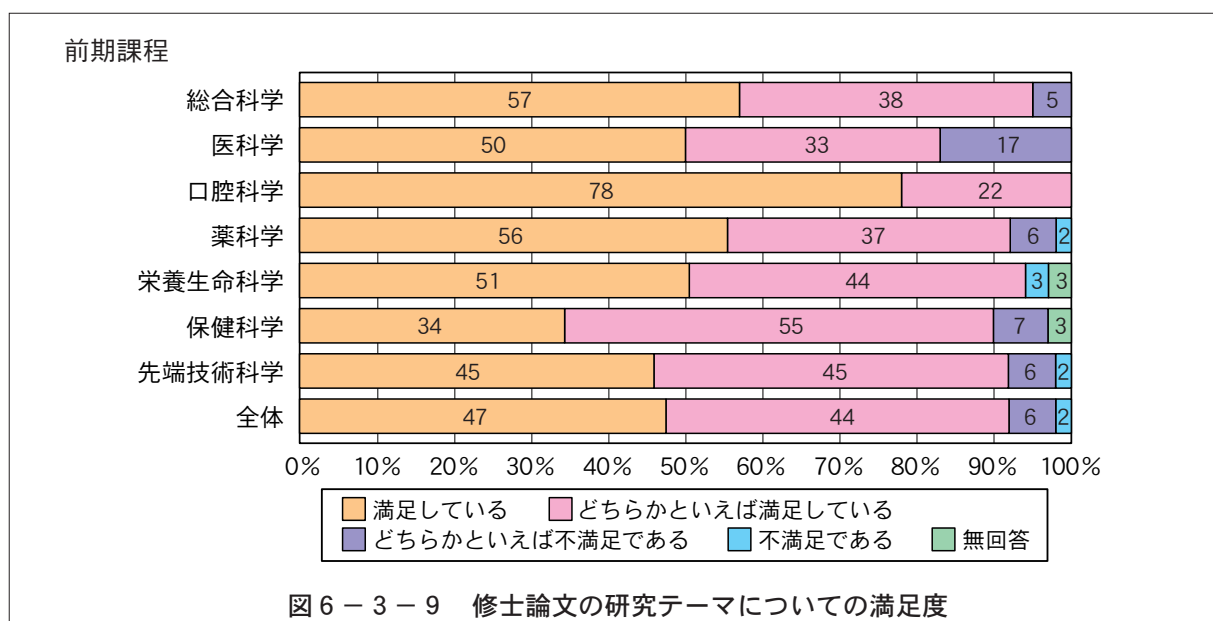
研究指導の内容や進め方についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が45%で最も多く、以下、「満足している」が43%、「どちらかといえば不満足である」が7%、「不満足である」が5%であった。教育部別に見ると、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、医学科と口腔科学の100%を筆頭に総合科学(95%)、保健科学(96%)、薬科学(92%)、栄養生命科学(92%)で90%を上回っている(図6-3-7)。同設問に対する後期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が51%で最も多く、以下、「満足している」が41%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が2%であった。総合科学では「満足している」が100%、保健科学では「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が100%となっている。栄養生命科学で後期課程の満足度の割合が前期課程と比較して26ポイント低下している(図6-3-8)。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で92%、後期課程94%であった。

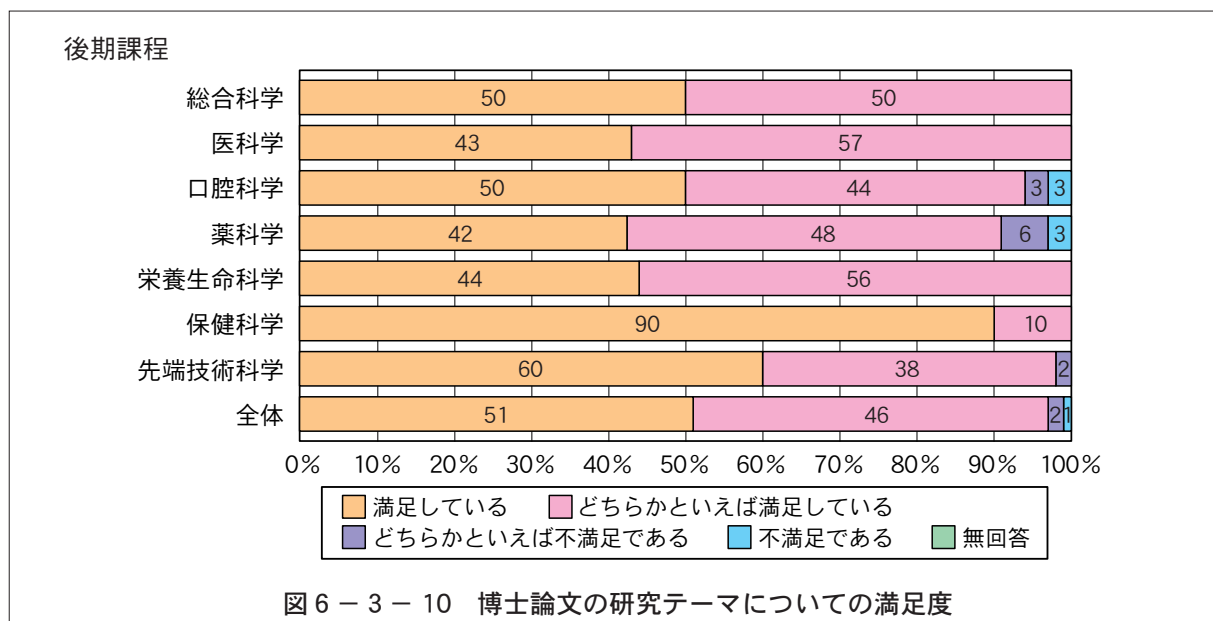
設問52の教員による研究指導時間には大きなばらつきが見られたが、指導を受けた学生の満足度は概ね良好であり、時間の長短ではなく指導内容や密度が重要と判断できる。



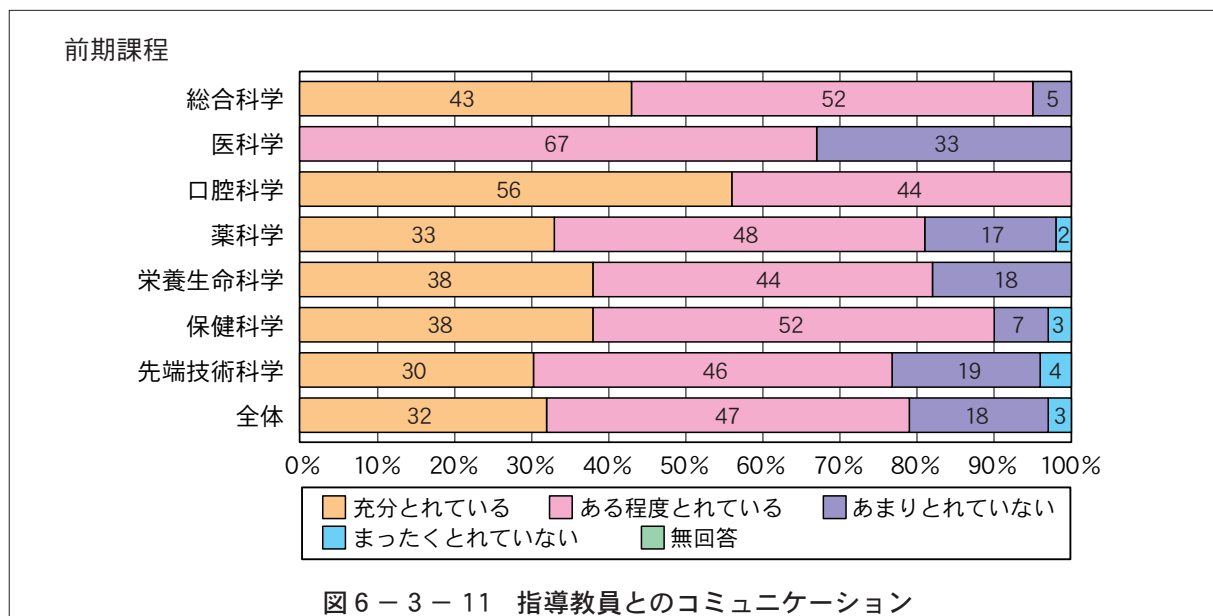


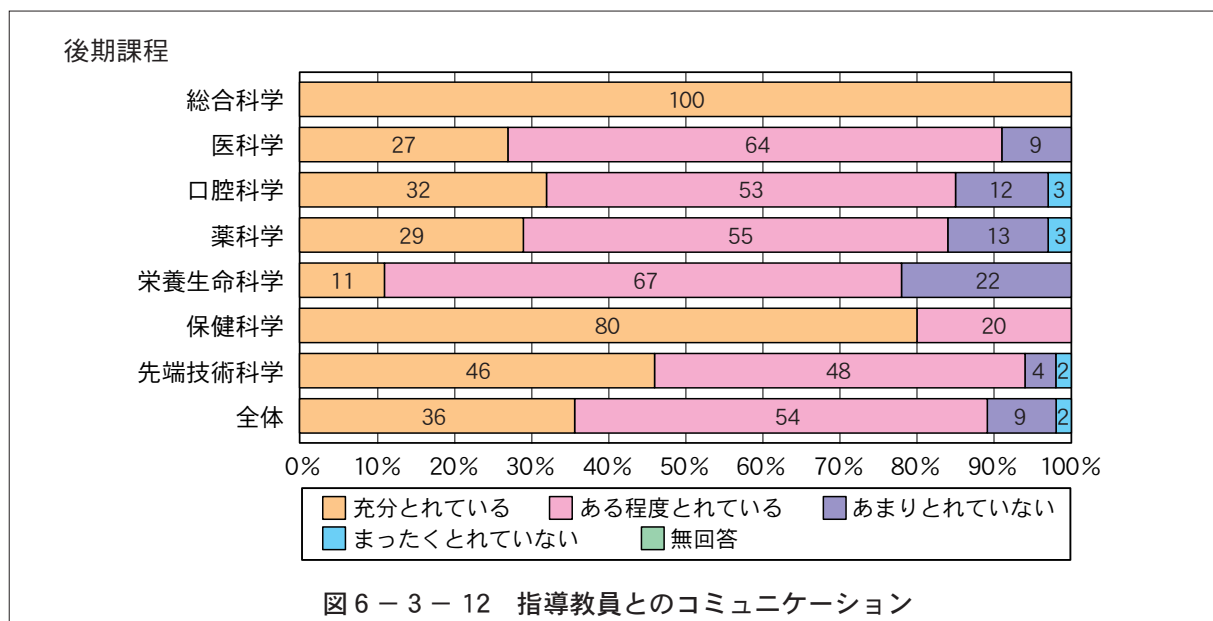
修士論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」が最も多く（47%）、以下、「どちらかといえば満足している」が44%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が2%となっている（図6-3-9）。教育部別では、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、口腔科学では100%であった。他教育部でも、医科学（83%）を除き、概ね9割程度の学生が満足していると理解できる。博士論文の研究テーマに関する全体の満足度は、「満足している」が最も多く（51%）、以下、「どちらかといえば満足している」が46%、「どちらかといえば不満足である」が2%、「不満足である」が1%となっている（図6-3-10）。全ての教育部で90%以上の満足度が得られており、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、総合科学と医科学、保健科学では100%であった。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程で94%であった。





指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」との回答が最も多く（47%）、以下、「充分とれている」が32%、「あまりとれていない」が18%、「まったくとれていない」が3%であった（図6-3-11）。教育部別に見ると、コミュニケーションが「充分とれている」という回答の割合は、口腔科学（56%）で半数を越えていたが、第4回調査と比較すると約20ポイントの減少となった。しかし、「ある程度とれている」と回答した学生を加えると全学生（100%）が、指導教員とのコミュニケーションに概ね満足していると判断できる。他教育部についても総合科学（95%）と保健科学（90%）で9割以上の学生が概ね満足していると思われる。一方、医科学では「充分とれている」が0%、「ある程度とれている」も67%で、他教育部と比較して低い値となった。同設問に対して、後期課程では36%の学生が「充分とれている」と回答しており、以下、「ある程度とれている」が54%、「あまりとれていない」が9%、「まったくとれていない」が2%であった（図6-3-12）。学部別に見ると、総合科学では「充分とれている」が100%となった。また保健科学でも「充分とれている」と「ある程度とれている」の割合をあわせると100%となっている。栄養生命科学で、「充分とれている」と「ある程度とれている」の割合が若干低く（78%）なっている。留学生については、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程で88%、

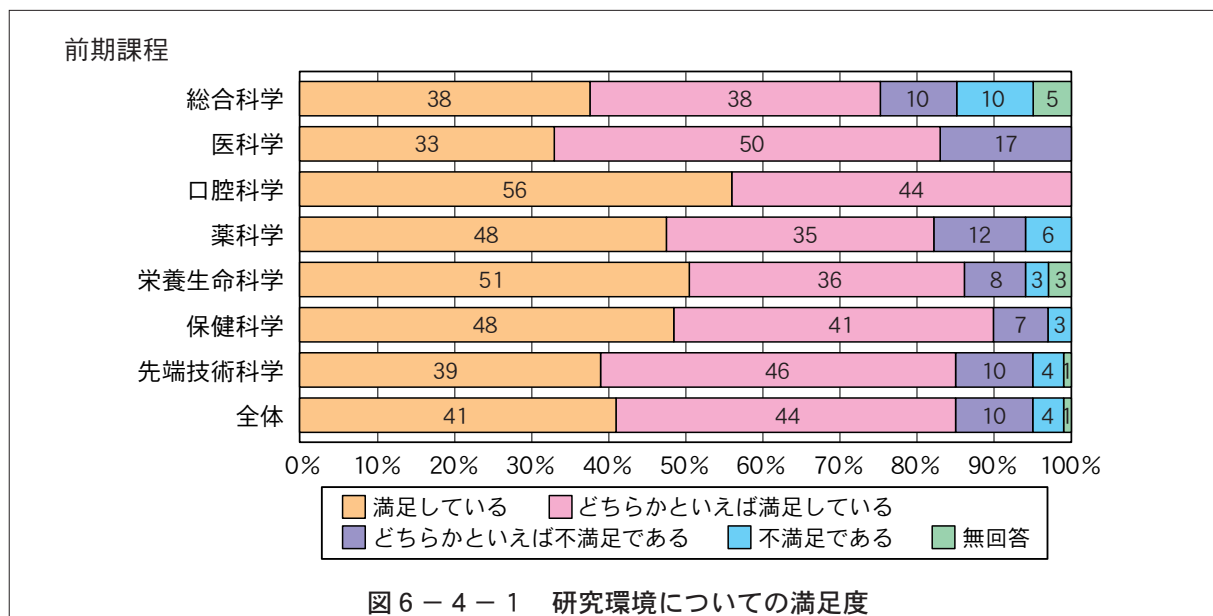




後期課程 90%であった。

6-4 研究環境と所属大学院に対する満足度 (図6-4-1~図6-4-6)

図6-4-1より、研究環境についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」が44%で最も多く、以下、「満足している」が41%、「どちらかといえば不満足である」が10%、「不満足である」が4%であった。教育部別に見ると、口腔科学の満足度が高く、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が100%であった。図6-4-2より、後期課程の学生でも「どちらかといえば満足している」との回答が最も多く(51%)、以下、「満足している」が42%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が1%であった。学部別に見ると、総合科学では「満足している」と回答した学生の割合が100%であった。また栄養生命科学と保健科学で「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が100%であった。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で88%、後期課程96%であった。



後期課程

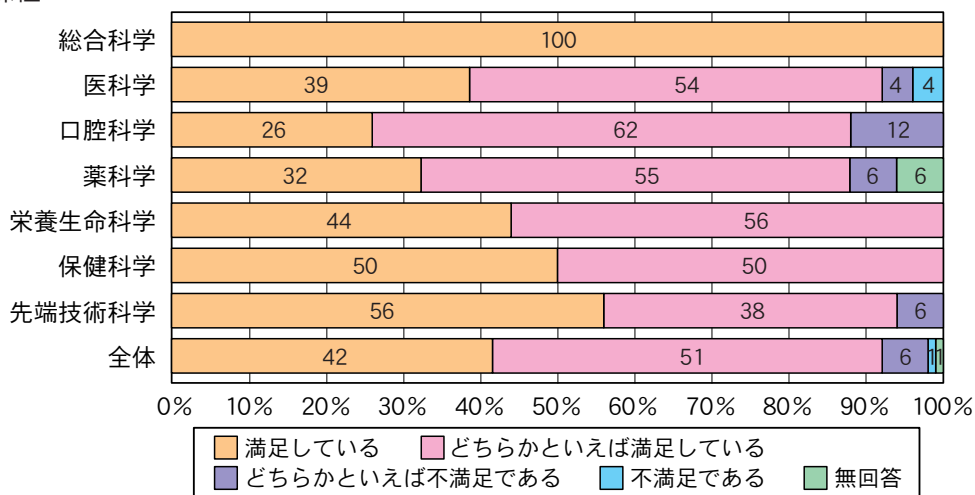


図6-4-2 研究環境についての満足度

前期課程

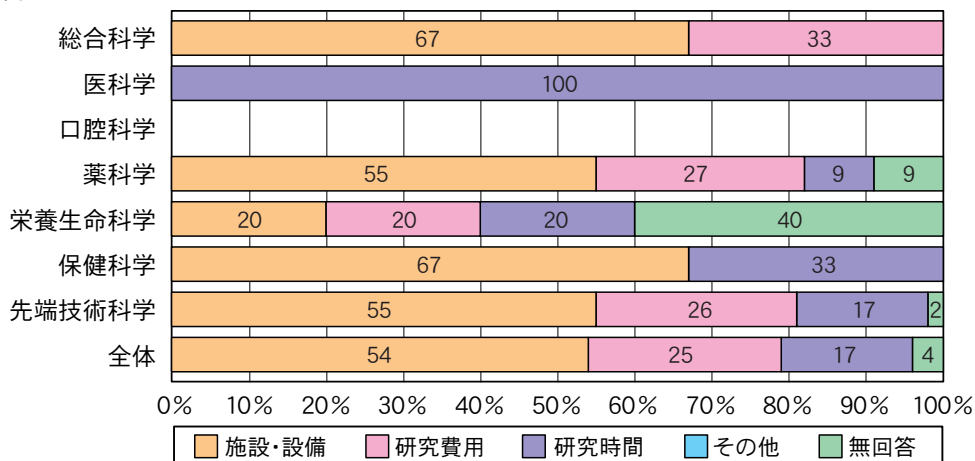


図6-4-3 研究環境に不満足な理由（複数回答可）

後期課程

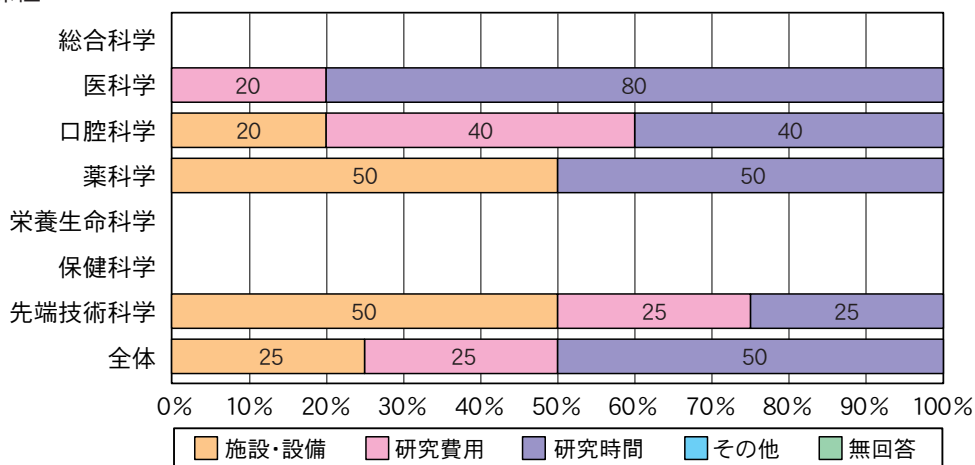
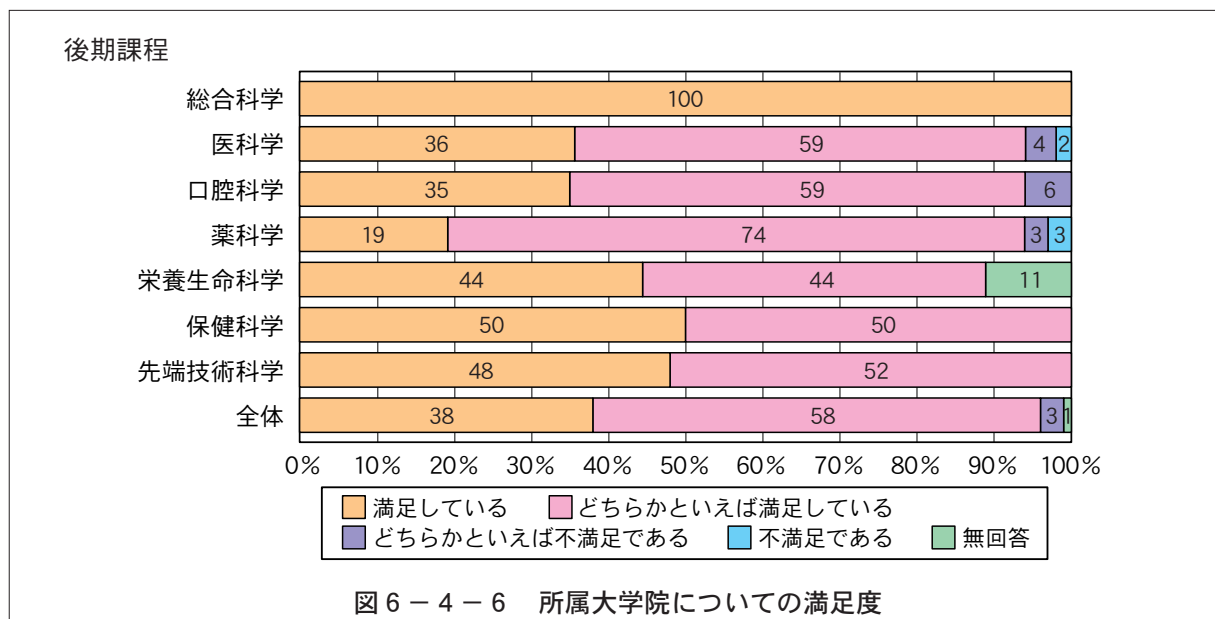
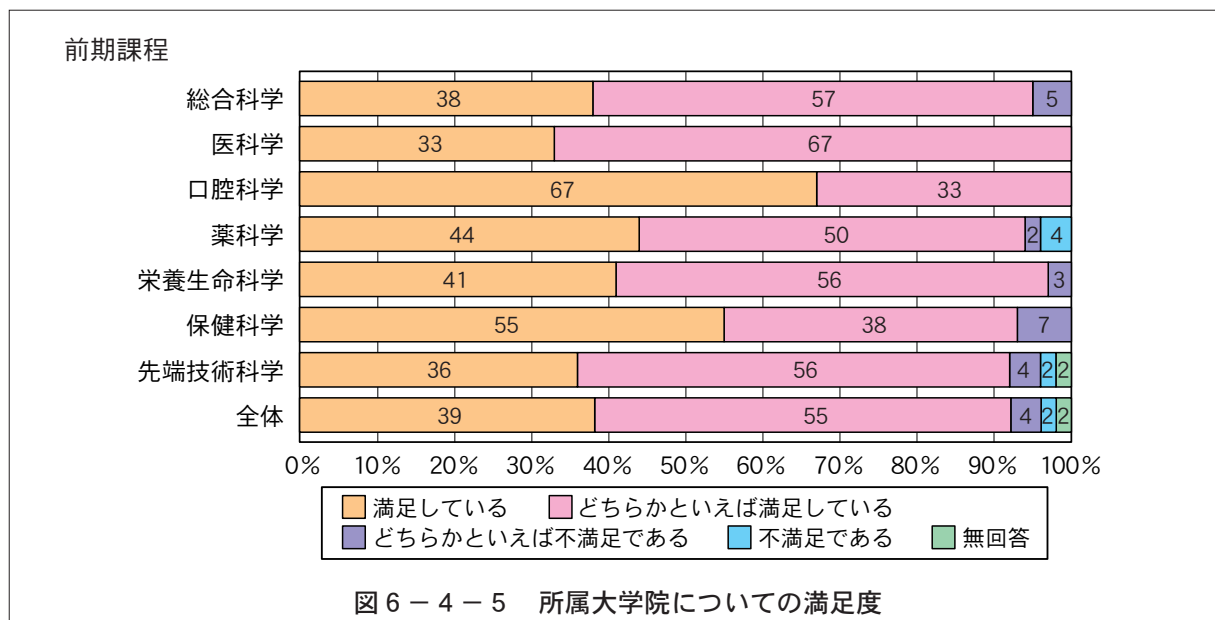


図6-4-4 研究環境に不満足な理由（複数回答可）

研究環境に満足していない前期課程学生にその理由を尋ねた設問への回答は、「施設・設備」が54%で最も多く、以下、「研究費用」が25%、「研究時間」が17%であった（図6-4-3）。医科学では、

全員が「研究時間」と回答している。一方、医学科以外の教育部では「施設・設備」を一番の要因としてあげている。また「研究費用」も学生の研究に対する不満の一つであることも教員は認識すべきである。図6-4-4より、研究環境に満足していない後期課程学生にその理由尋ねた設問への回答は、「研究時間」が一番の要因（50%）としてあげられた。第4回調査では「施設・設備」（42%）が一番の要因としてあげられており、大きな違いがあらわれた。この結果は、後期課程の学生が研究以外に時間を割かれている、ということの警鐘であると理解すべきと考える。

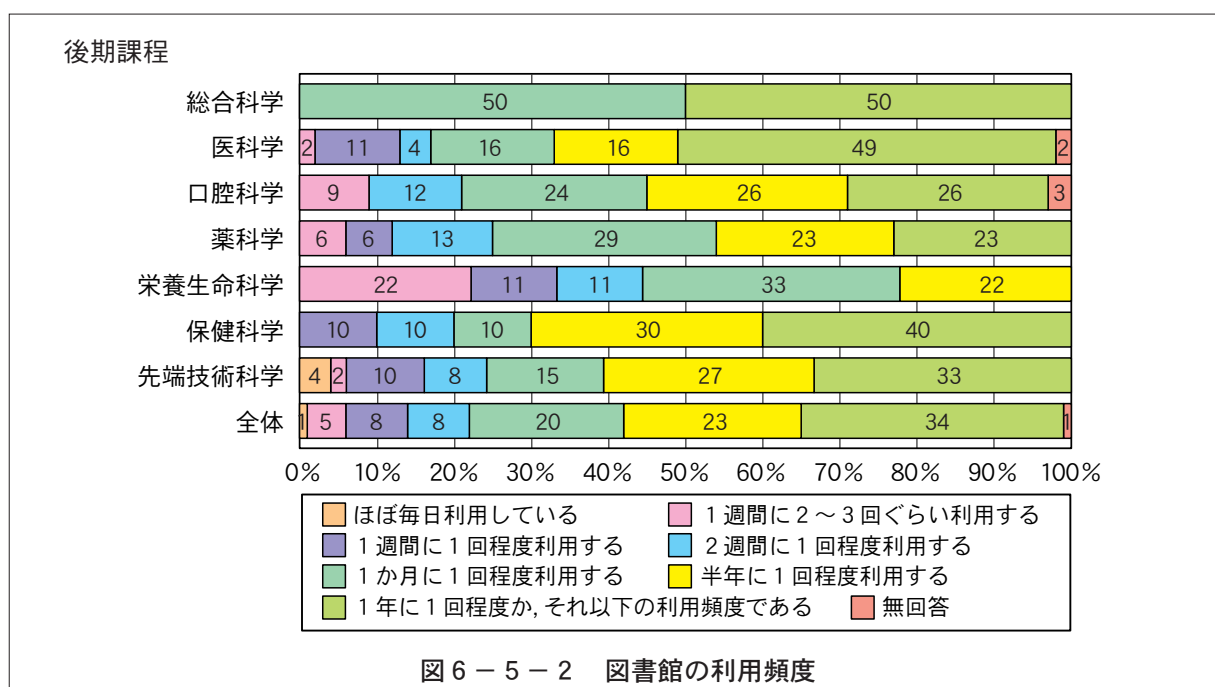
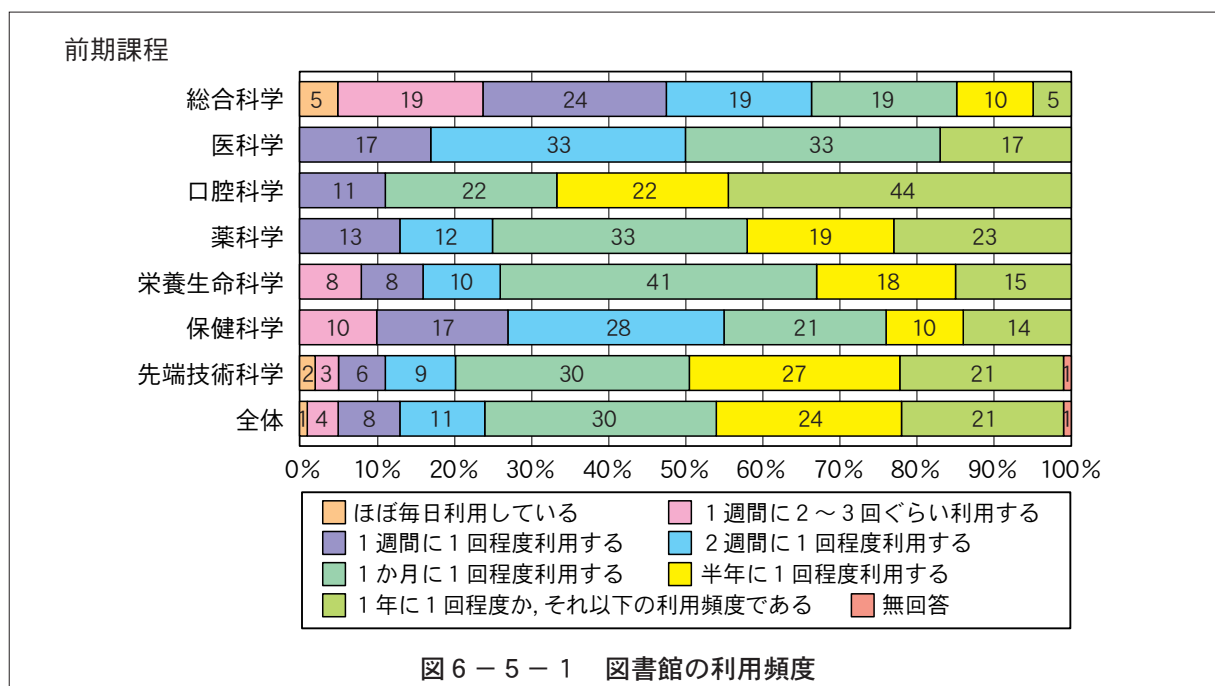
図6-4-5より、所属大学院の満足度についての設問に対する前期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が55%で最も高く、以下、「満足している」が39%、「どちらかといえば不満足である」が4%、「不満足である」が2%となっている。教育部別に見ると、医科学と口腔科学の満足度が高く、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた割合は100%であった。その他の教育部でも9割以上の学生が満足している結果となった。図6-4-6より、同設問に対する後期課程の学生の回答は、「どちらかといえば満足している」と答えた割合が最も高く（58%）、以下、「満足している」が38%、「どちらかといえば不満足である」が3%となっており、前期課程とほぼ同様な分布を示した。「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答え



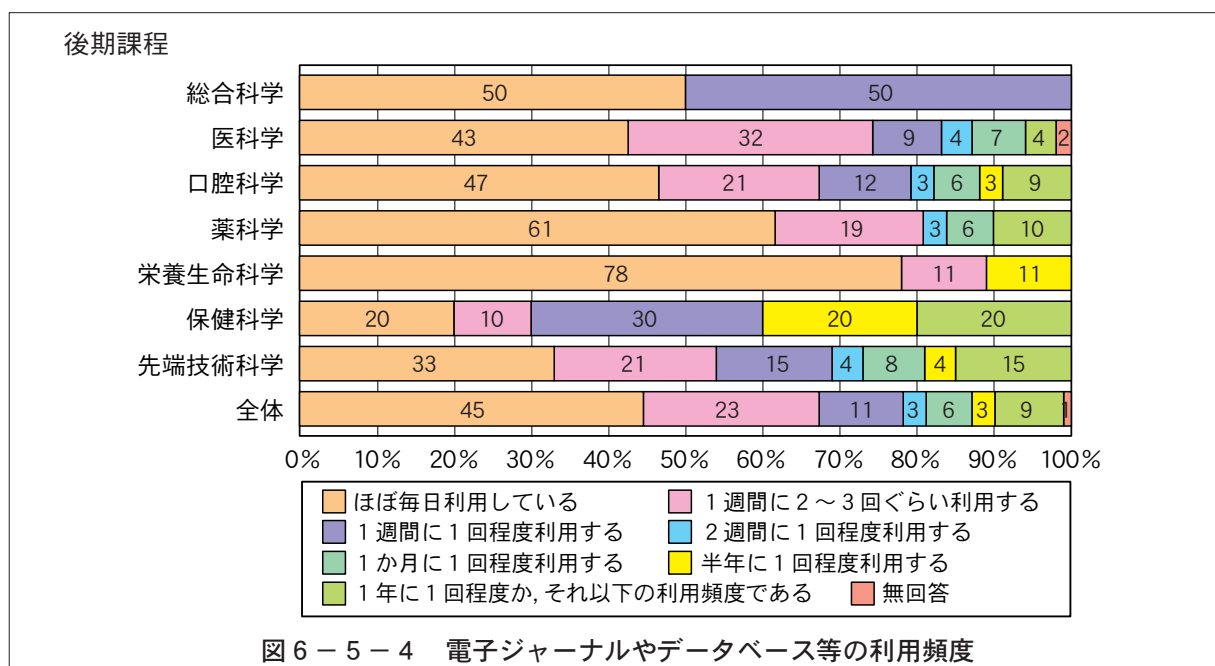
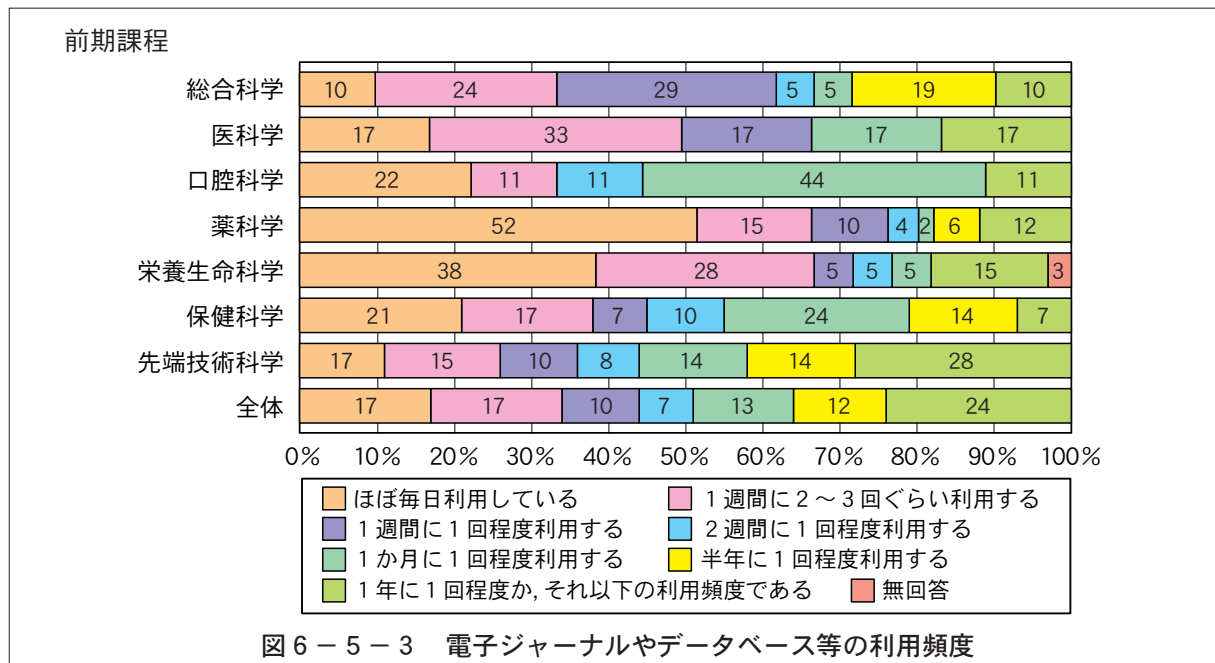
た割合は、総合科学と保健科学、先端技術科学で100%となっている。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程98%であった。

6-5 図書館の利用状況 (図6-5-1~6-5-6)

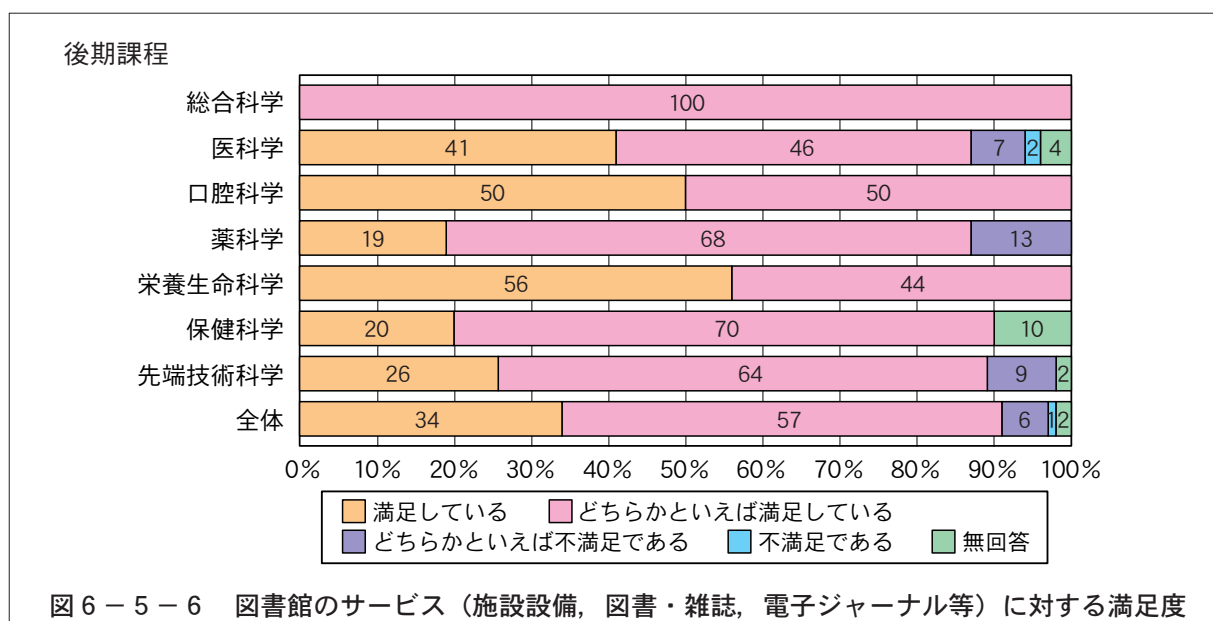
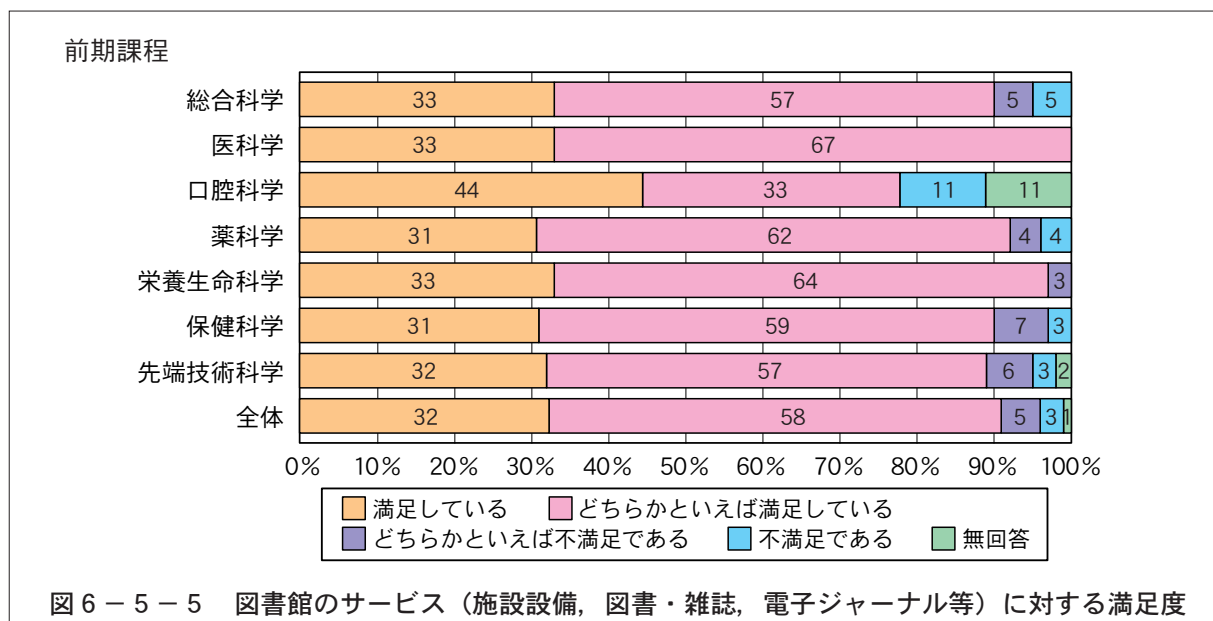
図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で13%、後期課程で14%であり、一昨年の第4回調査結果に比べると前期課程で5%、後期課程で3%、少なくなっている。利用頻度が週2-3回以上利用する学生の割合が高い教育部は前期は総合科学、保健科学、後期は栄養生命科学である。一方、前期では口腔科学、後期では総合科学、医科学の学生は一年に1回以下とほとんど利用しない学生の割合が約半分を占めている。(図6-5-1、図6-5-2)。



電子ジャーナルやデータベース等利用についての質問では1週間に1回以上利用する学生が、前期課程で44%、後期課程で79%であり、電子ジャーナルやデータベース等の利用は研究活動を行う上で重要となっていることが理解できる（図6-5-3、図6-5-4）。



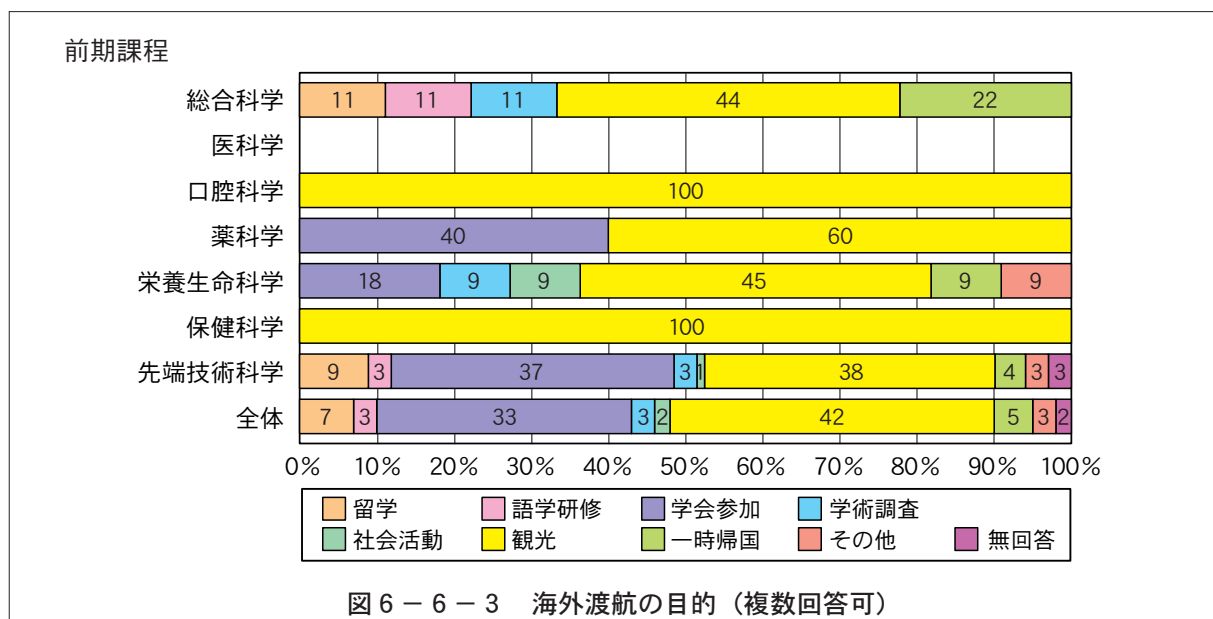
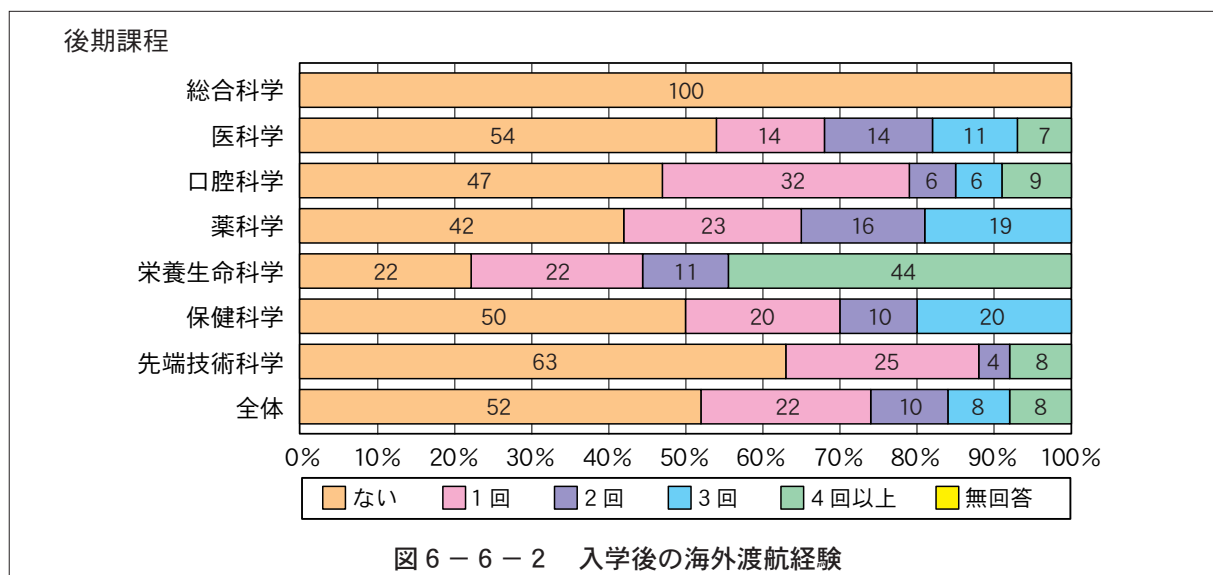
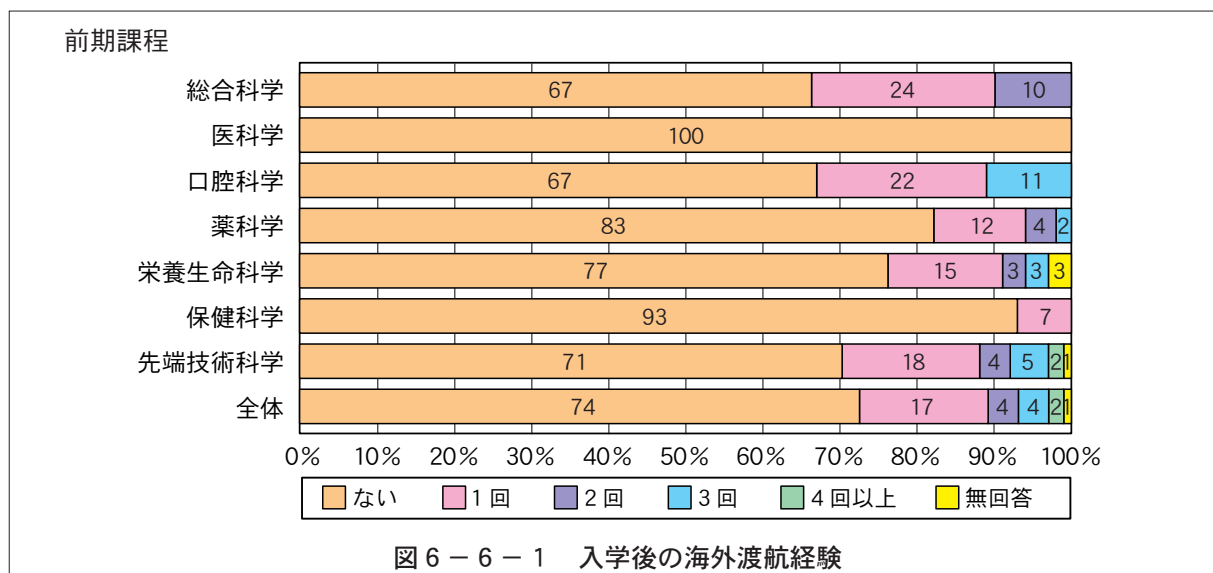
また、図書館のサービスに対する満足度も前期課程で90%、後期課程で91%の学生がある程度満足しており、図書館が提供するサービスとして学生からの評価も高い（図6-5-5、図6-5-6）。インターネットを利用した文献検索は大学院生の日々の研究活動に必要な不可欠のものとしてすでに定着しており、学生の自律的な研究活動を支援するためにも、インターネットで閲覧可能な学術雑誌の維持や、閲覧できるデータベースの年限の拡張、とさらなる拡充を含めた図書館ウェブサイトの継続的な整備が望まれる。また、学生が快適にウェブサイト検索を行えるためのハード面、ソフト面での充実も必要であろう。なお、留学生を対象としたアンケート調査結果でも電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度や図書館のサービスに対する満足度についても日本人学生とほぼ同様の回答が得られており、日本人学生と留学生の図書館利用に関する利用状況や整備ニーズに大きな差異はないと考えられる。



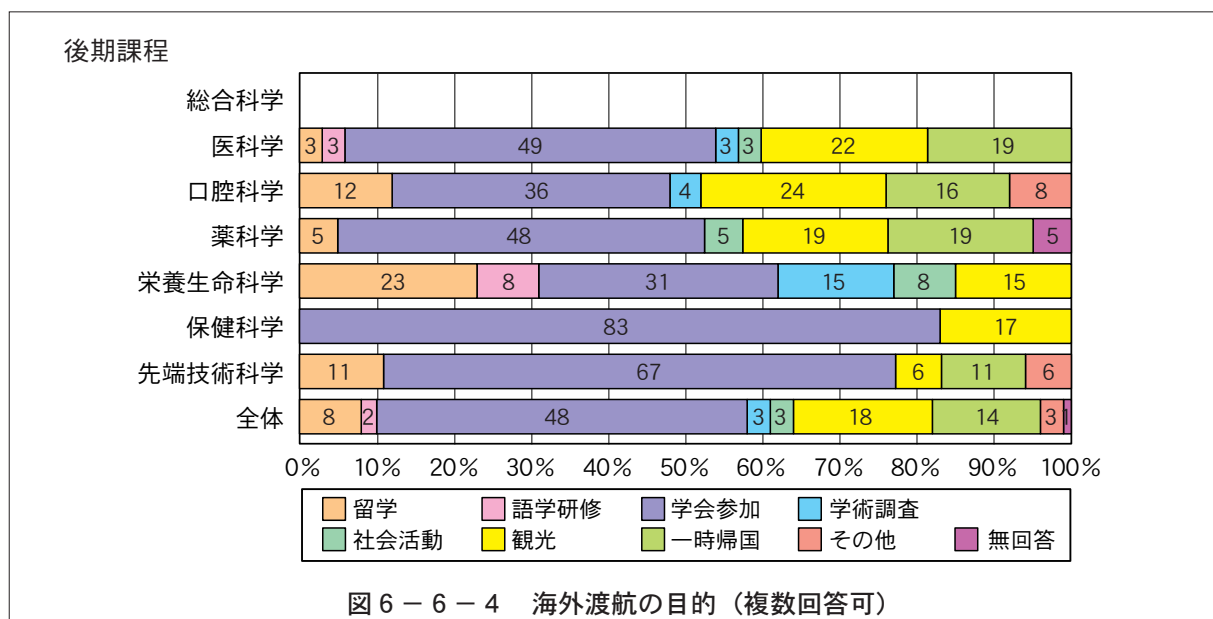
6-6 海外渡航の経験と英会話 (図 6-6-1~6-6-10)

入学後の海外渡航経験については、前期課程全体で74%の学生が「ない」と答えている。さらに、海外渡航経験のある学生でも1回の学生が17%である(図6-6-1)。これは第4回調査(平成24年度)の数値がそれぞれ70%、19%であり、渡航歴が増加しているとはいえない状況である。一方、後期課程の学生では「ない」と答えた学生は全体で52%となっており、半数の学生が1回以上、海外渡航経験を有することがわかる(図6-6-2)。また、栄養生命科学、薬科学、口腔科学、保健科学は渡航歴のない学生の割合が半分以下であり、国際交流が進んできていることがわかる。

海外渡航の目的についての回答では前期課程では観光目的42%、次いで学会参加が33%である。これに対して、後期課程学生では全体の48%が学会活動、18%が観光、8%が留学と回答している(図6-6-3、図6-6-4)。国際学会での発表など海外の学会参加を大学院の早い時期に経験することは研究意欲を高めるだけでなく、国際的に活動できる人材を育成する上で重要である。その意味で第3回調査時に減少した前期課程学生の学会参加を目的とした海外渡航の割合が減少したままになっているこ



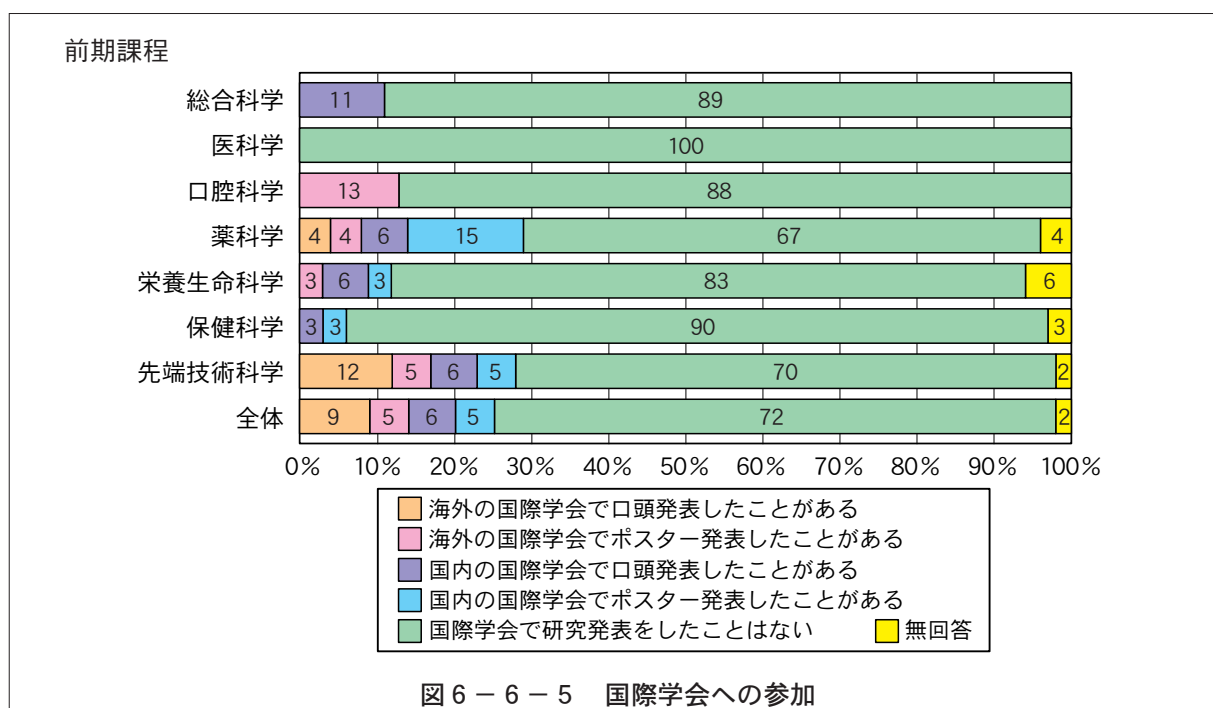
とはその原因についてきちんと検討する必要がある。経済変化など社会的要因も影響していると考えられるが、特に前期課程学生が学会参加を目的とした海外渡航を支援するシステムを検討する必要がある。



国内外での国際会議での発表経験を問うた質問では前期課程では全体の72%、後期課程でも全体の46%が「国際学会で研究発表をしたことがない」と答えている（図6-6-5、図6-6-6）。国際的に通用する有能な人材を育成するため、特に後期課程の学生においては国際学会での発表を義務化するなど教育カリキュラムからの環境整備も必要であろう。

英会話能力に関する質問では前期課程では全体でも69%の学生が「できない」か「あまりできない」と答えている（図6-6-7）。後期課程でも全体で56%の学生が「できない」か「あまりできない」（図6-6-8）であり、本学の日本人学生が英会話を苦手としていることが窺い知れる。

一方、英会話についての学習状況は前期・後期課程学生とも「何もしていない」という学生がそれぞれ44%、47%であり、多数の学生は語学修得に努力をしていないことがわかる（図6-6-9、図6-6-10）。語学の学習内容としては前期課程ではTOEICやTOEFLの受験が中心であり、実際に外国人と触れ合わないで学習するケースがほとんどである。一方、後期課程では外国人とのコミュニケーション、ラジオ・テレビの英会話番組、外国のラジオ・テレビの視聴、英会話学校の通学など多様



後期課程

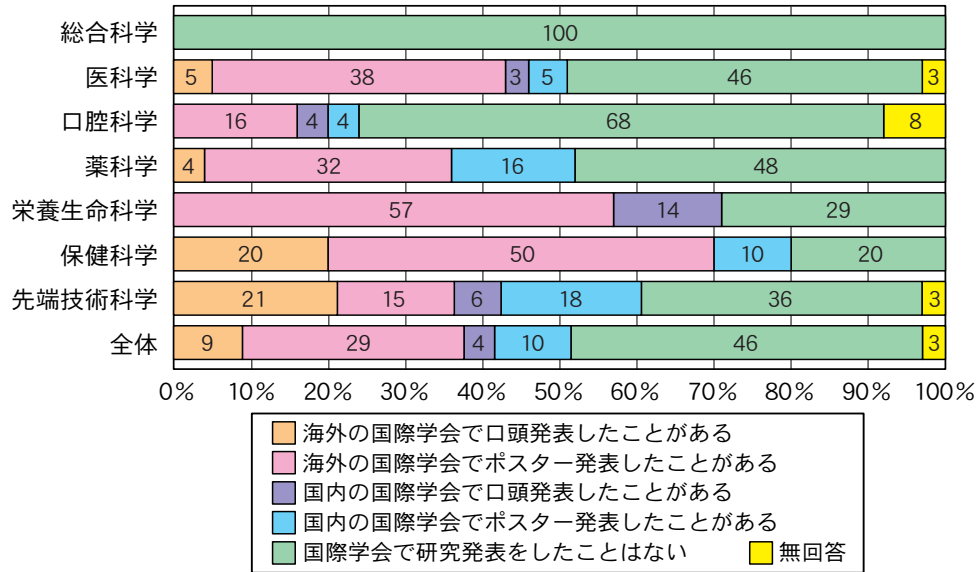


図 6 - 6 - 6 国際学会への参加

前期課程

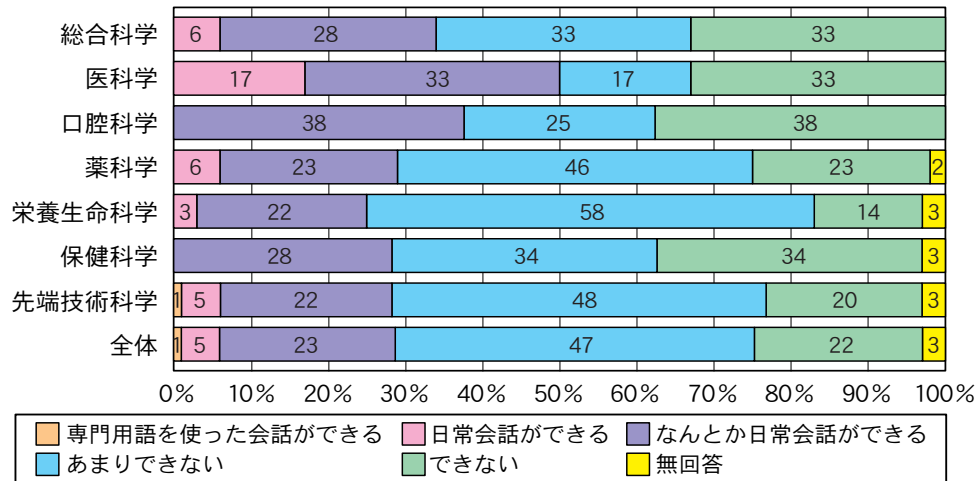


図 6 - 6 - 7 英会話（日本人のみ）

後期課程

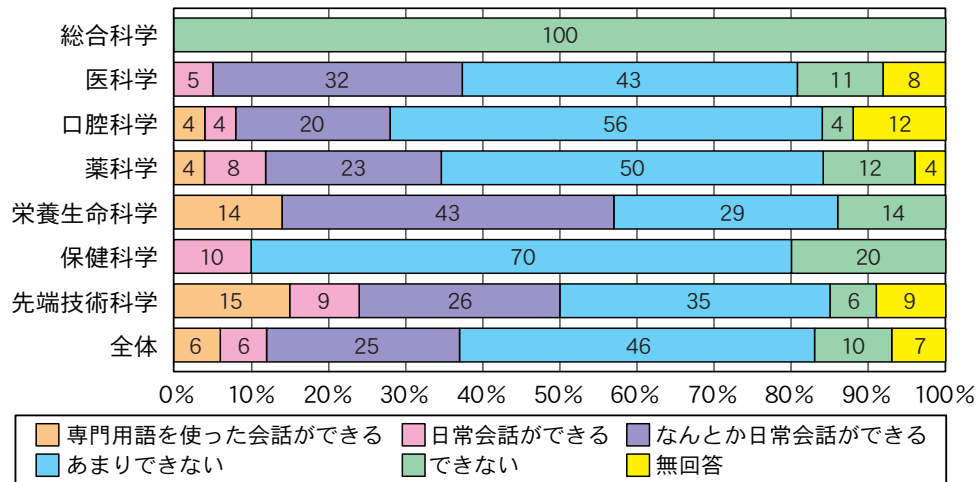
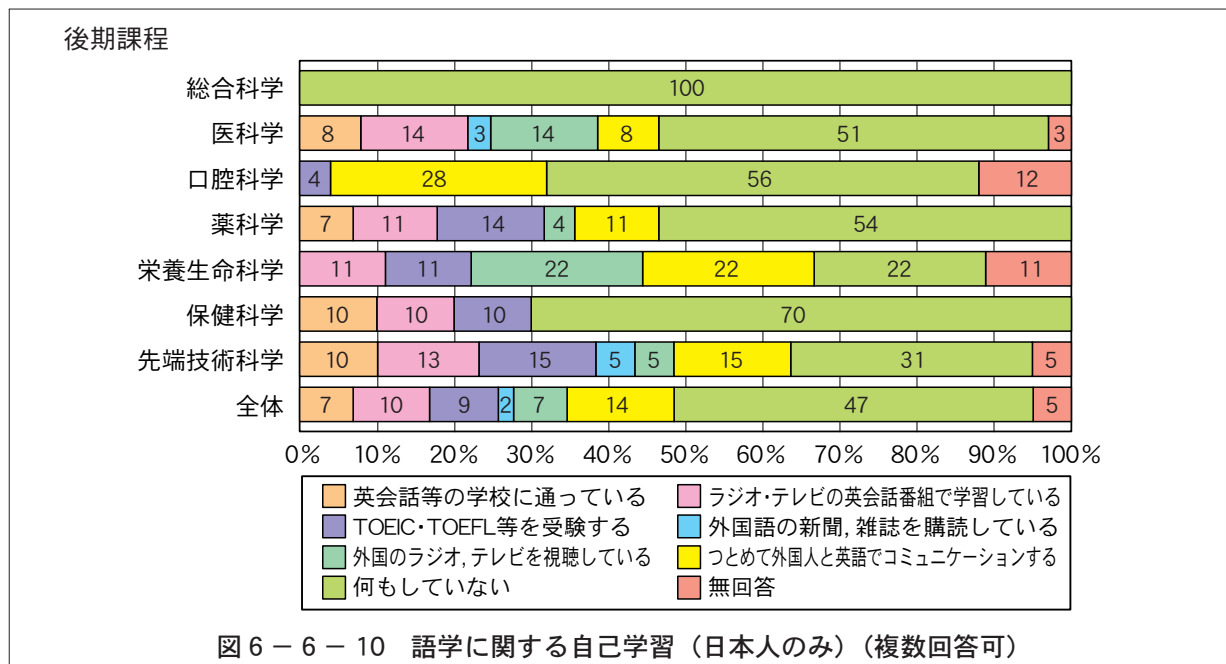
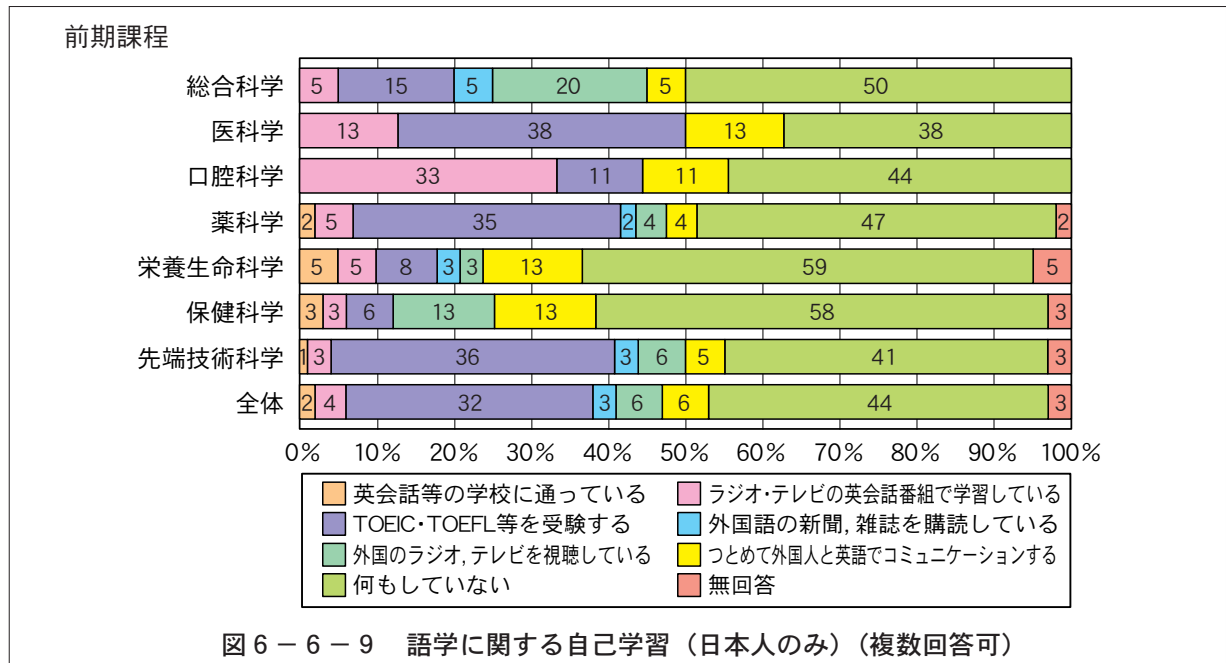


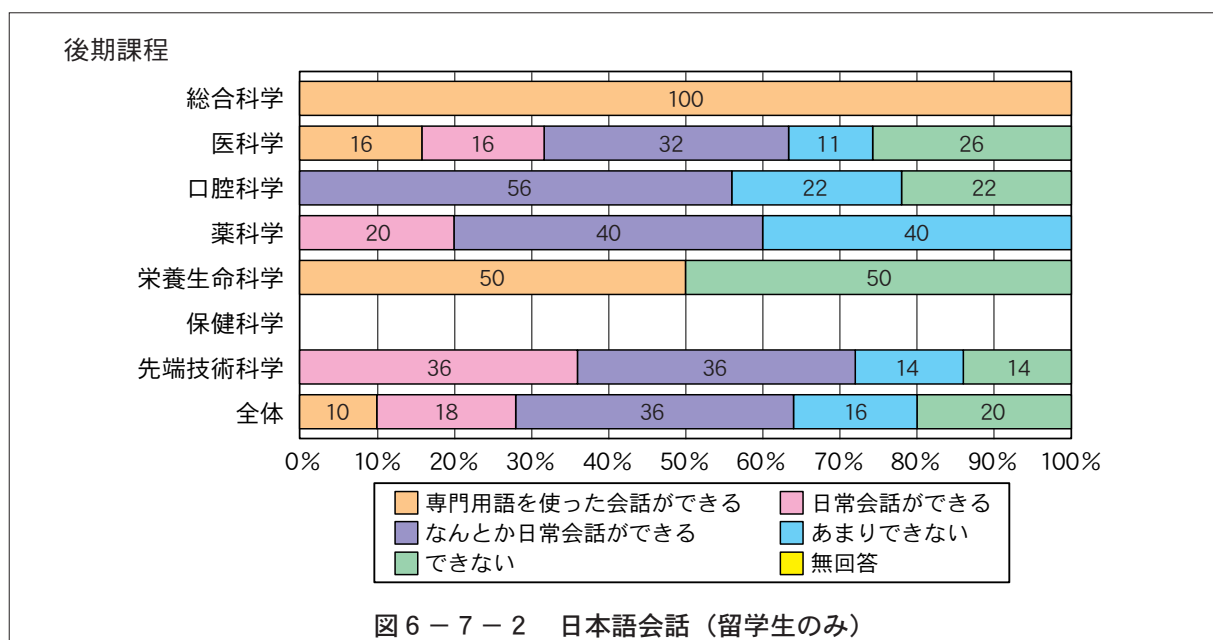
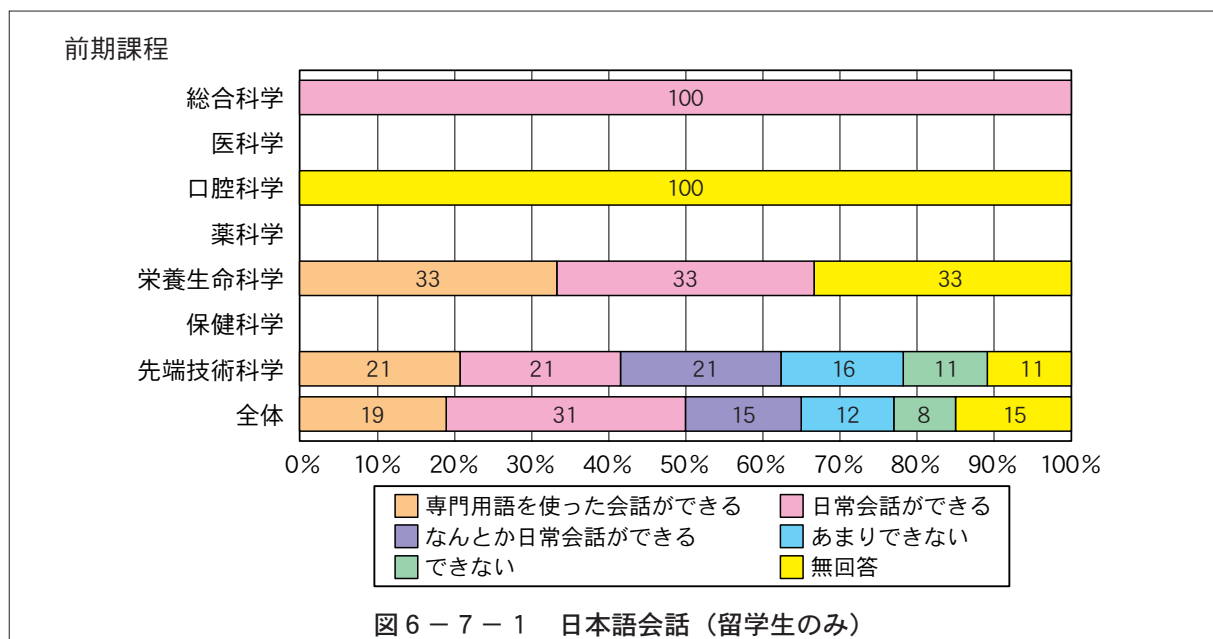
図 6 - 6 - 8 英会話（日本人のみ）

な方法で学習を行っていることがわかる。語学の学習努力を行っていない学生を減らすためには、国際学会への参加を義務化するなどの、きっかけづくりを含め、英語による教育カリキュラムの整備、大学院生が個人的に語学学習しやすくするための経済的援助、学内の留学生との交流など多面的な対策を検討する必要がある。



6-7 日本語会話 (図 6-7-1~6-7-6)

前期課程では65%の留学生、後期課程では64%が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている(図6-7-1, 図6-7-2)。なお、前期課程の回答者は26名で、その内19名は先端技術科学であり、各教育部別のデータの分析は不能である。今後の国際化の発展に伴って、留学生自身の日本語習得にたよることなく、事務手続き等、英語によって学生のサポートを可能とする体制の整備が必須である。



前期課程では69%、後期課程では88%の留学生が日本語コースを「受講している」あるいは「以前受講したことがある」、「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる（図6-7-3、図6-7-4）。

また、日本語コースの満足度については前期課程で88%、後期課程で94%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる（図6-7-5、図6-7-6）。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。

前期課程

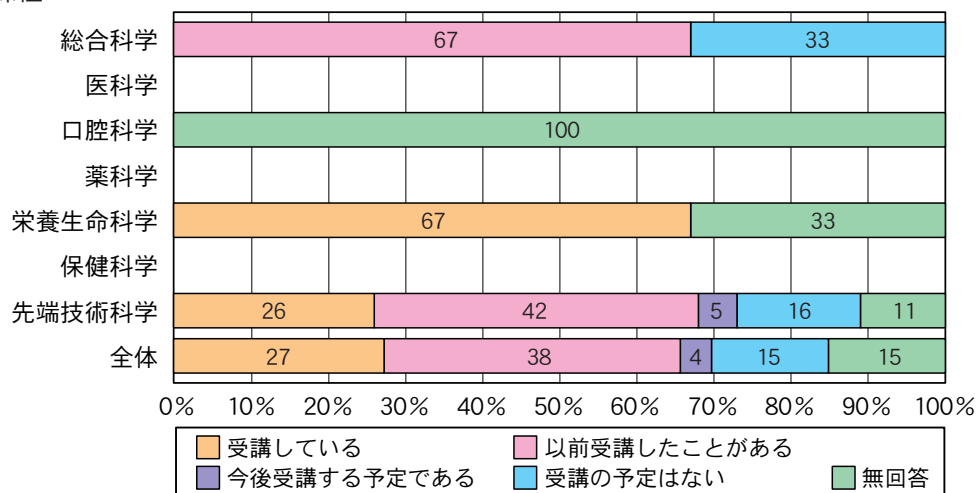


図 6-7-3 日本語コースの受講（留学生のみ）

後期課程

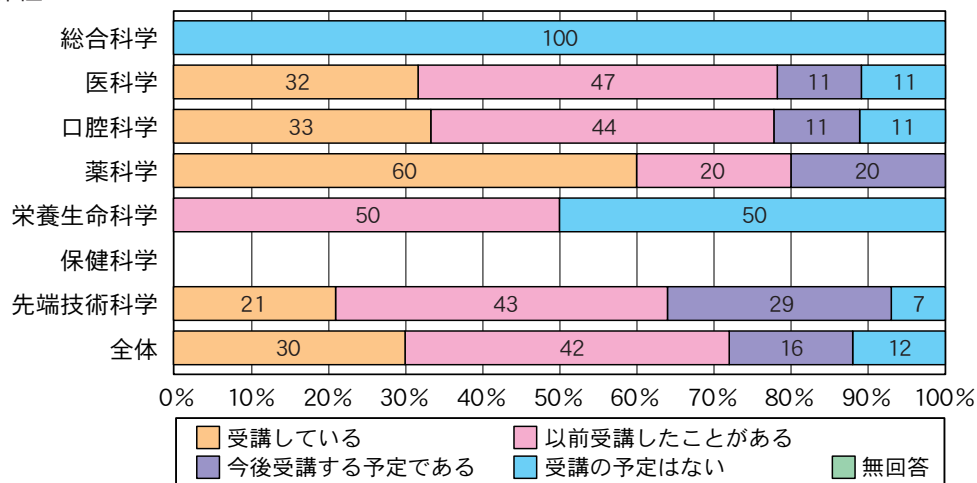


図 6-7-4 日本語コースの受講（留学生のみ）

前期課程

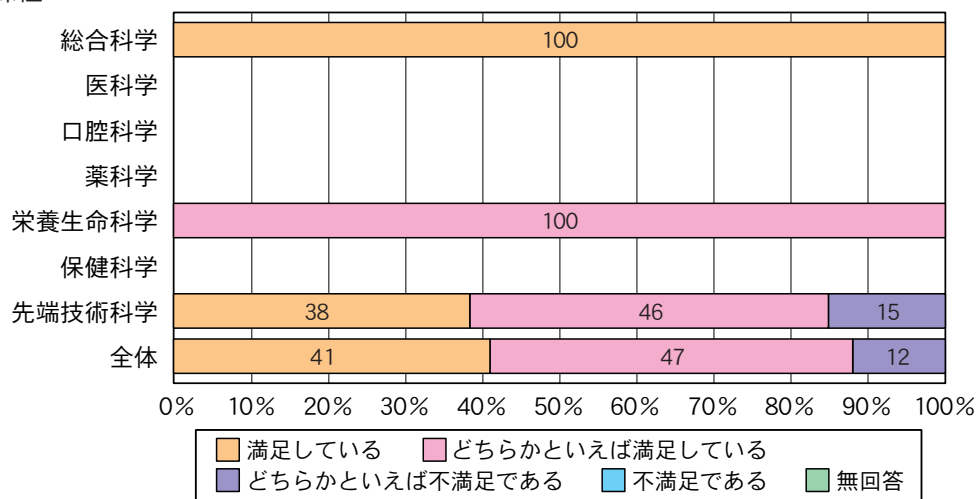
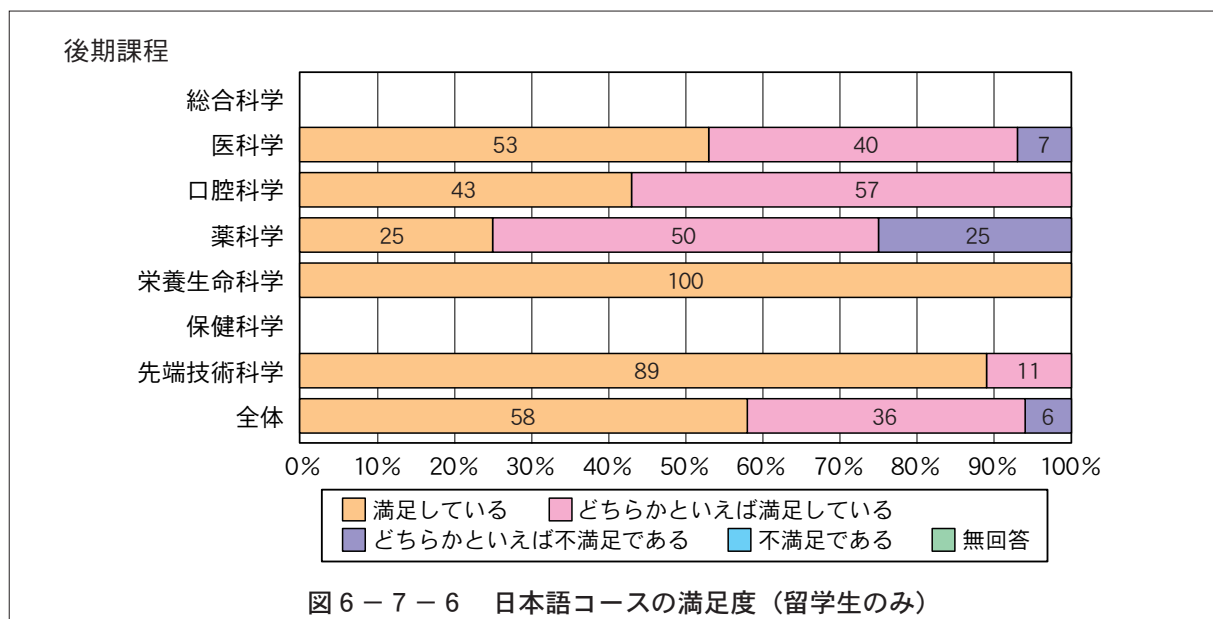


図 6-7-5 日本語コースの満足度（留学生のみ）

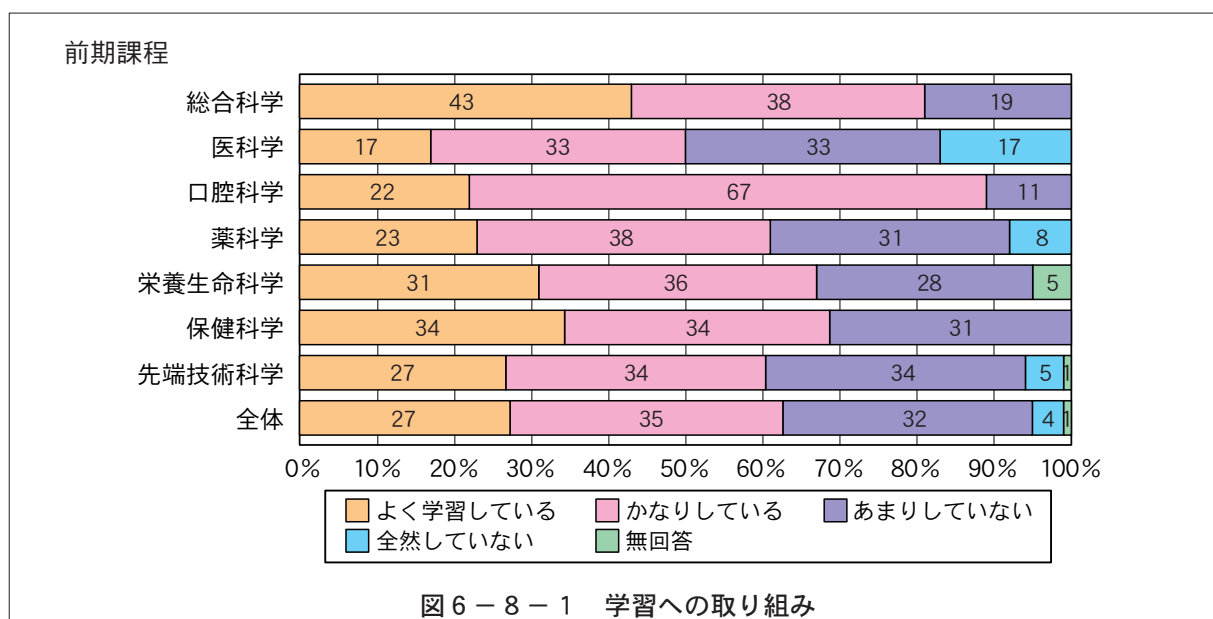


6-8 学習への取り組みと本学の教育への期待 (図 6-8-1 ~ 6-8-8)

大学院での学習への取り組み状況についての質問に対して、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生は前期課程全体で62%，後期課程全体79%である(図6-8-1, 図6-8-2)。これは第4回調査の63%および68%に比べるとほぼ同じであり、学習量が増加していない。教育部別では前期課程の口腔科学と総合科学が80%を超える学生がよく学習していると答えているのに対して、前期課程の医学科では40%を超える学生が「あまりしていない」、「全然していない」と回答しており、学習意欲がやや低いことが案じられる。

一方、留学生は、前期課程全体で85%，後期課程全体で94%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っており、一般学生の学習意欲を高めるための取り組みが急務と言える(図6-8-3, 図6-8-4)。

「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」として、6種類の選択肢を選んでもらった設問では前期課程、後期課程ともほぼ均等に意見が分かれた。これは第4回調査でも同じ結果が得られて



後期課程

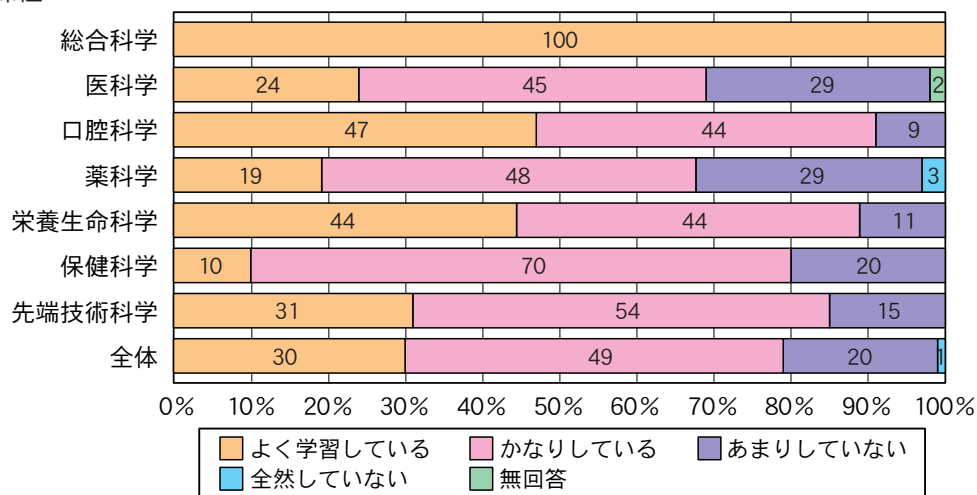


図6-8-2 学習への取り組み

前期課程

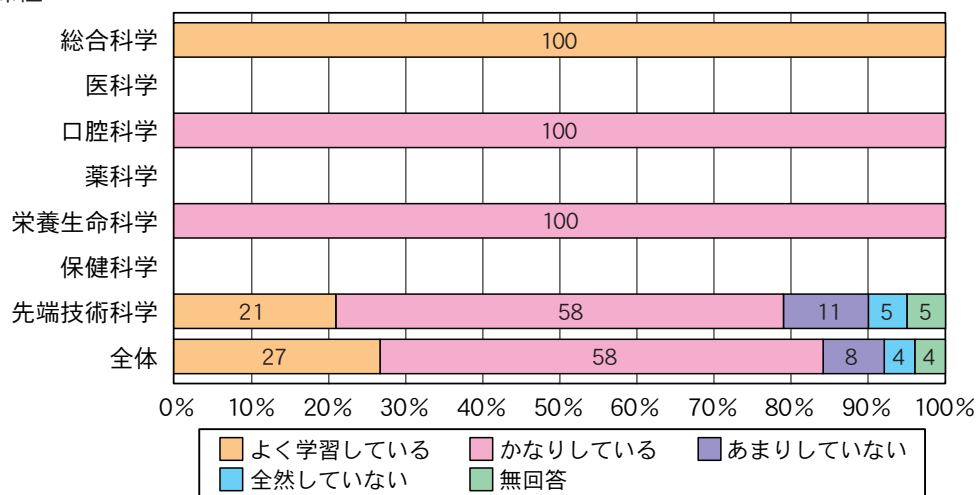


図6-8-3 学習への取り組み（留学生のみ）

後期課程

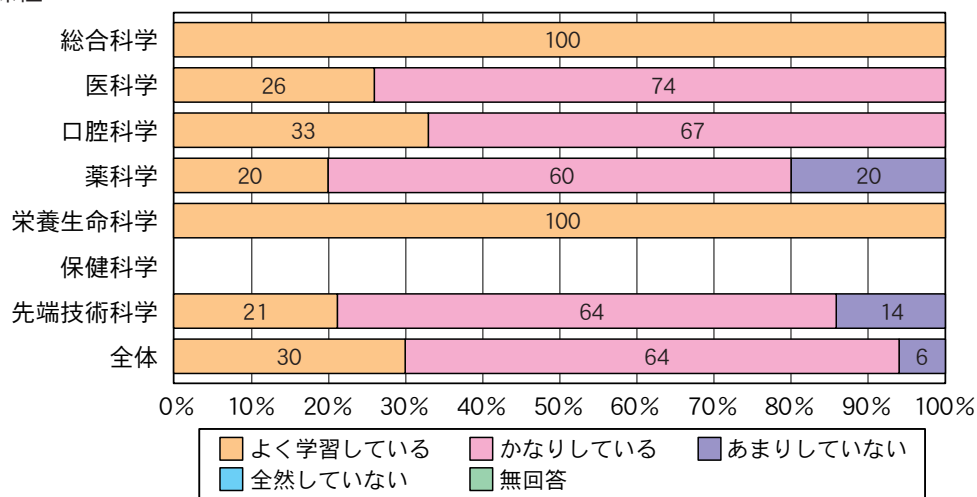
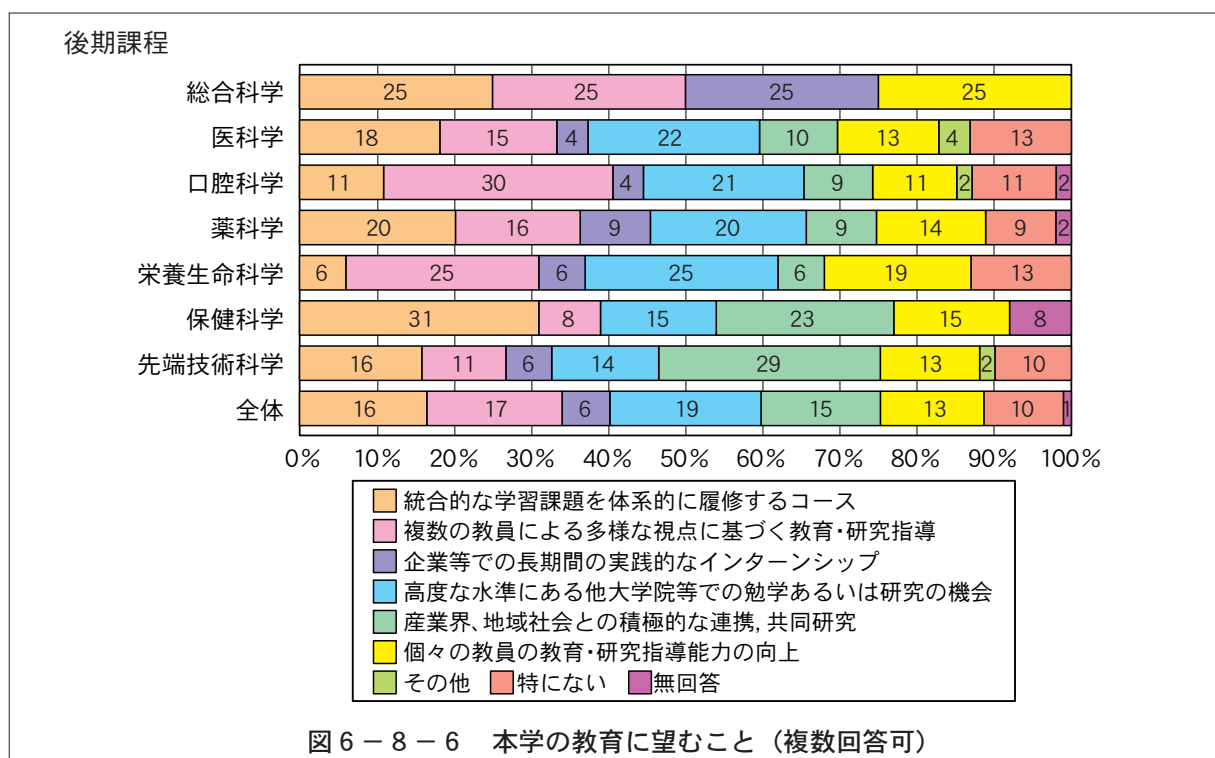
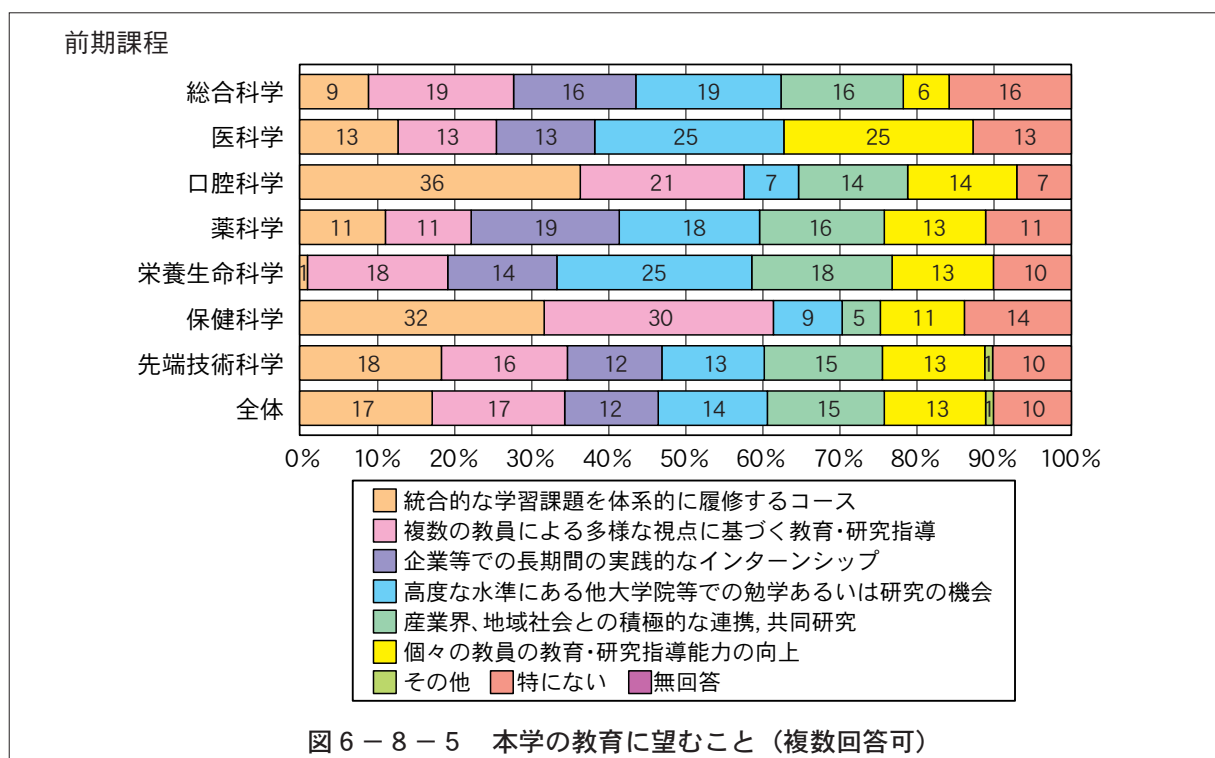


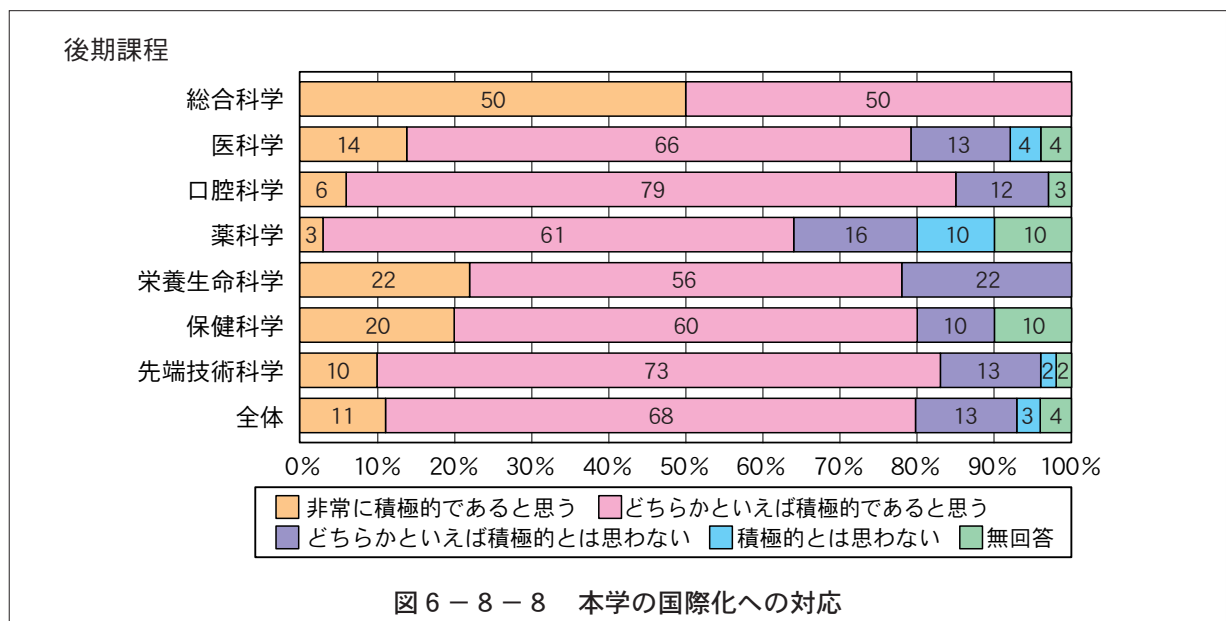
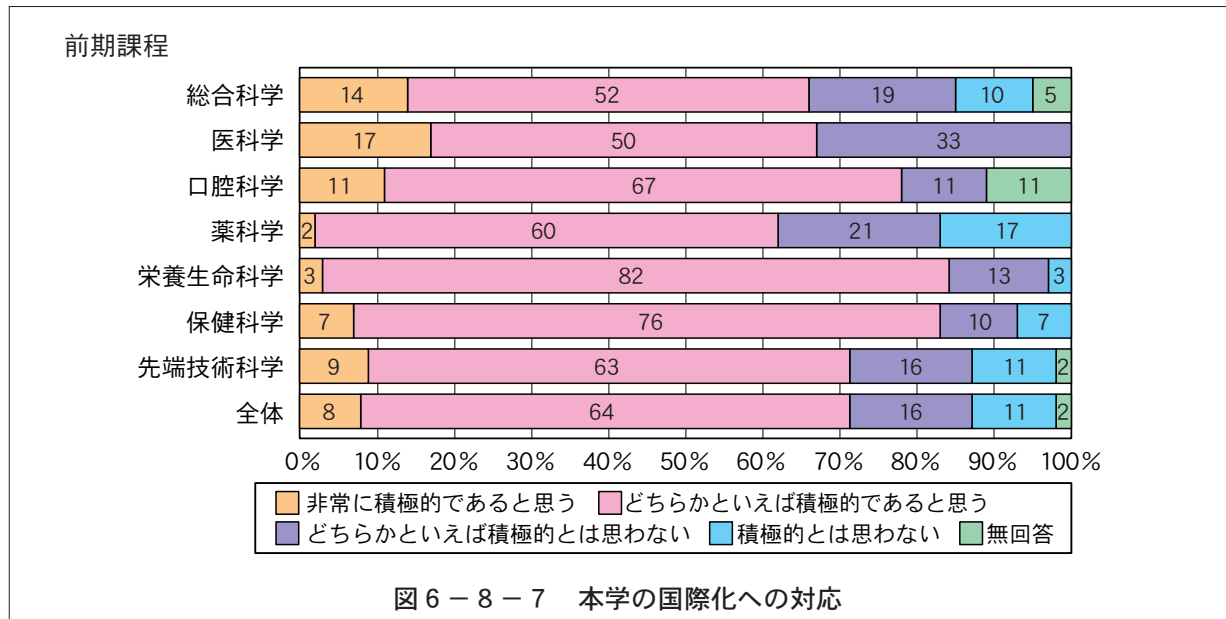
図6-8-4 学習への取り組み（留学生のみ）

おり、選択肢の内容から学生ごとにニーズが異なると考えられ、学生毎のきめ細かい対応を図る必要があると考えられる（図6-8-5、図6-8-6）。



本学の国際化への対応については、前期課程の72%、後期課程の79%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と回答しており、本学の国際化を進めるための取組みについてある程度大学院生は評価している（図6-8-7、図6-8-8）。また、留学生に注目した場合には前期課程の77%、後期課程の92%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えている。こうした結果は第4回調査とほぼ同じであり、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられる。一方、学生側は英会話習得に向けての学習努力や国際

学会における発表経験など、大学側に比べて十分な対応がなされているとは言い難い。さらに、各教育部において、教育カリキュラムの組織的展開を強化し、国際的に通用する質の高い大学院教育の提供を目指さなければならない。大学院生の大学の国際化への対応の評価が直接大学生自身の努力や学会経験につながるよう、さらなる改善が必要である。

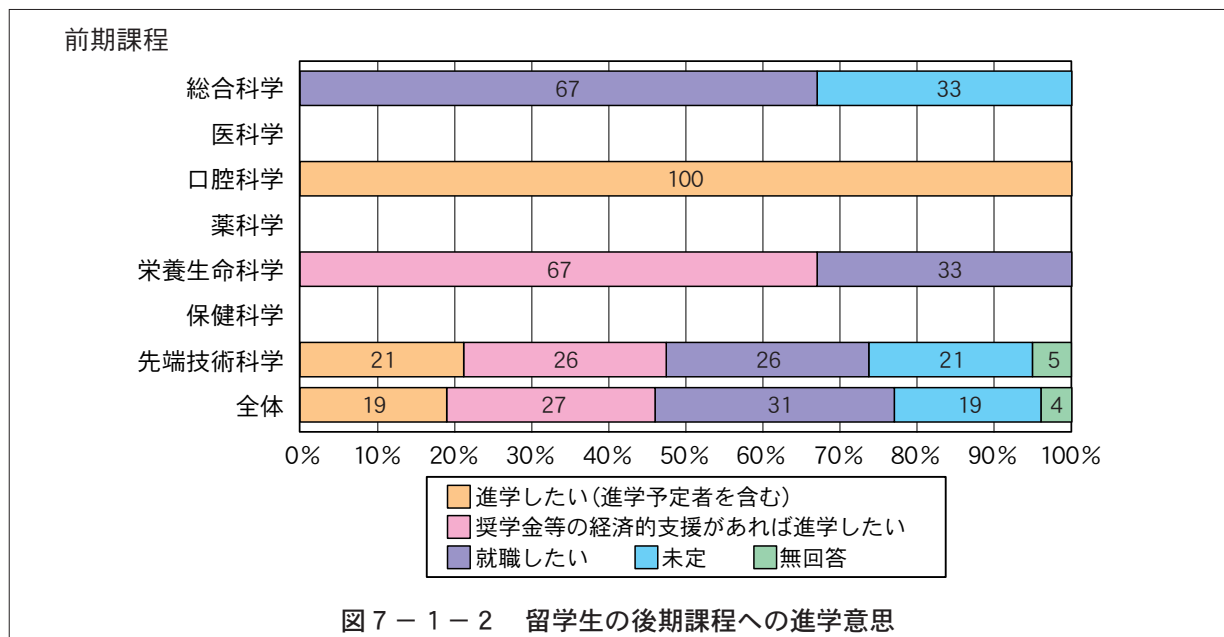
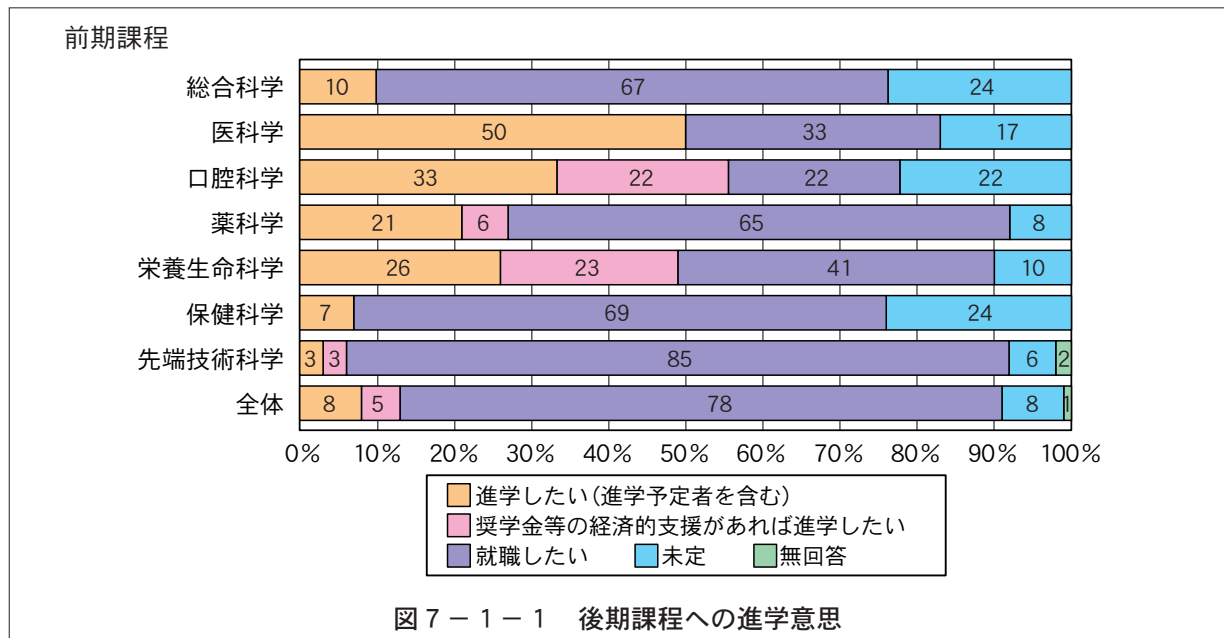


第7章 進路選択・就職について

7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1, 図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思が高いのは医科学で、質問項目 No.74 に対する「進学したい」との回答は50%に達している。次いで、口腔科学で33%、栄養生命科学で26%、薬科学で21%であった。また「経済的支援があれば進学したい」との回答は、栄養生命科学で23%、口腔科学で22%、薬科学で6%であった。このように、栄養生命科学、口腔科学では経済的な問題が解決されれば進学を考える前期課程の学生が20%を超しており、前期課程全体でも5%の学生が同様な考えを有している。

逆に先端技術科学の85%をはじめ、総合科学・薬科学・保健科学等の各教育部はいずれも65~70%が「就職したい」と回答しており、全体での割合は78%に及んでいる。第4回調査時と比較すると、全体的な傾向に大差は見られないが、口腔科学・栄養生命科学において就職希望者が約30~40%減少し



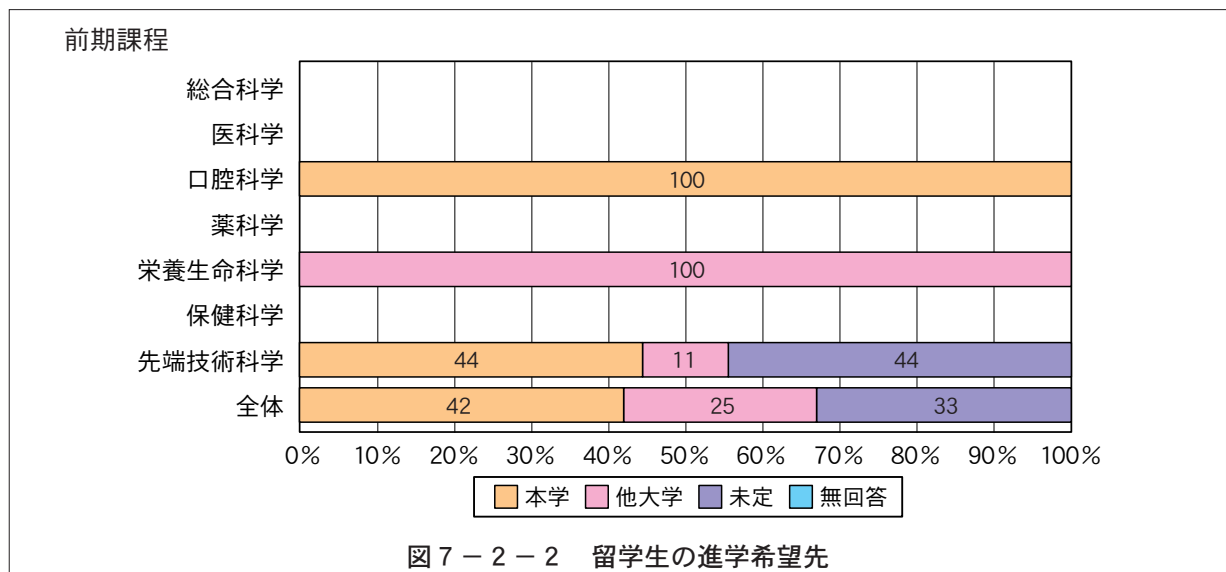
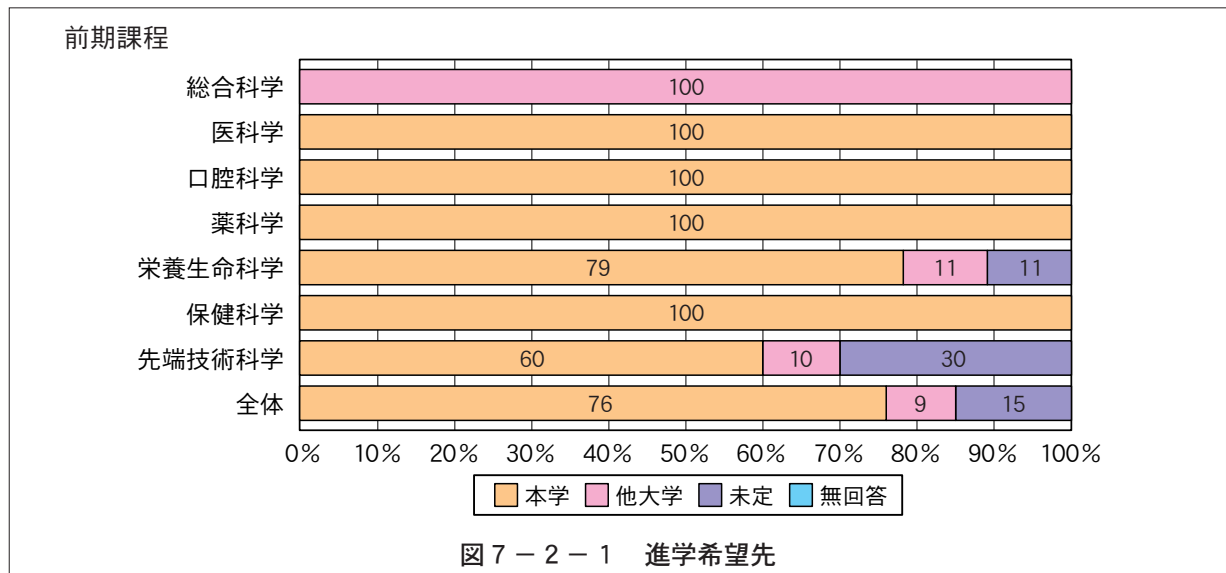
ている。項目7-3で後述するが、先端技術科学の前期課程院生の大半は企業等の技術職や研究職を目指していることから、就職希望者が圧倒的に多い傾向にある。

なお留学生の場合、全体として「進学したい」19%、「経済的支援があれば進学したい」27%であり、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。

7-2 進学希望先 (図7-2-1, 図7-2-2)

前項目で進学意思（「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」）を示した学生（75名）の進学希望先大学院調査である。全体で76%が本学の、また9%が他大学の後期課程に進学することを希望している。医科学・口腔科学・薬科学・保健科学では、全員が本学の後期課程への進学を希望しており、栄養生命科学・先端技術科学ではそれぞれ11%、10%が他大学への進学を希望している。また総合科学では回答人数が2名と少ないが、他大学への進学希望が100%であり、今後の対策が望まれる。

留学生の場合、42%が本学の、また25%が他大学の後期課程を希望している。



7-3 就職希望職種 (図7-3-1~図7-3-4)

図7-3-1は、項目7-1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生(518名)の就職希望職種である。前期課程の場合、前出の図7-1-1より分かるように、「就職したい」あるいは「未定」と答えた学生の比率は、高い順に保健科学(93%)・総合科学(91%)・先端技術科学(91%)・薬科学(73%)・栄養生命科学(51%)・医科学(50%)・口腔科学(44%)である。各教育部における主な希望職種は、それぞれ、保健科学：専門職(医師等)60%(第4回調査時64%)、総合科学：企業等の研究職19%(第4回調査時18%)、公務員15%(第4回調査時23%)、事務職15%(第4回調査時5%)教育職12%(第4回調査時5%)、先端技術科学：技術職58%(第4回調査時56%)、企業等の研究職18%(第4回調査時17%)、薬科学：企業等の研究職57%(第4回調査時50%)、技術職17%(第4回調査時26%)、栄養生命科学：公務員24%(第4回調査時17%)、教育・研究職24%(第4回調査時10%)、医科学：技術職33%(第4回調査時25%)、企業等の研究職22%(第4回調査時0%)、教育職11%(第4回調査時0%)、公務員11%(第4回調査時0%)、口腔科学：企業等の研究職33%(第4回調査時0%)、専門職(医師等)33%(第4回調査時33%)となっている。

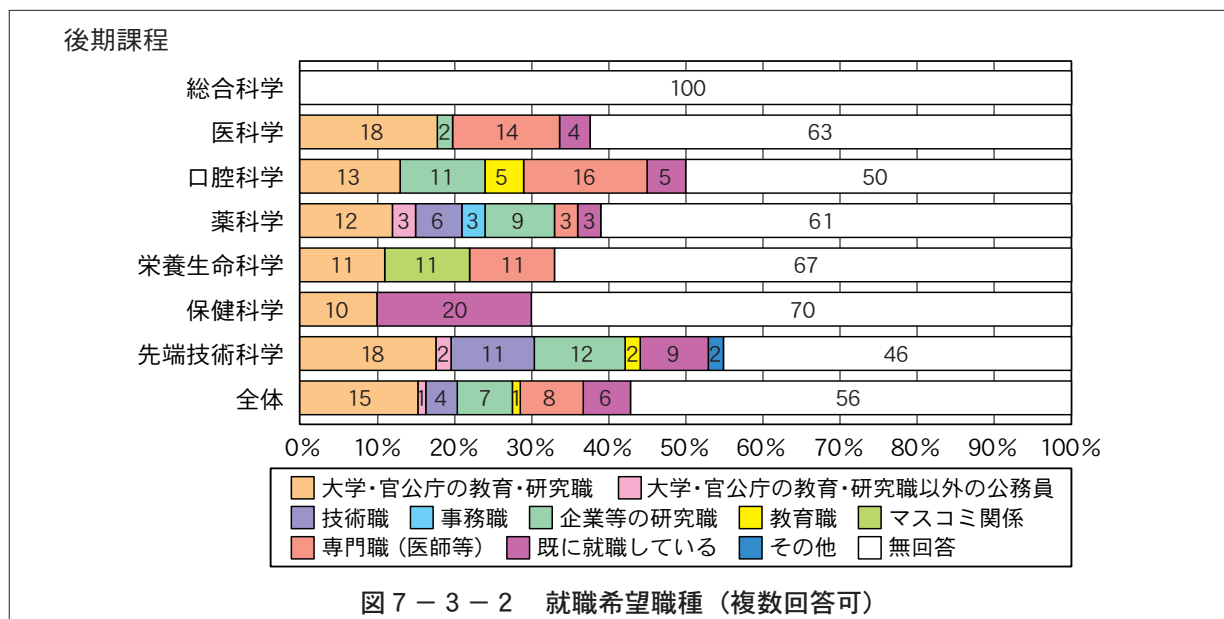
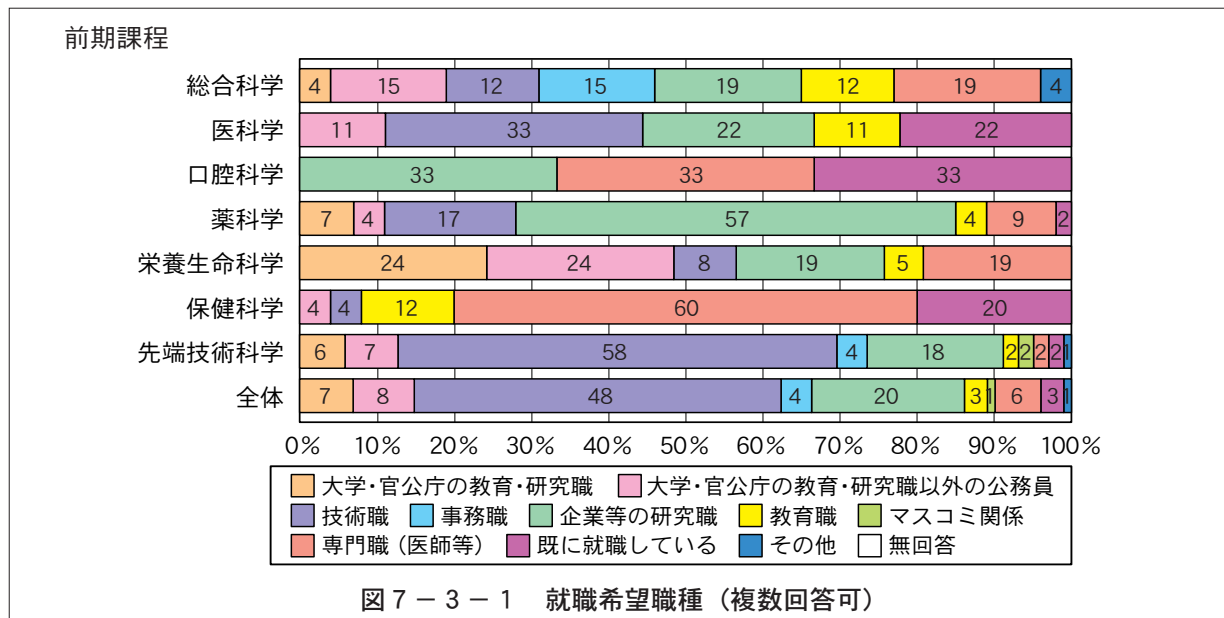
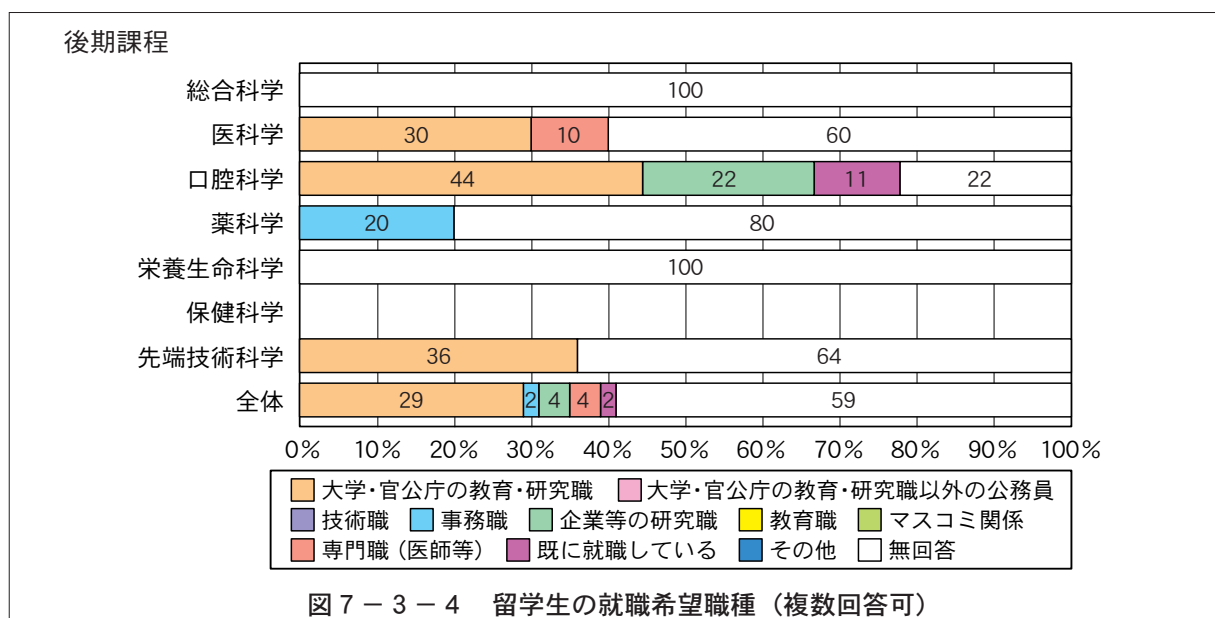
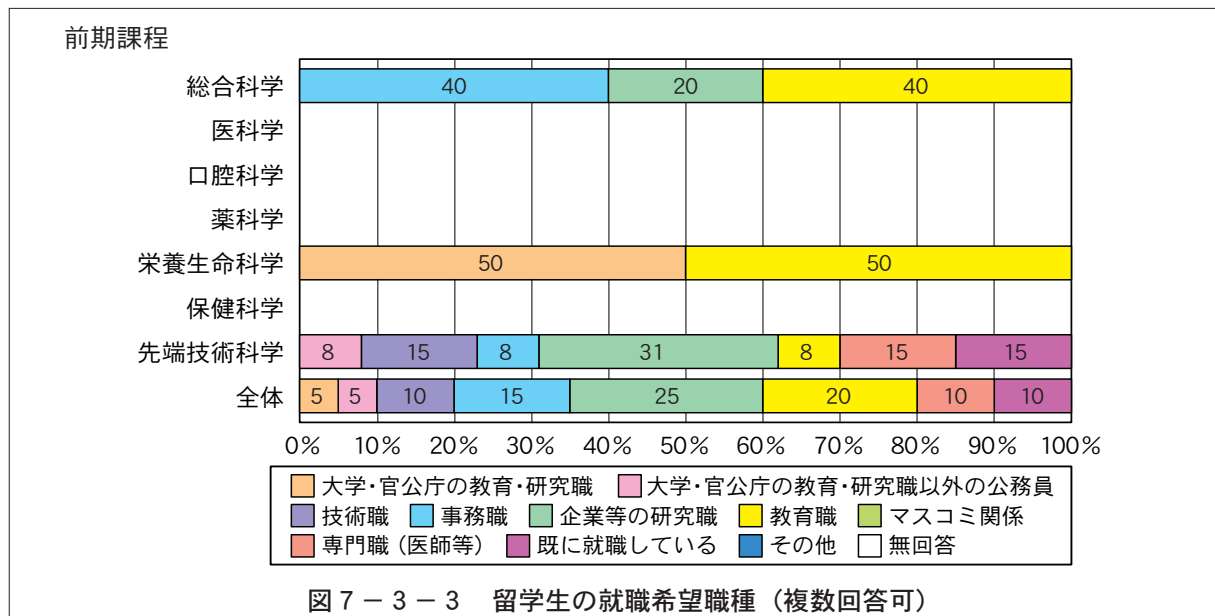


図7-3-2は後期課程の日本人学生に就職希望職種を尋ねたものである。全回答者（206名）の56%が無回答であった。全体では、大学・官公庁の教育・研究職（15%）を希望しているものが比較的多いが、専門職（医師等）（8%）、企業等の研究職（7%）、技術職（4%）、教育職（1%）に分散している。

留学生に関しては、博士前期の回答者は20名（総合科学5名、栄養生命科学2名、先端技術科学13名）であり、後期課程の回答者は51名（総合科学1名、医科学20名、口腔科学9名、薬科学5名、栄養生命科学2名、先端技術科学14名）である。前期課程では企業等の研究職が25%と最も多く、教育職20%、事務職15%、技術職10%、専門職10%、大学・官公庁の教育・研究職5%、公務員5%と続いている。後期課程では無回答が59%を占めるが、29%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。



7-4 進路選択の要件 (図7-4-1~図7-4-4)

図7-4-1は前期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたもので3個以内の複数回答結果である。教育部全体では「就職先の将来性・安定性」が28%と最高であり、「収入」(24%)、「能力を發揮できること」(16%)、「勤務地の地理的条件」(12%)が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、医科学では「勤務地の地理的条件」(33%)が、また口腔科学では「能力を發揮できること」(29%)が最も重視されているのが特徴的である。

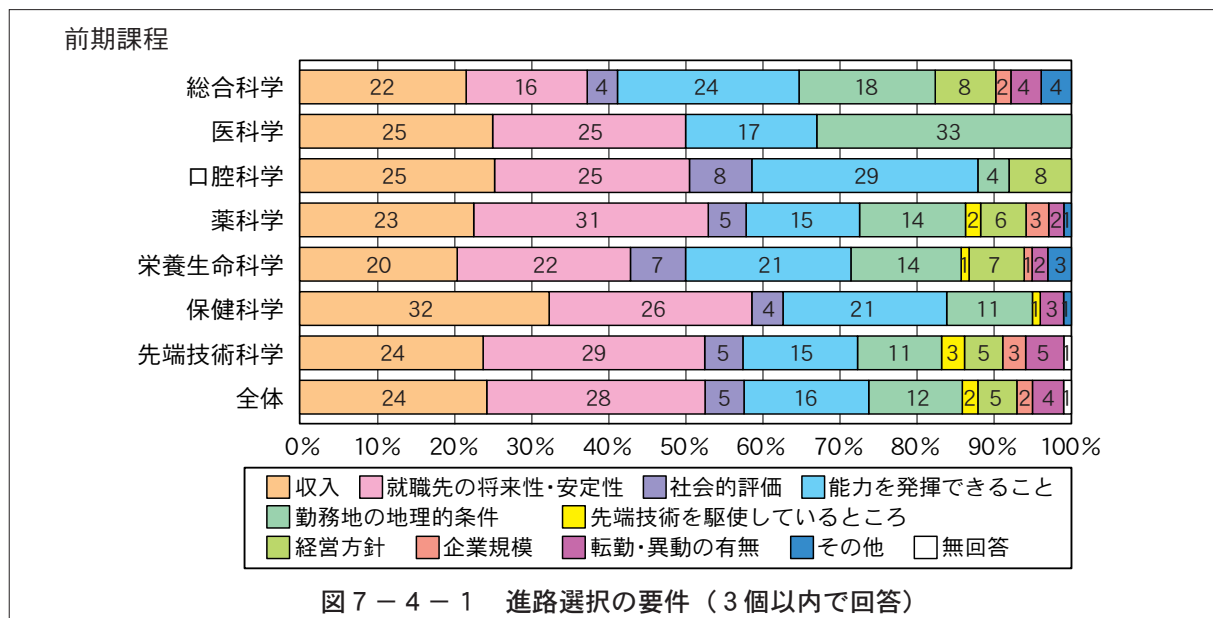
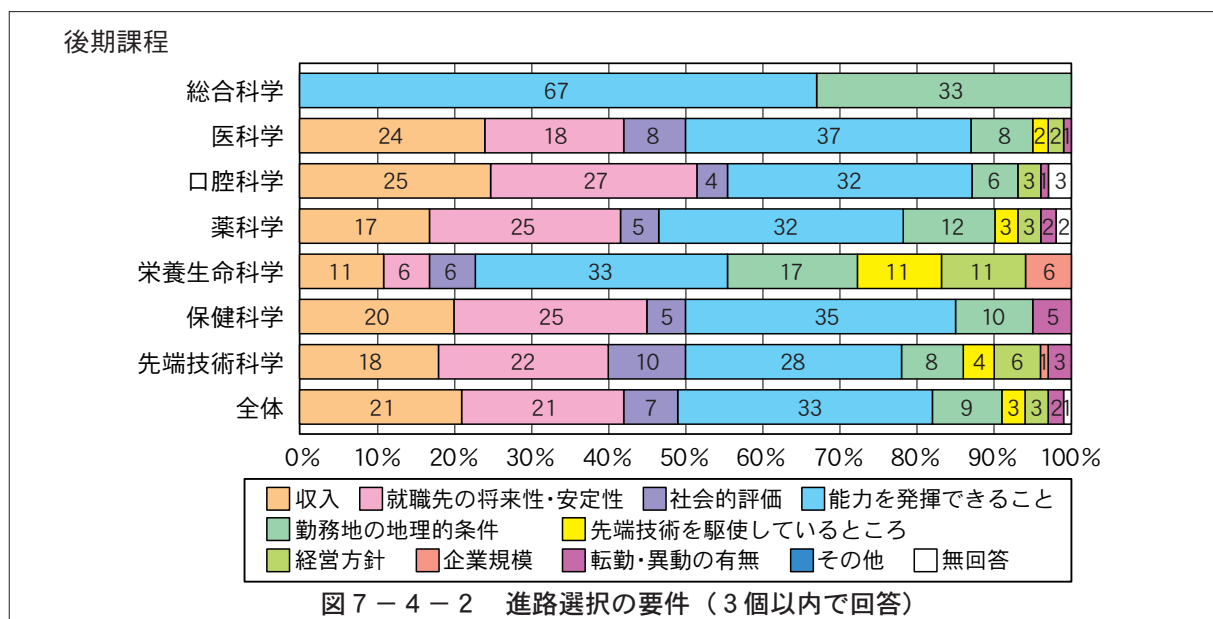
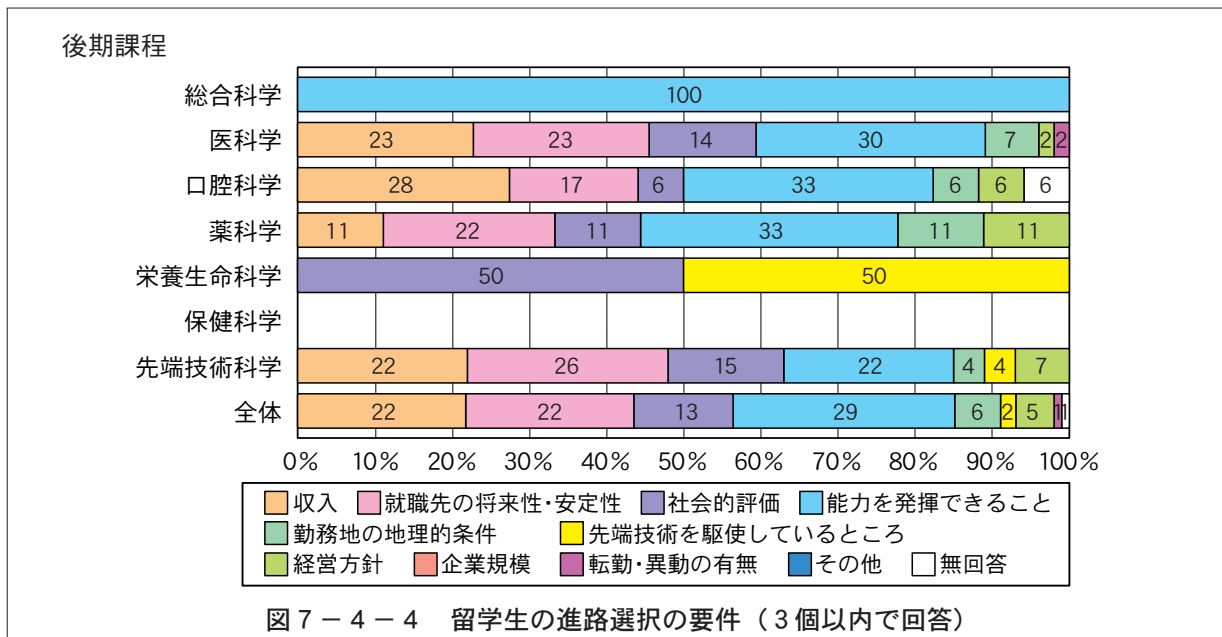
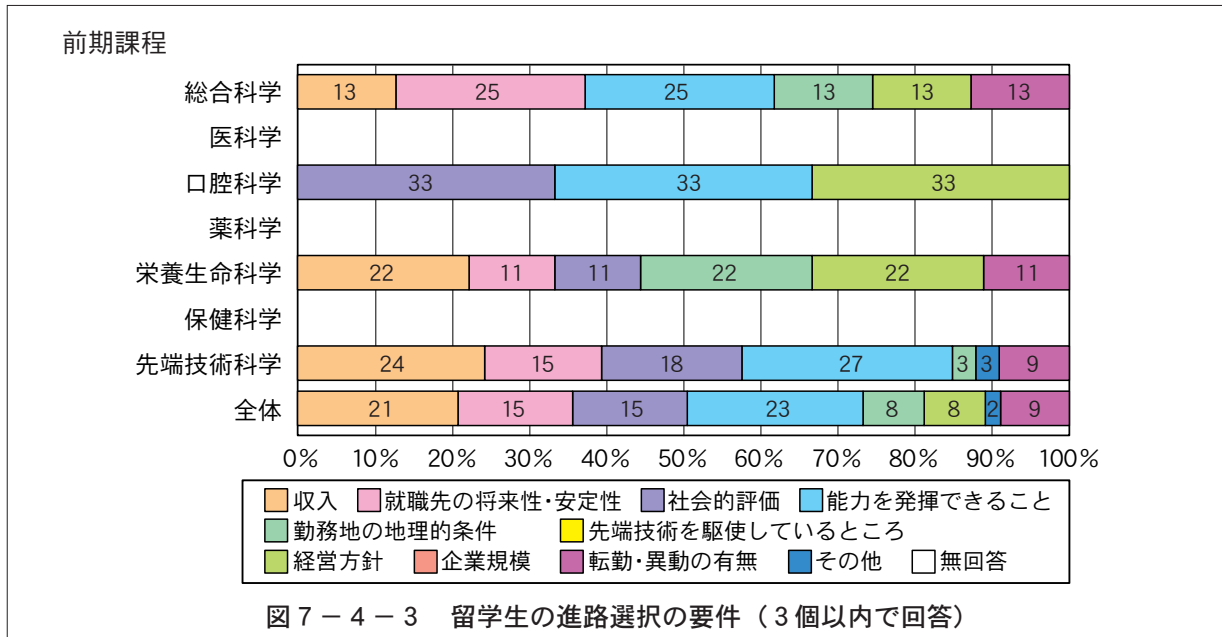


図7-4-2は後期課程の院生に進路選択で重視する要件を問うたものである(3個以内で回答)。全体的には「能力を發揮できること」(33%)、「収入」(21%)、「就職先の将来性・安定性」(21%)の3点が主要要件であり、「勤務地の地理的条件」(9%)、「社会的評価」(7%)等が続いている。総合科学では回答が、「能力を發揮できること」(2名, 67%)、「勤務地の地理的条件」(1名, 33%)の2つに大きく分かれており、他の回答はなかった。



全体として、前期課程では「就職先の将来性・安定性」や「収入」が、また後期課程では「能力を發揮できること」が主要要件である。留学生においては、前・後期とも「能力を發揮できること」が最重視

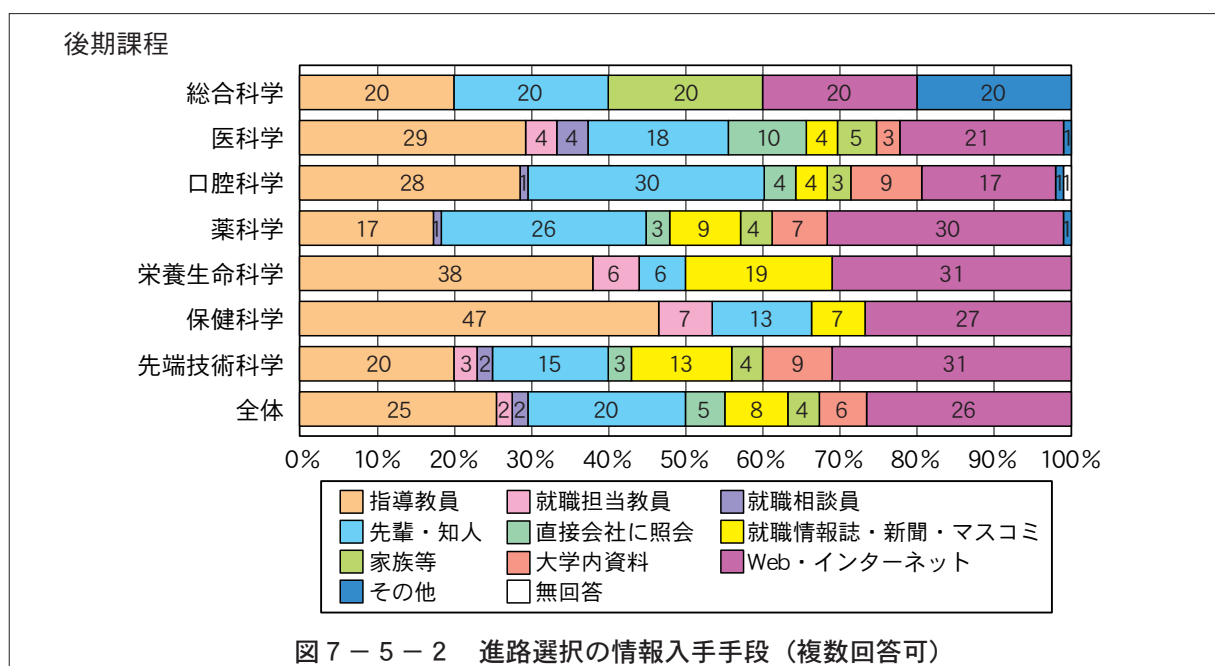
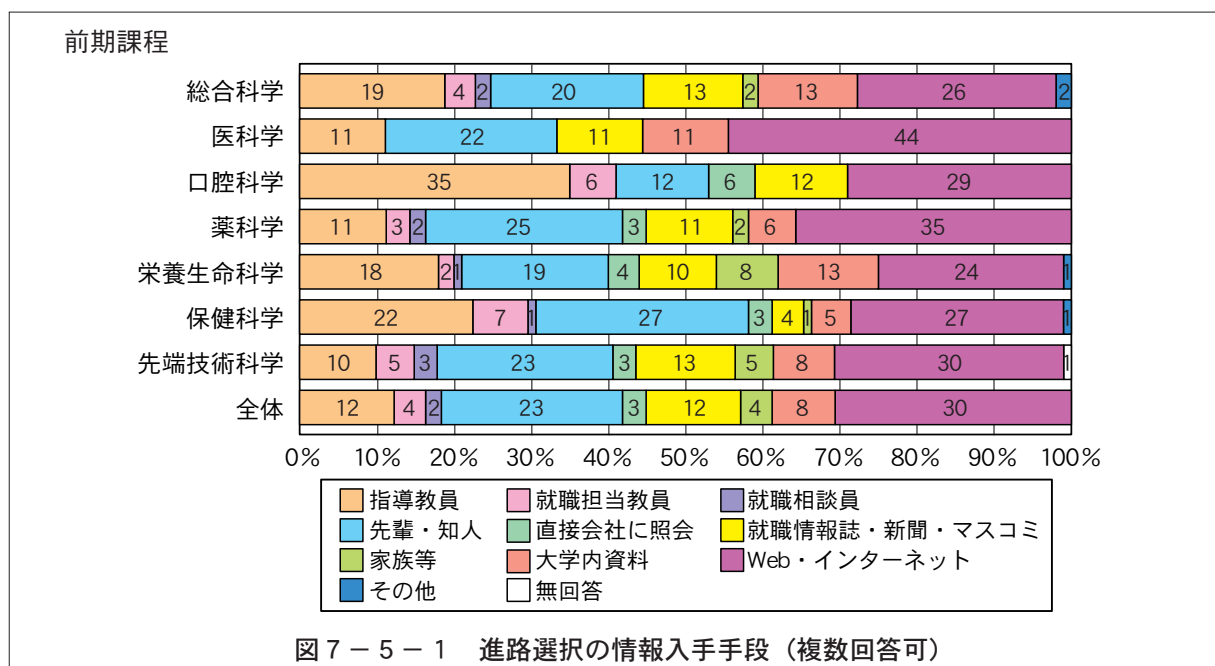
され、「収入」、「就職先の将来性・安定性」が続いている。

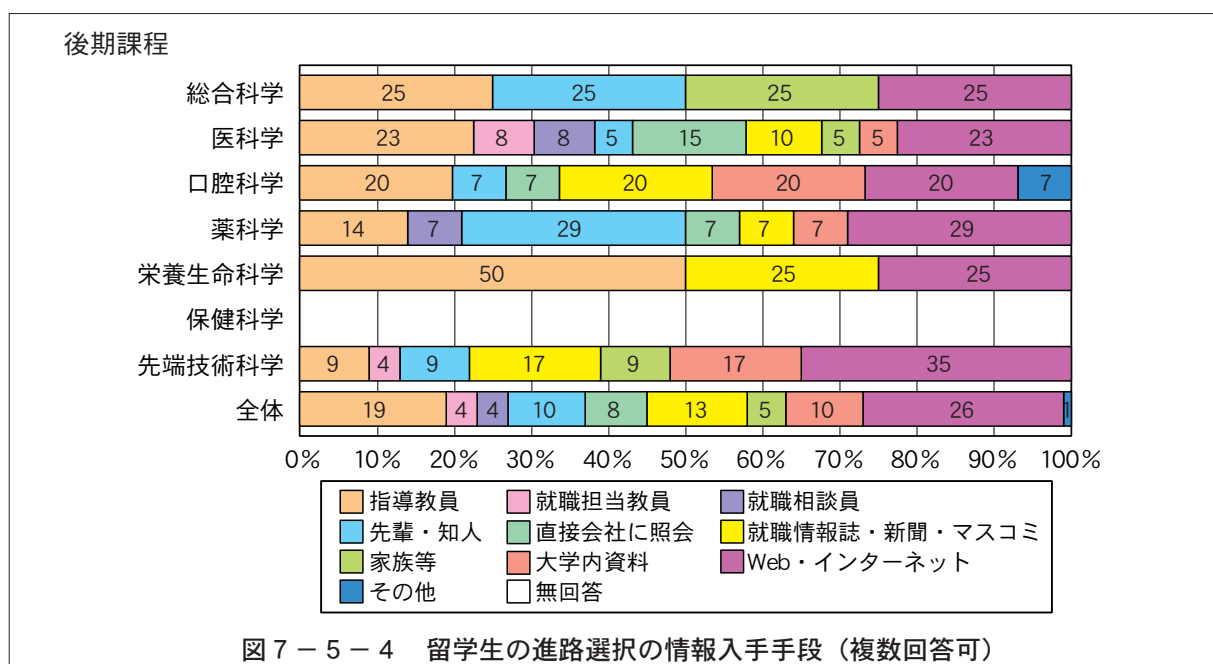
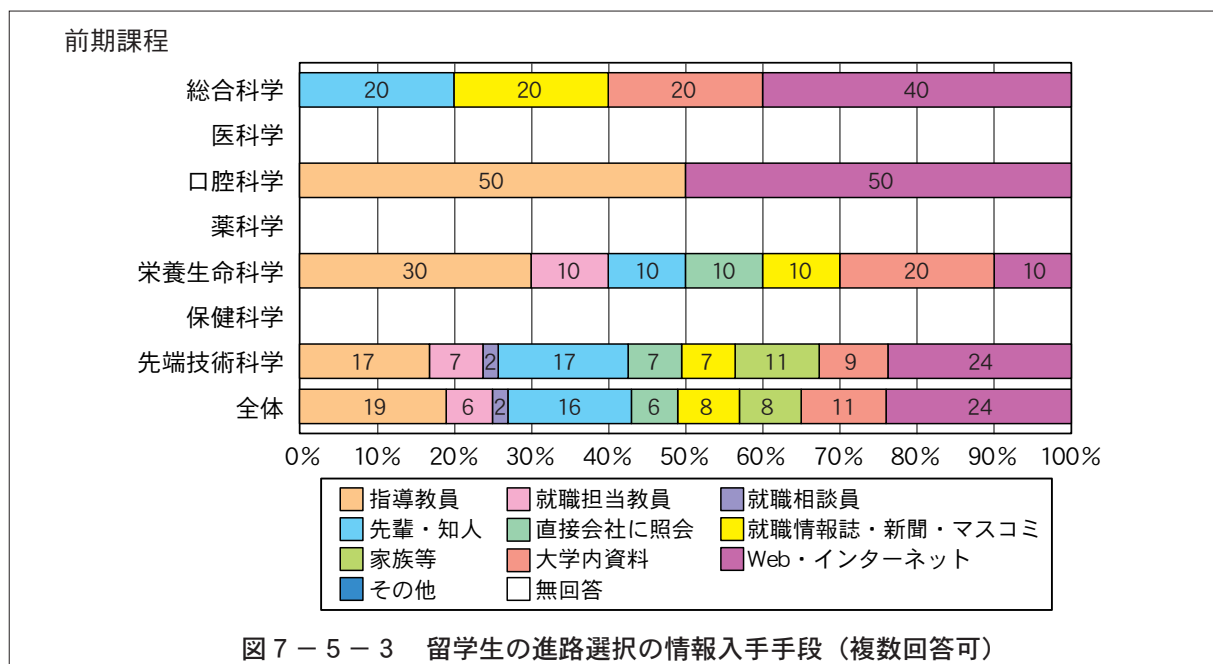


7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1~図7-5-4)

進路情報の入手手段で目立つのは Web・インターネットである。この各課程全体での利用率は、前期課程で30%、後期課程で26%と、ともに最高比率を占めている。前期課程では、Web・インターネットに次いで、先輩・知人(23%)、指導教員(12%)、就職情報誌・新聞・マスコミ(12%)の順になっている。

大学院生の場合、専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも、後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が25%と2倍以上となっている。ただし、この調査は複数回答可であり、Web・インターネット、指導教員、就職情報誌・新聞・マスコミならびに先輩・知人等も含めて、総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向が見られた。





7-6 キャリア支援室の利用状況 (図 7-6-1~図 7-6-4)

本学大学院生は、70%以上がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答している（図 7-6-1, 7-6-2）。第 4 回調査結果と同様に低い利用率であり、前期課程全体では第 4 回調査と比較して、利用者（現在も利用している、以前に利用したことがある）は 29%と 12%減であった。低い利用率の一因として、キャリア支援室が主には一般企業情報を扱っているためと考えられる。

本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が多い。この傾向は蔵本地区の医療系教育部で比較的顕著である。口腔科学・栄養生命科学では第 4 回調査に比して利用率は半減している。総合科学及び先端技術科学の院生は、キャリア支援室の提供する就職ガイダンスや企業説明会にかなり参加しており、キャリア支援室を直接利用したという意識はなくとも、実質

前期課程

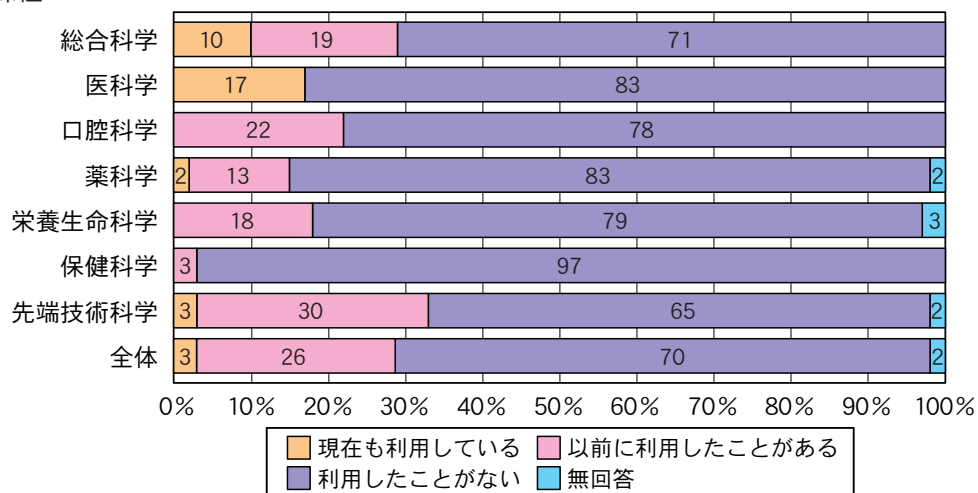


図 7-6-1 キャリア支援室の利用状況

後期課程

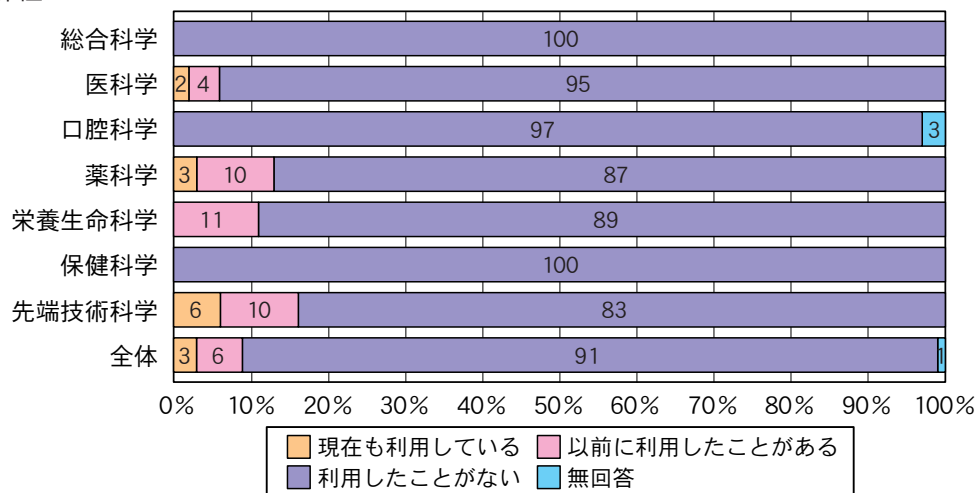


図 7-6-2 キャリア支援室の利用状況

前期課程

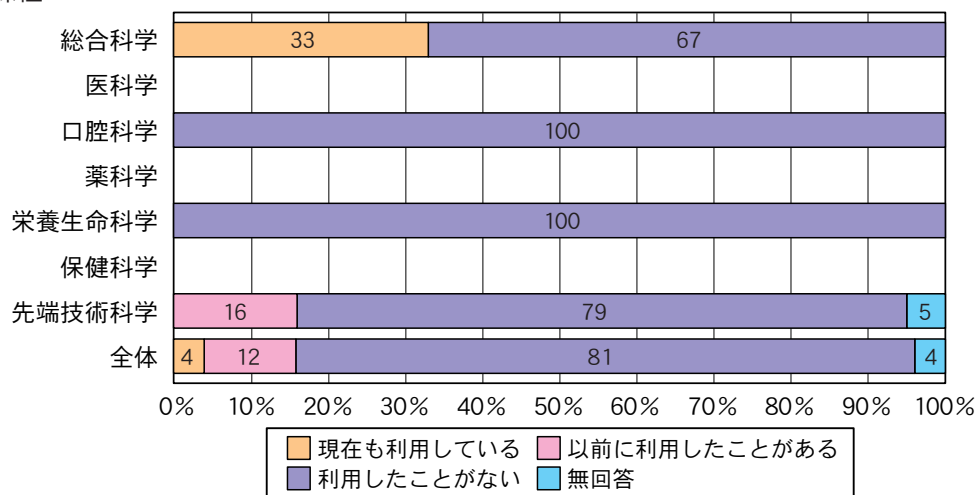
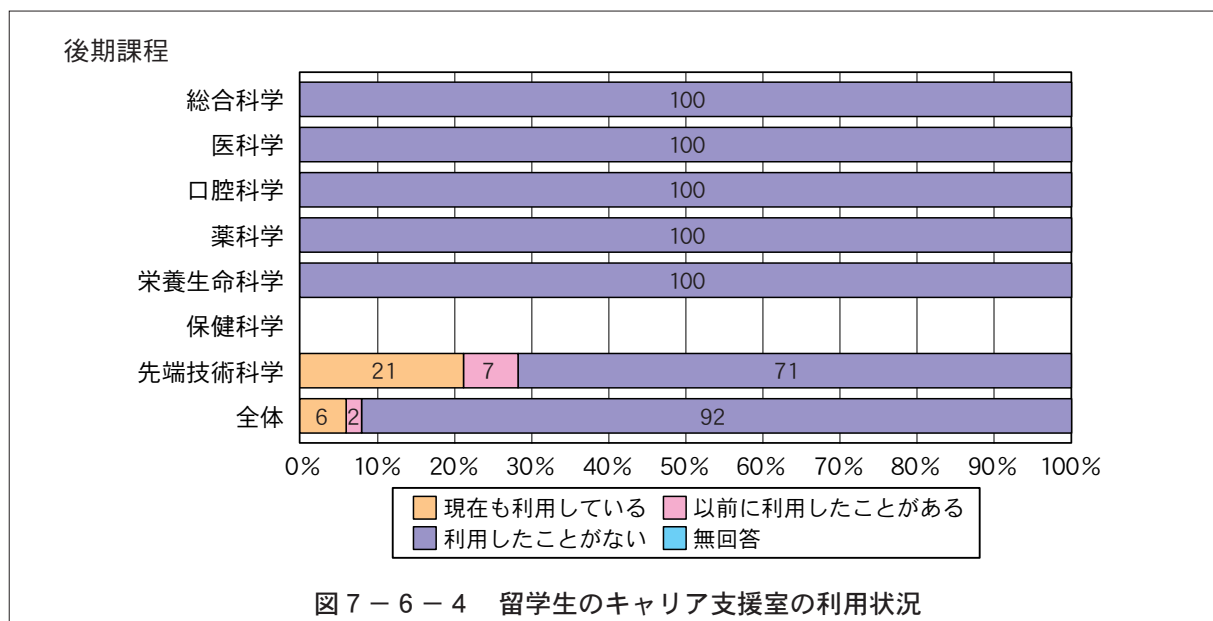


図 7-6-3 留学生のキャリア支援室の利用状況



的な利用率はかなり高いと思われる。

前期課程の留学生の場合、「現在も利用している」「以前に利用したことがある」とする回答は、第4回調査の22%から16%に減少しているが、後期課程の場合、利用率は6%から8%に、わずかではあるが上昇している。

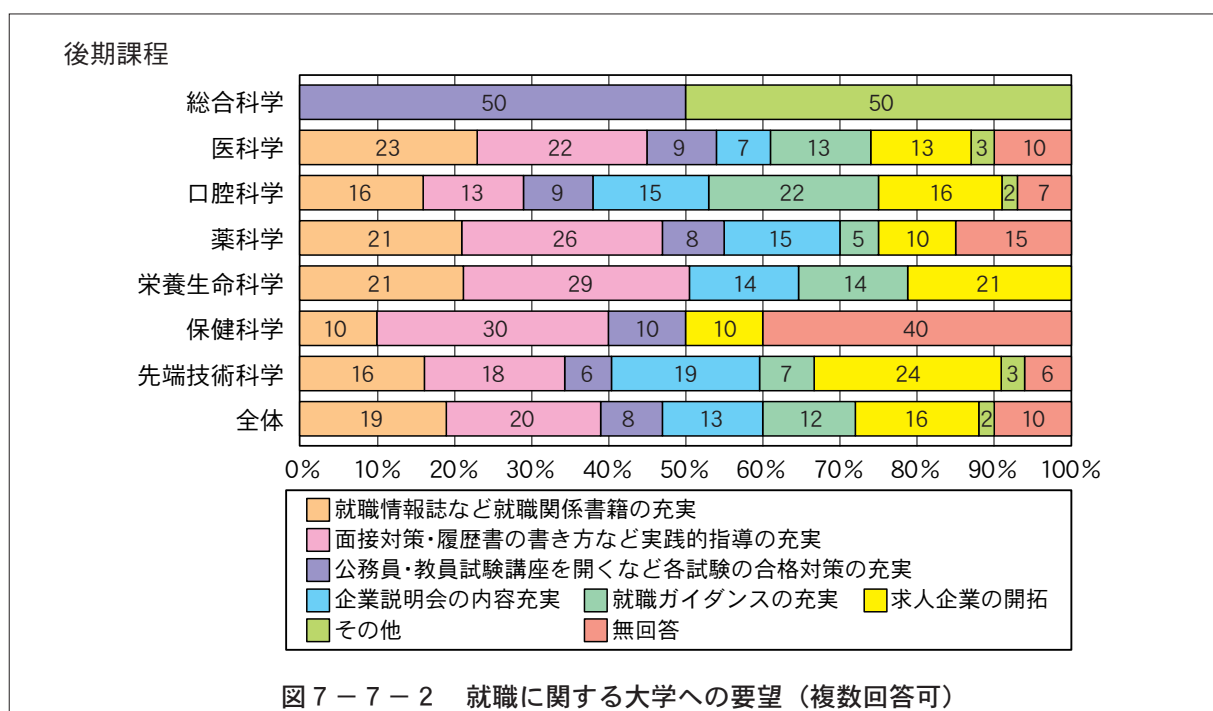
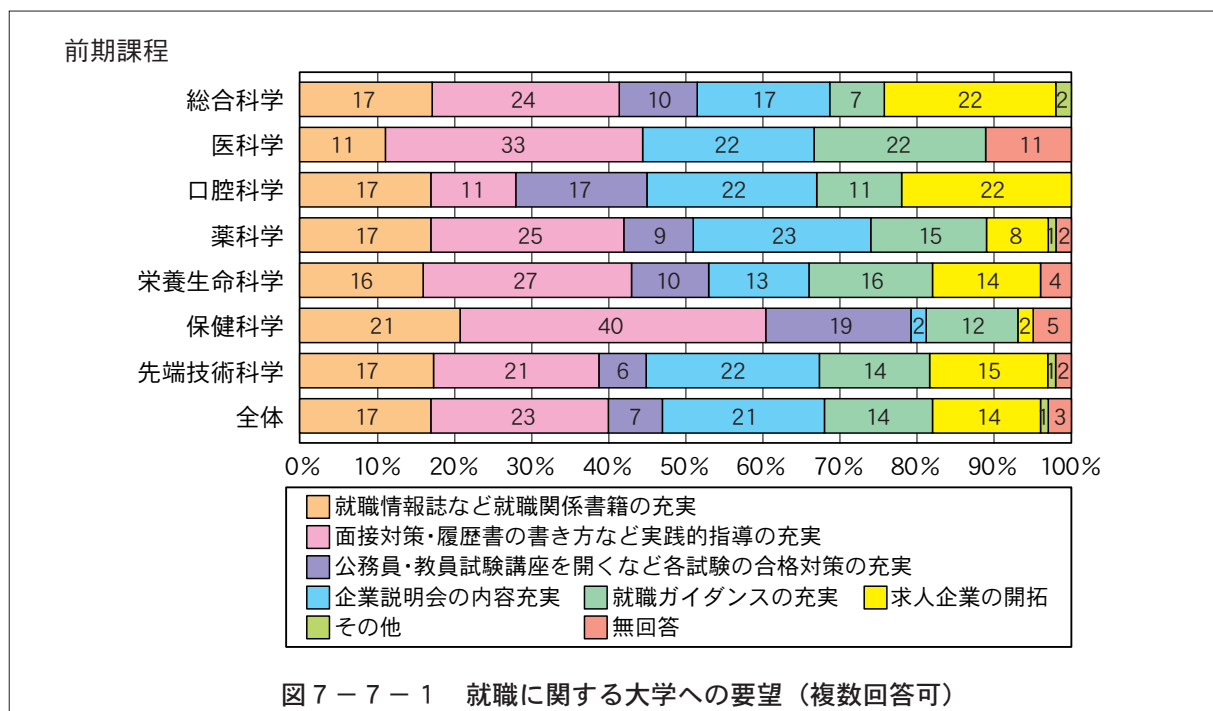
利用率の低さは一般企業の求人情報などを主に扱っているキャリア支援室の性格によるところが大きいと思われるが、今後各部局においても院生の学修ガイダンス等におけるキャリア支援室の更なる周知が必要である。

7-7 就職に関する大学への要望 (図7-7-1~図7-7-4)

本質問・要望(複数回答)については延べ1,335件を数え、全体として、すべての回答項目について要望が寄せられている。ただし、前項目7-6で示されたように、キャリア支援室の利用状況が高くないにもかかわらず、これほど多くの要望件数が寄せられているということは、大学院生に対してのキャリア支援室ならびにそのサービス内容についてのさらなる周知が必要であることを示していると思われる。すなわちキャリア支援室サイドから見ると、今回の回答項目の多くはいずれもキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生・院生の参加を呼びかけているものである。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

要望1(就職関係書籍)：部数は少ないが多種多様な就職関係書籍をキャリア支援室に備えている。**要望2(面接対策・履歴書の書き方)**：面接対策・履歴書の書き方指導等は支援室の主業務の一つであり、専門のキャリアカウンセラー等による就職相談や就職ガイダンス等で繰り返し提供している。蔵本地区でも平日毎日開室し、毎週木曜日の夜間(繁忙期は隔週水曜日)にキャリアカウンセラーを配置している。熱心に参加する学生が増加している一方、まったく無関心な学生も多く、各部局において院生を対象としたこの種の学生サービスの周知が求められる。**要望3(試験対策)**：試験対策については各部局での対応が求められる。なお、キャリア支援室と徳島大学生協の共催により、本学では公務員講座を開講している。**要望4&5(企業説明会&就職ガイダンス)**：年間を通じて充実した内容のガイダンス等を提供しているものの、参加学生が固定化されてきている傾向もある。**要望6(企業開拓)**：各教育部ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また平成26年度からキャリア支援室に常勤の就職コーディネーターを配置し、名刺交換会などに出向き、幅広い業界の

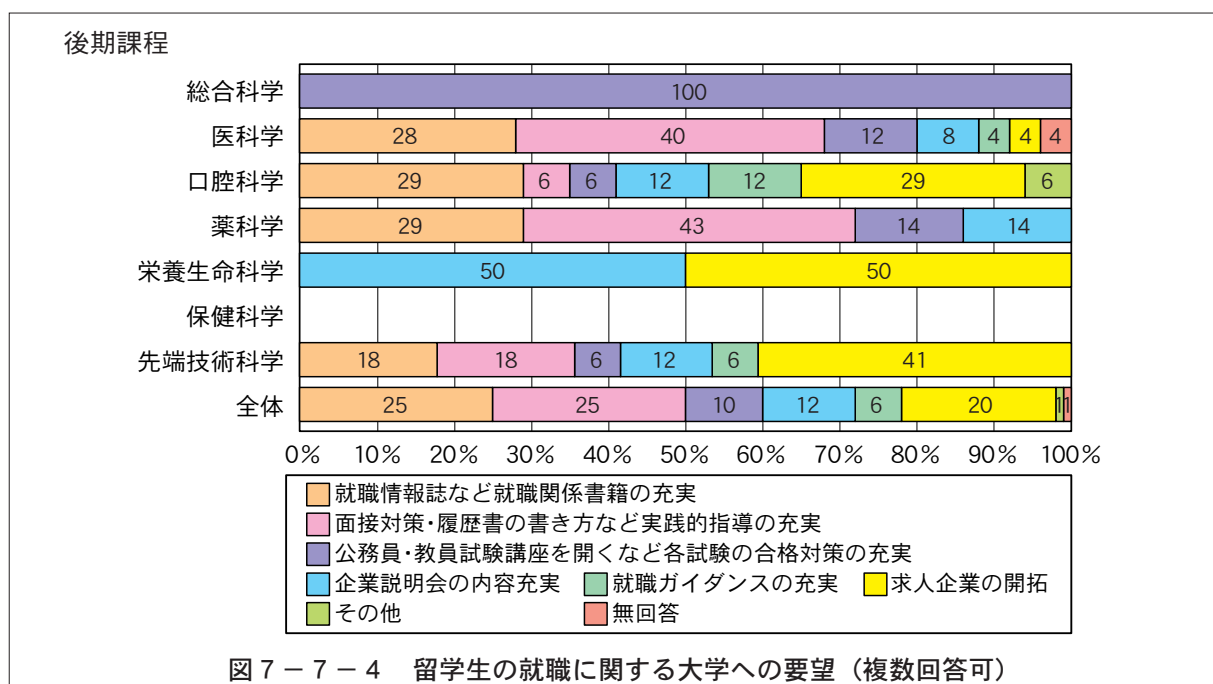
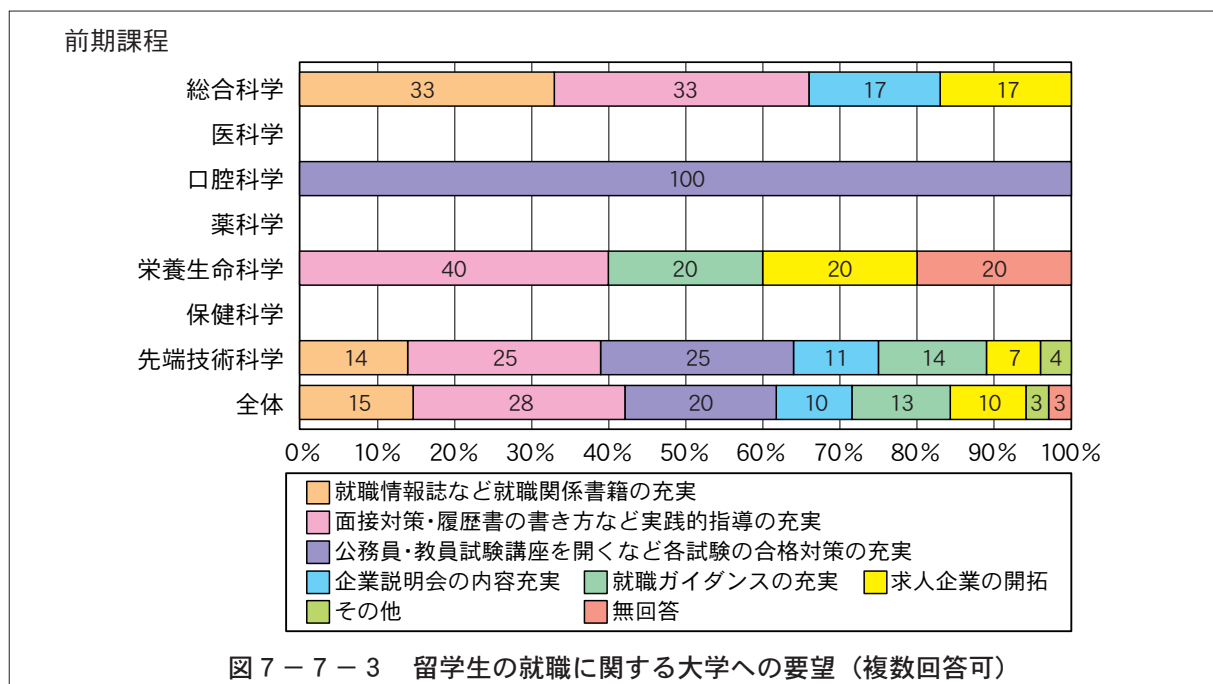


企業開拓に力を注いでいる。

以上のことより、今回の調査によりキャリア支援室が様々な機会や手段等で大学のキャリア支援活動を広報している割には大学院生に十分に認知されていないことが再確認された。今後、学生のみならず、教職員に対しても、キャリア支援室の業務内容をこれまで以上に広く周知することが必要である。

留学生については、回答数が少ないために部局によっては要望内容に偏りがみられるものの、総じて前期課程・後期課程ともに、日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。

以上の分析結果をもとに、以下に、①後期課程への進学意思と進学希望先、②就職希望職種と進路選択要件、③就職情報の入手手段、④キャリア支援室の利用状況、⑤就職に関する大学への要望の5項目について、それらのまとめを示す。



① 後期課程への進学意思と進学希望先

進学意思を有する学生の比率が最も高いのは医科学（50%）であり、口腔科学（33%）、栄養生命科学（26%）が続いている。また栄養生命科学、口腔科学では「経済的な問題が解決されれば進学を考える」と答えた学生が20%を超えており、前期課程全体では5%の学生が同様な考えを有している。先端技術科学の85%をはじめ、総合科学・薬科学・保健科学等の各教育部はいずれも65～70%が「就職したい」と回答しており、全体でのその割合は78%に及んでいる。先端技術科学の前期課程学生の大半は企業等の技術職や研究職を目指していることから、就職希望者が圧倒的に多い傾向にある。なお留学生の場合、全体として46%が進学意思を有しており、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。

進学希望先大学院は、全体で76%が本学の、また9%が他大学の後期課程に進学することを希望している。医科学・口腔科学・薬科学・保健科学では、全員が本学の後期課程への進学を希望しており、栄養生命科学・先端技術科学ではそれぞれ11%、10%が他大学への進学を希望している。留学生の場合、

42%が本学の、また25%が他大学の後期課程を希望している。

② 就職希望職種と進路選択要件

前期課程の場合、各教育部における主な希望職種とその割合は、それぞれ、医科学:技術職33%、企業等の研究職22%、栄養生命科学:公務員24%、教育・研究職24%、保健科学:専門職(医師等)60%、口腔科学:企業等の研究職33%、専門職(医師等)33%、薬科学:企業等の研究職57%、技術職17%、総合科学:企業等の研究職19%、公務員15%、事務職15%、教育職12%、先端技術科学:技術職58%、企業等の研究職18%等となっている。後期課程の場合、全体では、大学・官公庁の教育・研究職(15%)を希望しているものが比較的多いが、専門職(医師等)(8%)、企業等の研究職(7%)、技術職(4%)、教育職(1%)に分散している。留学生の場合、前期課程では企業等の研究職が25%と最も多く、教育職20%、事務職15%等が続いている。後期課程では、29%が大学・官公庁の教育・研究職を志望している。

前期課程学生の進路選択で重視する要件は、教育部全体では「就職先の将来性・安定性」が28%と最高であり、「収入」(24%)、「能力を発揮できること」(16%)、「勤務地の地理的条件」(12%)が続いている。全ての教育部においてほぼ同様の傾向が見られるが、医科学では「勤務地の地理的条件」(33%)が、また口腔科学では「能力を発揮できること」(29%)が最も重視されているのが特徴的である。後期課程学生が進路選択で重視する主要要件は、全体的には「能力を発揮できること」(33%)、「収入」(21%)、「就職先の将来性・安定性」(21%)の3点である。全体として、前期課程では「就職先の将来性・安定性」や「収入」が、また後期課程では「能力を発揮できること」が主要要件である。留学生においては、前・後期とも「能力を発揮できること」が最重視され、「収入」、「就職先の将来性・安定性」が続いている。

③ 就職情報の入手手段

就職情報等の入手手段で目立つのはWeb・インターネットである。全体での利用率は、前期課程で30%、後期課程で26%と、ともに最高比率を占めている。また前期課程では、Web・インターネットに次いで、先輩・知人(23%)、指導教員(12%)、就職情報誌・新聞・マスコミ(12%)の順になっている。大学院生の場合、専門性の高さから指導教員の役割が高いと想像される。アンケート結果からも、後期課程学生は前期課程学生に比べ「指導教員」からの情報入手の割合が2倍以上となっている。ただし、一般に学生は、Web・インターネット、指導教員、就職情報誌・新聞・マスコミならびに先輩・知人等も含めて、複数の手段により総合的に情報入手していると思われる。留学生においても全体としては同様の傾向である。

④ キャリア支援室の利用状況

第4回調査結果と同様に低い利用率であり、前期課程全体では利用者は29%であった。低い利用率の一因として、キャリア支援室が主には一般企業情報を扱っているためと考えられる。本学大学院の学生は、専門性の高い資格を求められる専門職(医師等)や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は各研究室・教育部経由での入手が主である。この傾向は医療系教育部で比較的顕著である。一方、総合科学及び先端技術科学の院生は、キャリア支援室の提供する就職ガイダンスや企業説明会にもかなり参加しており、キャリア支援室を直接利用したという意識はなくとも、実質的な利用率はかなり高いと思われる。留学生の場合、前期課程での利用者は16%、後期課程での利用者は8%であった。キャリア支援室の業務は、主として学部学生向けの就職ガイダンス・求人情報サービスを中心に行っているため大学院生の利用が極端に少ないと思われる。

⑤ 就職に関する大学への要望

就職関係書籍、面接対策・エントリーシート等の書き方、試験対策、企業説明会&就職ガイダンス、ならびに企業開拓等に関する要望が延べ1,335件寄せられているが、その多くは既にキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであり、広く学生の参加を呼びかけているものである。今後、学生への周知を徹底させるために、教職員に対してもキャリア支援室の業務内容を周知するとともにガイダンス等で学生に連絡していただく等の対策を講じる必要があると思われる。

第8章 教育部の現状と課題

8-1 総合科学教育部

総合科学教育部では前期課程に在学する学生91名中21名(回収率23%)、後期課程に在学する学生12名中2名(回収率17%)であった。本教育部の回収率は今回の調査における全学教育部の中で第4回調査と同様に最も低く、分析においても在籍学生数の25%以下から全体について推測するには結果の解釈には注意を要する。後期課程においては言及が必要な場合のみに記述することとする。回収率を上げるためには指導教員への周知などの工夫が必要と言える。

「本調査の対象者」は第4回調査より徳島県出身者の割合が17%から38%と増加して第3回調査(35%)程度となっている。徳島大学出身者は前期課程で48%、後期課程で50%であり、第4回調査とほぼ同様である。留学生に関しては回答者が前期課程で3名、後期課程で1名であるがすべてが徳島大学出身であった。

「社会人・留学生」の比率については前期課程においては留学生が3名(14%)と教育部では最も多い結果となった。

「家族・住居・通学」について、まず年収に関しては前期課程では250万円未満および250万～500万円未満の家庭が半数以上を占め、250万円未満の家庭収入の学生が他教育部と比較して多い。

居住区分に関しては67%がアパート・マンションであり、住居費については94%が6万円以下である。通学に関しては自転車での通学は多くを占め、所要時間に関しては15分以内が76%であり大学近郊に居住している様子である。

「収入・支出」については、前期課程においては親からの支援をまったく受けていない学生が24%であり、3万円未満が24%である。学生生活での経済的安定を考慮するとアルバイトもしくは奨学金に頼る必要がある。アルバイトの有無に関しては48%が「はい」と回答しており、奨学金に関しては38%が受給していると回答している。支出に関しては29%が5～7万円以下と回答している。アルバイトの目的に関しては生活のためが29%、学会の参加のためが14%である。生活および学業における経済的な基盤充実の必要性がある。

「健康状態」については、まず、睡眠時間においては4～6時間未満が48%、6～8時間未満が48%であり、他教育部と比較すると比較的良好と言える。身体症状に関しては「時々ある」、「常にある」と57%が回答している。

現在の悩みや不安については「経済的」(17%)「勉強」(17%)「進路」(22%)が比較的多い。悩みごとの相談相手は72%が友人または家族であった。

精神状態については24%が「落ち込みやすい」または「やる気がでない」と回答している。保健管理センターについては健康診断以外で利用したことがある割合は25%と先端科学技術の次に多い。

生活・学業の基本として身体的・精神的不安定さへの対応の充実もさらに計られることが望まれる。

「学生生活上の問題」については、迷惑行為の被害については5%が飲酒を強要されたと答えているが、その事柄に関して誰も相談をしていないと答えている。学生相談室の利用は19%であり、実数としては先端技術科学が最も多いものの割合としては総合科学教育部が最も多い。学生相談室の対応については利用者すべてが満足もしくはどちらかといえば満足であった。

盗難等の被害については5%が盗難被害ありと回答している。交通事故については29%が被害の経験があると回答している。違法薬物に関してはあるとした回答者はいなかった。

事務室の対応については90%が「満足」、「どちらかといえば満足」と回答している。

飲酒の強要などは相談する機会などが少なく、調査によって明らかになっている。学生生活の問題をくみ上げる工夫も必要と考えられる。

「修学状況」については、まず、本学の教育理念の知識の有無については39%がよくは知らないと回答している。教育理念を知った上で、その理念で教育が行われているかどうかについては23%が行われていないと回答しており、全教育部で最も多い。教育課程については95%が満足と答えている。勉学の目的としては高度な専門性を持つこと、知的な素養のある社会人、開発能力をもつ研究者の順での回答がされている。

授業の進め方への満足度については概ね満足しているとすべての学生が回答した。研究活動時間は各教育部で異なり、総合教育部ではばらつきが多い。研究指導時間は68%が90分以上の指導を受けており、講義単位時間以上の指導を受けている割合は比較的高い。

指導内容、進め方については95%がほぼ満足していると回答している。指導テーマについても同様の回答が得られている。

大学院に相応しい教育かどうかについては10%が行われていないと回答している。指導教員とのコミュニケーションについては95%はとれていると回答しており、口腔科学以外の教育部に比較して良好といえる。ただし20%の学生は指導環境については必ずしも満足していない。理由としては施設・設備、研究費としている。

学内入学者で回答したすべての学生は進学先として第一希望であったとしている。学外入学者は第一志望が45%となっている。

図書館利用については85%が一月に一度以上利用しており、ほぼ毎日利用している学生の割合は全教育部の中では最も多い結果となった。電子ジャーナル、データベースの利用に関しては1週間に1度程度が29%と割合では多い。利用の満足度については10%がやや不満もしくは不満足と回答しているが、具体的な内容については今回の調査からは解らない。

「教育部にふさわしい学習」については「あまりしていない」との回答が19%ある。自己申告であるため主観的な評価となり、客観的な情報と評価できることが求められる。

渡航経験については34%があると回答している。理由については観光が最も多いが、22%は一時帰国が理由であり、留学生の帰国が渡航とされて回答されている。

国際学会での発表経験については11%（2名）が経験有りと回答している。英会話のレベルについては「日常会話ができる」「なんとか日常会話ができる」についての回答が合わせて34%あり、割合は渡航経験と一致するが留学生の回答は含まれていない。英会話や英字新聞を読むなどの日常的に会話レベルを保つために努力をしているとの回答が50%あり、比較的積極的に学習をしていることがうかがえる。

留学生の日本語での会話については、全体の実数は少ない（3名）が、すべて日常会話が可能と答えている。徳島大学の日本語コースには2名受講経験があり満足をしていると回答している。

全学生での将来のために徳島大学の教育に何を望むかとの問いでは、回答が選択肢間で偏りが少ない。

「進路選択・就職について」については、まず、後期課程への進学は10%（2名）であり、他は就職希望と未定であった。進学希望者は他大学を希望しており、他教育部では本学を希望する学生が含まれている。就職希望者の希望職種はすでに就職している学生を含み、多岐であることは他教育部と異なる。

進路選択で重視するものについては、能力を發揮できること、収入、勤務地の地理的条件などの回答であり、他教育部と同様で多岐にわたる回答である。進路情報については指導教員、知人・先輩が比較的多い。キャリア支援室は71%が利用していない。就職に関する本学への希望は、面接対応などの具体的な指導、求人企業の開拓が比較的多く、キャリア支援室の対応に期待したい。

8-2 医科学教育部（医学研究科）

医科学教育部の前期課程大学院在籍者は21名でこのうち6名からアンケートに対する回答が得られ、回収率は28.6%であった。この中に留学生は1人存在するがアンケートは回収されていない。後期課程には219名の大学院生が在籍し（留学生33名を含む）、このうち56名からアンケートが回収できた（回収率25.6%）。留学生に関しては33名中18名からアンケートが回収され、回収率は54.5%となっている。第4回調査と同様にアンケート回収率は全体の平均を下回っており、アンケートに積極的に参加してもらうためのアナウンスやアンケートの目的を理解してもらうと共にアンケート内容を簡素化する必要がある。

1. 本調査の対象者について

前期課程大学院生の50%は徳島県出身で、次いで近畿が33%、中部地方が17%となっている。後期課程では徳島県出身者が45%で留学生が29%、近畿が9%となっている。大学院生の中で本学出身者の割合は前期課程で50%、後期課程で38%であり、前期課程では本学出身者と他学出身者の割合が半々であった。社会人大大学院生の割合は前期課程で50%、後期課程で59%となっており、他の教育部よりも高い傾向にある。恐らく医師免許を有する大学院生が多いことがその理由と思われる。

2. 家族・住居・通学について

前期課程大学院生の年収は750万円～1,000万円が33%と最も多く次いで250万円～500万円、1,000万円～1,500万円、1,500万円以上が17%となっている。これに対して後期課程では年収250万円以下の大学院生が27%と最多を占め、次いで750万円～1,000万円以下が21%となっている。後期課程で年収250万円以下の大学院生の比率が増加しているのは留学生の比率が高いためと考えられる。

住居区分では前期課程大学院生の50%、後期課程では41%が自宅から通学している。自宅あるいはアパート／マンションから通学している大学院生は前期課程で100%、後期課程で84%となっている。後期課程には留学生が多いため自宅、アパート／マンション以外（国際交流会館など）からの通学者が多いものと考えられる。

住居費については月4万円以下の家賃を払っている大学院生が前期課程で66%、後期課程で34%を占めている。逆に月6万円以上の住居費を支払っている大学院生は前期課程で0%であるのに対して後期課程では57%となっている。後期課程大学院生の過半数が高額の住居費を支払っている理由は医師免許を取得した学生が多いこと、社会人大大学院生が多いこと、家族や子供がいるケースが多いため住居スペースを確保する必然に迫られていることが挙げられる。事実、前期課程大学院生の83%は独身であるが（残りの17%は無回答）、後期課程では独身者が25%となり、配偶者あるいは子供がいる大学院生が75%を占めている。

通学方法については前期課程大学院生の半数が自転車、残りが自動車通学である。後期課程では自転車通学が52%、徒歩が13%、自動車通学が32%となっている。後期課程大学院生の通学手段は他教育部の後期課程大学院生と同様の傾向を示しているが（保健科学を除く）、前期課程大学院生の自動車通学率は他教育部よりも飛び抜けて高い。これは自宅から通学している大学院生の割合が高いことと相関していると思われる。実際に通学時間に関する調査結果では前期課程大学院生の33%が30分以上の時間を通学に費やしており、この比率は他教育部大学院生に比べて高率である（総合科学部後期課程を除く）。逆に後期課程では15分以下の通学時間の大学院生が52%を占めており、蔵本地区に居住する大学院生が多いことを物語っている。

3. 収入・支出について

前期課程では3万円～5万円の収入を得ている大学院生と20万円～25万円の収入を得ている大学

院生がともに33%と最多を占めており、大学院生間での個人差が大きい。また、月収15万円以上の収入を得ている大学院生が全体の半数を占めている。高収入の大学院生が多い理由の一つには社会人大学院生が多いことが挙げられる。後期課程ではこの傾向がより顕著となり、15万円以上の月収を得ている大学院生が64%、30万円以上の月収を得ている大学院生も52%に及んでいる。その一方で、月収3万円未満の大学院生も4%存在する。医師免許を有する社会人大学院生が多数を占める一方、留学生が一定の割合存在することが高収入大学院生と収入がほとんどない大学院生に二極化している理由と考えられる。

親からの仕送りを受けず、経済的に自立している大学院生の割合は前期課程で67%、後期課程で89%となっている。仕送りを受けている大学院生も仕送り額は前期課程で月5万円未満であるが、後期課程では5万円～10万円の仕送りを受けている大学院生が2%存在する。高額な仕送りを受けている大学院生の数は第4回調査よりも減少しており、平成26年4月1日からの消費税引き上げが何らかの影響を及ぼしているのかも知れない。

月あたりの平均支出額は前期課程で全員が月10万円以下となっているが、後期課程ではこの比率が29%に低下する。月5万円以下の支出で生活している大学院生は前期課程で50%、後期課程で11%となっている。これに対して後期課程大学院生の14%が月30万円以上、34%が20万円以上を支出している。他教育部大学院生に比べて突出した高額な支出となっているが、これは医科学教育部大学院生の収入を反映したものであり、その背景には社会人大学院生が多いことと後期課程大学院生の多くが医師免許を取得しているという特殊な状況が存在する。

高い収入を反映して医科学教育部前期課程大学院生に奨学金受給者／受給希望者は数少ない（奨学金を必要としない大学院生が83%）。ところが後期課程大学院生では奨学金を必要とする大学院生の割合が52%を占めている。これは経済的に苦しい状況に置かれている留学生の比率が高いためと考えられる。

アルバイトに従事している大学院生は前期課程で50%、後期課程で38%であり、週あたりの時間は前期課程の全員が15時間／週以下であるが後期課程では20時間／週以上が39%、25時間以上／週以上が29%となっている。アルバイトの目的は生活費／学費獲得が最も多く、前期課程で50%、後期課程で64%となっている。アルバイト収入は前期課程大学院生の全員が月収5万円以下であるが、後期課程では月収15万円以上の割合が実に86%に至っており、5万円以下の大学院生は10%である。後期課程大学院生の場合、医師としての勤務に対する報酬が多いことを物語っている。

前期課程大学院生にアルバイトに関わるトラブルは見られなかったが、後期課程では客とのトラブルが13%、雇用者との意見の不一致と事故／怪我が各々8%となっていた。これらのトラブルの多くは恐らく留学生に生じたケースと思われる。

4. 健康状態について

大学院生の睡眠時間については前期課程の50%、後期課程の59%が6時間以上の睡眠時間を確保しているが、半数程度の大学院生は6時間未満の睡眠時間となっている。特に前期課程の17%、後期課程の5%に睡眠時間4時間以下の大学院生が存在する点は問題である。これらの大学院生は恐らく社会人大学院生と想像される。健康のみならず安全管理の観点からも6時間以上の睡眠時間が確保できるよう何らかの方策が必要と考えられる。

健康上の問題があると回答した大学院生は前期課程で50%、後期課程で55%となっているが具体的な症状については回答が得られていない。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては前期課程大学院生では勉学に関する悩みと就職先や進路についての不安が最も多く、次いで経済状態と身体的不調が挙げられている。後期課程では勉学の問題に次いで経済状態、就職や進路の悩みが上位を占めている。これらの悩みを相談する相手には家族、

友人が挙げられているが、学生相談室や保健管理センターなどの学内に設置された相談窓口の利用はなされていない。その一方で誰にも相談しない大学院生が前期課程で29%、後期課程で13%存在している。

現在の精神状態については前期課程大学院生の20%、後期課程大学院生の30%に漠然とした不安ややる気が出ない、いらいらするなどの問題を抱えている。男性大学院生の22%、女性大学院生の3%が喫煙者であり、飲酒については男子大学院生の28%、女子大学院生の14%に週1回以上の飲酒習慣がある。特に男子の12%、女子の5%は週3日以上飲酒習慣を有しており、これらの大学院生については健康被害への注意が必要である。

健康管理・総合相談センターの認知状況は前期課程大学院生の33%、後期課程大学院生の18%が相談センターの存在を認識しておらず、知ってはいても利用したことのない大学院生が前期課程で17%、後期課程で32%存在する。これらの相談窓口が有効活用されるための方策が必要である。

5. 学生生活上の問題点について

大学院生としての生活を送る上での迷惑行為については前期課程大学院生に被害を受けた者はいないが、後期課程ではいたずら電話、セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメントを受けたとする大学院生がそれぞれ5%、4%、4%存在した。これらの被害者は友人、家族、教員、その他の人に対応策を相談している。これらの被害に対する支援窓口として学生相談室が設置されているが、前期課程大学院生の33%、後期課程大学院生の41%はその様な窓口が設置されていることを知らなかった。学生相談室利用者の満足度は全員が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており、学生相談室の積極的な利用と有効活用が今後の問題として挙げられる。

幸いなことに薬物被害に遭った大学院生は医科学教育部に存在しない。前期課程大学院生に犯罪被害や交通事故に遭った者はいないが、後期課程大学院生には盗難被害に遭った者が4%、交通事故に遭った者が41%存在した。交通事故に遭った者の約半数は被害者であると同時に加害者となっており、1/3は被害者、1/8は加害者となっている。自転車対自転車の事故では加害者であると同時に被害者にもなり得るため、交通マナーの遵守について学内教育を徹底する必要がある。

前期課程大学院生の全員が大学事務室の対応について満足あるいはどちらかといえば満足と答えているが、後期課程大学院生の16%がどちらかといえば不満足、7%が不満足と回答している。大学事務室に対する不満足を表明している大学院生は医科学教育部に多く、その理由として社会人大学院生への事務連絡が一部徹底されていないことが挙げられている。

6. 修学状況について

医科学教育部の教育理念・方針を理解している大学院生は前期課程で67%、後期課程では45%となっている。後期課程大学院生の半数以上が大学院教育の理念や目標を知らないのは医科学教育部の特徴であり、大学院で何を学び将来にどのように繋げていくのかを周知徹底させる必要がある。

大学院教育理念・目標を知っている大学院生の大部分（前期課程の全員、後期課程の80%）は理念・目標に沿った教育が行われていると評しているが、後期課程では16%が理念・目標に沿わない教育が行われていると考えている。大学院教育課程に関する質問では前期課程・後期課程大学院生の83%が満足あるいはどちらかといえば満足と評しているが、不満足あるいはどちらかといえば不満足と表した大学院生が前期課程で17%、後期課程で16%存在する。第4回調査に比べて理念・目標とは一致しない教育であると考えている大学院生が増加しており、現在の教育課程に満足していない大学院生の比率が他教育部に比べて高い傾向にある点は問題である。具体的にどのような点が教育理念・目標と一致しておらず、教育課程のどこに問題があるのかを明らかにして早急に対応策を講じる必要がある。

大学院教育にふさわしい教育の実践に関しては前期課程大学院生の全員、後期課程大学院生の95%

が十分なレベルもしくはある程度十分なレベルにあると考えている。少数ながら4%の後期課程大学院生はあまり十分なレベルとは言い難いと回答しており、これについても具体的な問題点を明らかにする必要がある。

本学医科学教育部での大学院教育を志望した理由は前期課程、後期課程のいずれも興味のある研究分野であるためとする回答が最も多く、次いで指導教員の勤め、研究環境が整っているためが理由として挙げられている。後期課程では出身大学だからとの理由が3番目に多い回答となっている。本学出身者後期課程大学院生の全員が第一志望として医科学教育部に進学しているが、前期課程では67%が第二志望として医科学教育部に進学している。他学出身の前期課程大学院生の67%、後期課程の81%が第一志望として医科学教育部に進学している。他学出身後期課程大学院生では第三志望、第四志望として医科学教育部に進学した者がいずれも6%存在する。

大学院教育によって目指すものは前期課程大学院生の67%が創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者と答えており、次いで高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人との回答になっている。後期課程では高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人との回答が52%と最も多く、次いで創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が27%、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人が13%となっている。

大学院教育における授業の内容や進め方については前期課程大学院生の全員が満足あるいはどちらかといえば満足と答えている。一方、後期課程では89%の大学院生が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している一方で11%の学生が不満足あるいはどちらかといえば不満足と回答している。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動時間の調査について前期課程大学院生では30分～90分と90分～5時間が各々33%となっており、次いで40時間～60時間、60時間以上が各々17%となっている。後期課程では40時間～60時間が25%、10時間～20時間と20時間～40時間が各々18%、60時間以上と30分未満、90分～5時間が各々9%となっている。研究に費やす時間は前期課程、後期課程の両者において二極化している。

前期課程では教授、准教授、助教から研究指導を受けている大学院生がいずれも33%となっていたが、後期課程では46%が教授、21%が講師、18%が助教、9%が准教授から指導を受けていた。

研究指導を受けている時間については前期課程大学院生の33%が週あたり30分～90分／90分～5時間となっており、17%が30分未満／5時間～10時間となっていた。一方、後期課程では41%が30分～90分、25%が90分～5時間、18%が30分未満であった。

研究指導の内容・進め方についての満足度調査では前期課程大学院生の全員が満足あるいはどちらかといえば満足と評しているが、後期課程では91%が同様の回答をしているのに対して9%の大学院生が不満足あるいはどちらかといえば不満足と回答している。

研究テーマに対する満足度調査では前期課程の83%、後期課程の全員が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しているが、前期課程では17%の大学院生が研究テーマをどちらかといえば不満足と回答している。

指導教員とのコミュニケーションに関しては前期課程大学院生の67%がある程度取れていると回答しているのに対して33%はあまり取れていないと回答している。後期課程では91%の大学院生が充分にあるいはある程度のコミュニケーションが取れていると回答しており、前期課程における指導教員と大学院生のコミュニケーション不足が改善すべき問題点に挙げられる。

研究環境に対する満足度調査に関しては前期課程大学院生の83%、後期課程の93%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。これに対して前期課程の17%、後期課程の4%はどちらかといえば不満足と回答しており、後期課程大学院生の4%は研究環境に不満足と回答している。研究環境に対する不満の理由は前期課程、後期課程に共通して研究時間の問題が挙げられ、後期課程では

研究費用に対する不満も挙げられている。

所属大学院に対する満足度に関しては前期課程大学院生の全員、後期課程大学院生の95%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しているが、後期課程大学院生の3%がどちらかといえば不満足、2%が不満足と回答している。

図書館の利用状況については前期課程大学院生の66%が月に1回か2回程度の利用に留まっており、17%は年に1回以下の利用率である。その一方で週に1回程度利用する大学院生も17%存在するが図書館をあまり利用しない大学院生が目立っている。後期課程では年1回以下の利用が49%、月1回以下の利用が32%、少なくとも毎週利用しているものは13%となっている。これに対して図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等の利用は少なくとも毎週1回以上の利用者が前期課程で67%、後期課程で84%となっており図書館が提供する電子ジャーナルやデータベース等の重要性が浮き彫りになっている。これを反映して図書館が提供するサービスに対する満足度は高く、前期課程大学院生の全員、後期課程大学院生の87%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答している。一方、後期課程大学院生の7%がどちらかといえば不満足、2%は不満足と回答している。

海外渡航についての調査では前期課程大学院生に海外渡航経験者はいなかったが、後期課程大学院生の46%に海外渡航歴があり、1～2回の渡航歴を持つものが各々14%で、4回以上の渡航歴を持つものが7%存在した。海外渡航の目的は49%が学会参加となっており、以下観光が22%、留学生の一時帰国が19%となっていた。

国際学会参加に関して前期課程大学院生に国際学会発表経験者はいなかったが、後期課程大学院生では海外での国際学会ポスター発表経験者が38%、同口頭発表経験者が5%いた。国内で開催された国際学会のポスター発表経験者は5%、同口頭発表経験者は3%存在した。

英会話能力についての質問では前期課程大学院生の50%は英会話ができないあるいはあまりできないと回答している。17%は日常会話程度の英会話が可能で、33%は何とか日常会話可能と答えている。後期課程でも英会話を苦手とする大学院生が大半を占めており、専門用語を使った英会話が可能で大学院生はおらず、日常英会話可能なレベルが5%、かろうじて日常会話可能なレベルが32%、会話できないあるいはほとんどできないと解答したものが54%となっていた。語学力を高めるための学習方法に関しては前期課程大学院生の38%がTOEIC / TOFELの受験を挙げており、次いでラジオ / テレビの語学番組あるいは外国のテレビ / ラジオ番組の視聴が各々13%となっている。後期課程大学院生ではラジオ / テレビの語学番組あるいは外国のテレビ / ラジオ視聴が各々14%と最多で、語学学校に通うもしくは外国人とのコミュニケーションを心がけている者が8%となっていた。その一方で、語学力を磨くための努力をしていない者が前期課程で38%、後期課程で51%存在する。

留学生の日本語会話能力について前期課程大学院生には該当者がおらず、後期課程では専門用語を使った会話が可能である者と日常会話が可能で各々16%、なんとか日常会話が可能で各々32%、十分な日常会話ができない者が37%となっている。日本語会話能力取得のための日本語コース受講者は32%、過去に受講したことがある者が47%、今後受講する予定の者と受講の予定がない者が各々11%となっていた。日本語コース受講者の満足度は53%が満足、40%がどちらかといえば満足、7%がどちらかといえば不満足と回答している。

学習状況に関する調査に対して前期課程大学院生の50%、後期課程大学院生の69%がきちんと学習していると回答しているが、前期課程の33%、後期課程の29%はあまり学習していないと回答し、前期課程の17%は全く学習していないと回答している。留学生に限った調査では全員が必要とされる学習をしていると回答している（前期課程に該当者はいないため後期課程のみ）。

本学大学院教育に希望することとして前期課程大学院生は高度な水準にある他大学院等での勉学 / 研究の機会提供ならびに個々の指導教員の教育・研究指導能力の向上を挙げた者がいずれも25%と最

多であり、総合的な学習課題を体系的に履修するコース、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導、企業などでの長期間の実践的なインターンシップが各々13%となっている。後期課程では高度な水準にある他大学院等での勉学／研究の機会提供が22%と最も多く、次いで総合的な学習課題を体系的に履修するコースが18%、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が15%となっていた。

本学大学院教育の国際化への対応については積極的であると思うと回答した大学院生が前期課程で67%、後期課程では81%となっていた。

7. 進路選択・就職について

前期課程大学院生の後期課程大学院進学希望は50%に及んでおり、その全員が本学での後期課程大学院進学を希望している。これは他教育部に比べて高い比率を示している。

就職希望者についての調査では前期課程大学院生の33%が技術職への就職を希望し、以下研究職が22%、公務員（大学／官公庁の教育研究職以外）と教育職が各11%となっている。後期課程では質問に対する無回答が63%と最多であり、次いで大学／官公庁での教育研究職が18%、医師などの専門職が14%となっている。後期課程大学院生の中で留学生に限って見てみると無回答が60%、大学／官公庁での教育研究職が30%、医師などの専門職が10%となっている。

進路選択の要件についての質問に関しては前期課程大学院生では勤務地の地理的条件を挙げる者が33%と最も多く、次いで就職先の将来性／安定性と収入が各々25%となっている。これが後期課程大学院生では能力を発揮できる就職先と答えた者が37%と最も多く、次いで収入24%、就職先の安定性／将来性18%となっている。留学生に関しても能力を発揮できる就職先、収入、将来性／安定性を重視して進路が選択されている。

進路選択のために情報入手手段については前期課程大学院生の場合 Web やインターネットからの情報が44%と高く、次いで先輩／知人の22%、指導教員、就職情報誌／新聞／マスコミ、大学内資料が各々11%となっている。後期課程では指導教員からの情報が29%と増加し、Web／インターネットが21%、先輩／知人が18%、直接会社に照会が10%となっている。留学生に関しても同様の傾向は見られるが、先輩／知人からの情報が5%と減少する代わりに就職情報誌／新聞／マスコミからの情報が10%と増加している。

キャリア支援室の利用状況は前期課程大学院生の場合利用者が17%で利用したことがない者が83%であった。後期課程では利用したことがある者はわずか5%で、95%は利用したことがないと回答している。特に留学生は誰一人としてキャリア支援室を利用していない。

就職に関する大学への要望として最も多かったのが前期課程で面接対策／履歴書の書き方指導などの実践的指導の充実であり(33%)、後期課程では就職情報誌などの就職関係書籍の充実(23%)となっていた。その他の希望事項として前期課程では企業説明会の内容充実(22%)、就職ガイダンスの充実(22%)が挙げられ、後期課程では面接対策／履歴書の書き方などの実践的指導の充実(22%)、就職ガイダンスの充実(13%)、求人企業の開拓(13%)となっていた。留学生に関しては面接対策／履歴書の書き方などの実践的指導の充実が40%と最多であり、次いで就職情報誌などの就職関係書籍の充実が28%と高かった。

結語

前回と同様に今回の調査結果についてもアンケート回収率を上げることが一番の課題である。アンケート回収率が上がらない理由に質問項目が多岐多様であり、記入が煩雑であることも挙げられるであろう。質問項目の簡略化を図りアンケート回収率を引き上げることを検討したい。また、大学院における研究／教育理念を知らない大学院生が半数弱存在すること、大学院での研究内容に不満を持っている大学院生が20%弱存在することも問題である。大学院教育の理念／目標を理解させると共に

研究指導の充実を目標に質の高い大学院教育を実践する必要がある。さらに保健管理・総合相談センター／キャリア支援室などの支援施設が十分に活用されておらず、これらの施設の有効利用も課題の一つに挙げられる。

8-3 口腔科学教育部

口腔科学教育部には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（修士課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻（以後、前期課程）の大学院生12人中9人（1年生4人、2年生5人）（回収率75%）および口腔科学専攻（以後、後期課程）の大学院生62人中34人（回収率54.8%）から回答を得た。前期課程に留学生はおらず、後期課程の留学生は15人、そのうち回答が得られたのは10人（回収率66.7%）であった。いずれの回収率も第4回調査よりも低かった。教育部ごとの回収率は前期課程で23.1%から86.7%、後期課程で16.7%から64.6%であり、この中で口腔科学の回収率は比較的高かった。また、男女別の回収率は、前期課程では男子50%、女子80%、後期課程では男子40.6%、女子70%で、いずれも女子の回収率が高かった。

第1章の「本調査の対象者について」は、前期課程学生の22%が徳島県出身であり、33%が徳島大学卒業生であり、いずれも7教育部中で最も低い割合であった。社会人大学院生は67%であり、第4回調査の倍であった。また、留学生は第4回調査同様になかった。この割合は、教育部間で比較すると特徴的であった。一方、後期課程学生の29%は徳島県出身、21%は留学生であり、第4回調査とほぼ同じであった。38%は徳島大学卒業生、15%が外国の大学、12%が外国の大学院の修了者であった。また、社会人大学院生は9%で第4回調査よりも半減し、留学生は26%で第4回調査よりも5%減った。社会人大学院生と留学生の割合は薬科学と類似していた。

第2章の「家族・住居・通学について」から、前期課程学生の家庭の年間所得にはばらつきがあった。後期課程学生の41%の家庭は年間所得250万円未満であり、この割合が最も多かった。一方、1,500万円以上の家庭も後期課程の15%あり、第4回調査とほぼ同じ割合で、また7教育部中最も多かった。住居区分は、前期課程の56%の学生が自宅で家族と同居し、後期課程の74%はアパート・マンションで家族と別居している。住居費は、前期課程の半数が3～4万円未満で、後期課程にはばらつきがあり、78%の学生が6万円未満のアパートなどに居住している。配偶者や子供の有無は、前期課程の56%と後期課程の71%が未婚であり、第4回調査とほぼ同様であった。また、授業や研究時の子供の世話は、前期課程の3分の1が親や親戚であり、後期課程の6割は配偶者である。通学は、前期課程学生の3分の1と後期課程の4分の3が徒歩・自転車通学であり、通学時間は、前期課程の44%の学生は1時間以上かかり、さらに11%は2時間以上もかかる。後期課程の95%の通学時間は30分未満であり、さらに71%は15分未満である。

第3章の「収入・支出について」の結果から、1か月の平均収入額は前期課程学生の78%が15～30万円未満である一方、22%は3万円未満であった。後期課程学生の収入額はまちまちであった。78%の前期課程学生は親等からの援助はなく、この割合は7教育部中最も高かった。後期課程では56%の学生は親等からの援助はなく、21%は3～7万円未満の援助がある。1か月の平均支出額もまちまちで、前期課程学生の55%と後期課程学生の36%は5～10万円未満であり、後期課程の44%は10～20万円未満であった。奨学金受給は、33%の前期課程学生と77%の後期課程学生が希望し、実際に11%と68%が受給している。アルバイトについては、33%の前期課程学生がアルバイトをしている。そのうちの60%がアルバイトの目的を「生活費や学費のため」としている。また、3分の2が週平均5～10時間未満、3分の1が20～25時間未満従事し、3分の2は5万円未満の収入を得ている。後期課程学生も56%がアルバイトをし、そのうちの56%の目的が「生活費や学費のため」と「学会参加のため」で

あり、74%が週平均5～15時間未満従事し、53%は月平均5～10万円未満の収入を得ている。16%がアルバイトにおいてトラブルを経験し、11%は客とのトラブルである。

第4章の「健康状態について」は、睡眠時間が4時間未満の学生は前期課程にも後期課程にもいなかった。4～6時間未満の割合が最も多く、前期課程の3分の2と後期課程の56%であった。前期課程学生の44%と後期課程学生の50%には気になる身体症状が「時々」あり、「常にある」のは後期課程学生の3%であった。しかし無回答のため、その内容は不明である。前期課程学生の現在の悩みや不安はさまざま、経済状態(21%)と勉強(21%)の割合が高く、ついで、交友・異性関係、身体的不調、就職や進路、生き甲斐や目標が同率7%であった。後期課程学生では、勉強(25%)、経済状態(18%)、就職や進路(15%)、交友・異性関係(13%)の順に高かった。そして相談相手は、前期課程も後期課程も、家族(50%, 41%)、友人(44%, 37%)の割合が高く、保健管理・総合相談センターの利用はなかった。現在の精神状態は、前期課程学生は「なんとなく不安」と「落ち込みやすい」が11%であった。第4回調査では「なんとなく不安」の割合は57%で、7教育部中最も高かったが、今回は大幅に減った。この理由として、23年度の口腔保健学専攻の開設以降に修了者が出たことと、今回の調査では社会人大学院生の割合が高いことが考えられる。また、後期課程学生では「なんとなく不安」、「落ち込みやすい」と「やる気が出ない」が同率9%であった。保健管理・総合相談センターの利用については、前期課程学生の6割と後期課程学生の3割は利用したことがなかった。

第5章の「学生生活上の問題点について」は、後期課程学生の9%が迷惑行為を受け、その内訳は「大学内でのアカハラ」(6%)と「飲酒の強要」(3%)であり、この割合は前回調査と同様であった。また、「大学内のアカハラ」は栄養生命科学の10%に次いで高く、「飲酒の強要」は7教育部中最も高かった。アカハラを受けた場合、50%の学生が教員に、各25%が友人と家族に相談している。口腔科学の学生は学生相談室を全く利用しておらず、前期課程の44%と後期課程の50%の学生は相談室を知らなかった。犯罪被害の経験は、後期課程学生の9%が盗難に遇っていた。また、前期課程学生の11%と後期課程学生の30%は交通事故の経験があり、被害者の場合が多かった。違法薬物の使用経験は後期課程学生の3%が使用経験ありで、第4回調査結果でも2%であったが、これには驚愕させられた。違法薬物使用禁止啓発活動の取組みを徹底する必要がある。大学事務室の対応には口腔科学の学生はおおむね満足している。

第6章「修学状況について」は、前期課程学生の3分の2と後期課程学生の半数が所属教育部の教育理念や教育方針を理解しており、そのほとんどはその理念や方針に沿って教育が実践されていると思われ、また教育課程にも満足している。

徳島大学卒業者の両課程のほとんどの学生と、他大学卒業者の前期課程学生の6割と後期課程学生の8割強は口腔科学が第一志望であった。大学院進学のおもな理由は、前期課程学生の半数が「希望する研究分野があるから」であり、後期課程では「希望する研究分野があるから」(19%)と「指導教員に勧められたから」(16%)が多かった。前期課程学生の78%と後期課程の44%は勉強により高度専門職業人を目指し、同じく11%と28%は研究者を目指している。また、両課程の9割弱の学生は授業の内容や進め方におおむね満足している。

研究活動と研究指導について、前期課程学生は55%が週に30分～5時間未満の授業外の研究活動を行い、78%は教授から直接指導を受け、67%は指導時間が30～90分未満であった。一方、後期課程学生は41%が20～40時間未満の授業外の研究活動を行い、36%は助教から研究指導を受け、44%は指導時間が30～90分未満であった。前期課程学生のすべてと後期課程のほとんどは、研究指導や研究テーマに対して満足し、指導教員とのコミュニケーションもおおむねとれ、大学院に相応しいレベルの教育が行われていると思っている。研究環境に対してもおおむね満足が得られていたが、研究費用や研究時間の点で後期課程学生の12%は不満足であった。また、所属大学院に対してもおおむね満足が得ら

れていた。

図書館の利用について、前期課程学生の44%の利用頻度は「1年に1回程度かそれ以下」で、他の教育部に比べて利用頻度が少ない。電子ジャーナルやデータベース等の利用も44%は「月に1回程度」である。77%の学生が図書館のサービスにおおむね満足している。一方、後期課程学生の図書館利用は「半年に1回程度」(26%)、「1年に1回程度かそれ以下」(26%)、「1か月に1回程度」(24%)の割合が多く、第4回調査よりも利用頻度は減っている。電子ジャーナルやデータベース等は47%が「ほぼ毎日利用」しており、全員が図書館のサービスにおおむね満足している。

両課程のほとんどが、大学院に相応しい学習をしている。

入学後の海外渡航の経験は前期課程の33%と後期課程の53%の学生にあったが、留学や語学研修を目的としたものは後期課程の48%であった。前期課程の9割弱と後期課程の7割弱は国際学会での発表経験がなく、英会話能力については、両課程とも6割程度が「ほとんどできない」または「できない」と回答した。しかし、語学に関する自己学習として前期課程学生の44%と後期課程の56%は何もしていない。一方、留学生の56%は「なんとか日本語会話ができる」と回答し、77%は日本語コースの受講経験があり、受講者全員が日本語コースにおおむね満足していた。

将来のために本学教育に望むことは、前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」の割合(36%)が、後期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」の割合(30%)が最も高かった。

また、前期課程の78%と後期課程の85%が本学の国際化への対応はおおむね積極的であると回答した。国際化への積極的対応を継続するためにも、大学院生は英会話能力を向上させ、国際学会での発表など経験を積むことが肝要であり、一方、教育部は学生に機会を数多く作ることが大事である。

第7章「進路選択・就職について」は、前期課程学生の55%は進学を希望し、全員が本学への進学を希望している。就職希望は22%で、企業や専門職を希望している。後期課程は専門職や大学などの教育・研究職の、留学生は大学などの教育・研究職や教育職の希望が多かった。進路選択の要件として、両課程ともに「能力発揮の場」、「収入」、「就職先の将来性・安定性」をあげる割合が多かった。進路選択の情報入手手段としては、前期課程では指導教員の割合が多く(35%)、7教育部中最も多かった。後期課程は指導教員や先輩・知人の割合が多かった。キャリア支援室は前期課程学生の22%が利用し、留学生を含む両課程のほとんどの大学院生が利用したことがない。就職に関する大学への要望としては、前期課程では「企業説明会の内容充実」と「求人企業の開拓」の割合(ともに22%)が、後期課程では「就職ガイダンスの充実」の割合(22%)が高かった。

以上を総括すると、以下の課題が挙げられる。

1. 研究指導体制下のアカハラやセクハラが生じないように、FD活動などを通じて予防策を講じる。
また、生じた場合の相談支援体制として、相談室の利用やメンター制度の充実を図る。
2. 保健管理・総合相談センターの利用者が少ないので、大学院生に対する周知徹底とセンターの利便性向上を図る。
3. 国際的能力を有する人材の育成および本学国際化の継続的推進のため、英語・英会話能力向上プログラムや国際学会プレゼンテーション技術向上プログラムなどの教育カリキュラムの多様化を図る。
4. キャリア支援室は就職希望の大学院生の要望を考慮して対処し、さらに利便性を高める。

前期課程の社会人大大学院生の割合が第4回調査の38%から今回は67%へ大幅に増えたことが原因で、第4回調査に比較して結果や傾向が大きく変わった項目が多かったと考えられる。生活実態の特徴をより明確化するためには一般大学院生と社会人大大学院生を分けて分析することが望ましいと考え、今後の検討課題としたい。

8-4 薬科学教育部

薬学部では、薬剤師養成のための専門教育を目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする4年制の「創製薬科学科」が平成18年4月に設置された。それに伴い、薬科学教育部では創薬科学専攻と薬学専攻の2専攻を設置し、学部2学科教育の特徴を大学院まで継続した学部・大学院一貫教育により、新しい薬の探索から医療現場での薬の処方に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成をめざしている。今回のアンケート調査対象者は創薬科学専攻博士前期課程60名（うち留学生1名）、同専攻博士後期課程35名（うち留学生3名）、医療生命薬学専攻博士後期課程4名、薬学専攻博士課程9名の合計108名となり、回答者は創薬科学専攻博士前期課程52名、同専攻博士後期課程22名、医療生命薬学専攻博士後期課程2名、薬学専攻博士課程7名であった。前期課程全体でのアンケート回収率は86.7%（第4回調査:78.3%）、後期課程全体でのアンケート回収率は64.6%（第4回調査:63.4%）で、第4回調査をいずれも上回った。回答者の出身地については、前期課程で46%（徳島県:31%）、後期課程で32%（徳島県:19%）が四国4県の出身者であった。また、全回答者の中で留学生の占める割合は前期課程で0%、後期課程で6%となっている。

第2章「家族・住居、通学」について、家庭の年間所得を見ると、前期課程では「1,000万円以上」が12%であり、第4回調査と同じポイントとなった。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」が58%で最も多く、次いで「4万円～5万円未満」が20%であった。後期課程でもこの傾向は同じで、「3万円～4万円未満」が42%、「4万円～5万円未満」が19%という結果であった。通学方法としては「自転車」いう回答が両課程とも最も多く（前期課程:71%、後期課程:55%）、通学時間としては「15分未満」が両課程ともに最も多かった（前期課程:77%、後期課程:68%）。幸いにもここ数年、通学途中での重大な交通事故は発生していないが、交通安全についての意識喚起等は継続して実施する必要がある。

第3章「収入・支出」について、親等からの援助額は前期課程で12%、後期課程で53%の学生が「全くない」と答えており、前期課程で44%、後期課程で42%の学生が奨学金を「現在受給中であるが、更に希望する」と答えている。その一方で、「現在受給していないし、希望もしない」と回答した学生が、前期課程で46%、後期課程で45%となり、二極化が見られた。アルバイトをしている前期課程の学生は23%であり、第4回調査と大きな変化は見られなかった。これは、前期課程（新課程）の学生が薬剤師免許を所持できなくなったことに起因すると考えられる。後期課程では26%の学生がアルバイトをしていると回答した。この値も第4回調査と大きな変化は見られなかった。アルバイト従事時間数（前期課程10時間未満:67%、後期課程10時間未満:51%）、アルバイト収入（前期課程5万円未満:75%、後期課程5万円未満:63%）となり、大学院生が薬剤師免許を所持していた時代とは変わりつつある。なお、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した前期課程の学生は33%であり、第4回調査を34ポイント下回った。一方、後期課程では67%の学生が「生活費や学費のため」と回答しており第4回調査を27ポイント上回った。本アンケート結果からは学生を取り巻く経済状況の厳しさが窺われ、前期課程であるか後期課程であるかにかかわらず、大学院生への経済的支援は今後とも大学全体として取り組むべき重要課題の一つである。

第4章「健康状態」について、前期課程で「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えた学生は50%であり、第4回調査から14ポイント増加した。症状の内容としては「頭痛」（31%）が最も多く、続いて「下痢・便秘」と「生理痛・生理不順」が多く、いずれも15%であった。後期課程では61%の学生が「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と答えているが、症状の内容は「下痢・便秘」と「動悸・不整脈」が主な自覚症状であった。なお、後期課程の学生については、研究室で過ごす時間がかなりの割合を占めることから、生活リズムの乱れや運動不足等についてきめ細かい指導

の必要性が感じられる。また、精神状態について、「充実している」あるいは「気分は普通」と答えたのは前期課程が59%、後期課程が53%であり、第4回の調査結果を前期課程では3ポイント下回り、逆に後期課程では7ポイント上回った。悩み事の主たる要因は、前期課程、後期課程ともに「勉強」と「就職や進路」となっている。これらの悩みについては、いつの時代でもつきまとう悩みであるが、「生き甲斐や目標」と回答した学生も少数ではあるが、いることを認識しておく必要があると思われる。悩みごとの相談相手を問う設問では、「友人」との答えが最も多く、前期課程で45%、後期課程で49%となっている。一方、「誰にも相談しない」という回答も前期課程で15%、後期課程で11%だったことから、保健管理・総合相談センターの存在やサービス内容を周知徹底し、精神面を含めた健康の維持管理を目的としたこれら施設の有効利用を多くの学生へ継続して呼びかける必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で8%、後期課程で6%の学生が何らかの迷惑行為を受けたと答えている。第4回調査と比べるとポイントはともに減少しているが、依然、「飲酒を強要された」や「大学内でアカハラを受けた」という回答があり、さらに「大学内でセクハラを受けた」という回答もあった。充実した学生生活のためには、学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また、前期課程で21%、後期課程で29%の学生が「学生相談室を知らない」と答えていることから、学生相談室との緊密な連携のもとに、今後も、薬科学教育部としての啓蒙・啓発活動を継続的に進めなければならない。

第6章「修学状況」について、前期課程では57%が教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えており、全体での認知度(45%)を10ポイント以上上回った。また後期課程で「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と答えたのは64%であり、全体での認知度(60%)をわずかにではあるが上回った。教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生が前期課程89%、後期課程91%であり、授業の内容・進め方の満足度に対する設問では前期課程で92%、後期課程で84%が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。教員には学生の満足度が100%となるよう不断の努力が求められる。また、授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、前期課程で89%、後期課程で74%の学生が20時間以上とする選択肢(「20～40時間未満」、「40～60時間未満」、「60時間以上」)を選んでおり、全体での回答(前期課程:55%、後期課程:59%)を大きく上回っている。内訳を見ると、「60時間以上」との回答が前期課程で46%、後期課程で32%を占めており、他の教育部に比べると研究活動時間は格段に長いことが窺われる。研究を直接指導している教員についての設問では、前期課程で40%、後期課程で58%が「教授」と答えており、第4回調査(前期課程:45%、後期課程:62%)とほぼ同様の結果であった。研究指導の内容や進め方については、前期課程で92%、後期課程で93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、両課程とも全体での満足度(前期課程:88%、後期課程:92%)を上回っている。研究テーマへの満足度については、前期課程では93%、後期課程では90%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した。薬科学教育部に全体として満足していますかの設問については、前期課程で94%、後期課程で93%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えている。研究環境について「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えた学生は、前期課程で83%、後期課程では87%となった。研究環境に不満足な理由としては「施設・設備」が前期課程で55%、後期課程で50%を占めており、研究環境についての点検および改善に一層の努力を払う必要がある。図書館については、前期課程で52%、後期課程で61%の学生が電子ジャーナルやデータベースを「ほぼ毎日利用している」と答えており、第4回調査結果より大幅に利用頻度が高くなっており(前期課程で32%、後期課程で31%)、サービスの充実が窺える。また、図書館のサービス(施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等)に対して、前期課程で93%、後期課程で87%の学生が

「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えており、満足度は高い。なお、ウェブ上で閲覧可能な雑誌の質ならびに量の維持や拡充、利用価値の高い検索ツールの導入などは、大学全体として取り組むべき最も重要な課題の一つであり、情報関連技術の進歩に対して遅滞なく迅速に対応することが望まれる。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は、前期課程で18%、後期課程で58%あり、その目的として、前期課程では「観光」(60%)が最も多かったのに対し、後期課程では「学会参加」(48%)が最も多くなっている。国際学会での発表経験については、前期課程で29%、後期課程で52%の学生が何らかの発表経験があると答えている。また、語学力を高めるために何をしていますかとの日本人学生への設問に対して「何もしていない」と答えた学生は、前期課程で47%、後期課程で54%であり、依然半数近い学生が外国語修得の努力をしていないことが窺える。薬科学教育部では平成22年度に設置された改組された前期課程において、薬学英语特論を必修科目として開設しているが、教育内容の点検等も含め、語学力強化への積極的な取り組みが望まれる。なお、本学の国際化への対応についての設問に対して、前期課程で62%、後期課程で64%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した。まだ4割近い学生が本学の対応に何らかの不満を感じており、国際化への取り組みをさらに加速させる必要がある。

第7章「進路選択・就職」について、前期課程学生の後期課程への進学希望者は21%であり第4回調査(19%)を僅かにではあるが上回った。進学を希望していない学生の希望職種としては「企業等の研究職」が57%で最も多く、次いで「技術職」の17%となっている。「企業等の研究職」という回答が年々増加傾向にある理由としては、薬剤師免許の有無が一因として考えられる。後期課程学生の就職希望職種としては「大学・官公庁の教育・研究職」(12%)が最も多く、次いで「企業等の研究職」が9%であった。一方、61%の学生が本質問については無回答であり、気がかりな結果となった。進路選択の情報入手手段としては両課程とも「Web・インターネット」との回答(前期課程:35%、後期課程:30%)が最も多く、情報源として中心的役割を果たしていることが窺われる。一方、本学のキャリア支援室を利用したことがありますかとの設問に対しては、前期課程で83%、後期課程で87%の学生が「利用したことがない」と答えている。本年度は薬科学教育部独自の組織的な就職支援に加え、キャリア支援室とも連携した蔵本地区での就職支援の強化を図っているところであるが、次年度以降も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援体制の構築を目指してより一層努力する必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬科学教育部の現状と課題を総括する。今後は、課題の克服に向けて鋭意努力しなければならない。

1. 昨今の社会情勢もふまえ、大学院生を対象とした経済的支援体制の充実喫緊の重要課題である。特に創薬科学専攻前期課程の学生は薬剤師免許を持たないことから、アルバイト等の状況も激変した。したがって経済的理由が後期課程への進学を妨げることがないよう、充実した支援体制の構築が望まれる。
2. 蔵本地区での、保健管理・総合相談センターによる学生支援体制は、現状において必ずしも十分とはいえない。研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康を保持増進するため、薬科学教育部とも十分に連携した支援体制の一層の強化が望まれる。
3. 蔵本地区において、キャリア支援室による学生支援体制は、現状において必ずしも十分とはいえない。今後は薬剤師として就職する学生はもとより、薬剤師免許を持たない学生への就職支援も充実させる必要があることから、薬科学教育部とも十分に連携した支援体制の一層の強化が望まれる。
4. 学生のニーズという視点からの新しい教育システムの構築をめざし、他教育部とも連携した国際化への一層の取組強化が望まれる。
5. 飲酒の強要やセクハラ、アカハラといった学生生活上の問題が一掃されるよう、教員ならびに学生の意識向上へ向けた一層の取組強化が望まれる。

8-5 栄養生命科学教育部

栄養生命科学教育部において、前期課程在籍者は46人で、回答率は84.8%であった。留学生は2名で2名から回答を得ている。後期課程在籍者は27人で回答率は33.3%、留学生は2名で1名から回答を得ている。前期課程では、全学の平均より回答率がやや高かった。

「本調査の対象者」について、前期課程では、徳島県出身者の割合が36%で最も多かった。後期課程では近畿出身者および中部（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）出身者が同率で33%、次いで徳島県出身者および関東（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川）が同率で11%であった。出身大学別に見ると、前期課程では、徳島大学出身者が79%と多かった。後期課程では、徳島大学大学院修士・博士前期課程が50%で最も多かった。「社会人か留学生か」については、後期課程では、留学生が22%であった。

「家族・住居・通学について」の設問の「住居区分」では、前期課程では、全体でアパート・マンションが69%、次いで自宅（家族と同居）が28%となっていた。この2つで97%となっている。後期課程では、アパート・マンションが89%で一番多く、次いで間借りが11%となっており、この2つで100%になっていた。

「住居費」に関しては、前期課程では、3～4万円未満が33%で一番多く、次いで4～5万円未満が30%となっている。後期課程では、4～5万円未満が33%で一番多く、次いで3万円未満、3～4万円未満、5万～6万円未満が同率でそれぞれ22%となっている。

「配偶者・子供の有無」については、前期課程では100%が「配偶者・子供ともなし」となっている。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が89%となっている。

「通学方法」では、前期課程では自転車通学が72%と一番多く、次いで自動車18%となっている。後期課程では、自転車通学が89%と一番多く、次いでバイク11%となっている。「通学時間」に関しては、前期課程では、15分未満が72%、後期課程では、15分未満が100%であった。

「収入・支出」については、前期課程では、51%が親等からの援助を除く平均収入額は3万円未満、26%が3万円～5万円未満である。90%の学生が10万円未満の収入となっている。後期課程では、収入額3万円未満の割合が44%と最も高く、89%が収入10万円未満である。

「親等からの援助」に関しては、前期課程では、15%が親等からの援助が全くなく、67%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、33%が親等からの援助が全くなく、56%が10万円未満の支援を受けている。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、41%が奨学金を受給しているが更に希望している。後期課程では、奨学金を受給しているか更に希望する割合が78%と全学で最も高い。

「アルバイト」については、前期課程では、49%の大学院生がアルバイトを行っている。後期課程では、44%がアルバイトをしていると答え、前期課程に比較して割合がやや低い。アルバイトの目的は、生活費や学費のためが前期課程では34%であるのに対し、後期課程では50%と高い。「アルバイトに関するトラブル」については、前期課程では、全体の89%にトラブルは見られない。後期課程では、アルバイトでのトラブルの経験はなかった。

「健康状態について」に関する設問の「睡眠時間」においては、前期課程では「6～8時間未満」が41%、「4～6時間未満」が56%であった。前期課程の学生は6時間未満が59%となっており、睡眠不足の蓄積が危惧される。後期課程では、「6～8時間未満」が67%、「4～6時間未満」が33%であり、前期課程と同様に睡眠不足の傾向が見られた。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は49%であったが、後期課程では44%であった。症状は、前期課程は頭痛、腹痛・嘔気、動悸・不整脈、生理痛・生理不順、後期課程は、め

まい・立ちくらみであった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」が27%、「勉学」が14%の順であった。後期課程も同様に、「就職や進路」が40%、「勉学」20%の順であった。悩み事は、前期課程の約8割、後期課程の約6割の学生が友人もしくは家族に相談するとしており、悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。主な悩みが「就職・進路や勉学」であるため、「教員」が相談相手となりやすいとも考えられるが、第4回調査同様、後期課程の学生は教員に相談する者が23%、前期課程では12%と少なかった。また「悩みを誰にも相談しない」という学生が、前期課程、後期課程それぞれ7%、15%であった。相談相手としての「保健管理・総合相談センターの総合相談部門や保健管理部門の利用」は少なく、より学生が気軽に相談できる場所として利用されることが望ましい。

「現在の精神状態」として、前期課程では65%の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、35%は何らかの精神的症状を持っていた。症状別では「何となく不安」、「落ち込みやすい」、「やる気がでない」が多かった。後期課程では、70%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し、前期課程より高かった。

前期課程、後期課程において、「保健管理部門に健康診断のため行ったことがある」と回答した学生はそれぞれ78%および67%であった。一方で、「保健管理部門があることを知らなかった」と回答した学生が前期課程で5%、後期課程で11%見られた。

「学生生活上の問題点」の設問では、前期課程では、「大学内でセクハラを受けた」のが1名、「アカハラを受けた」が1名、「飲酒を強要された」が1名であった。後期課程では、「いたづら電話を受けた」が1名、「アカハラを受けた」が1名、「カルトのような集団への勧誘を受けた」が1名であった。

「総合相談部門」は、前期課程で26%、後期課程で22%の学生が「知らない」と回答している。「利用したことがある」と回答した前期課程の学生は「満足である」「どちらかと言えば満足である」が60%であったのに対し、後期課程では、「満足である」が100%であった。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は前期課程で95%、後期課程で89%であった。

「修学状況について」に関する設問の「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、所属する教育部の教育理念や教育方針について、「知っている」、「だいたい知っている」と答えた人の割合は、前期課程で59%、後期課程で67%であり、後期課程で高かった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では87%、後期課程では83%が「思う」と答えている。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は28%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生(59%)と合わせて87%であった。一方、「どちらかといえば不満足である」は5%となっている。後期課程では全体で100%がほぼ満足している(「満足している」11%、「どちらかといえば満足している」89%)。

大学院に相応しいレベルの授業については、前期課程では「充分に行われている」が41%、または「ある程度行われている」が54%となっている。後期課程もほぼ同様で、「充分に行われている」が33%、「ある程度行われている」が67%となっていた。「あまり行われていない」、「全く行われていない」の合計は、前期課程3%、後期課程0%であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」28%、「どちらかといえば満足している」56%で、あわせて84%であった。後期課程では、「満足している」22%、「どちらかといえば満足している」67%とあわせて89%であった。「どちらかといえば不満足である」は11%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「希望する研究分野がある

から」が23%、「出身大学だから」が21%、「継続して修学するため」が19%となっている。後期課程の学生は、「指導教員に勧められたから」が最も多く29%、「希望する研究分野があるから」および「継続して修学するため」が同率で21%となっている。

「大学院での勉学で目指すもの」では、前期課程では「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」32%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」29%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」24%の順であった。後期課程では、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」および「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が33%で最も高かった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「20～40時間未満」および「40～60時間未満」が28%、「60時間以上」が15%となっている。後期課程では、「40～60時間未満」33%、「60時間以上」56%であり、前期課程より長くなっていた。

研究指導としては、前期課程において、大学の中で教授から指導を受ける院生の割合は26%であり、一方、助教が33%で最も多くなっていた。後期課程でも助教が44%で最も多かったが、教授の割合が22%と前期課程と同程度であった。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程では「30分～90分未満」が53%と最も多く、「90分～5時間未満」が18%、「30分未満」が13%の順となっている。後期課程では、「30～90分未満」が44%と最も多く、「30分未満」が33%、「5～10時間未満」および「10時間以上」が11%となっている。

「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「どちらかといえば満足している」が最も多く49%、「満足している」の44%と合わせると、93%であった。後期課程の回答は、「満足している」と「どちらかといえば満足している」が33%ずつであり、以下、「不満足である」が11%、「どちらかといえば不満足である」が22%となっており、前期課程に比較して不満足と答えた人の割合が高かった。

論文のテーマについての満足度では、前期課程、後期課程とも、「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が90%を超えていた。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では、前期課程の学生は、「ある程度とれている」が44%、「充分とれている」が38%、「あまりとれていない」が18%となっている。同じ設問に対して、後期課程では「ある程度とれている」が67%、「充分とれている」が11%で、「あまり取れていない」が22%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、「研究環境に満足している」51%、「どちらかといえば満足している」36%、「どちらかといえば不満足である」が8%となっている。後期課程では、研究環境に、「満足している」44%、「どちらかといえば満足している」56%で、前期課程に比較して満足度がやや高くなっている。

「研究環境に満足していない理由」を尋ねた設問では、前期課程では「研究時間」、「研究費用」、「施設・設備」がともに20%であった。

「所属教育部に対する満足度」の設問では、前期課程学生は、「どちらかといえば満足している」が56%、「満足している」が41%であった。後期課程学生は、「どちらかといえば満足している」が44%、「満足している」が44%となっていた。

「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」は、前期課程で「ほぼ毎日利用している」の38%が最も多く、次に「1週間に2～3回利用する」が28%であった。後期課程では、「ほぼ毎日利用している」が78%と高かった。図書館サービスに対する満足度は、前期課程で「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計で97%、後期課程では100%と高くなっていた。

「国際学会での研究発表」に関して、「あり」の割合が前期課程では12%、後期課程では71%で、後

期課程で高くなっていた。

「語学についての学習状況」は前期課程では「何もしていない」が59%であった。後期課程学生は「ラジオ・テレビの英会話番組」、「外国人とのコミュニケーション」、「何もしていない」が同率で22%であった。前期課程では約4割、後期課程では約6割の学生は語学修得に努力していた。

「現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか」との問いに対し、前期課程の67%、後期課程の88%の学生が「よく学習している」または「かなりしている」と回答した。

「本学の国際化への対応」に関し、前期課程の85%、後期課程の78%の学生が「非常に積極的であると思う」または「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していた。

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは26%で、「奨学金等の援助があれば進学したい」とあわせて49%である。「未定」「進学しない」と答えた前期課程の学生の就職希望職種は、「大学、官公庁の教育・研究職」および「大学、官公庁の教育・研究職以外の公務員」24%、「企業等の研究職」および「専門職（医師など）」が19%であった。後期課程の就職希望職種は「大学、官公庁の教育・研究職」、「専門職（医師など）」、「マスコミ関係」が11%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が一番高く22%で、次いで「能力を発揮できること」21%、「収入」20%、「勤務地の地理的条件」14%で、これらの4項目が主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」33%、「勤務地の地理的条件」17%であった。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」24%、「先輩・知人」19%、「指導教員」18%の順であった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」が38%、「Web・インターネット」が31%であった。

「キャリア支援室利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は18%にとどまり79%は利用していなかった。後期課程も89%の人で利用がなかった。大学院生は専門性の高い資格を持ち特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、明らかになった問題点と課題は、前回の調査とほとんど変わりがないが

1. 健康面や精神面支援の充実
 2. 前期課程における国際学会への参加の促進
 3. 語学学習の支援
 4. 就職支援の充実
- 等が挙げられた。

8-6 保健科学教育部

保健科学教育部では、前期課程在籍者は51人、回答者は29人、回答率は57%であった。後期課程在籍者は26人で、回答者は10人、回答率は39%であった。留学生の在籍者はいない。回収率は第4回調査より前期課程で10%以上、後期課程は5%以上上昇している。しかし、両課程とも社会人が多く、指導教員経由での依頼のため、回答しづらさや返却しづらい問題もあると考える。社会人学生とフルタイム学生との回収率の差があるかどうか今後明らかにすることによって、回収方法の工夫を考える必要がある。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程では徳島県出身者が55%で、第4回調査は13%であったが、その割合は大幅に増加している。後期課程では、徳島県が40%、その

他が60%である。回答者の出身大学（大学院）は、前期課程では「徳島大学」が69%で、第4回調査とは大きく変化していない。社会人が占める割合は、前期課程41%、後期課程100%であり、後期課程では全教育部の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族・住居・通学について」の、「家庭の収入」では、前期課程は500万未満が59%と半数以上で、後期課程は、500～750万未満が60%であった。

「住居区分」では、前期課程では、アパート・マンション（家族と別居）が62%、次いで自宅（家族と同居）が31%で、この2つで93%を占めた。後期課程では、家族と同居が80%で、アパート・マンションが20%であった。

「婚姻状況」は、前期課程では配偶者なし・子供なしが90%であった。後期課程では、配偶者あり・子供ありが7人で、全教育部の中で割合は最も多かった。これは、全員が社会人であるためと考えられる。

「通学方法」は、前期課程では、自転車通学が59%と一番多く、次いで自動車31%、徒歩7%であった。後期課程では、自動車9人で、第4回調査と比較しても、また他教育部に比較しても自動車通学が圧倒的に多く、社会人学生が多くいることと関連している。

「通学時間」は、前期課程では、15分未満が62%、30分～1時間未満が17%、15分～30分未満が14%となっている。後期課程では、通学時間15分～30分未満、および1時間～2時間未満が各30%であった。

第3章「収入・支出について」の、「1か月の平均収入」については、前期課程では66%の学生が10万円未満の収入であるが、34%は10万円以上の収入があり、中でも13%は25万円以上の収入を得ている。後期課程では、77%の大学院生に20万円以上の収入があり、うち44%は30万円以上の収入を得ている。しかし、全員社会人であるはずが、3万円未満の学生も1人いた。

「親等からの援助」は、前期課程では10万円未満の者が96%を占めており、その中でも全くない人が48%いた。後期課程は、90%の人が援助が全くなく、1人のみ15～20万円の援助をもらっている。援助が少ないことは、全員が社会人学生であるためと思われる。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」は、10万円未満に支出を抑えている前期課程の割合は62%と他の教育部と比較すると低い。後期課程では、50%は15万円以上の支出額である。これも全員社会人学生であるためと考えられる。実際は配偶者や子供との同居の影響もあり、個人の支出金額はわかりにくいと思われる。

「奨学金」は、前期課程では、「現在奨学金を受けている」45%と「将来的に奨学金を希望する」10%を合わせると全体の約半数以上が奨学金を希望している。一方、後期課程では、現在奨学金を受けている人は1人、将来的に奨学金を希望する人が3人であり、残りの6人の、半数以上は将来的にも奨学金の受給を希望していない。このことも社会人であることが影響をしている。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は45%で、52%はアルバイトをしていなかった。後期課程では、90%がアルバイトはしておらず、1人が無回答であった。以下アルバイトに関することは前期課程の学生についてである。「アルバイトの従事時間」は、77%が15時間未満であったが、3人は、20時間以上行っていた。その目的は、生活費や学費のためが33%と最も多く、次いで日常の娯楽・嗜好品等の購入のため20%であった。「アルバイトの収入額」は、3万円未満が一番多く46%を占めているが、15万円以上も15%であり、その他の教育部よりも高額な収入を得ている学生の割合が多い。「アルバイトのトラブル」で、「トラブル経験なし」と回答した者の割合は92%であったが、給料の不払いが1人いた。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「4～6時間未満」が52%、「6～8時間未満」が48%であった。後期課程では「4～6時間未満」が30%、「6～8時間未満」が70%であっ

た。「気になる症状」については、前期課程では「時々ある」が55%、「常にある」が3%、「ない」が41%であり、第4回調査よりない人は増加しているが、依然何らかの症状がある人が多い。後期課程では、「ない」が60%で、「時々ある」は40%であった。

「主な悩みと不安」については、前期課程では「勉強」が26%で最も多く、次いで経済状態が14%であった。後期課程はない人が60%で他の研究部に比較しても最も多かった。「相談相手」は、前期課程は、友人が45%、家族が30%で、後期課程は、友人20%、家族70%であり、ほとんどが友人家族を相談相手としていた。

現在の「精神状態」は、前期課程で「充実している」18%、「気分は普通」が32%といる一方で、「なんとなく不安」21%「落ち込みやすい」14%、「いらいらする」や「やる気がでない」もそれぞれ7%あり、精神状態に問題を抱えている学生の割合が多い。後期課程では、「充実している」「気分は普通」で70%を占めているが、「なんとなく不安」と回答した人も20%いた。

「保健管理・総合相談センターがあることを知らなかった」と回答した学生は、前期課程で17%と第4回調査昨年より倍増していた。69%の学生は、健康診断その他の目的で利用したことがあると回答した。後期課程では、利用したことがある学生は1人であり、全教育部の中で低い傾向が見られた。

第5章「学生生活上の問題点」で、「迷惑行為を受けたことがあるか」では、前期課程では93%が受けたことはなく、後期課程では、受けたことがある者は皆無であった。迷惑行為の内容は、「カルトのような集団への勧誘を受けた」が1人いた。

「学生相談室の利用」について、「利用したことがある」学生は前期課程で3%いたが、「知らない」学生も31%おり、同様に、後期課程も30%が「学生相談室を知らない」と回答していた。前期課程の学生で、盗難被害に合っている学生が2人(7%)いた。また、交通事故に巻き込まれた学生は、前期課程で20%、後期課程の学生で30%いた。

「大学事務室の対応満足度」は、「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は、前期課程、後期課程ともに90%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、「教育理念や教育方針を知っている」割合は、「良く知っている」「だいたい知っている」の合計は72%であり、「あまり知らない」が24%、「知らない」が3%であった。後期課程では、「良く知っている」「だいたい知っている」が90%であった。第4回調査よりは、知っている学生が増加している。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は、前期課程で95%、後期課程で100%であった。その教育課程の満足度において、前期課程は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が89%、「どちらかといえば不満足である」が7%であった。後期課程は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が90%であった。「大学院に相応しい教育」では、前期課程において、「充分に行われている」が59%、「ある程度行われている」が38%であった。後期課程では、「充分に行われている」60%、「ある程度行われている」40%であった。

「本学を選んだ理由と目的」では、前期課程では「出身大学だから」「将来を考慮して」が共に19%で、「希望する研究分野があるから」が16%であった。後期課程では、「希望する研究分野があるから」が46%、「出身大学だから」が31%で多かった。徳島大学出身者は、前期課程は第一志望で入学した学生は90%で、後期課程は75%であった。以外の出身者は、第一志望が67%、後期課程は83%であった。

「大学院での勉強により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が86%と最も高く、次いで「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が7%であった。後期課程では「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」50%、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」40%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」10%であった。保健科学は、看護学、医用検査学、医用情報科学の3領域から成っている。修了後

は、各領域で医療人として活躍することが多いため、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」の回答頻度が高いと思われる。しかし、第4回調査同様、後期課程には、大学教員を目指すものも半数いた。

「授業の内容や進め方」について、「満足している」「ある程度満足している」と回答した学生は、前期課程では93%、後期課程では全員であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」について、前期課程では「30分～90分未満」が25%、「90分～5時間未満」「20～40時間未満」「40～60時間未満」がそれぞれ18%、「30分未満」が11%であった。後期課程では「90分～5時間未満」「5～10時間未満」が30%であった。

「研究を直接指導している教員」について、「教授」と回答した学生は、前期課程では86%、後期課程では90%であった。これは他の教育部より高い割合である。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」について、前期課程では「90分～5時間未満」が34%と最も多く、次いで「30分未満」が31%、「30分～90分未満」が28%であった。後期課程では「30～90分未満」「90分～5時間未満」が40%、「30分未満」が10%であった。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程が96%、後期課程は全員であった。

「修士論文の研究テーマに関する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、89%であった。「博士論文の研究テーマに関する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、全員であった。

「指導教員とのコミュニケーション」について、前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」90%であるが、「あまりとれていない」「まったくとれていない」が10%となっている。後期課程では「充分とれている」が80%で多かった。

「研究環境の満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で89%、後期課程で全員であった。「研究環境に満足していない理由」について、前期課程では「施設・設備」が67%、次いで「研究時間」が33%であった。

「所属大学院の満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で93%、後期課程では全員であった。

「図書館の利用頻度」について、前期課程では「2週間に1回程度利用する」が28%、「1か月に1回程度利用する」が21%、「1週間に1回程度利用する」が17%であった。後期課程では「1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である」が40%、次いで「半年に1回程度利用する」が30%であった。

「電子ジャーナルやデータベース等の利用頻度」について、前期課程では「1か月に1回程度利用する」が24%、次いで「ほぼ毎日利用している」が21%であった。後期課程では「1週間に1回程度利用する」が30%、次いで「ほぼ毎日利用している」、「半年に1回程度利用する」、「1年に1回程度か、それ以下の利用頻度である」が20%であった。

「図書館のサービスに対する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程、後期課程共に90%であった。

「海外渡航の経験」について、「ない」と回答した学生は、前期課程で93%、後期課程で50%であった。「海外渡航の目的」について、前期課程では「観光」が100%であった。後期課程では「学会参加」が83%、「観光」が17%であった。

「国際学会への参加」について、前期課程では「国際学会で研究発表をしたことがない」が90%であった。後期課程では80%が国内外での国際会議で発表をしたことがあると回答した。

「英会話能力」について、「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で68%、後期課程で90%であった。「語学に関する自己学習」について、「何もしていない」と回答した学生は、前期課

程で58%、後期課程で70%であった。

「大学院での学習への取り組み」について、「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では68%、後期課程では80%であった。

「本学の教育に望むこと」について、前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が32%、「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が30%であった。後期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が31%、「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」が23%であった。

「本学の国際化への対応」について、「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した学生は、前期課程で83%、後期課程で80%であった。第4回調査と比較して、前期課程は3割と増加しているが、後期課程は、2割減少している。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程で「就職したい」学生が69%と最も多く、「後期課程への進学意思」があるのは7%であった。また、「未定」の人も24%いた。「進路選択で重視する要件」は、前期課程では「収入」が32%と最も多く、「就職先の将来性・安定性」が26%「能力を発揮できること」が21%、であり、これらの3項目が第4回調査同様、主要件になっていた。後期課程では、「能力を発揮できること」が35%と最も多く、「就職先の将来性・安定性」が25%、「収入」が20%であった。

「進路選択の情報の入手手段」は、前期課程では、「Web・インターネット」「先輩・知人」が27%、「指導教員」22%が多かった。後期課程では、一番多いのは「指導教員」で47%、次いで「Web・インターネット」27%であった。後期課程は前期課程に比べ指導教員からの情報入手の割合が高かった。

「キャリア支援室の利用状況」については、前期課程は97%が、後期課程の全員がキャリア支援室を利用したことがない、と回答している。大学院生は専門性の高い資格を持ち、特殊な業種へ就職することが多く、その求人・就職情報は各研究室・教育部経由で入手される場合が高いためにキャリア支援室を利用することが少ないと思われる。

今回の調査の結果、今後の課題として、以下の事が考えられる。

1. アンケートの回収率を上げる

回収率は若干上昇したものの、まだ全体の学生生活を反映したものかどうかは不明であるため、今後も、回収率が上昇するための工夫が望まれる。

2. 分野・コース毎の特徴を明確にする

本教育部は、免許に関する分野や社会人学生も多く、その特徴を踏まえた分析も必要と考える。

3. グローバル化への対応の充実を図る

本学の国際化への対応に関して、学生の評価は若干増加したものの、電子ジャーナルやデータベースの活用、国際学会への参加は非常に低く、留学生もいない状況である。今後は留学生の受け入れや、国際学会への参加にも積極的にできるような支援が必要と考える。

4. 研究時間の確保

社会人学生の研究時間の確保は難しく、研究と仕事の両立をいかにして図っていくのか課題である。

5. 教育研究の設備の充実

今回の調査において、研究環境についての満足度は高かったが、特に前期課程の社会人学生から、施設・設備の面で色々と多くの意見があり、環境・施設整備を図る必要がある。

6. 学生支援体制の紹介や積極的な活用の推進

前期課程の学生の半数が、健康上何らかの症状を持っていたため、その対応が求められる。しかし、学生相談室、保健管理センター、キャリア支援室を知らない学生がいるため、その紹介や活用等を積極的に勧めていく必要がある。

8-7 先端技術科学教育部

先端技術科学教育部の学生数は、前期課程が677人、後期課程が139人であり、今回の調査における学生の回答割合は、前期課程が65.7%、後期課程が34.5%である。

第1章「本調査の対象者について」より、前期課程の出身地は、徳島県32%、近畿30%、徳島以外の四国16%、中国12%と徳島県と近隣府県の占める割合が極めて高くなっている。後期課程では徳島41%、近畿14%、徳島以外の四国5%となっている。また、本学出身者の割合は、前期課程で89%と高い割合となっているが、後期課程では、本学出身者が47%で、32%が国内他大学・大学院、20%が外国の大学・大学院出身となっている。社会人と留学生の割合は、前期課程でそれぞれ2%、4%と極めて少数である傾向は変わらないが、後期課程では、それぞれ、35%、29%となっている。

第2章「家族・住居・通学」より、住居は、家族と別居したアパート・マンションが、前期課程で70%、後期課程で33%、自宅が前期課程で26%、後期課程で50%となっている。後期課程においては、配偶者がある家庭が37%になっており、これが後期課程における自宅の割合を引き上げている要因になっていると推定される。さらに後期課程では国際交流会館が10%をしめ、国際交流会館が留学生の住居として大きな役割を果たしている。通学方法は、自転車前期課程62%、後期課程35%と最も多く、前期課程では、次いで徒歩、バイク、自動車の順である。後期課程では、自転車の次は自動車、バス・JR、徒歩、バイクの順となっている。15分未満の通学時間の割合は、前期課程で71%、後期課程では40%である。後期課程において相対的に通学時間が長くなり、2時間以上の割合も10%となっている。社会人在籍者の場合は、勤務先が県内とは限らず、通学距離が長くなっていると推定される。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額、前期課程では、3万円未満が55%と最も多く、収入額の増加とともに割合が減少する傾向がある。後期課程でも、3万円未満が33%と最も多いが、3万円以上から30万円以上まで、収入額に偏りが見られず広く分布している。また、親等からの援助について前期課程でみると、全くないと3万円未満の援助が24%と23%で第4回調査(20%と22%)とほぼ同じである。後期課程では、60%の学生が全く援助を受けていないと回答している。奨学金については、「受給中であるが、更に希望する」割合が、前期課程で48%、後期課程で52%と高くなっている。また、「現在受給していないが希望する」ものの割合は前期課程で8%とほぼ変化がないが、後期課程で22%から27%に増加している。両課程において、奨学金をより充実させる必要があるが、後期課程の徳島大学ゆめ奨学金制度をさらに充実させる必要がある。

アルバイトは、前期課程で50%、後期課程で21%の学生が従事している。第4回調査時には、前期課程で50%、後期課程で28%であり、あまり変わらない。アルバイト従事時間数は10時間未満の学生は前期課程で44%、後期課程で70%である。また、アルバイトの目的も生活費や学費のためが最も多く、前期課程では42%で第4回調査とほぼ同じ、後期課程では69%となっており、前期課程よりもより手厚いサポートが必要である。また、アルバイトにおいて、前期課程の30%、後期課程の10%の学生はトラブルに遭遇している。特に前期課程の3%の学生が事故・ケガを経験しており、内容などの把握が必要である。

第4章「健康状態について」より、気になる症状が、「時々ある」と「常にある」の割合が前期課程で38%、後期課程で56%になっており、特に後期学生の割合が高い。主な悩みや不安については、前期課程においては就職や進路、後期課程では勉学や経済状態が最も多くなっているものの多岐にわたっており、個々人の悩みに応じた多様な対応が必要とされている。相談相手としては、友人や家族に相談する割合が高くなっている。しかし、誰にも相談しないものも前期課程14%、後期課程15%存在しており、自己解決できる場合には問題ないと思われるが、学生相談室や教員等に早期に容易に相談できることを周知する必要がある。

現在の精神状態については、普通または充実していると回答した割合が、前期課程で62%、後期課程で80%であり、残りの学生が、なんとなく不安、やる気が出ない、いらいらする、落ち込みやすい等精神状態に問題を抱えている。第4回調査とほぼ同じ割合ではあるものの引き続き対策が必要であると考えられる。保健管理・総合相談センターがあることを知らなかった、知っているが行ったことが無いと回答した学生は、前期課程10%、後期課程40%となっており、学生への周知も必要である。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為は前期課程で87%、後期課程で94%が迷惑行為を受けていないと回答しており、第4回調査とほぼ同じような結果となっている。第3回調査からカルト集団からの勧誘が項目に加わっているが、問題となっている迷惑行為の中では前期課程で13名、後期課程で1名の学生が被害を受けたと挙げており、引き続き注意喚起を促す必要がある。また、アカハラも前後期課程合わせて全学で17名中、先端技術科学教育部で10名が被害を受けており、第4回調査と比較すると減少しているものの被害実態の詳細な調査や対策等を行う必要がある。

犯罪被害については、前期課程では第4回調査とほぼ同じく20%が何らかの被害を受けており、後期課程でも4%が被害を受けている。事件の中では盗難が最も多く、「現金・貴重品の常時携行」、「自転車の施錠」等盗難予防の周知徹底に努める必要がある。交通事故については、前期課程で29%、後期課程で27%が被害者・加害者のいずれかに関わっており、交通安全に関する教育と周知徹底をする必要がある。また、違法薬物使用については前期課程において6名、後期課程において1名が経験ありと答えており、啓発活動の強化が望まれる。

大学事務室の対応は、どちらかといえば不満足と不満足を合わせた割合が前期課程では15%、後期課程では8%となっている。概ね満足しているものの、満足していない点の把握と対応の検討に更に努める必要がある。

第6章「修学状況について」より、教育部の教育理念や教育方針は、前期課程でだいたい知っているものを含めて39%、後期課程では73%の割合でしか知られておらず、周知方法の検討に努める必要がある。教育課程、教育レベル、授業の内容や進め方に対しては後期課程の満足度がやや高い傾向が見られるが、両課程において、90%以上の満足度が得られており、一定の評価が得られていると考えられる。

本学への進学理由は、前期課程では第4回調査と類似しており、「出身大学（40%）」が最も多く、「継続して修学（15%）」、「希望する研究分野（15%）」、「就職等将来を考慮（12%）」と続いている。後期課程では、「希望する研究分野（29%）」が最も多く、「継続して修学（18%）」、「指導教員の勧め（17%）」、「出身大学（13%）」となっており、研究分野や継続性の割合が高い。また、本学出身者は、本学の大学院を第1志望とする割合は第4回調査とほぼ同じで前期課程で87%、後期課程で95%と高い。一方、他大学卒業生では、前期課程で53%、後期課程で88%が第1志望となっている。

研究活動の1週間平均時間として、20時間以上と回答した割合は前期課程では52%、後期課程では69%である。一方、1週間の研究活動が週90分以下の学生が前期課程で7%に達している。研究活動が生活の中心になっておかしくない大学院生がどうしてこのような状態になっているのか、健康面・心の状態も含めて十分に調査する必要がある。あまり学習していないという認識の学生に対しては、学習への取り組みを促す仕組みが必要であると考えられる。さらに、後期課程でも4%に達しているが、これは社会人博士の回答が影響しているものと考えられる。また、直接的に研究指導を受けている教員の比率は、前後期ともに、第4回調査と類似した傾向となっている。後期課程では、85%が教授、15%が准教授、前期課程（教授47%）より、教授が指導する学生の割合が多い。研究指導を受ける時間は、前期課程では第4回調査とほとんど変化していない。週30分未満の割合が23%、30～90分未満が38%、90分～5時間未満は33%、それ以上は6%である。後期課程でも、30分未満の割合が25%、30～90分未満が31%、90分～5時間未満は29%、それ以上は14%と第4回調査と全体的な傾向はほぼ変わらない。研究指導、研究論文のテーマ及び指導教員とのコミュニケーション、研究環境、大学院に対する満足度

は、前期課程、後期課程、留学生ともに比較的高い満足度となっている。しかし、指導教員とのコミュニケーションがとれていない学生が前期課程で23%、後期課程で6%が存在しており、指導時間の確保やコミュニケーションが難しい環境になっている要因を解析し、改善に取り組む必要がある。研究環境の満足度は、前期課程で85%、後期課程で94%と比較的高くなっているが、満足していない学生からは施設・設備、研究費を理由としてあげる学生が多く、これらの学生の研究環境の充実も今後の課題である。

海外渡航経験は、1回以上経験した学生が、前期課程では29%、後期課程では、37%となっている。渡航目的は、前期課程では観光が最も多く、38%となっているものの、留学、語学研修、学会参加、学術調査、社会調査をあわせて53%、後期課程では78%となっている。目的が観光と研究とに二分化されており、特に研究に関する国際交流を積極的に勧める必要がある。国際会議での発表は、前期課程で28%、後期課程で60%が経験しており、第4回調査とほぼ同様である。学会参加への資金援助、特に前期課程の学生への援助をより充実し、早くからより多くの学生が参加できるように支援する体制の充実が引き続き必要である。

英会話については、前期課程において、何とか日常会話ができるレベル以上と回答した割合は28%で、後期課程は50%である。TOEIC、TOEFL等の受験等語学力の向上に努めている割合は前期課程で54%、後期課程で63%であり、努力しているにも関わらず、コミュニケーション力の向上につながっておらず、単に学習するだけでなく、より実践的なコミュニケーションの機会を増やす必要があると考えられる。

第7章「進路・就職について」より、前期課程の学生は6%ほどしか後期課程に進学を考えておらず、この割合を伸ばす必要がある。また、就職希望職種としては、前期課程で技術職、企業等の研究職が前回とほぼ同様の58%、18%となっている。後期課程では、46%が無回答を選択しており、大多数は将来について確固たるキャリアが描けていないためであると考えられる。進路選択で重要視しているのは、前期課程の学生は就職先の将来性・安定性、収入をあげており、後期課程の学生は能力を発揮できることを挙げている。進路の情報入手先は、Web・インターネットが前期課程で30%、後期課程で31%と最も多くなっている。前期課程では先輩・知人(23%)や就職情報誌マスコミ等(13%)より、指導教員(10%)や就職担当教員(5%)の割合は、低くなっている。一方、後期課程では、指導教員も20%と先輩・知人(15%)と同程度重要となっている。キャリア支援室は前期課程は65%が、後期課程では83%が利用したことがないと回答している。一方、就職支援に対する要望が多く、模擬面接や就職ガイダンス等の利用を促進するための取組がさらに必要であろう。

本調査から明らかにされた問題点と課題を列举すると以下のとおりである。

1. 教育部の教育理念や教育方針の周知徹底
2. 学生の学習意欲を高めるための大学院教育カリキュラムの充実
3. 研究環境のさらなる充実
4. 奨学金制度や学会出張費用の支援などの経済的支援制度の充実
5. 国際化を図るための語学教育システムの充実
6. 学生の多様な悩みやハラスメントに対応するためのシステムの充実とその周知徹底
7. 交通安全教育の実施と交通安全に関する周知徹底
8. 違法薬物使用に関する啓発活動
9. 特に前期課程学生への国際交流援助制度の充実

(特記) 留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院在籍の留学生は161名であり、前期課程で55名、後期課程で106名である。第4回調査と比較して計17名が減少し、前期課程では10名の減少、後期課程では7名の減少になる。留学生の割合は前期課程では5.7%、後期課程では20%である。留学生の回答率は前期課程で38.2%、後期課程で42.5%である。回収割合では、第4回調査と同じく前期課程でやや少なく、後期課程でやや多くなっている。

留学生の住宅区分では、前期課程の4%が家族との同居、69%がアパート／マンション、23%が国際交流会館に居住しているが、後期課程では家族との同居が26%、44%がアパート／マンション、14%が国際交流会館に居住している。住宅費用については留学生の実に90%が4万円以下の住居費で生活している。通学時間については、前期課程／後期課程のいずれも15分未満の通学時間が65%前後で30分未満の通学時間が80%前後となっている。家庭の年収については、前期課程の1か月の平均収入は76%が7万円未満、さらに46%が3万円未満である。後期課程の62%が10万円未満、26%が10～15万円未満の収入を得ている。多くは奨学金等の受給による収入と考えられる。親等からの援助額については、前期課程の38%は親等からの援助が全くなく、後期課程の72%が親等からの援助はなく、20%が5万円未満の援助である。留学生の経済状況がよいとはいえない。奨学金については、前期課程では84%、後期課程では無回答を除くと、すべてが奨学金を受けたいと考えている。アルバイトについては、前期課程の38%がアルバイトをしているが、これは第4回の調査よりも33%も低い値である。後期課程の22%がアルバイトを行い、この割合は前回よりも6%増加している。アルバイトの目的としては、前期課程の80%が「生活費や学費のため」のアルバイトである。後期課程すべてが「生活費や学費のため」のアルバイトである。アルバイトの収入金額は、前期課程はすべて7万円未満の収入であり(無回答を除く)、後期課程についてもすべて7万円未満のアルバイト収入である。

留学生の健康状況については、前期・後期課程ともに気になる身体症状が「ある」とした学生は66%、86%である。第2回調査、第3回調査、第4回調査と同じく高率であることは健康面の問題や不安に対する支援のニーズがあると思われる。また、主な悩みは、「勉強」、「就職や進路」、「経済状態」の悩みが多くなっている。悩み事を多くの学生が友人、家族、教員などの誰かに相談していることが分かる。留学生では何らかの症状を持っているのは2割弱で、精神的健康は良好な学生が多いと思われる。しかしながら、保健管理・総合相談センターの認知度が低く、大学院生への周知が緊急の課題であり、国際センターと連携しながら対応していく必要があると思われる。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期課程で96%、後期課程94%である。大学院に相応しいレベルの授業が「充分に行われている」または「ある程度行われている」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程94%である。留学生の研究活動については、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程では47%、後期課程では78%となる。また、指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は前期課程、後期課程ともに「30～90分未満」と回答した学生の割合(前期課程:54%、後期課程:34%)が最も多かった。研究指導の内容や進め方については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で92%、後期課程94%である。論文の研究テーマに関する満足度は、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程で94%である。指導教員とのコミュニケーションに関する設問では、「充分とれている」または「ある程度とれている」と回答した学生の割合が、前期課程で88%、後期課程90%である。研究環境に「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合が、前期課程で89%、後期課程96%である。所属大学院に対して、「満足している」または「どちらかといえば満足している」

と回答した学生の割合が、前期課程で96%、後期課程98%である。

日本語会話に関しては、前期課程では65%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答をしているのに対して、後期課程では64%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上の回答となっている。前期課程では69%、後期課程では88%の留学生が日本語コースを「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが理解できる。また、日本語コースの満足度については、前期課程で88%、後期課程で94%「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、受講生の評価が高いことがわかる。留学生の日本語学習において本学で開講されている「日本語コース」が重要な役割を果たしており、今後も現在のレベルの維持と一層の充実化が期待される。大学院での学習への取り組み状況についての質問に対して、留学生は前期課程で85%、後期課程で94%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、学生全体の数値に比べて大きく上回っており、一般学生の学習意欲を高める良い影響が期待できる。

本学の国際化への対応については、前期課程の77%、後期課程の92%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えており、第4回調査とはほぼ同じである。こうした結果は、本学が行っている国際化への対応は大学院生にある程度浸透していると考えられるが、さらなる改善が必要である。進学選択に関して、全体として「進学したい」が19%、「経済的支援があれば進学したい」が27%であり、日本人学生に比べ進学意欲を持つ学生が多い。進学希望者の42%は、本学の博士後期課程を希望し、25%が他大学を希望している。進路情報の入手手段については、留学生は日本人学生と同様、目立つのはWeb・インターネットである。留学生は、教育・研究職志望が高く、収入、就職先の将来性・安定性、能力を発揮できることが進路選択の主要件である。また、キャリア支援室の利用状況については、前期課程の留学生の場合、「現在も利用している」「以前に利用したことがある」とする回答は、第4回調査の22%から16%に減少しているが、後期課程の場合、利用率は6%から8%に、わずかではあるが上昇している。利用率を高める工夫が必要であると思われる。

本調査より明らかにされた問題点と今後の課題は以下の通りである。

1. 留学生の経済状況は恵まれたとはいえ、今後、留学生に対する住宅（日本人学生との混住型）、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA、RA制度の活用などを含むさらなる支援を充実し、安心して勉強できる環境を整備する必要があると思われる。
2. グローバル化人材を育成するため、日本人学生の国際化意識および異文化体験、英語能力、コミュニケーション能力の向上を強化する必要があると思われる。また、留学生の日本文化体験、日本語能力を向上するため、日本人学生と留学生との交流の場を整備する必要があると思われる。
3. キャリア支援室と国際センターが連携しながら、留学生の日本国内就職支援を強化する必要がある。

第9章 総括と提言

第5回調査の結果は、第4回調査の結果と大きくは変わらない印象である。本調査報告では各項目について数値の変動はあるものの統計的分析を行うのではなく、またそのような処理を前提として論じる報告ではないと考えられる。後期課程に関しては対象数の少なさから、比較対照するのではなく、個別のデータを参考として見るのが適切であると考えられる。

回収率に関しても変動はあまりないと考えられる。懸案である回収率を高めるための工夫にはアンケートの時期、期間など今後も試行錯誤を続けることが求められる。

調査の結果について、教育部というまとまりにおいて専門性では一致しているが、社会人、留学生を含めて個別性が高くなると考えられる大学院生の支援にどう生かすかが課題となると考えられるため、その視点で以下に総括と提言としてまとめた。

1. 経済状態について

前期課程学生の多くは親からの援助により学業を続けている。留学生の中には全く親からの援助の無い学生もいる様子である。医科学、口腔科学においては半数以上が援助を受けていないデータとなっている。親からの援助を受けていない学生が多い医科学、口腔科学においては一ヶ月の支出は多く、補助的な収入が大きいことを示している。医科学など専門性などから援助を受けずとも自立できる収入を得られることも考えられるため、援助の有無が経済面での困窮を意味していない。アルバイトをする者も多いが用途、理由は必ずしも生活費ではない。自宅生と下宿生では生活費への支出は異なるため、それらを明らかにする分析方法も必要かと思われる。

奨学金の受給率は教育部により割合は異なるが、全体では半数以上が受給を希望している。しかしながら返還が前提であることから就職の保証が受給を支えると考えられる。留学生を含めて、経済的に援助が必要な学生が学業に専念する時間を持つことができる環境をさらに構成することが求められる。

後期課程については家庭を持つ者が半数を超える、また収入を得ている者も多いため学業との両立のためには効率的な時間の利用が必要である。後期課程の回答率は低く、状況の個性が高いためそれぞれの状況に合わせた支援が必要と考えられる。

2. 健康状態について

前期課程において身体的健康について学生は半数以上が「気になる症状」が「ある」と回答しており、身体的なケアの必要性を考慮する必要がある。学部学生の健康診断受診率の向上と同様に大学院生の健康診断の受診率を上げる働きかけも必要である。精神面についても介入の是非は不明であるが、3割程度が「やる気のなさ」、「不安」、「落ち込み」といった状態を訴えており支援の窓口の充実が必要である。しかしながら第4回調査の報告と同様に学生相談室に足を運ぶ学生はごく少数である。精神的状態については多様な背景が考えられ、「合理的配慮」が必要な場合もある。教員が学生の精神面について理解した対応が求められ、何らかの兆候を見つけたときには教員から保健管理・総合相談センターの利用を勧めるシステムを整備する必要がある。

3. 生活上の問題点について

第5回調査においてもハラスメントについては「セクハラ」、「アカハラ」、「飲酒強要」について「ある」と答えている学生は皆無ではない。回答者の教育部の偏りもあるようであるが、さらにハラスメントに対する教員・学生間、学生同士での防止のための知識の共有が求められる。潜在数は不明であるため、日頃からの関わりでの状況観察も必要であろう。

違法薬物使用について、厚生労働省は第4次薬物乱用防止五カ年計画において大学生への啓発をあ

げている。第5回の調査においても使用経験を報告している学生が存在する。本調査は違法薬物使用者の特定を目的にはしていないが、事実が報告されていることから早期の介入が必要な問題と考えられる。潜在数は不明だが、専門部署での違法薬物使用対応の役割も必要と考えられるため、窓口となる相談室相談員の専門性の幅をさらに広げる働きも考慮すべきである。

4. 修学状況について

概観としては、教員とのコミュニケーションについて大学院生の多くはとれており、授業内容には満足しており、自主的な研究時間も比較的確保されているといった状況である。そして、多くは教育環境は概ね良好と答えている。

前期課程において大学院での勉学の目的として「高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人」、「創造的豊かな優れた研究・開発能力をもつ研究者」を目指す学生は6割を超えるが「高度で知的な素養のある社会人」を目指す学生が4割強存在する。このことは大学院への入学が必ずしも専門性の高い仕事への期待と結びついていないことがうかがえる。大学院生の就職状況が必ずしも勉学した結果と一致することを望んでいないことが職業の選択の幅を広げることに繋がることになるのであれば、それは望ましいといえる。

図書館機能の利用状況において、情報へのアクセスは専門領域により異なると考えられるため一概には断定できないものの前期課程の学生は「毎日」「週に2～3回」が3割5分弱であり、後期課程と比較してやや少ない感がある。

英語運用能力については6割弱の学生が「あまりできない」以下である。多くは英語の勉強はしているものの直接の会話ではなく、媒体を介して自主教育を行うことで学修が進んでいない。大学内においてさらに言語運用能力を高めるための環境を整える必要がある。

「本学に望むことがら」について、学生は各選択肢に偏りがなく回答しており、項目からは「高度な専門性」、「研究」、「就労と勉学との連続性」をそれぞれ求めていることがうかがえるため、教職員が十分に学生の要望に応えられる状況を作ることも求められる。

5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学については研究指向が高い医科学、口腔科学、栄養生命科学では比較的多い。他教育部では高度専門職を前提としての学修を望んでいる学生が多いことから就職希望が8割を超える。企業からも修士の学位は求められるが、博士後期課程への進学は当初から研究職を目的とする場合以外では躊躇する様子である。ただし、「経済的支援があれば進学したい」学生も少なくはなく、研究、開発などを職業として目指す学生たちへの経済的支援、就職先の開発などが課題と考えられる。

キャリア支援室の利用は少なく、大学院生への就職斡旋もさらに強化すべきであろう。

6. 留学生について

留学生の多くは経済的支援を必要としており、奨学金の受給希望も前期課程では回答者の8割以上、後期課程ではすべてが希望している。アルバイトの割合も高く、その理由は前期課程、後期課程ともに「生活や学費のため」となっている。また、留学生に関しては学生相談室の利用が少ないことは問題がないことを意味しないと考えられる。留学生では調査回収率も高く、意見を届けようとする意図も推測される。

あ と が き

平成 17 年度から隔年で行われている大学院生を対象とした生活実態調査は今回で 5 回目となります。調査は継続性を必要としており、今後も学部学生への調査と隔年で行われる予定です。今回の調査では一部項目の変更を行っています。変更項目は図書館に関わる設問において、設問番号 61 においては「図書館の利用頻度」を「電子ジャーナル、データベースの利用頻度」に、62 において「図書館ウェブサイト」を「図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）」に変更されました。時代による変化により内容の変更を伴うことも今後は増加することが予想され、対応が必要になると考えられます。

調査回収率の問題は常態化しており、特に博士後期課程では集団のデータとして分析する対象に至らない教育部もある状況です。大学院生が調査のタイミング、置かれている状況などからアンケートに答えている時間もない場合も想定されます。真に支援を必要としている学生の声が十分に反映されないことも考えられます。また、前期課程も含めて少数ではあるが対応が必要な声を拾い上げるための手法も取り入れることでより学生の実態を表すと思われれます。ネット環境も含めて個人情報保護された状態での意見収集や第 4 回調査の指摘を繰り返すこととなりますが項目を対象に絞って調査を行うことも考慮することも一案かと思えます。

また、自由記述への回答については報告書にはありませんが、様々な指摘を大学院生から受けています。調査をまとめた CD-ROM には添付されていますので関係する教育部の方は一度目を通していただければと思います。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた大学院生の方々、調査・分析、報告書の執筆を担当された委員の先生方、編集まとめを担当された事務職員の皆様に深く感謝します。

平成 27 年 3 月

学生支援室長

原 幸 一

第5回
大学院生生活
実態調査報告書

CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

徳島大学
平成27年3月



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(平成26年3月26日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認定期間：7年間（平成26年4月1日～平成33年3月31日）

CAMPUS LIFE